

# 産学共創プラットフォーム 共同研究推進プログラム（OPERA）

## 終了報告書（公開版）

<b>研究領域名称</b>	ゼロ次予防戦略による Well Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装	
<b>共創コンソーシアム名称</b>	Well Active Community 共創コンソーシアム	
<b>幹事機関</b>	国立大学法人千葉大学	
<b>プロジェクト担当組織</b>	予防医学センター	
<b>領域統括</b>	<b>氏名</b>	森 千里
	<b>所属機関</b>	国立大学法人千葉大学
	<b>部署</b>	予防医学センター
	<b>役職</b>	センター長
<b>コンソーシアム HP</b>	<a href="https://opera.cpms.chiba-u.jp/">https://opera.cpms.chiba-u.jp/</a>	

令和6年5月31日

## 目次

エグゼクティブサマリー	3
1 技術・システム革新シナリオ	6
2 研究領域及びキーテクノロジー	9
3 共創コンソーシアム	14
3.1 産学共同研究における費用負担の適正化・管理業務の高度化	14
3.2 共創コンソーシアムにおける知的財産の取り扱いルールの方針	16
3.3 人材育成についての方針	19
3.4 機関連携・協力体制についての方針	22
3.5 参画機関の管理方針	24
4 プロジェクト終了後の継続的な発展に向けた取組について	26
5 研究開発の状況	30
5.1 研究開発課題1「健康コミュニティ・健康オフィスのデザイン手法の開発と実践」	32
5.2 研究開発課題2「次世代に向けた健康住宅の開発（健康維持・増進を目指した室内環境の創造）」	33
5.3 研究開発課題3「地域コミュニティで展開されるウェルネスプログラムの開発とデザイン」	34
5.4 研究開発課題4「身体・行動データの取得と活用による新事業創出のためのスキーム開発」	35
5.5 研究開発課題5「異種混合学習解析による高齢者の健康と地域環境の分析ツールの開発」	36
5.6 研究開発課題6「身体の内側から健康増進を図るプログラムの開発」	37
5.7 研究開発課題7「健康コミュニティのデザイン手法の開発と実践」	38
5.8 研究開発課題8「施設類型に応じた健康空間のハード・ソフト開発」	55
5.9 研究開発課題9「次世代に向けた健康住宅の開発」	67
5.10 研究開発課題10「コミュニティに実装可能な食を中心とした健康増進プログラムの開発」	80
5.11 研究開発課題11「健康コミュニティの評価システムの構築」	86
6 非競争領域からの展開（活動実績）	110
7 社会実装に向けたロードマップ	112
8 領域統括によるプロジェクト総括と今後の展望	114
9 特殊用語等の説明	115

## エグゼクティブサマリー

### <研究開発目標の達成状況及び研究開発成果の創出状況>

#### (1) 研究開発目的

健康寿命の延伸、高齢化に伴う労働人口減少、生産性の低下は、我が国の最重要課題である。社会システムに変革をもたらし、市場の開拓を成しうる新たな価値として「Well Active Community」略称「WACo（ワコ）」（暮らしているだけで健康・活動的になれるコミュニティ）を提案する。これは、WHO（世界保健機関）が提唱する、本人が意識的努力をせずとも暮らしているだけで健康になれるゼロ次予防に立脚し、環境を改善することで、健康（Well）で活動的（Active）な空間・地域（Community）を実現するものである。ここでいう健康には、身体的健康に加え、心の健康や生きがい・幸福感などのWell-beingが含まれる。

具体的には、健康増進に寄与する住まい・オフィス・公共空間に溢れ、空間・地域の特徴や資源を活かした、身体活動や社会参加が増加するウェルネスプログラムを備え、行動・健康と地域環境の解析や評価に基づき、ハード、ソフト両面の改善や更新を促すシステムを構築する。

#### (2) 技術・システム革新シナリオの実現に向けた主な活動

産官学でエビデンスに基づく新たな技術・商品・サービスの開発や実装後のデータ蓄積・解析を行い、新たなエビデンス構築や業界標準・ガイドライン化を目指した。それによりゼロ次予防の必要性の喚起や多様な既存産業がゼロ次予防に繋がる環境・サービスを提供することを促し、最終的に多くの人々が自然と Well-Active になれる社会システムを構築した。また、ゼロ次予防産業を育成した結果として、地域住民の消費喚起やマーケット拡大といった経済効果に加え、疾病予防・健康増進の効果による社会保障費抑制等の社会的インパクトにつながることを期待している。



図：本プログラムにおいて解決したい社会課題と解決シナリオ

### (3) 特筆すべき研究開発成果と非競争領域からの展開

プロジェクト期間中の成果として、プロトタイプ3件、実用化2件、事業化5件、特許の出願1件、起業1件、掲載済みの論文205件（うち査読論文195件）、研究発表285件、受賞34件の実績があった。

特筆すべき研究開発成果として、キーテクノロジー1「ゼロ次予防デザイン・実装技術」においては、エビデンスに基づいたデザイン・設計支援ツールとして「健康コミュニティ・健康オフィスの空間デザインツール」を開発した。ツールは、民間のまちづくり計画やオフィスの計画に活用し、社会実装を実現した。OPERA 参画企業が推進する開発においても、本ツールの活用を進めており、更なる好事例を社会に発信する素地を形成している。

キーテクノロジー2「ゼロ次予防データプラットフォーム」においては、各課題で扱ってきたデータプラットフォームの整備とともに、課題7-3において、各課題で扱うデータの概要や特徴をブラウザで閲覧できるWACoデータカタログver.0を整備した。このデータカタログは、領域全体のデータを一覧することができ、随時、更新・整備する。多岐にわたる疫学調査や、先行事例をブラウザで閲覧でき、新たな研究開発や事業への展開に繋げることができるWACoづくりを推進するものである。事業終了後のコンソーシアムにおいても、引き続き、データカタログの整備を進め、コンソーシアム会員向けに公開予定であり、新規参画企業にとっても、ニーズ・シーズの発掘面において魅力のあるコンテンツとなると期待できる。

キーテクノロジー3「指標開発・評価技術」では、5~7万人規模の縦断データベースから評価項目を選定し、3-6年間の新規要介護認定確率や累積介護費用額を各人の点数毎に推定できる「要支援・要介護リスク評価尺度」を開発した。内閣府が進める成果連動型民間委託契約方式（PFS）を介護予防事業に導入した堺市、豊田市などにおいて、成果指標として「要支援・要介護リスク評価尺度」が採用され、経済産業省の「ヘルスケア分野におけるPFS/SIB事業組成パック」でも紹介された。PFSを今後導入する自治体で採用され、社会実装が進む可能性は高い。

非競争領域からの展開として、WACoコンソーシアムおよび千葉大学がハブとなり、参画企業である三井不動産・NTTドコモとの交流が生まれ三者で共同研究を開始した。三井不動産が開発する柏の葉キャンパスをフィールドとして、NTTドコモの持つ通信システムを利用し情報発信による幸福感向上について検証を行っている。また、積水ハウス住生活研究所との共同研究「すこやかで幸せな住まい・まちに関する研究」には、課題7、課題9、課題11の研究者が参加し、課題間の連携により、研究活動を進めている。

イノベーション・ジャパン2019、2022（オンライン）、2023および、健康まちづくりEXPO（2023）において「自然に健康になれるまちづくり」を進めているWACoの取り組みを紹介した。

#### <プラットフォームの形成状況>

##### (1) コンソーシアム運営の仕組みの構築

採択・FSフェーズ時には、6社だった民間企業の参画が、延べ29社と規模が大幅に拡大した。WACo協議会の発展形として、WACo共創会議を非競争領域における活動状況を共有し、研究者が所属機関の枠を超えて活発な議論を交わすことができる会議体として設置し、コンソーシアム参画企業・機関の意思決定の場としても機能している。

##### (2) 産学共同研究における費用負担の適正化・管理業務の高度化

OPERA参画企業と共同研究等を締結するにあたって、原則30%以上の間接経費を計上した。

「戦略的産学連携経費」に関して、コンソーシアム参画の1社に対し、計上して共同研究契約を結ぶことができた。

### (3) 知的財産の取扱

本コンソーシアムでは、文部科学省「オープン&クローズ戦略時代の共同研究における成果取扱いの在り方に関する調査～さくらツールの提供～」で提示された、「さくらツール（コンソーシアム型）」をベースとして、非競争領域に属する知的財産取扱いルールを提案し、参画企業・研究機関全体の下承を得た。OPERA-WACo コンソーシアムの後継として新規に発足予定の法人でプロジェクトを承継し、引き続き参画企業が知財を活用できるように各ステークホルダーと調整を続けている。

### (4) 人材育成

RA として延べ 15 名を教育するほか、企業所属の研究者 3 名が博士課程に所属するなど、博士号取得のサポート体制が充実した。プロジェクト採択当初、博士学生 RA として採用され、研究を行っていた学生が、プロジェクトを通じて特任助教へとキャリアアップを果たした例もある。さらに WACo の内容を解説する教育科目として、博士課程 7 科目、修士課程で 3 科目、学部課程で 12 科目を実施した。学内外の各種講義、海外研修等で WACo や健康まちづくりに関する内容に触れ、連携をしながら「健康まちづくり人材」の育成を図った。

### (5) 今後のコンソーシアム活動の展望

コンソーシアムは、WACo が供える価値の普及と WACo づくりの推進を目的として継続し、多様な環境へのゼロ次予防産業の社会実装と、効果評価のサイクルを回しながら WACo の実現を目指す。

# 1 技術・システム革新シナリオ

## 社会実装を目指す新たな価値の設定

健康寿命の延伸、高齢化に伴う労働人口減少、生産性の低下は、我が国の最重要課題である。社会システムに変革をもたらし、市場の開拓を成しうる新たな価値として「Well Active Community」略称「WACo（ワコ）」（暮らしているだけで健康・活動的になれるコミュニティ）を提案する。これは、WHO（世界保健機関）が提唱する、本人が意識的努力をせずとも暮らしているだけで健康になれるゼロ次予防に立脚し、環境を改善することで、健康（Well）で活動的（Active）な空間・地域（Community）を実現するものである。ここでいう健康には、身体的健康に加え、心の健康や生きがい・幸福感などのWell-beingが含まれる。

具体的には、健康増進に寄与する住まい・オフィス・公共空間に溢れ、空間・地域の特徴や資源を活かした、身体活動や社会参加が増加するウェルネスプログラムを備える。さらに、行動・健康と地域環境の解析や評価に基づき、ハード、ソフト両面の改善や更新を促すシステムを構築する。



図1-1：WACoの定義

背景として、健康増進に寄与する建物・地域に関する研究の深化がある。例えば、歩行者優先の歩きやすい街や階段空間の活用による、身体活動の増加、公園や緑地など自然環境によるストレスの緩和、清浄な空気質によるシックハウス症候群の予防などがあり、ハード（建造環境）と健康の関係が解明されつつある。国はWell-beingとデジタル化（DX）及びスマートシティを連携する視点を提示しつつあり、Liveable Well-being City Indicatorが開発されるなど、環境および都市づくりと健康やWell-beingとの距離が縮まりつつある。さらに、欧米ではCOVID-19の拡大を背景に、15分都市（20分都市）というwalkabilityを高めた都市開発の視点が注目されている。一方、ソフト面では自治体や企業によるウェルネスプログラムが多種あるが、建築・地域のハードと深く連携するプログラムは少ない。そこで、技術革新が進むICT・IoT技術を有効活用し、建築・都市のハードとプログラムとを連動させ、その影響・効果をデータにより評価・検証し、改善へ繋げる仕組みを「WACo」の重要なコンセプトと位置づけた。

一方、我が国における現在の疾病予防・健康増進事業及びサービスは、生活者の意識変容を“促す”ものが主流だが、健康に無関心または関心があっても行動できない多くの生活者（健康無関心層）にとって、予防的取組を行うことや継続することは難しい。そのため、生活者が意識せずとも疾病予防・健康増進に繋がる環境をつくるゼロ次予防の重要性が高まりつつある。

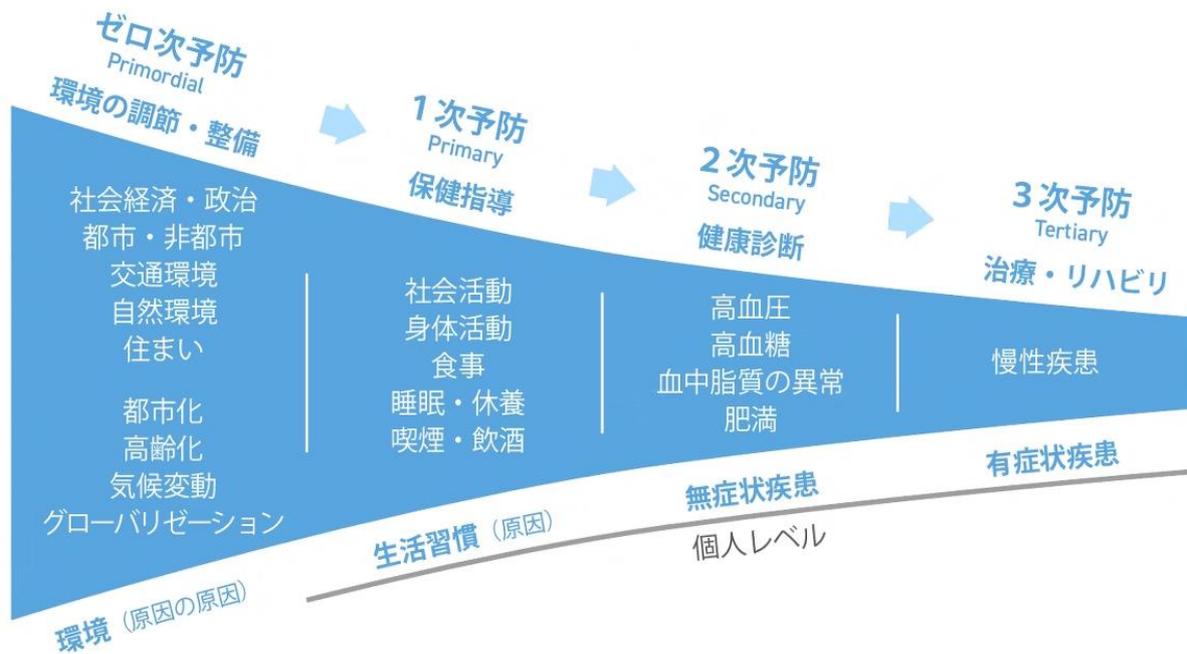


図 1-2：環境面（疾病の原因の原因）からアプローチするゼロ次予防

例えば、2023年5月31日の厚生労働大臣告示で公表された「健康日本21（第3次）」でも「自然に健康になれる環境づくり」が謳われた。ゼロ次予防は、暮らしを取り巻くあらゆる環境・サービスによって実現可能であり、様々な企業・研究機関等の参入が可能な産業領域でもある。ヘルスケア産業関連の市場規模は2025年に33兆円とも推計され、今後も伸長が予想されるため、企業の参入意欲は高い。

一方で、ゼロ次予防の概念はまだ一般的とは言えず、産業として育成していく必要がある。本学ではゼロ次予防産業を育成すべく、人・施設・建物・地域などの暮らしを取り巻く領域について、工学・公衆衛生学・園芸学・社会科学の研究者と20社以上の企業とのコンソーシアムを組成し、産業創出・育成に向けたキーテクノロジーの研究開発及び社会実装に取り組む。

産官学でエビデンスに基づく新たな技術・商品・サービスの開発や実装後のデータ蓄積・解析を行い、新たなエビデンス構築や業界標準・ガイドライン化を目指す。それによってゼロ次予防の必要性の喚起や多様な既存産業がゼロ次予防に繋がる環境・サービスを提供することを促し、最終的に多くの人々が自然とWell-Activeになれる社会システムを構築できると考える。

また、ゼロ次予防産業を育成した結果として、地域住民の消費喚起やマーケット拡大といった経済効果に加え、疾病予防・健康増進の効果による社会保障費抑制等の社会的インパクトにつながることを期待した。

**社会課題**

官民において多様な疾病予防・健康増進事業やサービスが提供されている。

生活者の7割は健康無関心または関心があっても行動できない。

多くの人にとって、予防的取組やその継続は難しい。

意識しなくても自然とWell-Activeでいられる環境づくり(ゼロ次予防)が重要

**育成を目指す基幹産業**

暮らしを取り巻く多様な環境・サービスから“ゼロ次予防産業”を創出・育成する



**社会へのインパクト**

千葉大コンソーシアムが実現したいこと

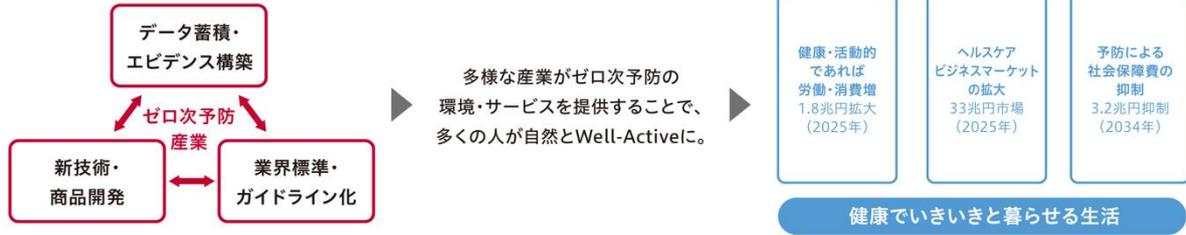


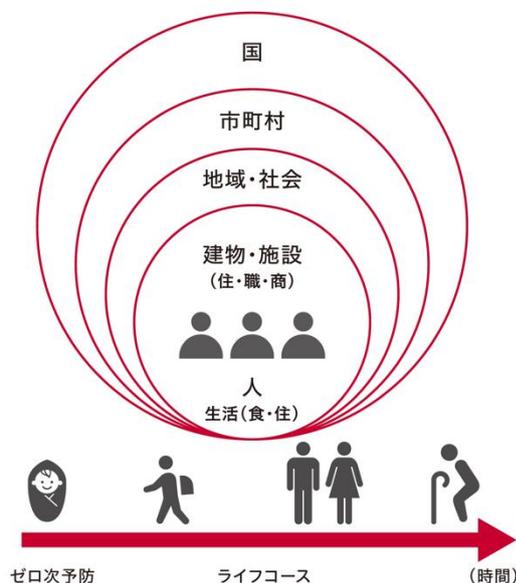
図 1-3: 本プログラムにおいて解決を目指した社会課題と解決シナリオ

## 2 研究領域及びキーテクノロジー

### WACoの研究領域とアプローチ

暮らしを取り巻く様々なところに、健康を害するファクターが存在する。その一方で、個人への啓発や介入による行動変容は限定的であり、人々が過ごす環境を変える必要がある。人々の生活のあらゆるシーンや、暮らす環境である建物、地域などの環境において、ゼロ次予防の要素が組み込まれた組み込まれた状態を WACo と定義し、あらゆる環境にゼロ次予防の要素が組み込まれたゼロ次予防産業の創出を目指した。さらに、WACo では、空間やコミュニティに加えて時間軸としてライフコースアプローチの視点を加え、次世代にとっては生まれる前からのリスクを低減することが、暮らしているだけで健康になる社会の実現につながると考える。(図 2-1)

また、我々が目指すゼロ次予防による環境からのアプローチは、環境汚染や有害物質のようなリスクを低減するだけでなく、心身の健康をより維持し増進できる(よりアクティブになれる)社会を目指していく。(図 2-2)



最も脆弱な胎児期から高齢期までの予防へ

図 2-1 : WACo の研究領域



図 2-2 : WACo のアプローチ

### サービス開発・普及プロセスにおける現状・課題に対応するキーテクノロジーの設定

ゼロ次予防は、暮らしに係る多様な既存産業の企業が参入する可能性を秘める一方、参入企業にとって、医学的な知見やノウハウがない事やゼロ次予防の必要性・可能性の理解が社会に広がっていない事が研究・商品開発及び事業開発のボトルネックとなっている。

具体的には、まず「研究開発」段階ではエビデンスやシーズが不足していることが挙げられる。企業のヘルスケア分野への参画意欲はある一方で、有力なエビデンスにたどり着けないことや、ゼロ次予防の概念が未確立であるためシーズが少ないといった課題がある。

「商品開発」段階では、品質評価環境の不足が挙げられる。企業は商品の品質確保に求められる医学的な評価基準・指標やノウハウを保有しておらず、効果が担保されないまま商品開発を進めてしまうことや、品質評価・効果検証を行うための環境(フィールド・体制・ノウハウ)がないといった課題がある。

「事業開発」段階では、社会実装後のモニタリングができないことが挙げられる。社会実装後は継続的なデータ収集および効果検証等の分析によるモニタリングや継続的な改善等のマネジメントが重要であるが、そもそも企業にはモニタリングの仕組みがないといった課題がある。

そこで、これらの課題に対応する3つのキーテクノロジー（以降、KEYと表記）を創出することで、プラットフォームの求心力とするために、社会実装の技術・ノウハウ・設計支援ツールを開発するKEY1「ゼロ次予防をデザイン・実装する技術」、ニーズ・シーズの発掘や比較評価が可能なデータ基盤を構築するKEY2「ゼロ次予防データプラットフォーム」、予防効果を評価できる技術や指標、測定環境を開発するKEY3「指標開発・評価技術」の3つに設定した。



図2-3: サービス開発・普及プロセスにおける現状・課題と必要な技術革新

【研究領域構成図】幹事機関：千葉大学

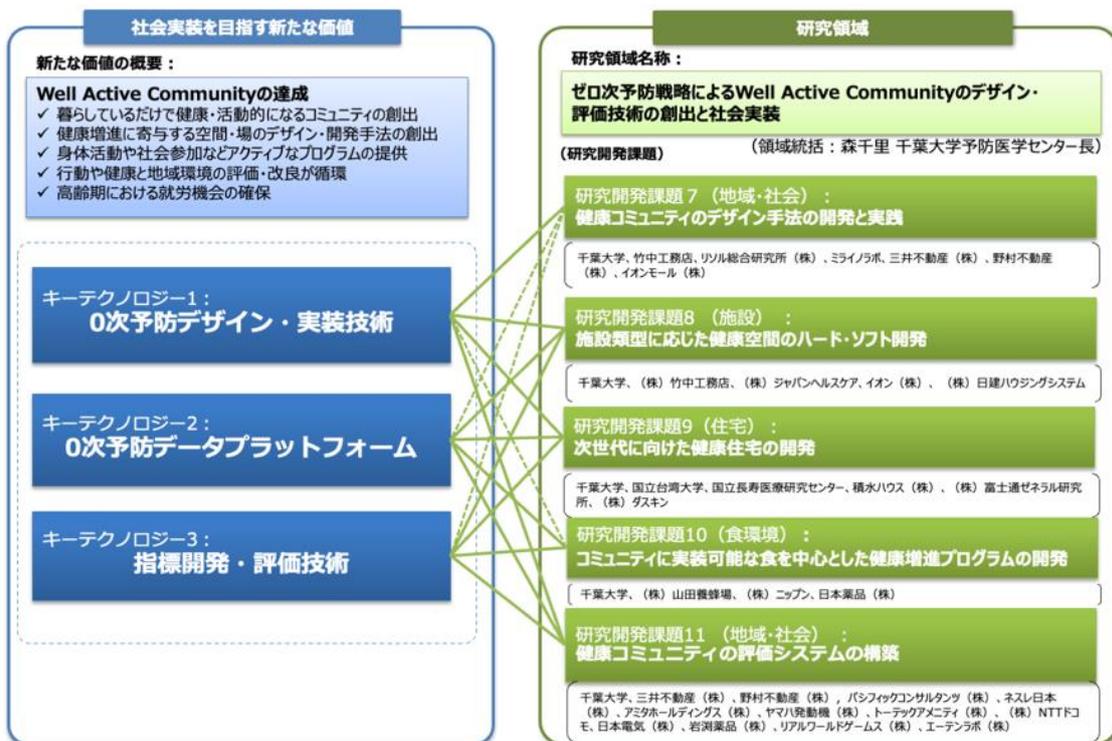


図 2-4：研究領域構成図

人を取り巻く多様な環境・サービスにゼロ次予防が組み込まれた WACo を実現するためには、因子解明・開発・普及それぞれの段階でハードルがある。1 つ目は、ゼロ次予防に資する要素の解明されていないことが多いということ、2 つ目は、ゼロ次予防につながる商品の開発や実装ができないということ、3 つ目は、ゼロ次予防効果のある商品の認知や価格の問題で世の中に広げることができないということである。これらを産官学民で連携して乗り越え、WACo の実現を目指す必要がある。

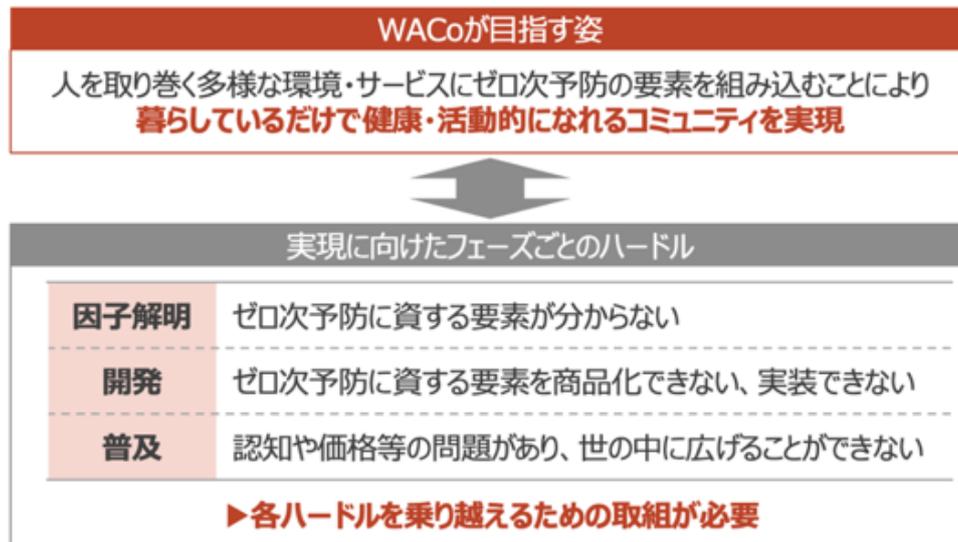


図 2-5 : WACo 実現に向けた課題

産業界では、科学的な実証結果や社会的な合意を待つことは事業機会や時間（コスト）の損失となる。企業の実態・ニーズも踏まえ、精度の高い仮説にもとづく実装・評価のサイクルを回しながら普及させていくモデルを確立することで、ゼロ次予防社会実現の期間を短縮することを戦略目標とした。

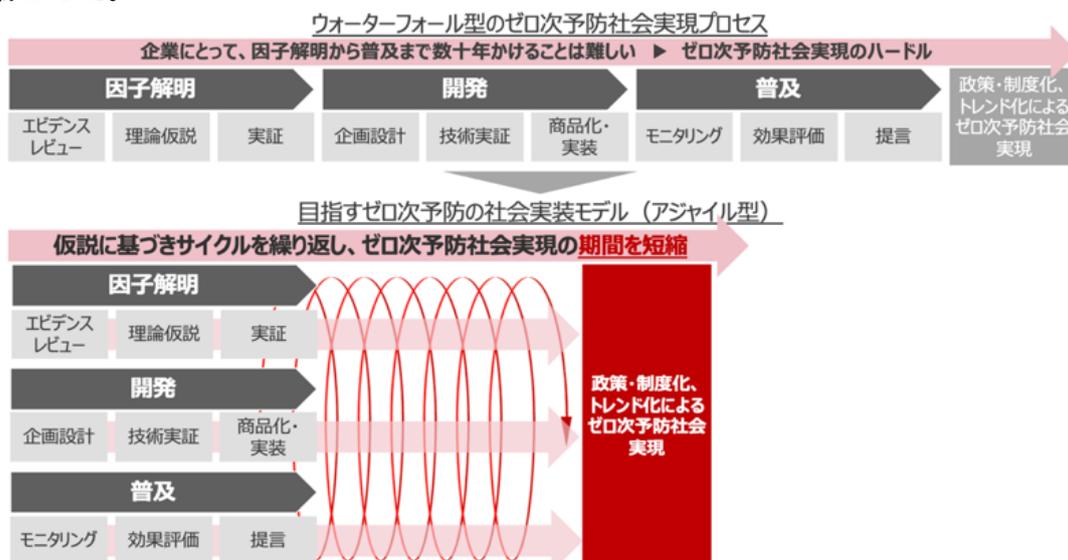


図 2-6 : 仮説に基づく実装・評価のサイクルを回す“ゼロ次予防の社会実装モデル”の確立

業及び産業界における因子解明・開発・普及の各プロセスを、短期間かつ高精度で展開するための技術として、ゼロ次予防のデザイン・実装技術、データプラットフォーム（OPERA の成果を WACo データカタログ Ver0 として集約）、指標開発・評価技術の 3 つのキーテクノロジーを開発した。

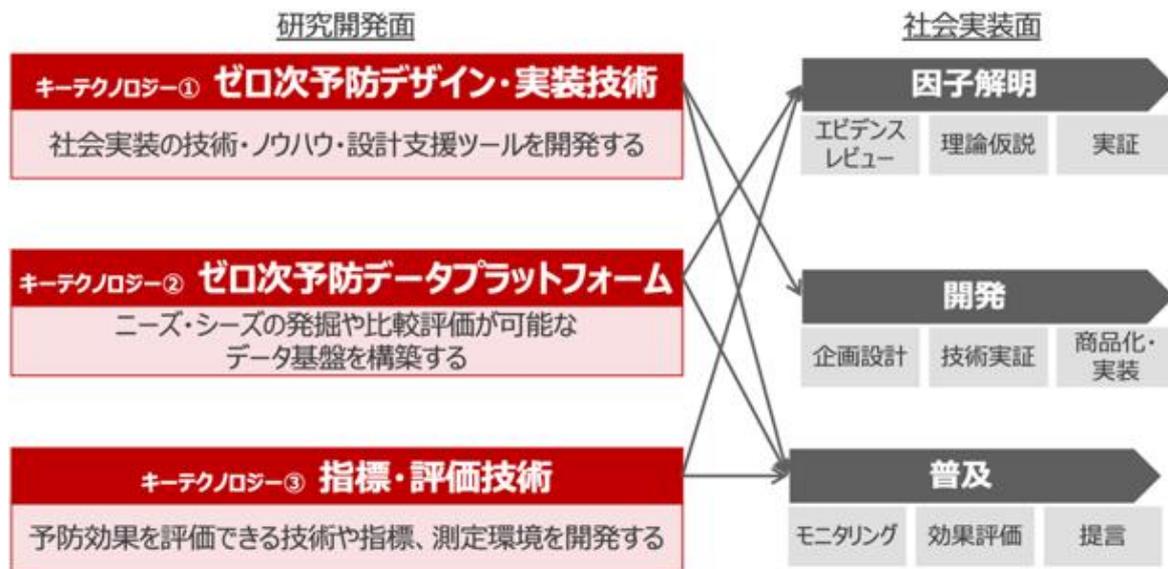


図 2-7：開発した 3 つのキーテクノロジーとゼロ次予防の社会実装プロセス

また、3つのキーテクノロジーは、異なる環境領域に対して、普遍的・共通的に活用可能な構造をもちつつ、それぞれの環境領域に最適化していくことが必要となる。WACoの実現には様々な環境要因にアプローチすることが必要であるが、OPERA 期間内では、地域、施設、住宅、食環境の4つの領域をターゲットとして、3つのキーテクノロジーの開発に取り組み、各環境領域において“ゼロ次予防の社会実装モデル”を確立していくことを目指して課題に取り組んできた。

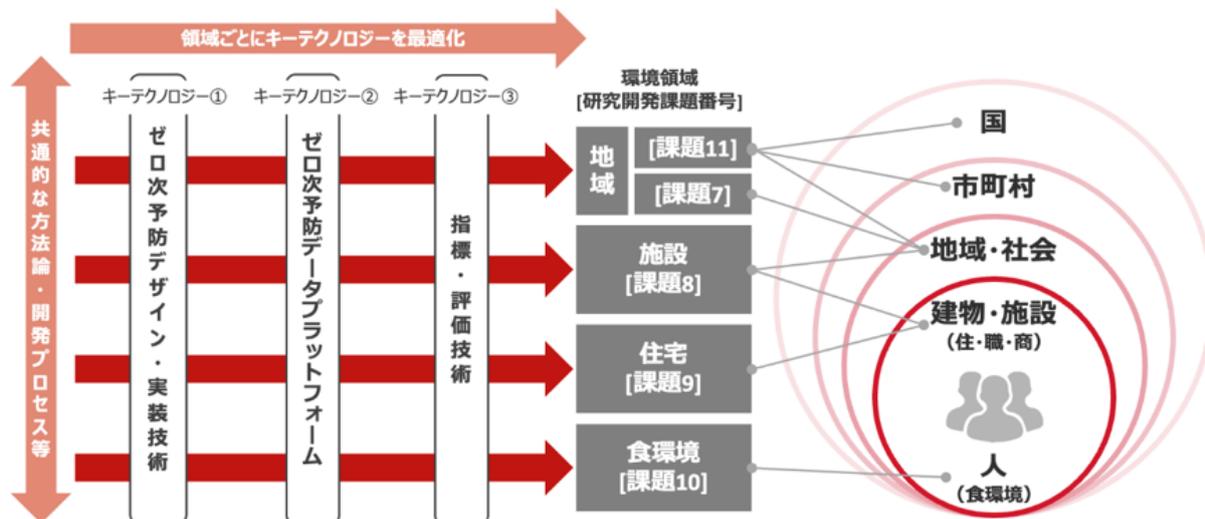


図 2-8：OPERA で取り組む環境領域と研究開発課題・キーテクノロジーの対応

領域・テーマ		KT① 0次予防デザイン・実装技術	KT② 0次予防データプラットフォーム	KT③ 指標開発・評価技術	共通基盤
地域・社会		【課題7-1】健康コミュニティの空間デザインツール開発 【課題7-2】「歩きたくないまち」のデザイン技術開発 【課題7-3】WACoアプリ開発		【課題11-3】地域のゼロ次予防評価指標の開発	企業向け支援機能開発 人材育成プログラム開発 領域横断の情報共有とアーキテクチャの整理
		【課題11-1】Well Active Community (WACo) の共創と評価システム開発	【課題11-2】地域のゼロ次予防データプラットフォームの開発		
施設	オフィス	【課題8-1】健康オフィスの空間デザインツールと0次予防データプラットフォームの開発		将来的に取り組む領域	
	商業	【課題8-2】商業施設における健康プログラムの開発及び健康コミュニティ支援技術の構築			
	教育	【課題8-3】教育施設的环境測定・お掃除健康プログラム介入による児童の健康影響と行動変容に関する研究			
住宅		【課題9-1】化学物質を最大限に削減させた実証実験住宅の開発および予防・健康増進の実証 【課題9-2】予防・健康増進を目指した住宅用冷暖房・換気方式、制御技術の開発 【課題9-3】室内空気質分析装置の開発および、光触媒デバイスによる空気浄化性能の実証評価 【課題9-5】室内環境測定装置の開発	【課題9-4】疫学調査を基盤とした住まい・近隣環境と健康に関するエビデンス強化	【課題9-1】化学物質を最大限に削減させた実証実験住宅の開発および予防・健康増進の実証 【課題9-2】予防・健康増進を目指した住宅用冷暖房・換気方式、制御技術の開発 【課題9-3】予防・健康増進を目指した住宅用冷暖房・換気方式、制御技術の開発	
食		将来的に取り組む領域		【課題10-1】近年増加している次世代・小児疾患の環境中の健康影響のバイオマーカー検索と予防するための環境の創造 【課題10-2】前向きコホート調査研究結果を用いた健康に寄与する食事や背景因子の探索による健康な将来世代創出のためのプログラムづくり 【課題10-3】機能的食品を活用したセルフメディケーションを基盤とする健康な社会の構築	

図 2-9 : キーテクノロジー創出に向けた領域別の研究開発課題と領域横断の共通基盤づくり

### 3 共創コンソーシアム

#### 3.1 産学共同研究における費用負担の適正化・管理業務の高度化

##### 3.1.1 構築した仕組みの概要及び運用状況

###### 【これまでの取組状況】

千葉大学では、財務諸表から間接経費の必要額を算出し、平成28年4月1日に規程を改正、共同研究における間接経費の標準額を直接経費の30%に設定した。

###### 千葉大学の共同研究等に係る間接経費の取扱いの変更について

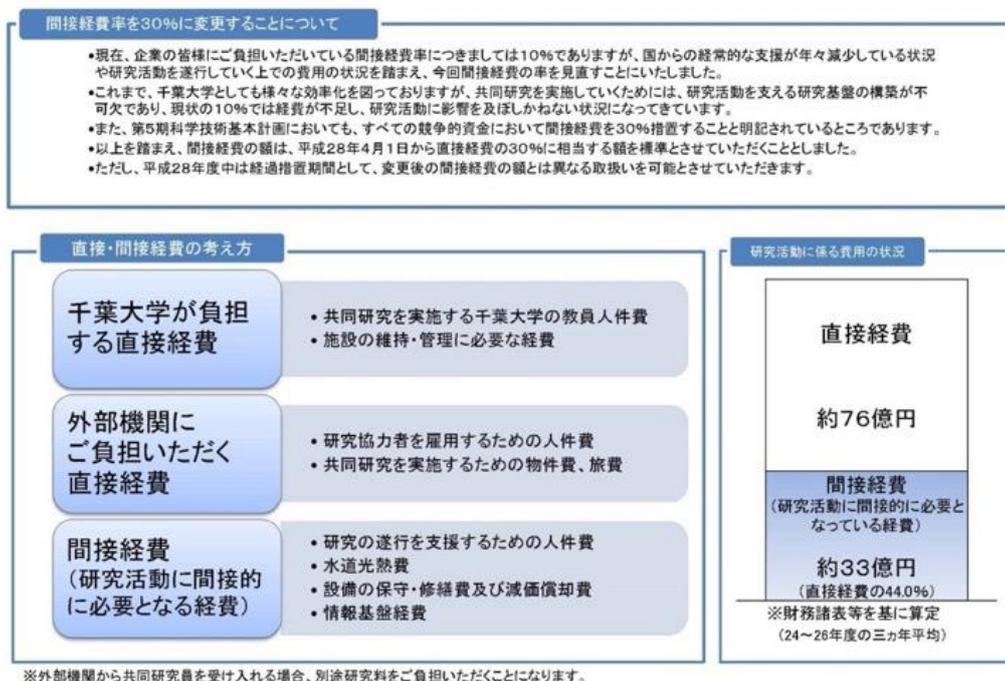


図 3-1：千葉大学の共同研究等に係る間接経費の取扱いの変更について

###### 【本プロジェクトでの新たな取組】

###### ・戦略的産学連携経費

本学では令和2年7月に30%を超える率の間接経費を交渉可能とする仕組みとして、戦略的産学連携経費を、大学執行部で構成される経営戦略会議で承認した。戦略的産学連携経費は、教員の知の貢献に対する研究費面での上乘せ、スペースチャージ相当額、特許出願費用相当額、産学連携支援経費等の名目で計上する。令和5年度より、一部の共同研究契約に導入した。

###### ・費用算定について

本格実施フェーズ以降、「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」に基づき、アワーレート方式を用いた費用算定手法の導入を検討し、令和4年度に規程化、令和5年4月1日より施行開始した。人件費算定に関しては研究者のエフォートの管理徹底を併せて実施する。

(積算方式例)



図 3-2 : 間接経費積算の考え方

### 3.1.2 得られた効果

OPERA 参画企業と共同研究等を締結するにあたって、原則 30%の間接経費を計上した。共同研究に限れば、参画全ての企業に対して間接経費 30%を適用している。間接経費収入は増大し、経営戦略によって教育研究環境の改善や人件費捻出が行えるようになったことにより、OPERA プロジェクトを構成している研究者等の環境改善にもなっている。

「戦略的産学連携経費」に関しては、コンソーシアム参画の 1 社に対して、計上して共同研究契約を結ぶことができた。

### 3.1.3 今後の課題、プロジェクト終了後の運用方針

戦略的産学連携経費や、アワーレート方式を用いた人件費を、本プロジェクトのような大型連携に積極的導入を進め、外部資金の多様化、研究者の意欲向上に繋げ、研究力向上を目指す、

また、大学全体ではなく本コンソーシアムに限った運用方針については、3 月末に向けて現在も企業担当者を交えたワーキングで検討が進められている。

## 3.2 共創コンソーシアムにおける知的財産の取り扱いルールの方針

### 3.2.1 構築した仕組みの概要及び運用状況

本開発は非競争領域に関するものであり、参画する複数の大学・国立研究開発法人や企業が、研究成果の共有・公開を可能とすることを目的としている。これを踏まえるとコンソーシアムの発展を通じたイノベーション促進のために、プロジェクトの研究成果をプロジェクトの幹事機関へ集中させる一元管理と、蓄積された知的財産権を他のプロジェクト参画機関が利用しやすくするための実施権集約型の知的財産取扱いルールが望ましい。

そこで、本コンソーシアムでは、文部科学省「オープン&クローズ戦略時代の共同研究における成果取扱いの在り方に関する調査～さくらツールの提供～」で提示された、「さくらツール（コンソーシアム型）」をベースとして、非競争領域に属する知的財産取扱いルールを提案し、参画企業・研究機関全体の了承を得た。

#### 【本プロジェクトでの新たな取組】

##### <1>プロジェクト実施期間中の取扱い方針

###### A：知財取り扱い運営体制

- 1) 参画機関は、領域統括を委員長とする知財運営委員会を WACo 共創協議会の下に設置し、必要な場合に知財取り扱いについて協議・承認等を行う。

###### B：フォアグラウンド IP について

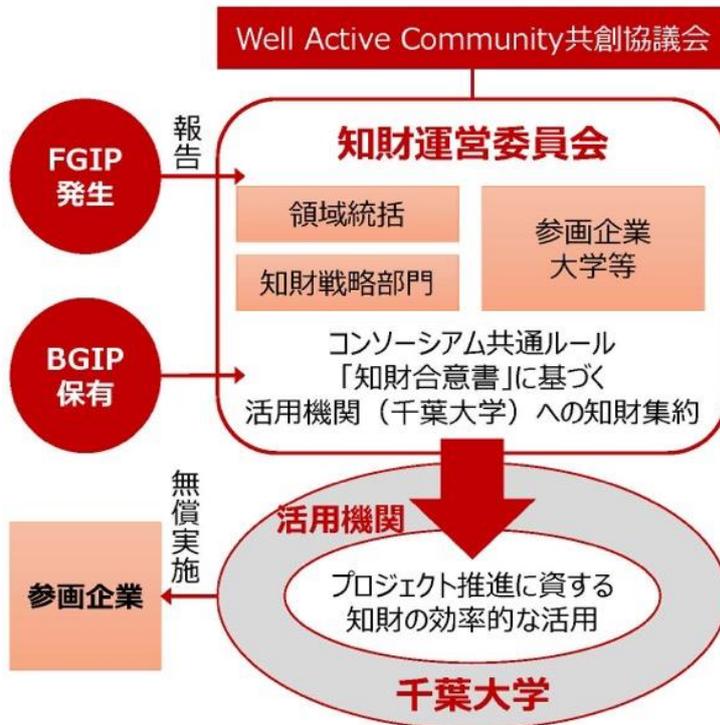
- 1) フォアグラウンド IP は、発明者の所属機関が保有する（所属機関が複数の場合は共有）。また、所属機関の子会社等も保有を可能とする。
- 2) 出願等費用は当該 IP 発明者所属機関の負担（共有の場合は持分に応じ負担）とする。
- 3) 上述の実施権集約を行う機関を活用機関と呼び、本提案では非営利機関である千葉大学とする。当該 IP を保有する機関は、活用機関に対して、当該 IP を再実施許諾する権利を無償で与える。但し、当該 IP 保有機関は、活用機関以外の第三者に実施許諾することが出来、参画機関のうち企業（以下、「参画企業」）がプロジェクト以外の目的で独占的又は非独占的実施した場合、及びコンソーシアム外の第三者機関が非独占的実施した場合の対価の分配を得る権利を有する。
- 4) 参画機関は、プロジェクト推進目的の場合、当該 IP を無償で非独占的に実施できる。
- 5) 参画企業は、プロジェクト推進目的以外で、当該 IP を有償で非独占的に実施できる。
- 6) 参画企業は、活用機関との間で、プロジェクト推進目的以外で、当該 IP の独占的実施の許諾を受けることについて優先的交渉権を有する（要知財運営委員会承認）。
- 7) 活用機関は、プロジェクト外の第三者機関に対し、有償による非独占的実施を認めることが出来る。（要知財運営委員会承認）。
- 8) 当該 IP が共有特許の場合、当該 IP を共有する機関は他の共有機関に対して不実施補償を求めない。

###### C：バックグラウンド IP について

- 1) バックグラウンド IP を保有する機関は、あらかじめ指定した非独占的無償実施許諾をする IP について、他の参画機関がプロジェクト推進目的で非独占的実施する場合は、無償で許諾する。
- 2) 当該バックグラウンド IP 保有機関が、当該バックグラウンド IP がフォアグラウンド IP の商業目的の実施に必要なと合意すれば、当該バックグラウンド IP 保有機関と活用機関は、当該バックグラウンド IP の他の本当事者に対する実施許諾条件について協議でき

る。

## 知財取扱ルール（知財合意書）



### 1. 知財運営委員会

本プロジェクトにおける知財の取扱は、WACo共創協議会の下に設置される知財運営委員会で決定する。

### 2. 知財の帰属

知的財産は発明者の属する組織に帰属する。複数者が共同で発明した場合は、協議により決定した持ち分により発明者が所属する組織が共有する。

### 3. 活用機関への集約

フォアグラウンドIPは、発生と同時に知財運営委員会に報告され、必要に応じて発明者の属する組織の了承を得た上で、活用機関に集約される

バックグラウンドIPは、必要に応じて保有機関から活用機関に提供・集約される。

活用機関は、プロジェクト推進のために当該知財を実施許諾する。

### 4. 無償実施

参画企業は、本プロジェクト実施目的のために活用機関から実施許諾された知財を無償で実施する。

本プロジェクト実施目的以外の目的で使用する場合には有償となる。

図 3-3：知財取扱ルール概念図

### < 2 > プロジェクト終了後の取扱い方針

- 1) 契約期間終了後も、< 1 > B、Cの各条項は存続する。なお、知財運営委員会の承認では、フォアグラウンドIP及びバックグラウンドIPに係る事項については当該フォアグラウンドIP及び当該バックグラウンドIPをそれぞれ保有する参画機関の合意を、それ以外の事項については参画機関の過半数の賛成をもって代替するものとする。

### < 3 > その他、上記取扱いルール関連事項に関して

- 1) 上記< 1 > Aの知財運営委員会の構成や運営等の詳細については、参画機関と協議して別に定める。

### 【大学の知財部門との関係・役割分担等】

千葉大学以外の大学・国立研究開発法人等の研究機関が本コンソーシアムに参加する場合には、上記< 1 > B：3)の活用機関を千葉大学が務めることの了解を求めたうえで、本ルールを当該研究機関の知財部門に説明し、相互の関係性を協議の上、了解を得る。

基本的にイニシアティブは活用機関にあるが、参画機関と協議して構成や運営等の詳細を定める知財運営委員会が、参画機関に不利益となるような活用を行わないための抑止力としても働くため、結果的にはコンソーシアム全体の合意の上で活用されることとなる。

### 3.2.2 得られた効果

幹事機関に知財許諾等の権限を集中させ、参画企業間の公平性を諮った。さらに、了解を得るため、コンソーシアム参画企業間へ、個別に時間をかけて説明し、最初の参画企業（6社）で知財合意書に合意した。合意企業が電機、建設・住宅、物流、レジャーなど多くの業種にわたっていたことが、知財ルール（知財合意書）に対する信頼感を高めることにつながったと考えられる。いわゆる第2期（令和4年（2022年）3月参画）以降の企業の場合、内容説明後比較的短時間で合意に至っている。現在、合意企業は20社以上となり、環境、通信、食品、薬品、などさらに幅広い業種の企業が参画している。

### 3.2.3 今後の課題、プロジェクト終了後の運用方針

プロジェクト期間中に権利化した知財の活用が課題である。

OPERA-WACo コンソーシアムの後継として新規に発足予定の法人でプロジェクトを承継し、引き続き参画企業が知財を活用しやすくするとともに、外部PRも注力し、成果の社会実装を加速させていきたい。

プロジェクト期間中に権利化したある知財について、活用したいとの打診を現在受けており、調整中であるが、これはショッピングモール等の施設で実施し、多くの人の目に触れ、体験してもらえる成果である。このような事例を増やしていきたい。

これまでに検討した知財のマネタイズの仕事みとしては、コンソーシアム活動による研究成果・知財の営業、知財合意書の確立を検討している。今回の OPERA プロジェクト事業にて確立した「知財取り扱いルール（知財合意書）」は、継続するコンソーシアムについても応用することが可能であるため、継続コンソーシアム形態に合致した参画企業、研究機関団体に不公平感が生じない、より参画団体にマッチした「知財合意書」の確立検討を進めていく所存である。

### 3.3 人材育成についての方針

#### 3.3.1 構築した仕組みの概要及び運用状況

##### 【これまでの取組状況】

千葉大学の人材育成の基本的な方針は、「俯瞰力」「発見力」「実践力」を身につけ、問題解決能力のあるグローバル人材を育成することである。本プロジェクトにおける人材育成の主な対象となる学部・大学院生は、工学分野、医学分野、公衆衛生学分野に所属する。特に、大学院医学薬学府先進予防医学共同専攻は、医学（博士）の学位を授与するものだが、予防医学・公衆衛生学が扱う広範な専門分野に対応し、工学、経済学、社会学など非医療系の学生も所属する点に大きな特徴があるため、本専攻の博士課程学生の参加を推進してきた。

##### ○ 大学院医学薬学府先進予防医学共同専攻（医学博士課程）… 医学系

- ・ 研究デベロップメント科目や実習科目など学位プログラムと連動
- ・ 期間中OPERAプロジェクトに携わる学生の内、9名が博士（医学）の学位を取得

##### ○ 大学院医学薬学府医科学専攻（医学修士課程）… 医学系

- ・ サステイナブル環境健康学など学位プログラムと連動
- ・ 期間中OPERAプロジェクトに携わる学生の内、2名が修士（医科学）の学位を取得

##### ○ 大学院融合理工学府創生工学専攻（工学修士課程）… 工学系

- ・ 2020年10月より、工学系修士共通科目（コレクティブデザイン演習）にて、WACoの研究内容を活用
- ・ 2021年4月より、創成工学建築学コースにおける設計科目にて、OPERA-WACoの研究内容を活用

##### 【本プロジェクトでの新たな取組の概要、運用状況】

##### ○ 教育プログラムの構築

先進予防医学共同専攻の学生の指導教員の多くが、本構想の研究者として参画することから、学生・若手研究者として学術論文の発表を可能とするとともに、最大限支援する。また、研究デベロップメント科目や実習科目など学位プログラムと連動した人材育成システムを構築する。

そのほか、講義科目として、医学博士課程向け教育科目（先進予防共同専攻）としては、「マクロ環境」「サステイナブル環境健康科学」「医療・政策マネジメント」「社会疫学」「ヘルシーシティーズ・都市部コホート実習」「環境情報学実習」を開講した。工学修士課程向け教育科目としては、「建築設計スタジオ」「コレクティブデザイン演習A」などを開講した。

特別レクチャーとしては、令和元年～2年度千葉大学医学部附属病院の教育訓練プログラム開発事業（2年開発コース）でのレクチャー、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・社会基盤学専攻・建築学専攻の3専攻を横断する社会人向け教育プログラム「都市持続再生学コース」（東大まちづくり大学院）でのレクチャーを実施した。

## レクチャー

### 医学博士・修士課程向け教育科目

医療職・研究者（社会人学生が多い）に対して、0次予防、WACoの視点と重要性、既に分かっているエビデンスやこれから社会実装と検証が期待される項目などを紹介する科目

#### 博士課程

マクロ環境／サステナブル環境健康科学／社会疫学／ヘルシーシティーズ実習

#### 修士課程

サステナブル環境健康科学



### 工学修士課程向け教育科目

空間・都市デザインを学ぶ学生に対して、0次予防、WACoの視点と重要性、既に分かっているエビデンスやこれから社会実装と検証が期待される項目などを紹介する科目

#### 建築デザインスタジオ

コレクティブデザイン演習

コレクティブデザイン論

## 特別レクチャー

- ・令和元年～2年度千葉大学医学部附属病院の教育訓練プログラム開発事業(2年開発コース)でのレクチャー
- ・東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・社会基盤学専攻・建築学専攻の3専攻を横断する社会人向け教育プログラム「都市持続再生学コース」(東大まちづくり大学院)でのレクチャー



図 3-4 : 大学院領域横断教育プログラムの構築

## ○卓越大学院との連携

千葉大学では、令和元年度卓越大学院プログラムにおいて以下に示す2件の採択を受けた。

### ・アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム

本プロジェクトでは、健康空間・まちづくりに関する国際的な関心の高まりを踏まえて研究成果の国際展開を見据えており、特にアジア（台湾）・ヨーロッパ（ドイツ・フランス及びスイスの国連機関）とは連携体制を構築している。

### ・革新医療創生 CHIBA 卓越大学院

千葉大学予防医学センターが連携している、WHO などスイスの国連機関、独・シャリテ医科大学、ミュンヘン大学、ライプツィヒ大学、仏・コート・ダジュール大学大学などにおいて、博士課程学生を中心とした海外研修を2018・2019・2022・2023年度に合計9回実施しており、研修参加者には医学薬学府の院生や研修医なども含まれる。領域統括・森教授は医学研究院の教授でもあることから、本研修に OPERA プロジェクトの研究要素を織り交ぜ、連携している。

## 3.3.2 得られた効果

プロジェクト採択当初、博士学生 RA として採用、研究を行っていた学生が、プロジェクトを通じて特任助教へとキャリアアップを果たした。FS フェーズ含めて6年間の長期間安定して雇用できる環境にあることによって主体的に、安心して研究活動を行うことが可能となった。

### 3.3.3 今後の課題、プロジェクト終了後の運用方針

今後の課題として、プロジェクトによって確保した優秀な人材を安定的に長期雇用し続ける仕組みの構築が挙げられる。プロジェクト終了後は、コンソーシアムを共同研究に結び付けるプラットフォームとして機能させつつ、次期の大型研究資金の獲得へ向けて研究活動を続けていく。

#### ○ 参画学生等の状況リスト

・ OPERA 全実施期間の参画学生総数： 28 名

・ 進路状況内訳

①進学： 13 名

②就職（アカデミア）： 9 名

③就職（OPERA の参画企業）： 1 名

④就職（その他）： 7 名

## 3.4 機関連携・協力体制についての方針

### 3.4.1 構築した仕組みの概要及び運用状況

#### 【クロスアポイントメント制度】

千葉大学では平成 27 年度から制度を導入しており、平成 28 年 11 月には実態に応じて規程の一部改正を行い、対象者の範囲を広げて制度を柔軟化した。コアメンバーである近藤克則教授は OPERA 事業以前からクロスアポイント制度を活用している。

本プロジェクトの実施に際しては参画企業とのクロスアポイントメントが可能であり、積極的な人事交流を検討する。また、本プロジェクトの領域統括が所属する「予防医学センター」は、全学センターであることから他の部局と比較して学士教育課程にかかるエフォートが少ない研究者の割合が多く、既にクロスアポイントメント制度を活用する研究者も本事業に参加する。このような点も、柔軟な人事システムの活用が期待できる背景となる。

#### 【人事交流】

千葉大学では、クロスアポイントメント以外でも企業在職者の客員・特任等の登用制度が整備されているため、実態に応じて様々な形態の人事交流方法の選択が可能となっている。また、人材育成の面でも、国際未来教育基幹によるインターンシップ制度の活用等を検討する。

#### 【機器・施設の利用計画・共用計画】

##### 1) 機器・施設の利用計画

本プロジェクトの領域統括及び課題代表者が在籍する「予防医学センター」は、千葉大学で教員数・学生数共にトップクラスの工学・医学分野を中心とした部局横断的な全学センターであり、西千葉・亥鼻・柏の葉の各キャンパスに専門分野に応じて活発に活動可能な研究拠点を置いている。それらの機器・施設を中心として、全学的な利用が可能である。

##### 2) 機器・施設の共用計画

千葉大学では研究機器の共用を促進するため、汎用性の高い分析機器等は「共用機器センター」の管理下で「研究機器共用促進部会」による利用検討を行っており、利用に際しては共用機器専用システム管理の上で利用料金を徴収し、当該収入を機器の管理運用に充てている。本プロジェクトにより取得された機器のうち共用可能なものは、本プロジェクトのために使用しない限度において、当該管理の下で有効に運用・活用されることとなる。

また、施設に関しては、学内で使用されていない空きスペース等は「競争的スペース」として諸研究活動に利用施設が必要となった研究者の共用スペースとして活用されており、本プロジェクトの実施において新たに研究室や実験室等が必要になった場合には、当該制度を利用した新たな研究拠点形成が可能である。

### 3.4.2 得られた効果

参画企業所属の研究者のうち3名は千葉大学の社会人学生として本学に在籍し、研究開発活動に本学研究者とともに深く関わるなど、人事交流による効果も生まれている。

施設については、競争的スペースの一部が学長裁量スペースとして位置づけられ、OPERAの研究開発のためにも一部無償で利用している。また、事業期間で導入した「液体クロマトグラフィー質量分析装置」について、学内・学外で共用しており、OPERAの共同研究として参画企業が利用するほか、OPERA研究チームが利用しない時には手続きを行うことにより、学内外の研究者が利用することが可能となる。

### 3.4.3 今後の課題、プロジェクト終了後の運用方針

大学としてクロスアポイントメント制度は整備されており、プログラム終了後も現制度によって適切に管理運営される。

機器・施設の共用については、今後展開を予定している「西千葉 well-being リサーチパーク（仮称）」における構想で、リビングラボの整備も検討にあがっている。実現された際は、上記の制度を利用し、WACo コンソーシアム参画企業にも広く利用を促す予定である。

## 3.5 参画機関の管理方針

### 3.5.1 構築した仕組みの概要及び運用状況

#### ・プロモーション活動①

民間企業の新規参入には、企業が新規事業化を経営戦略ビジョンとして想像可能な具体的展望が必要不可欠である。本プロジェクト実施においては研究成果の社会実装を念頭に置き、従来のアカデミアの殻を脱却した事業戦略・シナリオを参画企業と協働で形成することに重きを置くとともに、いかに社会的インパクトの強い成果を生み出すかという視点から研究戦略・知財戦略の高度化を図り、より魅力的なシナリオ形成を推進する。

新規参入を促すための取り組みとしては、情報発信に力を入れたことが挙げられる。具体的には、シンポジウムやセミナーなど研究内容や成果についての発信と、イベントへの出展・参加といった取り組みに重点をおいた。

研究成果に関する情報発信としては、領域全体を網羅したシンポジウムの他、研究開発課題 11でもシンポジウムを開催した。領域全体のシンポジウムとしては、事業期間最終年度の 2023 年に、「WAGo コンソーシアムが目指すゼロ次予防に基づく自然に健康になれる環境・まちづくり」と題して行った。成果報告としての位置づけはもちろん、民間企業および他機関の誘致もねらいとした。参加人数はオンラインで約 300 名、会場参加が約 90 名となった。

イベントへの出展にも力を入れた。本格フェーズの期間と新型コロナウイルスの流行が重なり事業期間中の参加件数は伸びなかったものの、コロナ禍明けの 2023 年には「健康まちづくり EXPO」「イノベーション・ジャパン」などの対面イベントへのブース出展を行い、企業を中心に新規連携を視野に入れた情報交換を行った。

#### ・プロモーション活動②

千葉大学学術研究・イノベーション推進機構には、企業からの技術相談や学内研究者からの企業ニーズ探索相談等に対応するコーディネーターが在籍している。本プロジェクトは千葉大学における産学官連携研究推進の重要戦略の一つとして位置づけられおり、学術研究・イノベーション推進機構に集約されるシーズ・ニーズ情報の全てを活用した全学的なプロモーション活動が可能である。

#### ・参画機関の管理

幹事機関（千葉大学）の中で、民間企業等に限らず他研究機関や地方公共団体等を含め、幹事機関で渉外対応の体制を構築する。

また、非競争領域を含む本プロジェクト参画者の権益を守るため、中途脱退した場合でも有効な秘密保持契約を合意した。併せて、知財・成果有体物等の管理に関する方針を定め、原則として管理は幹事機関が行い、新規参入があった場合でも当該体制の下で管理を行う。

### 3.5.2 得られた効果

FS フェーズ時、民間企業の参画は6社だったが、延べ26社の参画があった。中途脱退もあったが、秘密保持契約の合意などにより大きなトラブルなく手続きを進めることができた。

2023年4月には、「健康まちづくり」や「ゼロ次予防」の考え方に共感、興味を持つ企業との共同研究部門の立ち上げ、コンソーシアム参画が実現した。シンポジウムの開催や、健康まちづくりに関する講義、および学術研究・イノベーション推進機構によるマッチングが功を奏した事例となった。

### 3.5.3 今後の課題、プロジェクト終了後の運用方針

基本的には現行の仕組みを引き続き保持する方針であるが、前述のワーキングで検討されている今後のコンソーシアムのあり方によっては、マイナーチェンジが生じる可能性がある。

## 4 プロジェクト終了後の継続的な発展に向けた取組について

プロジェクト終了後も、WACoの研究や実装を推進するため、また、コンソーシアムの継続、発展に向けて、「WACo コンソーシアム検討推進ワーキング」を設立し、新体制となるコンソーシアムの準備を進めてきた。ワーキング会議では、研究者、各参画企業、コンサルティング会社と、新コンソーシアムのミッション、目的、意義、機能などを協議した。

### ○新 WACo コンソーシアムのミッション

- ・ 個別の研究開発課題代表者とのヒアリングを経て、シナリオ・社会価値検討ワーキング会議の開催ゼロ次予防に立脚し、自然に健康になれるまちを、“Well（健康的）で Active（活動的）な Community（WACo）”とし、WACoが供える価値の普及とWACoづくりを推進する。
- ・ 環境を改善することで、健康で活動的な空間・地域の「WACo」を目指す。

### ○意義

- ・ WACoには生活の様々なフィールド（あらゆる業種・業態）が関わるため、1事業者では、その全容を描けない。
- ・ コンソーシアム参加主体が、それぞれの強みを活かし、WACoのひとつひとつのピースを埋めていくことで、まち・コミュニティとしてのWACoを社会に提示しようという考えから、コンソーシアムを形成する意義がある。

その結果、プロジェクト終了後は、円滑・迅速な業務遂行のため、非営利型一般社団法人を設立予定である。2024年度内の設立を目指し、引き続き協議を進めている。図4-1：法人体制（案）に示す通り、千葉大学だけではなく、他大学も含む研究機関、企業、自治体、まちづくり団体、専門家など、より多様な参加者を募り、エビデンスと実証実験に基づくオープンイノベーションによる健康まちづくりを推進する。

## ■ WACoコンソーシアム新法人体制（案）

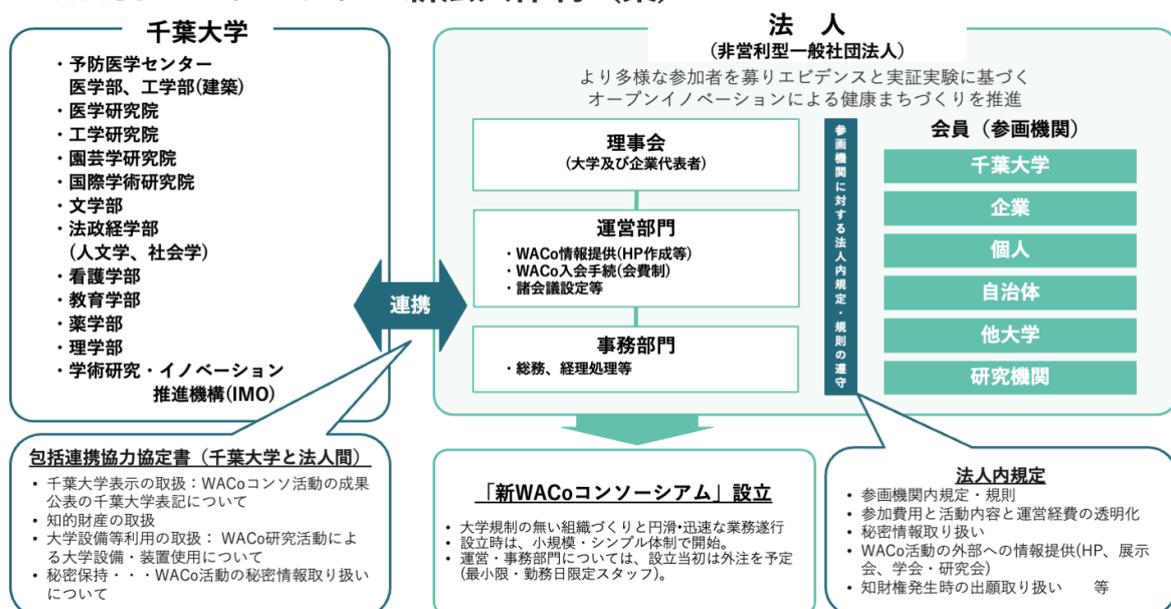


図4-1：新WACoコンソーシアム法人体制（案）

継続する新 WACo コンソーシアムでの実施内容として、(表 4-1) の共同研究、開発支援、データベース、WACo の基準づくり、普及活動などの検討を進めている。

新体制となるコンソーシアムでも、引き続き WACo の実現にむけた研究、開発を実施する。コンソーシアムの機能として、WACo の理解を深化・発展させる勉強会の開催や、WACo づくりに資するサービス、商品及び事業などに関する認証・認定制度、WACo の活動や成果の広報活動、WACo コンソーシアム勧誘活動などを推進する。新体制コンソーシアムでは、参画機関同士のより活発な研究・事業交流、特に異業種間での交流についても強く期待されており、このような交流機会を設定し、研究会、新規テーマ発掘など参画機関が参加するワーキンググループ活動も計画している。

カテゴリ	項目	内容
0. 共同研究	個別共同研究	企業から依頼を受けた事案について研究担当者を任命し、共同研究を推進
1. 開発支援	学術指導	個別事案について指導担当者を任命して推進
	★アイデア構築WG	ワーキンググループ内でアイデア構築を推進
	勉強会（内部・外部講師）	WACoの理解を深化・発展させるための勉強会を定期的に行う
	★企業間マッチング	連携シートを活用して企業間マッチングを推進
2. データベース	★研究機関とのマッチング	連携シートを活用して研究機関等とのマッチングを推進
	★データカタログ整理・公開	情報を整理・カタログ化し、ウェブにて公開 ・ WACoで扱う調査・データの概要 ・ 評価事例集(プレスリリース・論文リスト) ・ 企業実施のプロジェクト・大学が実施する研究プロジェクト
3. 基準づくり	★WACo認証	WACoを促進する対象（サービス・プロジェクト）を評価・認定する仕組みを構築・運用
	★WACoアワード	WACoを促進する対象を表彰するイベント
4. 普及	HP運営	WACoサイトの情報掲載・削除、管理
	★情報コンテンツ発信	発信情報を整理しウェブ化、ML配信
	シンポジウム開催	普及・広報シンポジウムの開催
	見本市出展	普及・広報のためのイベント参加
	★パートナー制度	理念に賛同するパートナーを組織化

表 4-1：検討中のコンソーシアム実施内容(★新コンソーシアム体制での新しい試み)

また、令和 4 年秋に東京大学生産研究所跡地の一部分を千葉大学が取得した。現在、当該跡地を「西千葉 Well-being リサーチパーク（仮称）」として整備・活用する構想が進められている。この拠点整備にあたり、千葉大学の強みとして本プロジェクトでの研究活動・拠点整備が挙げられている。この構想は大学全体のキャンパス整備計画の一環として位置付けられており、大学内外、他分野との融合・連携も視野に入れながら well-being や産学連携、地域連携の拠点となるべく準備を行っている。

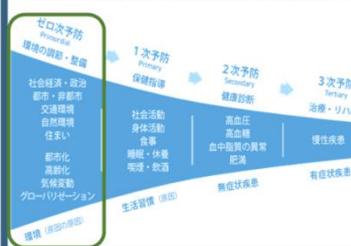
**背景・概要**

- ◆ 「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」において、特定の強い分野の拠点を核に大学の活動を拡張するモデルの学内への横展開、大学間の効果的な連携により、発展していくことが求められている。
- ◆ 令和4年秋に取得した東京大学生産技術研究所跡地(30,859㎡、西千葉キャンパスに隣接)を「**西千葉well-beingリサーチパーク(仮称)**」として整備・活用し、「地域中核・特色ある研究大学」として活動を強化。本学が強みを有する研究分野を中心として、企業との共同研究等の産学連携・地域連携やディープテック分野のスタートアップ創出等を加速。

**本学が強みを持つ拠点**

JST産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)2018年度採択事業(2020年度から本格実施フェーズ)  
**「ゼロ次予防戦略による Well Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装」**

本人が意識的に努力せず暮らしているだけで健康になれる「ゼロ次予防」に立脚し、環境を改善することで健康(Well)で活動的(Active)なコミュニティ(Community): WAcOを実現する健康まちづくりに向け、「WAcO共創コンソーシアム」を創設、共同研究等を推進



**WAcO共創コンソーシアム**



**西千葉well-beingリサーチパーク(仮称)**

- ◆ 地域中核・特色ある研究大学の施設整備事業により、パークの活動の中核として、共同研究やオープンイノベーション、スタートアップの創出・育成等に必要な施設を整備
- ◆ 民間企業等との共同研究やパークへの誘致の呼び水とする。

**学内・他大学連携による異分野融合**

**産学協働の加速・拡大**

**地域連携の深化・拡大**



Chiba University Aspirations 世界に冠たる千葉大学へ -Towards a world preeminent academic institution

図 4-2 : 西千葉 well-being リサーチパーク (仮称) 構想

○ 西千葉 well-being リサーチパーク構想とは

- ・ 地域連携・産学連携
- ・ スタートアップや実証実験
- ・ 研究の強化・活性化

に資する場所となるため、以下のコンセプトに基づき整備

○ イノベーション・コモンズ(共創の拠点)の実現を先導

西千葉キャンパス、なかでも地域連携・産学連携ゾーンは、学術・研究の場であるとともに、学術と産業と地域社会(住民)が緩やかにつながり、共創の拠点となることが期待されている。リサーチパークはその核となりイノベーション・コモンズの実現を先導する。

○ 公民学が連携する西千葉リビングラボを牽引する拠点を形成

「西千葉リビングラボ」とは、西千葉に集う学生・研究者・企業人・住民といった多様な人々がそれぞれの立場で社会課題を発見し、問題を解決するアイデアを考え実現するために、既存の枠を超えて連携し、西千葉フィールドに新しい価値やライフスタイル、サービスを生み出す連携的取り組みである。リサーチパークは「西千葉リビングラボ」のハブとなりその取組を牽引する。

○ まちに開かれたキャンパスを形成

キャンパスを貫く軸となる南北のアカデミックモールに加えて、東西のグリーンモールを整備し、西千葉キャンパスで展開される多様な研究領域を横断する交流づくりを促進する。リサーチパークを起点に、まちと駅前を隔てていたキャンパスを開き、西千葉エリアの学術・産業・地域社会(住民)が有機的に連携する場として再生する。整備を機に創出される、グリーンモールやキャンパスパーク等で形成されるグリーンサーキットが3つの主体を結び付け、駅とキャンパスとキャンパス隣地開発の一体的な空間を形成する。

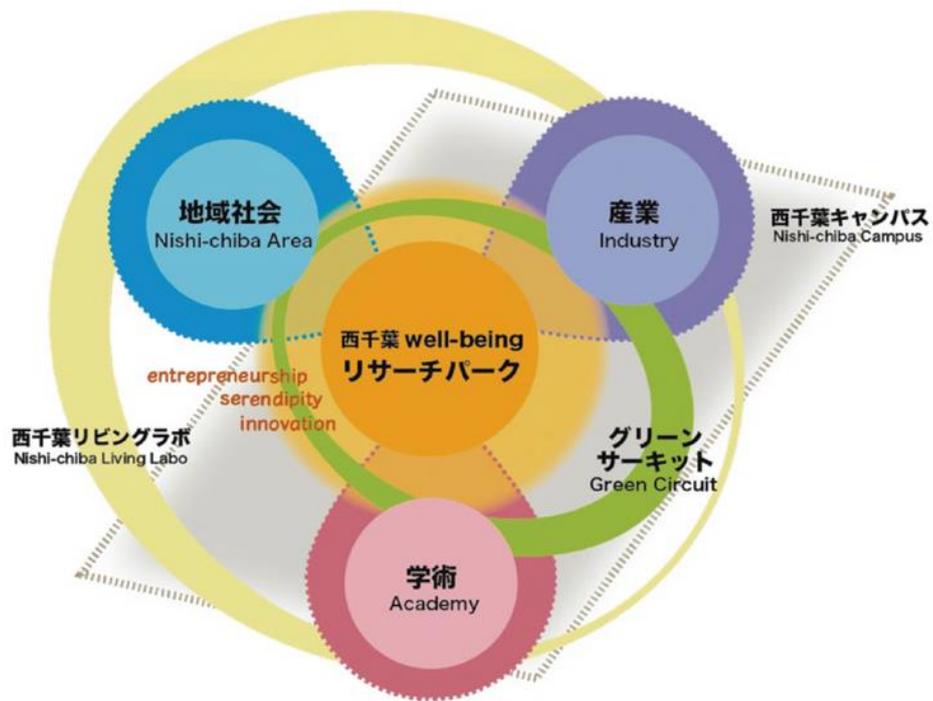


図 4-3 : リサーチパーク整備コンセプト図

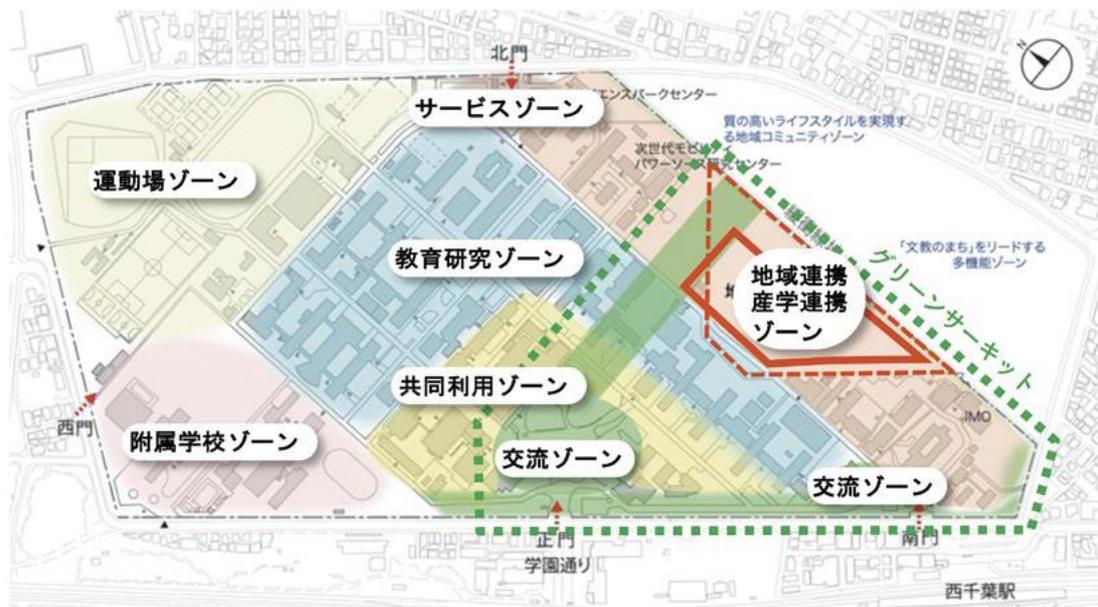


図 4-4 : 西千葉キャンパス将来ゾーニング

## 5 研究開発の状況

### ○研究開発費（委託研究費及び民間資金）の推移

[単位：千円]

		FS フェーズ		本格実施フェーズ			
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
委託研究費	調査推進費*	5,000	5,000	20,000	20,000	20,000	20,000
	研究開発費	25,000	27,700	140,390	150,000	150,000	150,000
民間資金	共同研究費等 (a)	57,788	70,350	140,390	164,632	152,791	167,072
	リソース提供計 (b)	8,000	6,000	0	0	0	0
	民間資金総額 (X)=(a)+(b)	65,788	76,350	140,390	164,632	152,791	167,072

\*調査推進費はマッチングファンドの対象外

・ 出産・育児・介護支援制度 利用期間：2020年7月～2021年3月 3,489千円、2021年4月～2022年3月 4,680千円、2022年4月～2023年3月 4,680千円、2023年4月～2024年3月 4,680千円

### ○研究開発課題一覧

- ① 研究開発課題1：健康コミュニティ・健康オフィスのデザイン手法の開発と実践  
千葉大学、(独)都市再生機構、船橋市、柏市、(株)竹中工務店、リソル総合研究所(株)、イオン(株)、(株)ジャパンヘルスケア  
(実施期間：2018年9月～2022年3月)
- ② 研究開発課題2：次世代に向けた健康住宅の開発  
千葉大学、国立台湾大学、柏市、積水ハウス(株)、(株)富士通ゼネラル研究所、サンスター技研(株)、(株)ダスキン  
(実施期間：2018年9月～2022年3月)
- ③ 研究開発課題3：地域コミュニティで展開されるウェルネスプログラムの開発とデザイン  
千葉大学、長柄町、リソル総合研究所(株)、(株)ミライノラボ  
(実施期間：2018年9月～2022年3月)
- ④ 研究開発課題4：身体・行動データの取得と活用による新事業創出のためのスキーム開発  
千葉大学、イオン(株)、イオンタウン(株)  
(実施期間：2018年9月～2022年3月)
- ⑤ 研究開発課題5：異種混合学習解析による高齢者の健康と地域環境の分析ツールの開発  
千葉大学、京都大学、国立長寿医療研究センター、松戸市、日本電気(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、トーテックアメニティ(株)、(株)NTTドコモ、ネスレ日本(株)、(株)グレイス(令和4年3月31日脱退)、アマタホールディングス(株)、三井不動産(株)、ヤマハ発動機(株)、野村不動産(株)  
(実施期間：2018年9月～2022年3月)

- ⑥ 研究開発課題 6 : 身体の内側から健康増進を図るプログラムの開発  
千葉大学、(株)山田養蜂場、お茶の水健康長寿クリニック(令和4年3月31日脱退)、  
(株)ニッポン、日本薬品(株)  
(実施期間:2018年9月~2022年3月)
- ⑦ 研究開発課題 7 : 健康コミュニティのデザイン手法の開発と実践(地域・社会領域)  
千葉大学、東京大学、(株)竹中工務店、リソル総合研究所(株)、(株)ミライノラボ、  
三井不動産(株)、野村不動産(株)、イオンモール(株)、(独)都市再生機構(令和5  
年3月脱退)  
(実施期間:2022年4月~2024年3月)
- ⑧ 研究開発課題 8 : 施設類型に応じた健康空間のハード・ソフト開発(施設領域)  
千葉大学、船橋市、柏市、(株)竹中工務店、リソル総合研究所(株)、三井不動産(株)、  
イオン(株)、イオンタウン(株)、イオンモール(株)、(株)ダスキン、(株)日建ハ  
ウジングシステム  
(実施期間:2022年4月~2024年3月)
- ⑨ 研究開発課題 9 : 次世代に向けた健康住宅の開発(住宅領域)  
千葉大学、積水ハウス(株)、(株)富士通ゼネラル研究所、サンスター技研(株)(令  
和5年3月脱退)、(株)ダスキン  
(実施期間:2022年4月~2024年3月)
- ⑩ 研究開発課題 10 : コミュニティに実装可能な食を中心とした健康増進プログラムの開発  
(食領域)  
千葉大学、国立台湾大学、(株)山田養蜂場、(株)ニッポン、日本薬品(株)  
(実施期間:2022年4月~2024年3月)
- ⑪ 研究開発課題 11 : 健康コミュニティの評価システムの構築(地域・社会領域)  
千葉大学、京都大学、日本福祉大学、国立長寿医療研究センター、三井不動産(株)、  
野村不動産(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、ネスレ日本(株)、アマタホー  
ルディングス(株)、ヤマハ発動機(株)、トーテックアメニティ(株)、(株)NTTドコ  
モ、日本電気(株)、岩瀬薬品(株)、リアルワールドゲームス(株)、エーテンラボ(株)  
(実施期間:2022年4月~2024年3月)

## 5.1 研究開発課題1「健康コミュニティ・健康オフィスのデザイン手法 の開発と実践」

(再編のため2021年度終了)

キーテクノロジー	エビデンスベースドな空間デザイン・設計手法
課題代表者	花里 真道 千葉大学 予防医学センター 准教授
実施期間	平成30年9月～令和4年3月
共同研究機関	千葉大学、(独)都市再生機構、船橋市、柏市、(株)竹中工務店、リソル総合研究所(株)、イオン(株)、(株)ジャパンヘルスケア

### 5.1.1 マイルストーンと達成状況

課題番号	MS番号	マイルストーン内容	達成状況
1-1		課題7-1に再編	再編先に記載
1-2		課題8-1に再編	再編先に記載
1-3		課題7-1に再編	再編先に記載

### 5.1.2 最終目標に対する成果の詳細

課題再編のため、再編後の課題の該当箇所に記載。

課題1-1, 課題1-3 → 5.7.2 課題7の最終目標に対する成果の詳細に記載

課題1-2 → 5.8.2 課題8の最終目標に対する成果の詳細に記載

### 5.1.3 プロジェクト終了後の活動方針

課題再編のため記載省略

### 5.1.4 その他

課題再編のため記載省略

## 5.2 研究開発課題2「次世代に向けた健康住宅の開発（健康維持・増進を 目指した室内環境の創造）」

(再編のため2021年度終了)

キーテクノロジー	次世代に向けた健康住宅の開発（健康維持・増進を目指した室内環境の創造）
課題代表者	鈴木 規道 千葉大学 予防医学センター 特任准教授
実施期間	平成30年9月～令和4年3月
共同研究機関	千葉大学、国立台湾大学、国立長寿医療研究センター、積水ハウス（株）、 （株）富士通ゼネラル研究所、サンスター技研（株）、（株）ダスキン

### 5.2.1 マイルストーンと達成状況

課題 番号	MS 番号	マイルストーン内容	達成状況
2-1		課題9-1に再編	再編先に記載
2-2		課題9-2に再編	再編先に記載
2-3		課題9-3に再編	再編先に記載
2-4		課題9-4に再編	再編先に記載

### 5.2.2 最終目標に対する成果の詳細

課題再編のため、再編後の課題の該当箇所に記載。

課題2-1, 課題2-2, 課題2-3, 課題2-4 → 5.9.2 課題9の最終目標に対する成果の詳細に記載

### 5.2.3 プロジェクト終了後の活動方針

課題再編のため記載省略

### 5.2.4 その他

課題再編のため記載省略

### 5.3 研究開発課題3 「地域コミュニティで展開されるウェルネスプログラムの開発とデザイン」

(再編のため2021年度終了)

キーテクノロジー	地域・空間運動型ウェルネスプログラム
課題代表者	上野 武 千葉大学 運営基盤機構 特任教授
実施期間	平成30年9月～令和4年3月
共同研究機関	千葉大学、長柄町、リソル総合研究所(株)、(株)ミライノラボ

#### 5.3.1 マイルストーンと達成状況

課題番号	MS番号	マイルストーン内容	達成状況
3-1		課題7-2に再編	再編先に記載
3-2		課題7-2に再編	再編先に記載
3-2		課題7-2に再編	再編先に記載

#### 5.3.2 最終目標に対する成果の詳細

課題再編のため、再編後の課題の該当箇所に記載。

課題3-2, → 5.7.2 課題7の最終目標に対する成果の詳細に記載

#### 5.3.3 プロジェクト終了後の活動方針

課題再編のため記載省略

#### 5.3.4 その他

課題再編のため記載省略

## 5.4 研究開発課題4「身体・行動データの取得と活用による新事業創出のためのスキーム開発」

(再編のため2021年度終了)

キーテクノロジー	地域・空間連動型ウェルネスプログラム
課題代表者	花里 真道 千葉大学 予防医学センター 准教授
実施期間	平成30年9月～令和4年3月
共同研究機関	千葉大学、イオン(株)、イオンタウン(株)、イオンモール(株)

### 5.4.1 マイルストーンと達成状況

課題番号	MS番号	マイルストーン内容	達成状況
4-1		課題8-2に再編	再編先に記載
4-2		課題8-2に再編	再編先に記載
4-3		課題8-2に再編	再編先に記載

### 5.4.2 最終目標に対する成果の詳細

課題再編のため、再編後の課題の該当箇所に記載。

課題4-1, 課題4-2, 課題4-3, 課題4-4, → 5.8.2 課題8の最終目標に対する成果の詳細に記載

### 5.4.3 プロジェクト終了後の活動方針

課題再編のため記載省略

### 5.4.4 その他

課題再編のため記載省略

## 5.5 研究開発課題5「異種混合学習解析による高齢者の健康と地域環境 の分析ツールの開発」

(再編のため2021年度終了)

キーテクノロジー	地域環境・空間デザイン評価シミュレータの開発
課題代表者	近藤 克則 千葉大学 予防医学センター 教授
実施期間	平成30年9月～令和4年3月
共同研究機関	千葉大学、松戸市、日本電気(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、トーテックアメニティ(株)、(株)NTTドコモ、ネスレ日本(株)、(株)グレイス(令和4年3月31日脱退)、アマタホールディングス(株)、三井不動産(株)、ヤマハ発動機(株)、野村不動産(株)

### 5.5.1 マイルストーンと達成状況

課題番号	MS番号	マイルストーン内容	達成状況
5-1		課題11-2に再編	再編先に記載
5-2		課題11-3に再編	再編先に記載
5-3		課題11-3に再編	再編先に記載

### 5.5.2 最終目標に対する成果の詳細

課題再編のため、再編後の課題の該当箇所に記載。

課題5-1, 課題5-2, 課題5-3 → 5.11.2 課題11の最終目標に対する成果の詳細に記載

### 5.5.3 プロジェクト終了後の活動方針

課題再編のため記載省略

### 5.5.4 その他

課題再編のため記載省略

## 5.6 研究開発課題6「身体の内側から健康増進を図るプログラムの開発」

(再編のため2021年度終了)

キーテクノロジー	地域・空間連動型ウェルネスプログラム
課題代表者	戸高 恵美子 千葉大学 予防医学センター 教授
実施期間	令和2年4月～令和4年3月
共同研究機関	千葉大学、(株)山田養蜂場、お茶の水健康長寿クリニック(令和4年3月31日脱退)、(株)ニッポン、日本薬品(株)

### 5.6.1 マイルストーンと達成状況

課題番号	MS番号	マイルストーン内容	達成状況
6-1		課題10-1に再編	再編先に記載
6-2		課題10-2に再編	再編先に記載
6-3		課題10-3に再編	再編先に記載

### 5.6.2 最終目標に対する成果の詳細

課題再編のため、再編後の課題の該当箇所に記載。

課題6-1, 課題6-2, 課題6-3, → 5.10.2 課題10の最終目標に対する成果の詳細に記載

### 5.6.3 プロジェクト終了後の活動方針

課題再編のため記載省略

### 5.6.4 その他

課題再編のため記載省略

## 5.7 研究開発課題7「健康コミュニティのデザイン手法の開発と実践」

キーテクノロジー	ゼロ次予防デザイン・実装技術、ゼロ次予防データプラットフォーム
課題代表者	花里 真道 千葉大学 予防医学センター 准教授
実施期間	令和4年4月～令和6年3月
共同研究機関	千葉大学、東京大学、(株)竹中工務店、リソル総合研究所(株)、(株)ミライノラボ、三井不動産(株)、野村不動産(株)、イオンモール(株)、(独)都市再生機構(令和5年3月脱退)

### 5.7.1 マイルストーンと達成状況

課題番号	MS番号	マイルストーン内容	達成状況
課題7-1 (旧課題1-1)	MS 7-1-1	国内外のエビデンスや関連する指標をレビューし、ゼロ次予防に資するエビデンスデータベースを構築する。	国内外のエビデンスや関連する指標をレビューし、ゼロ次予防に資するエビデンスデータベースを構築した。
	MS 7-1-2	デザインツールのUI(ユーザーインターフェース)デザインおよびデザインツールのエビデンスを継続的に拡充・更新するための仕組みを構築する。	デザインツールのUI(ユーザーインターフェース)デザインおよびデザインツールのエビデンスを継続的に拡充・更新するための仕組みを構築した。
	MS 7-1-3	健康コミュニティの社会実装を進める。民間企業の施設計画で健康コミュニティの視点に基づく計画整理を実施する。	健康コミュニティの社会実装を進めた。民間企業の施設計画で健康コミュニティの視点に基づく計画整理を実施した。
課題7-2 (旧課題3-1, 3-2, 3-3)	MS 7-2-1	ウォーキングトラックの開発と実装、屋外施設および施設外構の設計、オフグリッドキャビンの開発を進める。リソルウェルネスプログラム、ワーケーションプログラムを開発する。	ウォーキングトラックの開発と実装、屋外施設および施設外構の設計、オフグリッドキャビンの開発を進めた。リソルウェルネスプログラム、ワーケーションプログラムを開発した。
課題7-3 (2021年以降)	MS 7-3-1	WACoアプリを開発し、基本動作・デザイン・検証する。	WACoアプリを開発し、基本動作・デザイン・検証した。
	MS7-3-2	WACoアプリを用いた調査を実施し、改善点を抽出する。	WACoアプリを用いた調査を実施し、改善点を抽出した。
	MS7-3-3	抽出した改善点を改良し、さらにWACoアプリを用いた調査を実施する。	抽出した改善点を改良し、さらにWACoアプリを用いた調査を実施した。

## 5.7.2 最終目標に対する成果の詳細

(課題 7-1)

### 健康コミュニティの空間デザインツール開発

#### 背景と目的

健康まちづくりの空間デザイン時に、どのような要素をどのように計画すべきか、エビデンスに基づいた指針が存在しない現状があった。そこで、指針に基づく健康まちづくりの推進により、ゼロ次予防による空間づくりが推進すること、また、参画企業が企画する空間デザイン商品の差別化を図れることを目的とし、空間デザインツールを開発する。また、そのツールを用いた健康まちづくりの実施を目指す。

#### 成 果

##### (1) デザインツールの開発

MS1-1 (MS7-1-1) : 健康コミュニティ・健康建築の実現をめざした空間デザイン要素を抽出した。国内外のエビデンスや関連する指標をレビューした。

MS1-2 : 健康コミュニティ・健康建築の実現をめざしたデザインツールを開発した。項目数は交流の視点で 16 項目、身体活動の視点で 17 項目、感性の項目で 6 項目とした。

MS7-1-2 : デザインツールの UI (ユーザーインターフェース) デザインおよびデザインツールのエビデンスを継続的に拡充・更新するための仕組みを構築した。

##### (2) 健康コミュニティの社会実装

MS7-1-3 : 健康コミュニティの社会実装を推進した。民間企業の施設計画にデザインツールを活用し、健康コミュニティの視点に基づく計画整理を実施し、一部施設については完成した。

以降、成果の詳細は WACo プロジェクトレポートより転載

※WACo -Well Active Community プロジェクトレポートは、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA) 「ゼロ次予防戦略による Well Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装」2018-2024 の研究成果を元に令和 6 年 3 月 26 日発行され、HP 上で公開されている。

テーマ

# 4

## 健康コミュニティのデザイン手法の開発と実践

健康まちづくりの空間デザイン時に、どのような要素をどのように計画すべきか、エビデンスに基づいた指針が存在しない現状があった。そこで、指針に基づく健康まちづくりの推進により、ゼロ次予防による空間づくりが推進すること、また、参画企業が企画する空間デザイン商品の差別化を図れることを目的とし、空間デザインツールを開発する。また、そのツールを用いた健康まちづくりの実施を目指した。

キーワード

コミュニティ/デザインツール開発/空間デザイン

関連企業

株式会社竹中工務店

国内外の研究や知見に基づき、健康なまちづくりを促すコミュニティデザインの要点を整理し、エビデンスに基づいたデザイン・設計支援ツールとして「健康コミュニティデザインツール」を開発しました。デザインツールでは、どのような空間デザインやその要素が、どのような経路を介して健康

につながるのかを整理しウェブデータベースによりインタラクティブに閲覧できるよう工夫しました。このツールは、民間のまちづくり計画やオフィスビルの計画に活用し、社会実装を実現しました。

**健康コンセプトイン  
グツール まちづくり  
版**

一覧

- 計画の対象
- 健康アウトカム
- 交流・身体活動・感性
- 参考事例
- 詳細コミュニケーション
- 事例投稿フォーム
- 実装事例

掲載されている写真や図の社外利用は禁止です。詳細は対話コミュニケーションにてお問合せください。

健康なまちをつくる

**健康**

文庫登録情報検索

### 公園利用の促進

- 公園や緑地の多い地域に居住する高齢者ほど、余暇的なスポーツ活動の頻度が高い傾向が示されている<sup>3</sup>。地域に開かれたこどもの遊び場が、児の母親のメンタルヘルスによい影響を与える可能性がある<sup>6</sup>。グリーンスペースを活用した空間デザインが望まれる。
- 可能な限り多くの住民が、公園を食むオープンスペースを利用しやすいよう、それらの配置は最適化する必要がある。
- 公園には、ジョギングのできるトラック、スポーツのできる運動場、敷設できる遊歩道などを設けることが望まれる。スポーツができる公園では、人はより積極的に身体活動を行う<sup>2</sup>。
- 公園には、こどもたちのプレイエリアを計画することが求められます。プレイエリアによって、子どものより活発な活動が促される<sup>4</sup>。

計画の対象	アプローチ	ソリューション
オープンスペース	配置計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園の適切な配置計画</li> <li>公園への出入口の数を十分に確保すること</li> <li>公園が道路からアクセスしやすい(開放的であること、道路との空間的な連続性に配慮していることなど)こと</li> <li>周辺建物の公園に対する開放性を高める</li> </ul>
プログラム	運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>手入れの行き届いた植栽計画(公園の見通しを確保する)</li> <li>公園内設備の維持管理が適切に行われていること</li> </ul>

### 文献リスト

手法に対応するエビデンスの一覧です。クリックすると詳細ページに遷移します。

1. **子どもと健康**：遊び場が近いと肥満児になりにくい  
Potwarka, L. R., Kaczynski, A. T., & Flack, A. L. (2008). Places to play: association of park space and facilities with healthy weight status among children. *Journal of community health*, 33(5), 344-350.
2. **公園と健康**：機能が多い公園では身体活動利用が高まる  
Kaczynski, A. T., Potwarka, L. R., & Saelens, B. E. (2008). Association of park size, distance, and features with physical activity in neighborhood parks. *American journal of public health*, 98(6), 1451-1458.
3. **公園や緑地とスポーツ活動**：公園や緑地の多い地域に住む高齢者はスポーツ活動の頻度が高まる  
Hanibuchi, T., Kawachi, I., Nakaya, T., Hirai, H., & Kondo, K. (2010). Neighborhood built environment and physical activity of Japanese older adults: results from the Aichi Gerontological Evaluation Study (AGES). *BMC public health*, 11(1), 657.
4. **公園・遊び場と健康**：公園に遊び場やスポーツできる場があると来訪者の活動量は高まる  
Shores KA, West ST. The relationship between built park environments and physical activity in four park locations. *J Public Health Manag Fract*. 2008 May-Jun;14(3):e9-16.
5. **緑道と身体活動**：緑道は身体活動を高める  
Dallat, M. A. T., Soerjomataram, I., Hunter, R. F., Tuily, M. A., Cairns, K. J., & Kee, F. (2013). Urban greenways have the potential to increase physical activity levels cost-effectively. *The European Journal of Public Health*, 24(2), 190-195.
6. **近隣環境と産後うつ**：遊び場が多い地域に住んでいる母親は産後うつになりにくい  
Miura, R., Tanj, Y., Fujiwara, T., Kawachi, I., Hanazato, M., & Kim, Y. (2020). Multilevel analysis of the impact of neighborhood environment on postpartum depressive symptoms. *Journal of affective disorders*, 263, 563-597.



健康コミュニティデザインのツール開発



デザインツールが活用されたオフィスビル



オフィスビル内に設置された健康プログラム



階段を利用した身体活動を高める仕掛け



デザインツールが活用されたまちづくり（大阪府吹田市）

キーワード

コミュニティ/団地/健康プログラム開発

関連企業

松戸市/UR都市機構

常盤平団地は、1960年に入居が開始した、日本住宅公団（現在のUR都市機構）が初期に建設した約5,000戸の団地です。松戸市の高齢化率26.2%に比べ、常盤平団地では高齢化率51.8%（2023年）と高く、高齢化が進む地域です。環境的には、建設当時に植樹された街路樹は60年を超える歳月で大きく成長し、緑豊かな地域といえます。こうした中、誰もが気軽に地域の豊かな緑を実感できる魅力ある場の創出を目的として、松戸市、UR都市機構、千葉大学予防医学センターの3者で、健康プログラム「TOKIWALK～常盤平の森を歩こう」を設置、運営しています。

TOKIWALKは地域内の7箇所のチェックポイントを歩いてめぐる健康プログラムです。最終的には、22のチェックポイントの設置を予定しています。チェックポイントの一つには、歩幅を計測して健康への気づきを得られるチェックポイント（歩幅計測プログラム）もあります。このプログラムは、スマートフォンアプリのLINEにて「WELLNESS TRACK」というアカウントを友達追加することでどなたでも利用できます。チェックポイントで、現地サインのQRコードをカメラアプリで読み取ることでチェックイン情報が記録され、利用状況

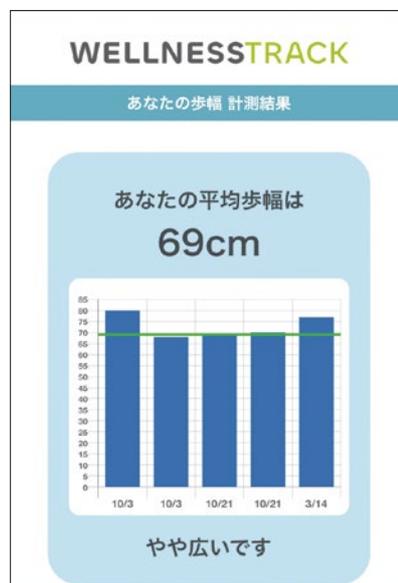
に応じて達成度の表示や健康コラムの取得などのフィードバックが得られます。さらに、LINEのトーク画面で、地域のイベント情報や健康情報を定期的に配信しています。

本プログラムは利用状況がデータとして残る仕組みとなっています。そのデータによると、2023年3月に設置し、10月までの約半年間で、登録ユーザーは約120人、ユーザーの平均年齢は49歳（65歳以上は19%）、7箇所あるチェックポイントの総チェックイン回数は1,175回でした。チェックインが100回を超えるユーザーも3名（平均年齢78歳）いらっしゃいました。利用状況の適切な評価には、他のフィールドとの比較等が必要だと考えられますが、チェックイン数の多い利用者がいることから、プログラムを日常生活の一部に組み込んでいらっしゃる方もいる、と評価できそうです。

これまでに、体験会や地域のお祭りイベントでのご紹介、地元中学生や地域住民、地域の健康推進員に参加いただいた利活用ワークショップなどを実施しています。地域住民へのアンケート調査等による評価も予定されています。利活用とさらなる展開について継続的に検討を進めています。



TOKIWALKの歩幅計測プログラム



利活用ワークショップの案内



TOKIWALK のチェックポイントのマップ

## 23

## WALK &amp; HEALTH KASHIWA-NO-HA

千葉県柏市柏の葉キャンパス地域におけるウォーカブルアートサイン

キーワード

コミュニティ/健康サイン開発/空間デザイン

関連企業

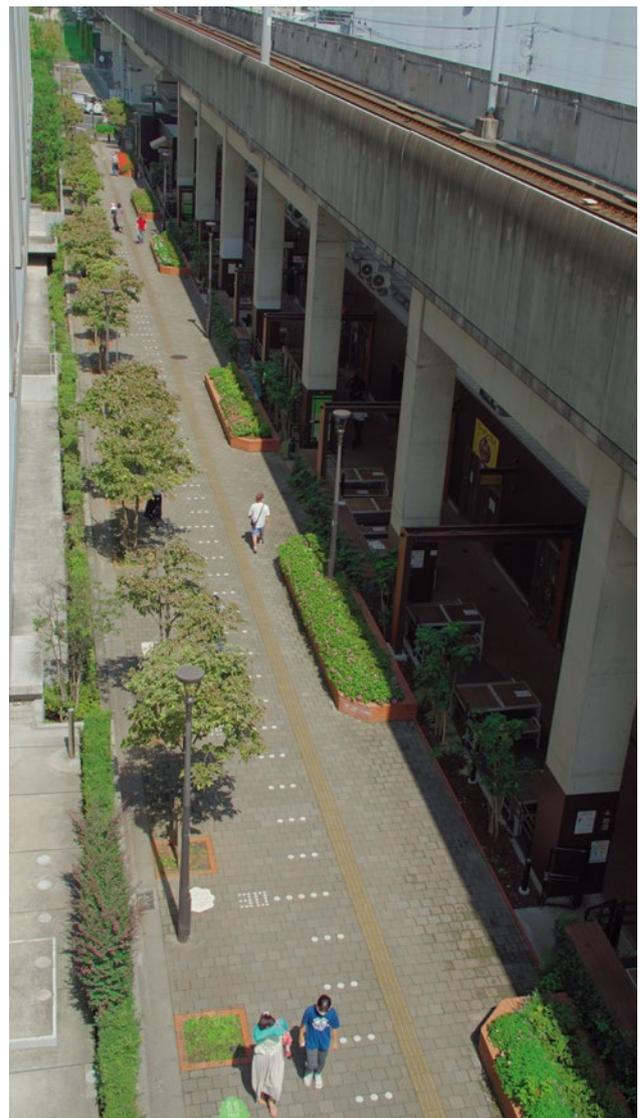
アーバンデザインセンター柏の葉

千葉県柏市柏の葉地域では、柏の葉アーバンデザインセンター、柏市、千葉県、三井不動産、東京大学、千葉大学などによる、公民学連携のまちづくりが推進されています。筆者らは、歩きやすいまちづくりを推進するための活動で「ウォーカブルデザインガイドライン」を2018年に策定しました。ウォーカビリティ向上の要点の解説と、具体のケーススタディを掲載している。同地域のまちづくりに関わる多様な主体が、歩きやすいまちづくりを実現すべき価値として共有する機能を期待しました。

このガイドラインを基点として、つくばエクスプレス線柏の葉キャンパス駅と近隣の歩行者専用道路に、楽しみながら歩行できる仕掛けや健康への気づきを得られる仕掛けを企図するアートサインを設置しました。サインは、白い円の組み合わせで1m間隔のものさしを表現する距離表示サインと柏の葉をモチーフとした健康への気づきサインで構成しています。距離表示サインでは、知らず知らずのうちに歩幅が広がる仕掛けでもあり、健康への気づきサインでは、地域環境や行動と健康に関する情報を掲示しました。



TOKIWALKの歩幅計測プログラム



高架下脇に設置された全長130mのアートサイン

# 24

## いなべ Step+10cm

三重県いなべ市庁舎エントランスにおける健康プログラムデザイン

キーワード

コミュニティ/健康プログラム開発/空間デザイン

関連企業・機関

株式会社竹中工務店/いなべ市

三重県いなべ市の市庁舎エントランスに、健康への気づきを得る空間デザインプログラム「いなべ Step+10cm」を設置しました。このプロジェクトでは、はじめに年代と身長から平均的な歩幅を知り、その歩幅を歩きます。その後、歩幅を10cm大きくした、おまた歩きを体験し、歩幅に関する気づきを得る健康プログラムとなっています。カラーは目に留まる鮮やかな色彩とし、配置はエントランスの大屋根の架

構に沿う、弓なりのレイアウトとし、存在感を高めながらも周囲と調和するデザインをめざしました。レーンを示すグラフィックには、いなべ市のもつ豊かな自然資源と社会・文化資源を活用しています。

本提案は、いなべ市、地域社会活性化支援機構、竹中工務店との共同プロジェクトです。



いなべ Step+10cm



歩幅計測の様



解説シート

# 25

## 地域環境の評価指標

都市・社会構造の可視化による地域環境の評価指標の開発と健康の分析

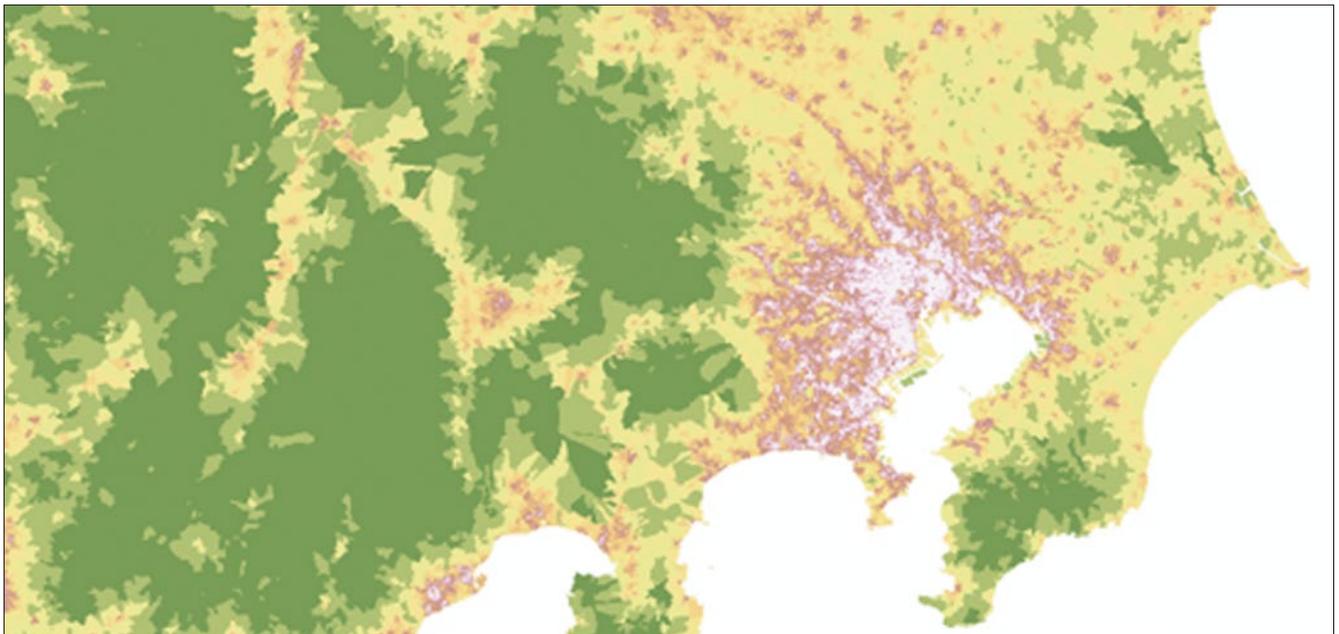
キーワード

地域環境評価指標開発／疫学研究／可視化

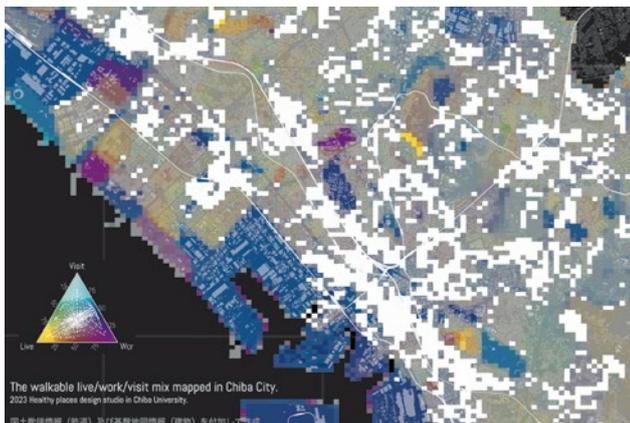
地域環境と健康の関連を示す研究報告が増えています。本プロジェクトでは、日本全国の地域環境の評価指標を、都市・社会構造の可視化により構築してきました。これまでに、地域の都市化の程度を示す人口密度を評価するデンシティインデックス、地域の歩きやすさを示すウォークアビリティインデックス、地域の緑化の程度を示すグリーンネスインデックス、地域の食料品アクセスを評価するフードアクセスインデックス、

地域の気象状況を評価するウェザーインデックス、地域の社会経済状況を評価するエデュケーションアルインデックスなどを構築し、研究や地域評価に活用しています。

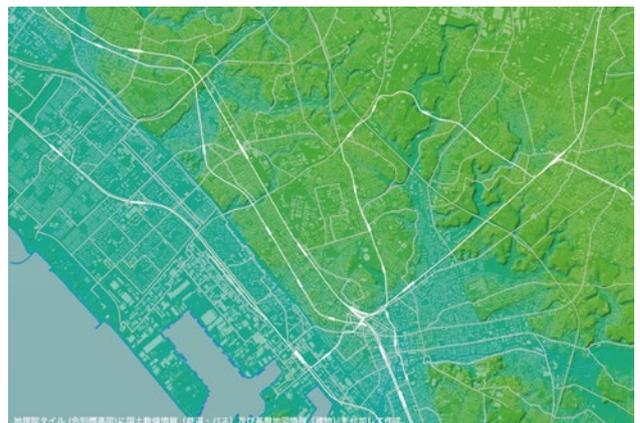
これらの指標は、ArcGISやQGISといったGIS (Geographic Information System)ソフトウェアで開発しています。また、補完的にPythonやRなども活用して可視化技術を向上させてきました。



ウォークアビリティインデックスマップ



地理状況分析マップ



ウォークアビリティ分析マップ

# 26

## 地域カルテ

健康状態や社会参加状況・活動状況の可視化による行政施策検討プロセスの研究

キーワード

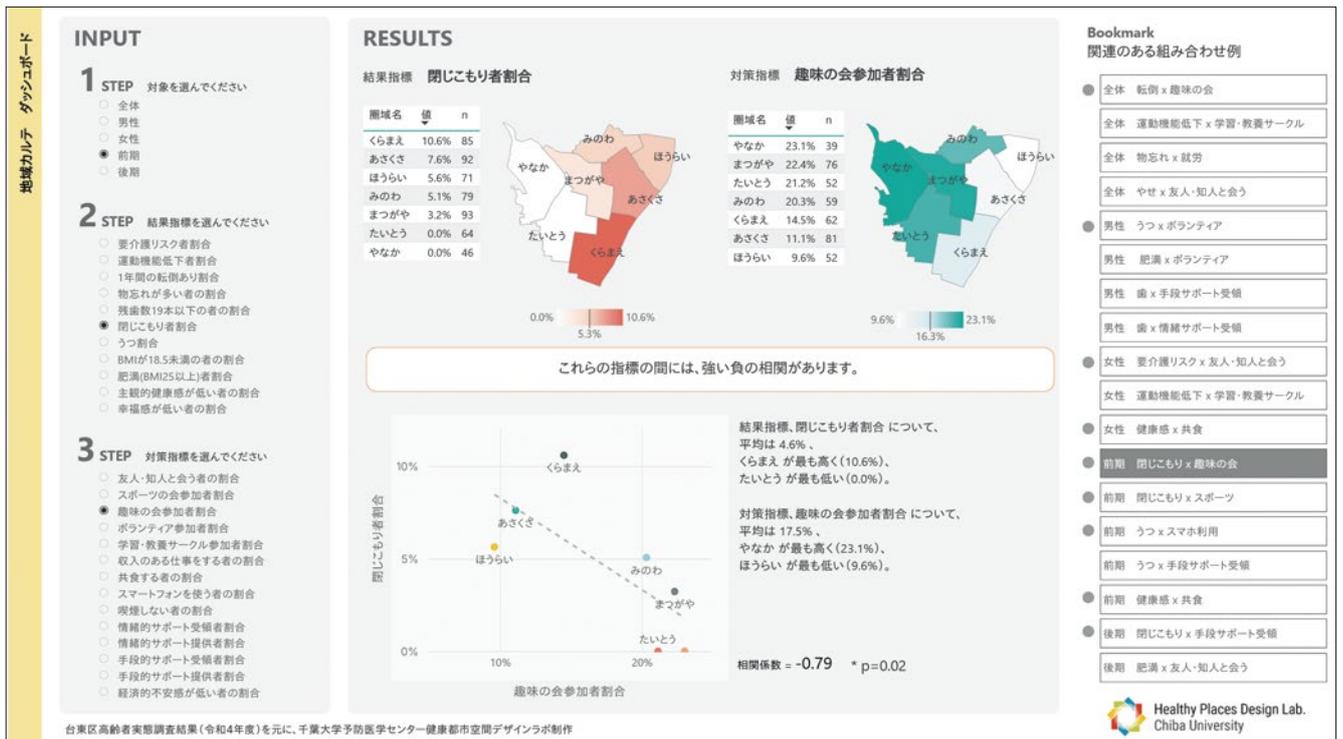
地域診断／疫学研究／可視化

関連機関

墨田区

本研究では、共同研究先である自治体より医療・介護データの提供を受け、住民の健康状態や社会参加状況・活動状況を可視化による行政施策検討プロセスの研究「地域カルテ」研究を進めています。図は、サンプルとしてオープンデータとして公開されている台東区のデータを元にツールの実行画面を示したものです。評価対象を、全体、男性、女性、前期高齢者、後期高齢者から選択します。次に、結果指標、対策指標をそれぞれ選ぶと、その結果が地図上に可視化さ

れ、かつそれらの指標の関連が下部の散布図で表現されます。対策指標と結果指標との間に関連が生じる可能性を検討することができます。右側には、予め関連のみられた項目についてプリセットとなるブックマークがあり、膨大な組み合わせの中から、早期に関連のある組み合わせを探ることができます。実際にこのツールを用いて、自治体の健康・福祉・介護セクションとワークショップを実施しました。



地域カルテ（オープンデータを活用した台東区版）



ワークショップ写真

(課題 7-2)

## 「歩きたくなるまち」のデザイン技術開発

### 背景と目的

健康コミュニティの推進にあたり ICT 活用に一定の有効性が期待されている。そこで、エビデンス構築に資するデータを収集すること、および空間デザイン指針の継続的な更新、進化の仕掛けとしてのアプリを開発した。

### 成 果

(1)ハード：屋外施設、施設外構、ウォーキングトラックを実装した。オフグリッドキャビンは 2022 年 11 月にプロトタイプが完成した。

(2)ソフト：ウェルネスエイジプログラムを開発し実装、グループで行う運動プログラムは、一人でおこなうプログラムに比べ、利用高齢者の運動習慣定着に有効という検証結果が得られた。ワーケーションプログラム(ハーブガーデンセラピーを取り入れた宿泊プラン)は 2022 年 10 月から販売を開始し実装した。

以降、成果の詳細は WACo プロジェクトレポートより転載

※WACo -Well Active Community プロジェクトレポートは、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)「ゼロ次予防戦略による Well Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装」2018-2024 の研究成果を元に令和 6 年 3 月 26 日発行され、HP 上で公開されている。

キーワード

CCRC/健康寿命延伸プログラム/ウェルネストラック/Sport in Life

関連企業・機関

リソルホールディングス株式会社/リソルの森株式会社/リソル総合研究所株式会社/  
株式会社ミライノラボ/千葉県長生郡長柄町

千葉県長生郡長柄町は、房総半島のほぼ中央部に位置する面積 47.11km<sup>2</sup>、人口 6,328 人の町です。町では、人口減少・少子高齢化に伴うさまざまな地域課題を抱えています。そこで 2015 年から、千葉大学コミュニティ・イノベーションオフィスが中心となり、町内にある総合健康リゾート「Sport & Do Resort リソルの森」を運営するリソルホールディングス（以下、リソルの森）とともに、「長柄町版大学連携型生涯活躍のまち（以下、長柄町版 CCRC）」を推進しています。

CCRCとは Continuing Care Retirement Community の略で、アメリカ発祥の継続的な医療・介護サービスが受けられるシニア向けコミュニティです。日本では、「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）」として、都会の元気な高齢者が地方やまちなかに移住し、必要に応じて医療や介護が受けられ、健康でアクティブに暮らせるまちづくりをめざすものとして知られています。

長柄町版 CCRC は、リソルの森、長柄町、千葉大学の産官学連携によって、「暮らしているだけで、健康になるまちづくり」をテーマとして、エビデンスに基づいた空間デザイン、プログラム開発、健康・スポーツの取組を展開してきました。2022 年度には、これまでの成果が認められ、スポーツを活用した地方創生を表彰するスポーツ庁「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰（スポまち！長官表彰）」を受賞しました。

### グランヴォー スパ ヴィレッジ

グランヴォー スパ ヴィレッジは、2020 年にオープンした、リソルの森の新しい体験型宿泊エリアです。デザインにおいて、園芸療法プログラムのエビデンスを豊富に取り入れることで、来訪者が科学的情報を学ぶことも楽しみのひとつとなるよう、広場や庭、遠路、家具をデザインしました（三谷徹, 2021）。

### 健康寿命延伸プログラム

千葉大学予防医学センターの近藤克則教授の監修のもと、社会参加を取り入れた「健康寿命延伸プログラム」を共同開発し、スポーツクラブの会員向けに商品化して実装しました。その結果、高齢者にグループでの運動への参加を促すことで、運動継続者が増加するなどの効果が報告されました（河口謙二郎他, 2022）。

### ウェルネストラック

2020 年 3 月に完成した「ウェルネストラック」は、リソルの森の敷地内を周回するルートを選定し、10 か所にサインを設置しました。サインには、健康や自然環境に関する情報が掲示され、アプリと連動した情報の取捨選択によって、情報伝達をデザインし、利用する人たちの健康や自然環境に対する気付きを促す工夫をしています。サイン盤には、次のサインまでの距離（m）、歩数（歩）、時間（min）、勾配（%）、消費カロリー（Kcal）のほか、運動強度の指標としてメッツ（Mets）、自然環境の指標として植生指数（NDVI）を表示しています（田島他, 2021）。

### Sport in Life

長柄町が 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウンとなったことを契機として、千葉大学と連携した小中学生向けのスポーツの普及や健康増進にも取り組んできました。千葉大学の学生によるオリンピック競技体験（フェンシング）やパラスポーツ競技体験（ボッチャ）のほか、青山剛プロコーチによるスポーツ・健康セミナーを全小中学校で開催しました。また、トライアスロン日本代表の上田藍選手と岸本新菜選手のトークショーを配信しました。



リソルの森の全景



グランヴォー スパ ヴィレッジ



エビデンスの掲示



ウェルネストラック



Sport in Life 事業

キーワード

オフグリッド可搬空間/MOA/システム思考

関連企業・機関

株式会社ミライノラボ/千葉県長生郡長柄町

オフグリッド可搬空間(MOA: Mobile Off-grid Architecture)とは、自然エネルギー利用と蓄電池によってエネルギーを自給自足する移動空間です。MOAは、エネルギー自立によって、インフラの整っていない過疎地で地域の交流や健康づくりの拠点として生かせるだけでなく、災害時は応急のエネルギーインフラや地域の低炭素化に貢献します。

2022年に開発し、2023年から実証実験を始めた「エコキャビン(EcoCabin)」は、従来の居住性に重点を置いた重量・大型のMOAに対し、移動先での利用に重点を置いた軽量・小型のMOAプロトタイプです。多用途に利用できる開かれた空間は、地域のさまざまなニーズに対応します。丸みを帯びたフォルムは、地域のランドスケープに適応します。ツーバイフォー規格材と鉄骨部材を組み合わせ、軽量で、廉価で、組み立てやすい構造としています。普通免許でけん引可能な軽量化された構造体となっています(特許申請中)。

2022年からおこなってきた実験では、薄型・軽量の太陽電池シートの性能や、可搬性を活かした発電効率の向上をテストしました。エコキャビンでは、垂直面(90度)と水平面(0度)の二系統に充電コントローラー(MPPT)を設置し、発電の最

適化をおこなっています。実験では、夏至と冬至に、早朝から真昼は日の出方向から真南に向けて垂直面を向け、真昼から夕方にかけては真南から日没方向へ垂直面を向け、発電量を計測しました。その結果、シミュレーションの期待通りに発電量が最大化されました(Nasu and Tajima, 2023)。

また、2023年には、エコキャビンのインフィル(内装)を一新し、「オヒサマコーヒー」と題したカフェ仕様に入れ替えて、不定期の地域イベントを実施しました。来訪者との対話を通じて、システム思考の因果ループ図(Casual Loop Diagrams)を用いた地域課題解決の分析をおこない、MOAが未利用地の活用や関係人口創出に役立つ可能性が示唆されました(Tajima, 2023)。今後、EcoCabinの実用化に向けた課題として、オフグリッドの機能性の向上、IoTの活用、可搬性の向上、地域ニーズの把握があります。

2030年に世界では6億人以上の人々が非電化地域に居住するといわれており、MOAはそのほとんどを占めるサブサハラ・アフリカ地域のインフラ支援にも役立ちます。また、有人惑星探査の分野にもオフグリッド技術は深く関わっており、今後の市場拡大が期待されます。



EcoCabin



長柄農林商工まつりへの出展 (千葉県長柄町)



オヒサマコーヒー



搭載された太陽光発電シート

(課題 7-3)

### WACo アプリ開発

#### 背景と目的

健康コミュニティの推進にあたり ICT 活用に一定の有効性が期待されている。そこで、エビデンス構築に資するデータを収集すること、および空間デザイン指針の継続的な更新、進化の仕掛けとしてのアプリを開発した。

プロジェクトの過程で、各研究課題や、機関との連携が期待された。そこで、多岐にわたる疫学調査や、先行事例をブラウザでき、新たな研究開発や事業への展開に繋げることができる WACo づくりを推進する WACo データカタログを開発した。

#### 成 果

アプリを通じての生体計測データの収集に加え、アンケート機能および研究参加への承諾機能を追加したアプリを開発した。LINE ビジネスアカウント機能を活用し、LINE システムと、必要に応じて連携するアプリケーションの組み合わせ、調査アンケート用 Website など、複数サービスを連携したプログラムとした。

各課題で扱ってきたデータプラットフォームの整備とともに、各データの概要や特徴をブラウザできる WACo データカタログ及び、評価事例集(プレスリリース・論文リスト)を開発した。KT1 と KT3 の活用を念頭においたプロジェクト創出・社会実装の推進が、プロジェクト終了後の重要なミッションである。その過程において KT2 で開発した WACo データカタログは、先行事例を参照することで、新たな研究開発や事業への展開に繋げることができ、KT1、KT3 を支援し、WACo づくりを推進するものである。

### 5.7.3 プロジェクト終了後の活動方針

健康コミュニティのデザイン手法の開発と実践は、千葉大学 OPERA にとって、各課題の成果や検討を実際のまちづくりに適用する部分も担っている。一般に、街づくり事業は複数年の長期にわたるため、課題の6年間で、オンプロジェクトに組み込むハードルは極めて高かった。しかしながら、デザインツールの試行的な開発を元に、実際のまちづくりに適用するケーススタディを重ね、オンプロジェクトで健康街づくりのモデルを実践できたこと、また今後の大型の開発に繋がられたせいかは大きい。プロジェクト終了後においても、引き続き社会実装を推進していく。

### 5.7.4 その他

記載事項なし

## 5.8 研究開発課題8「施設類型に応じた健康空間のハード・ソフト開発」

キーテクノロジー	ゼロ次予防デザイン・実装技術、ゼロ次予防データプラットフォーム
課題代表者	花里 真道 千葉大学 予防医学センター 准教授
実施期間	令和4年4月～令和6年3月
共同研究機関	千葉大学、竹中工務店、イオン、イオンモール、ダスキン、ジャパンヘルスケア、都市再生機構（令和5年3月31日脱退）、（株）日建ハウジングシステム

### 5.8.1 マイルストーンと達成状況

課題番号	MS番号	マイルストーン内容	達成状況
課題 8-1 (旧 課題 1-2)	MS 8-1-1	デザインツールのエビデンスを先行研究や先行事例のレビューより収集し整理する。デザインツールのUI（ユーザーインターフェース）デザインおよびデザインツールのエビデンスを継続的に拡充・更新するための仕組みを構築する。	デザインツールのエビデンスを先行研究や先行事例のレビューより収集し整理した。デザインツールのUI（ユーザーインターフェース）デザインおよびデザインツールのエビデンスを継続的に拡充・更新するための仕組みを構築した。
	MS 8-1-2	健康オフィスの設計時に活用できるデザインツールを開発する。	健康オフィスの設計時に活用できるデザインツールを開発した。
	MS 8-1-3	データプラットフォームの仕様を策定し、健康オフィスのゼロ次予防データプラットフォームを構築し運用する。	データプラットフォームの仕様を策定し、健康オフィスのゼロ次予防データプラットフォームを構築し運用した。
課題 8-2 (旧 課題 4-1, 4-2, 4-3)	MS8- 2-1	商業施設における健康プログラム（スマートフォンアプリを用いたソフト型プログラム）のエビデンスを構築する。	商業施設における健康プログラム（スマートフォンアプリを用いたソフト型プログラム）のエビデンスを構築した。
	MS8- 2-2	商業施設における健康プログラム（空間を通じた体験型プログラム）を構築する。	商業施設における健康プログラム（空間を通じた体験型プログラム）を構築した。
	MS8- 2-3	商業施設における健康コミュニティ支援技術（スマートフォンを活用したコミュニケーションプラットフォーム）を構築する。	商業施設における健康コミュニティ支援技術（スマートフォンを活用したコミュニケーションプラットフォーム）を構築した。
課題 8-3 (2021 年以 降)	MS8- 3-1	教育施設（小学校）対象にお掃除出前授業を合計4回実施、年間を通じた教室環境の測定を行う。	教育施設を対象にお掃除出前授業を実施し、教室の環境（浮遊粒子）変化を確認した。
	MS8- 3-2	お掃除プログラム介入の効果検証を行う。成果は論文化を目指し、1報以上の報告を行う。	介入による効果（児童のSDQおよび環境変化）に関する論文を作成し投稿準備中。

## 5.8.2 最終目標に対する成果の詳細

(課題8-1)

### 健康オフィスの空間デザインツールとゼロ次予防データプラットフォームの開発

#### 背景と目的

日本では、オフィスビルに関するエビデンスに基づいた空間デザイン指針が限られている。そこで、オフィス設計者が健康オフィスづくり要件を公衆衛生学・予防医学の観点から的確に把握することと、健康に配慮ある就労環境が増加することで、ゼロ次予防にもとづいたよりよい社会環境が推進されることを目的とした。

#### 成 果

(1) デザインツールの開発

MS8-1-1・MS8-1-2 : CMS (コンテンツマネジメントシステム) 技術を用いて WEB ベースでインタラクティブに使用できる仕様とした。

(2) データプラットフォームの開発

MS8-1-3 : 結果変数 (職業性ストレス、メンタルヘルス、ワーク・エンゲイジメント)、環境要因 (自席環境、ひとり作業環境、打合せ・会議環境、休憩環境、自宅環境 (リモートワーク))、基本属性 (性別、年代、職種、部署、自己効力感等) とした。

(3) オフィスビルの改修・健康プログラムの実装

研究開発された要素技術を活用、また OPERA 内別課題とも連携し、オフィスビルの改修・健康プログラムを実装した。

以降、成果の詳細は WACo プロジェクトレポートより転載

※WACo -Well Active Community プロジェクトレポートは、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA) 「ゼロ次予防戦略による Well Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装」2018-2024 の研究成果を元に令和 6 年 3 月 26 日発行され、HP 上で公開されている。

テーマ  
3

## 施設類型に応じた健康空間の ハード・ソフト開発

対象となる施設を、多くの人が長い時間を過ごすオフィス、商業施設、教育施設の3つとし、施設類型に応じた健康空間のハード・ソフト面の研究開発を推進した。オフィスでは、空間デザインツールとゼロ次予防データプラットフォームの開発、商業施設では、健康プログラムの開発及び健康コミュニティ支援技術の構築、教育施設では、環境測定・お掃除健康プログラム介入による児童の健康影響と行動変容、これらについて研究開発を推進し、施設類型それぞれにおける WACo の要点と可能性を整理した

# 14

## 健康オフィスデザインツールの開発と空間デザインの実践

キーワード

ワークプレイス/デザインツール開発/疫学研究

関連企業

株式会社竹中工務店

日本では、健康を高めるオフィスビルについて、エビデンスに基づいた空間デザイン指針が限られていました。そこで、オフィス設計者が健康オフィスづくりのポイントを公衆衛生学・予防医学の観点から的確に把握し、健康に配慮ある就労環境が設計・計画され、そうした環境が拡大することで、ゼロ次予防にもつづいたよりよい社会環境が推進されることを目的としています。

就労者を対象とした疫学研究を継続的に実施し、個人の健康・well-being のデータと就労環境のデータを取得し、分析をすすめました。それらの結果を活用しつつ、国内外のエビデンスを踏まえて、健康オフィスの設計時に活用できるデザイン

ツールを整備しました。コンテンツマネジメントシステム技術を用いて WEB ベースでインタラクティブに使用できる仕様としました。

また、3の結果変数(職業性ストレス、メンタルヘルス、ワーク・エンゲイジメント)、5の環境要因(自席環境、ひとり作業環境、打合せ・会議環境、休憩環境、自宅環境(リモートワーク))、5の基本属性(性別、年代、職種、部署、自己効力感等)を収録した、データプラットフォームを作成しました。

研究開発された要素技術を活用し、オフィスビルの改修や新規計画として実装しました。

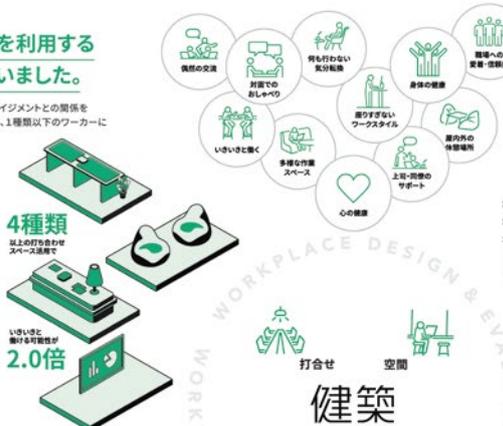
### 加速する健康経営・働き方改革のなか、誰もがいきいきと健やかに働くことができるワークプレイスの実現が求められています。

私たちは、空間デザインを、健康経営という企業の経営課題に取り組みアプローチのひとつとして捉えています。疫学・公衆衛生学の観点から、ワーカーの行動や健康とワークプレイスの関係を分析・評価し、自社のワークプレイスを活用した検証といった研究サイクルを廻しています。ここでは、私たちが実施した調査研究の結果の一部を紹介します。

打合せスペースといきいきとした働き方

いろいろな種類の打合せスペースを利用するワーカーは、よりいきいきと働いていました。

打合せスペースの利用行動と、いきいきと働く度合いであるワーク・エンゲイジメントとの関係調べました。日常的に4種類以上の打合せスペースを利用するワーカーは、1種類以下のワーカーに比べ、2倍ワーク・エンゲイジメントが高い状態でした。



アクティブワーカーにおけるワークプレイスの重要性

ワークプレイスの改善により、アクティブワーカーは、よりいきいきと働いていました。

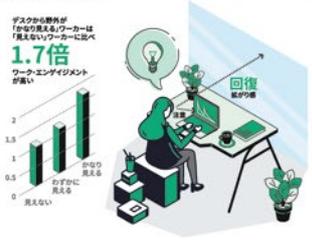
打合せや会議を頻繁におこない、社内を活発に動くアクティブワーカーにとって、オフィス改修がよい影響をもたらすか調べました。ワークエリアの新設といったオフィス改修の前後2年間を比較すると、改修後にワーク・エンゲイジメントが4%増加、仕事のコントロール度合いが5%増加していました。



屋外を感じられるワークプレイスづくり

屋外が見えるデスクを利用するワーカーは、よりいきいきと働いていました。

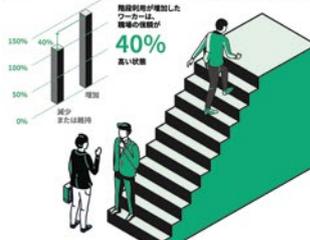
ワークプレイスにある窓から屋外が見える環境が、いきいきとした働き方(ワーク・エンゲイジメント)の増加に繋がるか調べました。デスクで屋外が見えないワーカーと比較して「わずかに見える」ワーカーでは1.2倍、「かなり見える」ワーカーでは1.7倍ワーク・エンゲイジメントが高い状態でした。



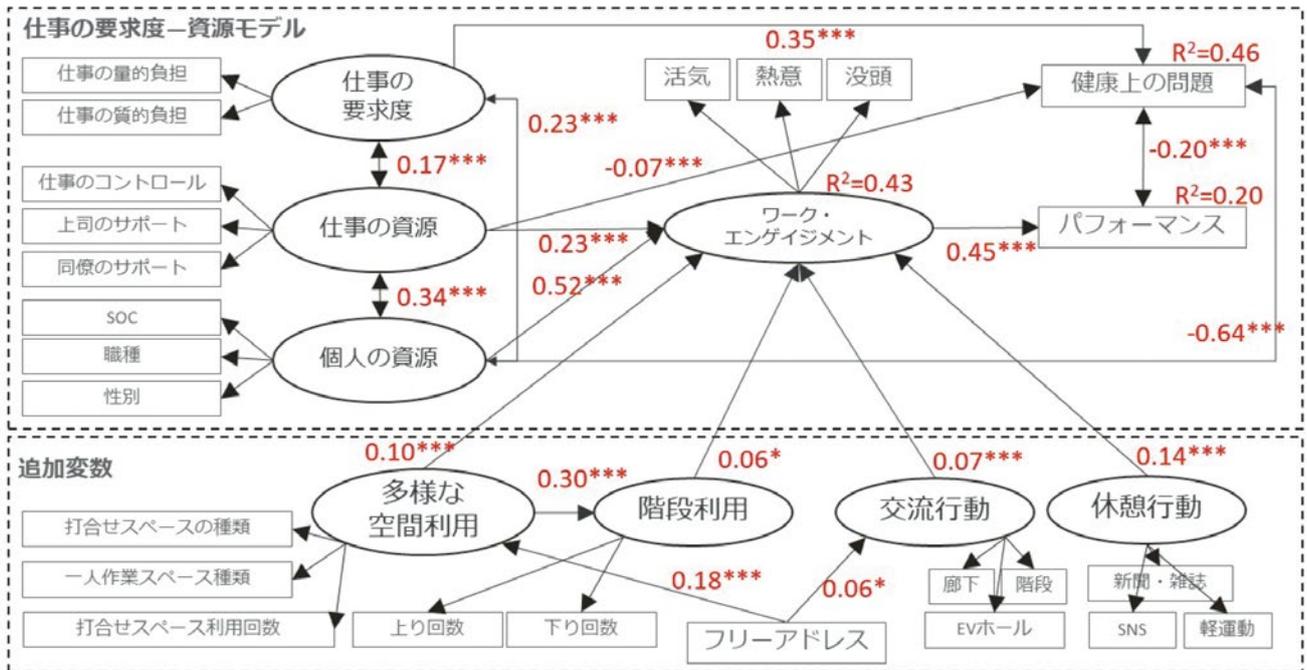
階段利用とワークプレイスの評価

階段を積極的に利用するワーカーは、ワークプレイスの雰囲気を感じていました。

階段をよく利用するアクティブワーカーは、職場の雰囲気を感じてきているか調べました。2年間の調査期間、階段利用が増えたワーカーは、職場の信頼感(共に働くという姿勢、相互理解、仕事に関連した情報共有など)が40%高い状態でした。



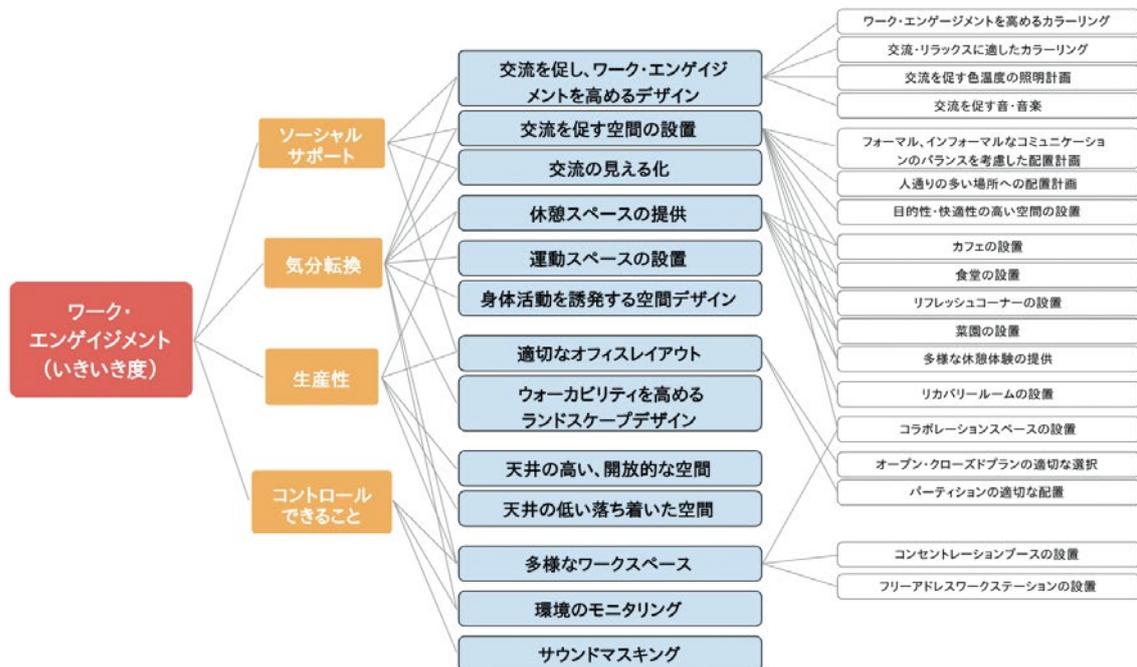
疫学研究により得られたエビデンスの一部



( $\chi^2(260) = 2032.70$ , CFI = 0.86, GFI = 0.90, AGFI = 0.87, and RMSEA = 0.067) \*\*\*p<0.001, \*\*p<0.01, \*p<0.05

(注)分析に使用した観測尺度:『ワーク・エンゲイジメント』はユトリヒトワークエンゲイジメント尺度(活力、熱意、没頭)、『仕事の要求度』は職業性ストレス簡易調査票の仕事の量的負担、仕事の質的負担、『仕事の資源』は仕事のコントロール、上司のサポート、同僚のサポート、『個人の資源』は3項目版 SOC スケール、職種(管理的な仕事、技術的な仕事、事務的な仕事)、性別(男性、女性、回答しない)、『健康上の問題』はK6を、『パフォーマンス』はWHO「健康と仕事のパフォーマンスに関する調査票」プレゼンティズム指標

仕事の要求度-資源モデルに、オフィス環境や休憩行動を加えた分析事例



ワーク・エンゲイジメントとは、仕事に関連するポジティブで充実した心理状態を表わし、ワーク・エンゲイジメントの高い人ほど活き活きと働いていると捉えられます。健康経営の視点から、ワーク・エンゲイジメントを高める必要性が増している中、コンセプティングツールで着目する健康アウトカムのひとつとしました。

デザインツールの一部の構成

# 15

## 健康オフィス 緑化ワークラウンジの評価

キーワード

ワークプレイス/グリーン/疫学研究

関連企業

株式会社竹中工務店

近年、オフィスにおけるストレス緩和や知的生産性向上などの効果を目的とした室内緑化が注目されています。しかし、オフィスに設けられた緑化空間が実際に就業者に利用されているかの検証は十分には行われていません。そこでオフィスの緑化された共用空間を対象に、就業者の利用実態に関するアンケートを実施しました。そして得られた回答結果をもとにグラフィカルモデリングを用いて利用要因を抽出しました。その結果、利用頻度には、就業者の利用意識や就労形態、緑化された共用空間の建物内配置という多様な要

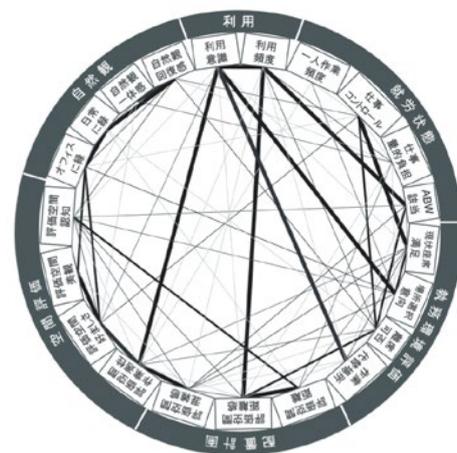
因が影響を与えていることが示唆されました。共用空間の緑化計画時に、利用促進を図るために配慮が必要な要因を把握することができました。

### 関連して出版された文献

- 1) 小島倫直, 花里真道, 石川敦雄, 岩崎寛, (2021). オフィスの緑化された共用空間における就業者の利用実態および利用頻度や利用意識に影響する要因. 日本緑化工学会誌, 47(1), 129-134.

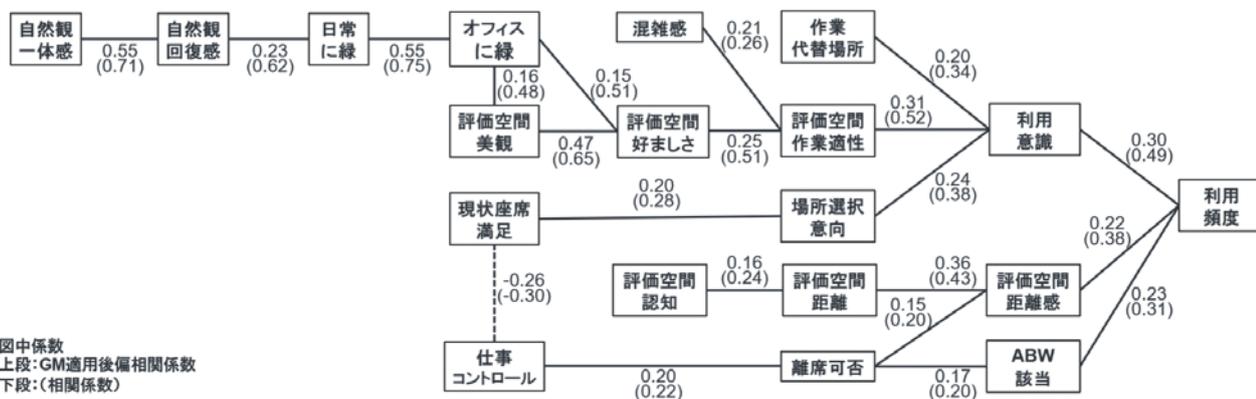


緑化ワークラウンジ



GM適用後偏相関係数(絶対値)  
 - 0.10未満 - 0.10以上0.15未満 - 0.10以上0.15未満 - 0.20以上

グラフィカルモデリングによる要素関係図



図中係数  
 上段: GM適用後偏相関係数  
 下段:(相関係数)

利用頻度に関わる要因分析

# 16

## 寮環境と利用者の健康の評価

キーワード

社員寮／交流空間／疫学研究

関連企業

株式会社竹中工務店

新設された社員寮内の共用空間が寮生の交流行動や心理ストレスに関連しているか調査した結果、共用部での挨拶の回数の多さと心理ストレスの低さに関連がみられました。旧社員寮と比較して、新社員寮において廊下・階段では挨拶と世間話や趣味、仕事、寮行事などの話が増加し、ラウンジ・

シェアリビングでは挨拶が増加し、食堂では全ての交流行動が増加しました。

個室型の寮でのシェアリビングや食堂の空間の拡充は、共用部での交流を増やし寮生の心理ストレスを低減できる可能性があることが示唆されました。



食堂



シェアリビング



シェアリビングと個室

# 17

## 健康シニアレジデンスの設計ツール開発

キーワード

シニアレジデンス／デザインツール開発

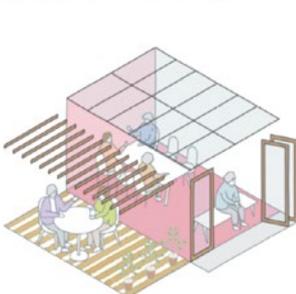
関連企業

株式会社日建ハウジングシステム

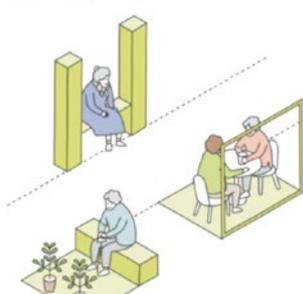
住まうことで健康を増進するシニアレジデンスは計画できるか、という問いに対して、関連する公衆衛生や健康のエビデンスを整理し、設計ツールとして体系化・開発しました。ツールの数は51で、活動分類(こころ、交流、思考、身体)、機能分類(内、外、立地、運営)、キーコンセプト(アクティビティ

を演出する、公私のグラデーション、空間を繋ぐ、自然に親しむ、近隣との調和)、期待される健康効果(こころの健康、人や社会との関わり、栄養、睡眠、認知機能、身体機能、運動)といったカテゴリでブラウズできるように工夫しました。

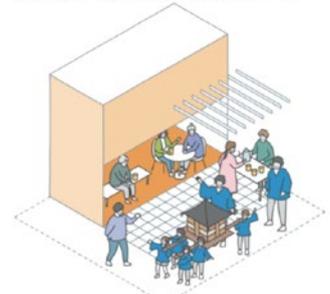
光、風、緑に触れられる半屋外の空間をつくる



何気ない、余白の空間をつくる



地域のお祭りや催しに参加できる仕組みをつくる



(課題 8-2)

## 商業施設における健康プログラムの開発及び健康コミュニティ支援技術の構築

### 背景と目的

先行研究において、居住地と生鮮食料品店までの距離と認知症、死亡リスクと正の関連が報告されている。商業施設がその顧客の健康の維持・増進にどのような役割を果たすことが求められるのか、商業施設のもつ特徴が健康維持にどの程度有効か検証し、その特徴を活かした健康プログラムを提案することを目的とした。

### 成 果

MS8-2-1：商業施設における健康プログラム(スマートフォンアプリを用いたソフト型プログラム)のエビデンスを構築した。

MS8-2-2：商業施設における健康プログラム(空間を通じた体験型プログラム)を構築した。

MS8-2-3：商業施設における健康コミュニティ支援技術(スマートフォンを活用したコミュニケーションプラットフォーム)を構築した。

以降、成果の詳細は WACo プロジェクトレポートより転載

※WACo -Well Active Community プロジェクトレポートは、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA)「ゼロ次予防戦略による Well Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装」2018-2024 の研究成果を元に令和 6 年 3 月 26 日発行され、HP 上で公開されている。

キーワード

ショッピングモール／健康プログラム開発／疫学研究

関連企業

イオン株式会社／イオンモール株式会社

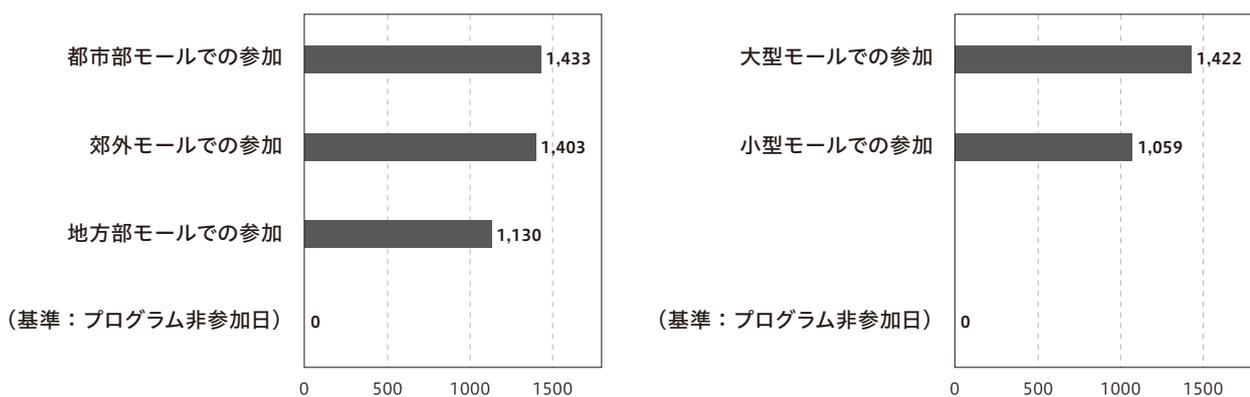
自宅と生鮮食料品店までの距離が、認知症や死亡といったリスクと関連していることが報告されています。商業施設が、顧客の健康の維持・増進にどのような役割を果たすことができるのか、商業施設のもつ特徴が健康にどのような影響を及ぼすのか、商業施設の特徴を活かした健康プログラムを提案することは可能であるか、などについて研究を推進してきました。

商業施設におけるスマートフォンのアプリケーションを活用したウォーキングプログラムへの参加が歩数の増減に関わるかを検証しました。2021年の1年間に取得した、約21万人の計2,300万日分のビッグデータを分析しました。結果として、プログラムの参加が約1,200歩の歩数増加と関連し、特に都市部、大型モール、女性、高齢者で歩数が多く増加す

る可能性が示されました。本研究により、ショッピングモールの施設とスマートフォンアプリによるポイント付与を活用した歩行プログラムへの参加が、日常生活における歩行を促進することが期待されます。本研究結果は、米国医師会の国際医学雑誌に掲載されました。

また、商業施設における健康プログラム(空間を通じた体験型プログラム)を構築しました。イオンモールウォーキング&ウェルネストラックは、歩くことを楽しむ健康プログラムです。歩幅計測とウォークラリーの2つのプログラムがあります。歩幅計測で自身の歩幅と健康の関係について知り、ウォークラリーチェックポイントをめぐって歩数を増やすことにより健康増進を目指します。

### プログラム参加日の歩数



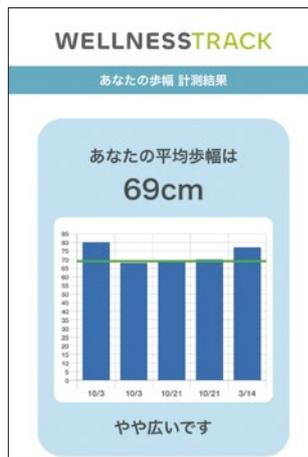
増加した歩数の詳細



商業施設館内に設置された健康プログラム「イオンモールウォーキング&ウェルネストラック」



QRコードからアプリにアクセス



歩幅の測定結果表示画面



ウォークラリーでの獲得スタンプ表示画面

(課題 8-3)

教育施設の環境測定・お掃除健康プログラム介入による児童の健康影響と行動変容に関する研究

背景

児のアレルギー疾患が増加する中、小学校での掃除がホコリを巻き上げている可能性がある事が示唆されている。家庭の掃除道具と異なり、小学校で使用されている掃除道具は大きな発展が少ない。さらには、掃除教育は教員の経験によるものが多く、よいよい適切な掃除がなされていない可能性がある。また、教室のホコリと健康の関係を見るには長期の追跡調査が必要であった。

⇒そこで、本学、千葉大学教育学部附属小学校の協力を得る事で、介群と非介入群を作り出し長期の追跡が可能となった。お掃除の会社である株式会社ダスキンの協力のもと、ダスキン株式会社が実施している学校の掃除やお片付けの教育支援プログラムの効果検証を行った。

成果

お掃除出前授業を合計4回、年間を通した教室環境の測定を実施した。

掃除道具や方法をよりよくする事で①教室のホコリの舞上がりを抑えられるのか、②その事による児への健康影響、③さらに掃除を通じて育まれる、他人を思いやる心などに代表される情操教育の視点から評価を行った。

**お掃除プログラム検証概要**

**教育施設の環境測定・お掃除健康プログラム介入による児童の健康影響と行動変容**  
**学校のお掃除道具をより良いものに変更し、お掃除方法を教えると、教室の環境は改善できるのか？**

無断転載・引用禁止  
学校掃除とホコリの可視化20210409

ダスキンでは、2000年より掃除教育に関する研究に取り組み、教育向けや企業・官庁主催のイベントなどを開催して、学校の「掃除」や「お片付け」の教育を支援する活動に取り組んでいます。

ホコリは清掃時に一番舞い上がる

呼吸器系アレルギー  
アレルギー性鼻炎  
20%

**検証：より良いお掃除道具と、方法の介入**

- 1：教室のホコリ舞上がりを抑えられるのか？
- 2：児への健康影響は？
- 3：掃除を通じて育まれる、他人を思いやる心等

介入群 クラス替えのない 合計105名  
1・3・5年生 (各1組)

⇒⇒ 追跡!! ⇒⇒

非介入群クラス替えのない 合計210名  
1・3・5年生 (各2/3組)

⇒⇒ 追跡!! ⇒⇒

### お掃除プログラム実施



#### 5.8.3 プロジェクト終了後の活動方針

施設類型をオフィス、商業施設、教育施設と3つに大別し、それぞれ研究開発を進め最終目標を達成できた。これらの施設類型それぞれにおいてWAGoの要点と可能性が整理できた。これらの施設類型はプロジェクト終了後のWAGoの実現に向けた重要な核でありつつ、介護施設や医療施設、公共施設、運動施設など別の施設類型も多数あるため、それらへの適用も展開していく。

#### 5.8.4 その他

課題8-3で協力関係を得た、千葉大学教育学部附属小を対象とした、健康出前授業（家や学校の環境と健康に関するヘルスリテラシー教育）の実施を行った。来年度以降、千葉県内の複数校からの依頼があり、実施予定。

## 5.9 研究開発課題9「次世代に向けた健康住宅の開発」

キーテクノロジー	ゼロ次予防デザイン・実装技術、ゼロ次予防データプラットフォーム、指標開発・評価技術
課題代表者	鈴木 規道 千葉大学 予防医学センター 准教授
実施期間	令和4年4月～令和6年3月
共同研究機関	千葉大学、国立長寿医療研究センター、積水ハウス、富士通ゼネラル研究所、ダスキン、サンスター技研（令和5年3月31日脱退）

### 5.9.1 マイルストーンと達成状況

課題番号	MS番号	マイルストーン内容	達成状況
課題9-1 (旧課題2-1)	MS9-1-1	健康住宅実証棟の建設（2棟）。空気配慮仕様の医学的エビデンスが論文2報以上得られていること。	健康住宅実証棟の建設（2棟）を行い、実証実験で得られた結果を基に国際誌で3報報告を行った。
	MS9-1-2	得られたエビデンスをもとに、化学物質に対する耐性チェックツールの開発実装が1つ以上されていること。	化学物質に対する耐性チェックツールの開発を行った。
	MS9-1-3	最終成果として、低化学物質空間を設計するための手法が論文として1報以上取りまとめられていること。	2024年3月段階で、査読中。
課題9-2 (旧課題2-2)	MS9-2-1	疾病予防や健康増進に繋がる家庭用空調設備の評価技術が構築されていること。医師監修のもと延べ400名の短期・長期型の滞在被験者実験を行い、健康に寄与する室内環境を明らかにする。	リビングを対象とした評価技術を構築し、主観評価との相関を調査し、相応な相関を得た。
	MS9-2-2	記の評価技術を活かした家庭用空調システムのプロトタイプ開発の実績ができてきていること。	従来エアコンの評価より、課題を解決を目指すプロトタイプ機の製作を行い、評価を実施し、課題点を抽出した。
課題9-3 (旧課題2-3) (2021年まで)	MS9-3-1	空気質を評価するデバイスができていくこと。チャンバー試験（5物質）、実空間（5物質、TVOC）での分解効果の検証。	室内分析装置の開発：可搬型で室内設置が容易なプロトタイプ的设计、国の指針値5物質を対象としたIMS(Ion-mobility spectrometry)装置、イオン輸送システムの開発。5物質を対象としたIMS (Ion-mobility spectrometry)装置のプロトタイプおよび、IMSの応答性の確認まで完了した。

課 題 9-4 (旧課 題 2- 4)	MS9- 4-1	住宅環境と健康に関するデータについて、縦断分析可能な個表単位のデータが1つ以上収集できていること。	疫学調査を実施、継続した調査基盤を構築した。2026年まで継続予定。
	MS9- 4-2	収集したデータを解析し、疫学的な観点から住まいと健康に関する新たな知見が論文として1報以上取りまとめられていること。	住まいと健康に関する新たなエビデンスとして、国際誌で1報報告を行った。
課 題 9-5 (2021 年 以 降)	MS9- 5-1	室内環境(CO2、温湿度、照度、VOC、騒音、ホコリ)測定装置がエンジニアサンプリング機として開発を終えてプロトタイプが実験機器として1つ以上社会実装されている事。	温度、湿度、照度、気圧、騒音、VOC、PM、色温度がセンシング、バンキングできるセンサの開発を行った。

## 5.9.2 最終目標に対する成果の詳細

(課題 9-1)

化学物質を最大限に削減させた実証実験住宅の開発および予防・健康増進の実証

### 背 景

シックハウス症候群と化学物質の関連を示すエビデンスは疫学調査が主体であったが、疫学調査では症状を感じた際の化学物質濃度を把握する事が難しく、その時の健康状態との因果関係を把握できなかった。

⇒そこで、実際に滞在が出来る、2棟の実験棟(低濃度と新築時を想定した濃度)を建設し、滞在実験を行う環境を整備した。低化学物質の住宅は、シックハウス症候群発生リスクを低減するのか、休息時のリラックス効果を増加させるのかを滞在実験棟を用いて実証した。

### 成 果

- ・化学物質を抑えた総揮発性有機化合物の値が $400 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下かつ厚生労働省の定める濃度指針値1/2以下の空気配慮住宅実証棟(企業提供)の建設を行った(MS9-1-1)。

- ・2年間(2回/月×24か月=48回以上)を通して、延べ110物質の測定を行い、化学物質濃度が国の定める暫定目標値 $400 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下を維持できることを検証、それらに基づき低化学物質空間の設計手法に関する論文を執筆中(MS9-1-3)。

- ・建設した空気配慮住宅実証棟を用い、延べ300名を目標とした滞在実験を実施した。シックハウス予防およびリラックス効果に関するエビデンス3報で報告済み(MS9-1-1)。得られた成果を基に化学物質に対する耐性チェックツールを開発した(MS9-1-2)。今後、企業を通じて社会実装を目指す。

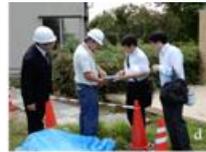
濃度指針値 1/2 以下の空気配慮住宅実証棟（企業提供）の建設



a. Selection of mechanical ventilation system and check of its ventilation rate of 0.5 times/h or more



b, c. Emission tests of materials by small chambers (b) and furniture by a large chamber (c)

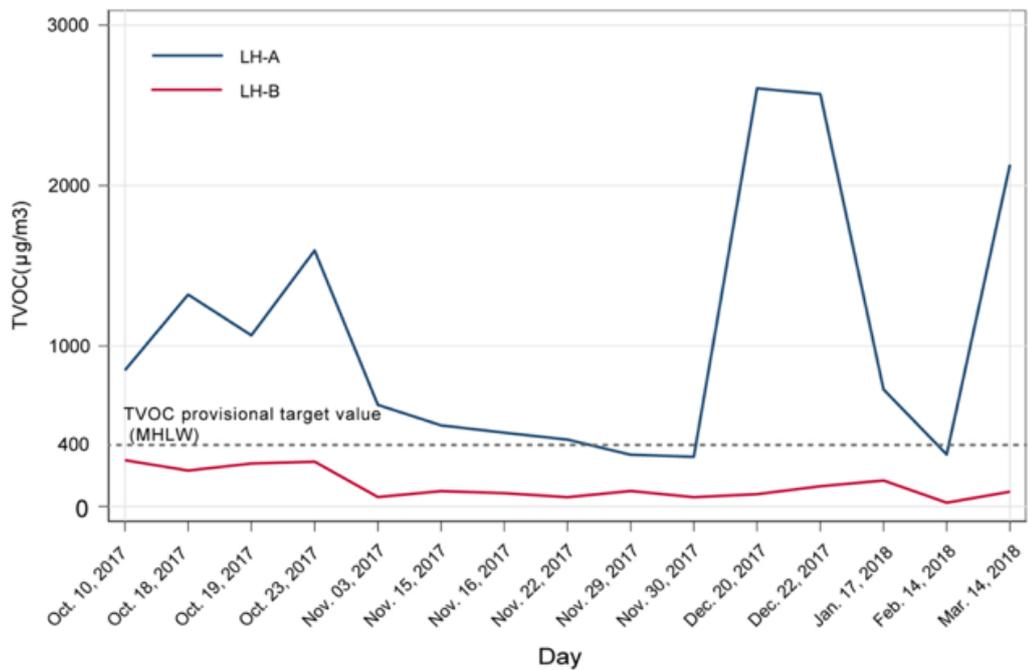


d, e. On-site confirmation (d) and management (e) of designated building materials and adhesive usage



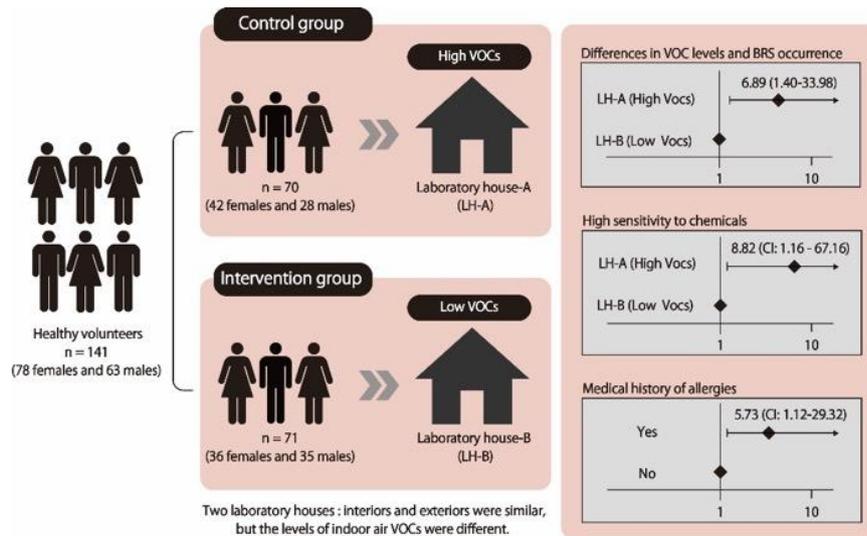
f. Measurement and confirmation of VOC levels in LH less than 400  $\mu\text{g}/\text{m}^3$

実証実験棟の年間、化学物質測定



LH : Laboratory house, MHLW : Ministry of Health, Labour and Welfare

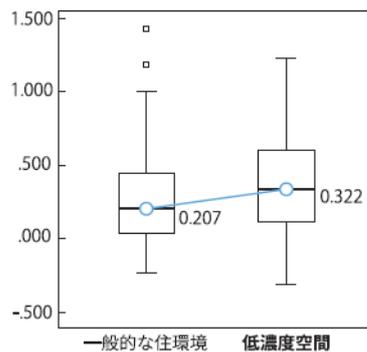
## 実証実験棟を用いた被験者実験\_シックハウス予防について



## 実証実験棟を用いた被験者実験\_リラックス（脳波）増進について

### 効果4 リラックス状態を示す脳波α波\*

作業後の休息時には  
**α波が増加**する  
 その割合は  
 一般的な住環境\* に比べて  
**1.6倍**多い



\* 作業時の脳波測定実験風景



\* 一般的な住環境は木造在来工法で建設した一般的な住宅の室内環境  
 \* 一般的な住環境と低濃度空間の評価は Mann-Whitney の U 検定で  $p < 0.05$  の有意  
 \* 性別、年齢、健康状態、アレルギー疾患歴と有無、喫煙歴、ストレス状態などを調整しても低濃度空間において増加する傾向が有意に見られた (国際論文発表)

## 化学物質耐性チェックツールの開発

清水ハウスの  
**化学物質の敏感度チェック**

家族の皆さんで順番にお答え頂くと  
 ご本人とご家族の敏感度がわかります。

千原大学多摩部  
 シックハウス対策  
 シックハウス対策  
 シックハウス対策

〇〇〇 さまの敏感度レベル **1**

気付いていないだけでも…  
**意識的に注意をしましょう!**

アレルギーのある方は室内環境のアレルゲン(ホコリ、ダニ、カビなど)に反応することがあり、シックハウス症候群を発症しやすいことが分かってきました。アレルゲン除去のためにはこまめに室内のお掃除をすることが有効です。

反応しやすさ **30**

13 症状の重さ 17 生活への影響

お二人目 さまの敏感度レベル **5**

シックハウスが既に発症している可能性も… **警戒!!**

ハウスダスト (室内のホコリ) が多い住まいでは、体に取り込まれる汚染物質の量も多くなると報告されています。ハウスダストを軽減する効果的な手法として、1㎡あたり1回、掃除機で吸い取り掃除機をかけると

反応しやすさ **36**

(課題 9-2)

予防・健康増進を目指した住宅用冷暖房・換気方式、制御技術の開発

背景

従来の家庭用エアコンは、一般的に住宅の断熱・気密仕様等に応じて、空間内に熱負荷のムラが生じ、またエアコンからの熱供給も空間内で均質とならないため、室間だけでなく、リビングルーム等の大き目の部屋では、単体の室内においても温度ムラができてしまい、快適性を損なうことが多い。一方で、従来の家庭用エアコンは温度を一定に保つことが目的となっており、長期に暴露することで、人体が本来有する体温調節機能が劣化する恐れがある。⇒そこで、プロトタイプ機を開発し、実大実験住宅にて実利用状態の住宅を再現し、空間的均質性を評価するとともに、心理的快適性を確保しつつ、生理的温度調節機能を刺激する室温制御について実験室での被験者実験を行った。

成果

・全国 3,000 名を対象としたアンケートを実施し、空調の使い方の違いや住宅の築年数・仕様、健康状態（傷病の有無、自覚症状等）を調査し、室内温熱空気環境と健康の相関について横断的に分析し、室内温熱空気環境と健康の相関関係を確認した。

- ①暑さ(寒さ)を少しでも感じたら ②暑く(寒く)てもなるべく我慢して耐えきれなくなったら ③温度や湿度を見て判断 ④部屋に入ったらつける ⑤空調をつける前に着衣量を調節 ⑥つけない ⑦その他

WEB アンケート調査 (n=2,039s 実施期間 2020/11/27~30)

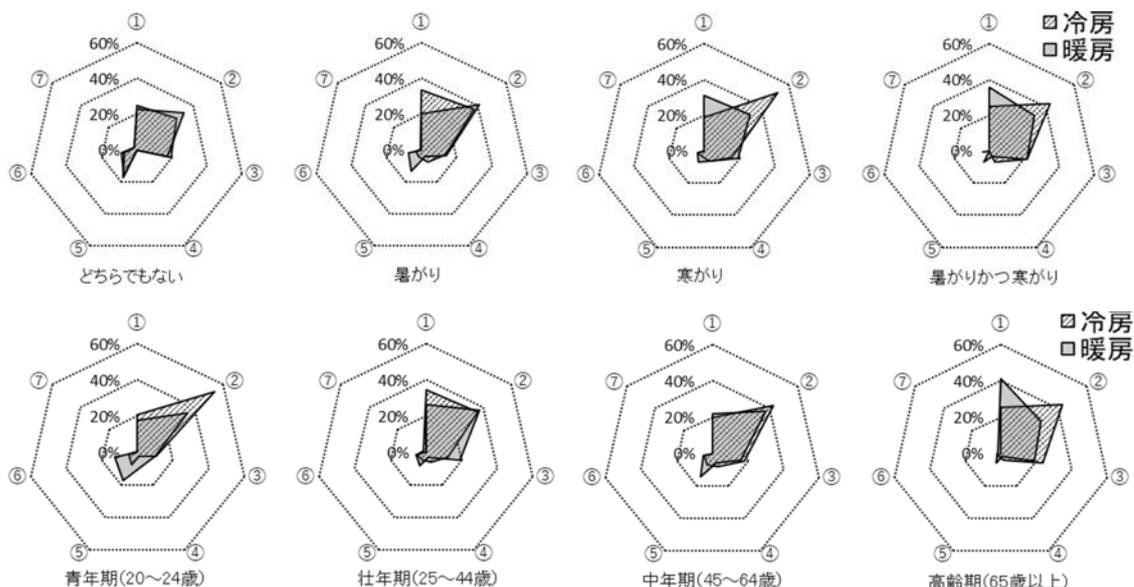


図 9-2-1 熱的指向、年齢等による冷暖房稼働判断のアンケート調査結果

説明変数	目的変数												
	夏期						冬期						
	自覚症状		傷病：高血圧症・脂質異常症以外の8症例		傷病：高血圧症・脂質異常症の2症例		自覚症状		傷病：高血圧症・脂質異常症以外の8症例		傷病：高血圧症・脂質異常症の2症例		
項目名	基準コード	比較コード	オッズ比 (95%CI)	p値	オッズ比 (95%CI)	p値	オッズ比 (95%CI)	p値	オッズ比 (95%CI)	p値	オッズ比 (95%CI)	p値	
居間温熱・空気環境総得点	下位gr	中位gr	<b>0.51 (0.38-0.68) ***</b>		<b>0.60 (0.42-0.85) **</b>		0.90 (0.59-1.38)		<b>0.53 (0.41-0.69) ***</b>		<b>0.56 (0.40-0.78) **</b>		1.21 (0.79-1.85)
断熱基準	無断熱	昭和55年基準以降	<b>0.35 (0.22-0.54) ***</b>		<b>0.48 (0.25-0.93) *</b>		1.05 (0.57-1.96)		<b>0.36 (0.24-0.54) ***</b>		<b>0.51 (0.27-0.95) *</b>		1.12 (0.60-2.09)
年齢	65歳未満	65-69歳	0.88 (0.64-1.22)		<b>0.59 (0.38-0.93) *</b>		0.78 (0.50-1.20)		0.88 (0.63-1.23)		0.86 (0.55-1.35)		0.84 (0.54-1.33)
性別	女性	男性	<b>0.54 (0.44-0.68) ***</b>		0.93 (0.67-1.30)		1.05 (0.74-1.48)		<b>0.55 (0.44-0.7) ***</b>		0.94 (0.68-1.32)		1.04 (0.73-1.48)
BMI	低体重	普通体重	0.86 (0.62-1.20)		1.22 (0.75-2.00)		<b>4.04 (1.72-9.51) ***</b>		0.92 (0.66-1.29)		1.30 (0.78-2.16)		<b>3.83 (1.62-9.05) **</b>
世帯年収	400万円未満	400万円～600万円	<b>0.73 (0.56-0.96) *</b>		<b>0.62 (0.42-0.91) *</b>		0.70 (0.45-1.07)		<b>0.74 (0.56-0.97) *</b>		<b>0.63 (0.43-0.93) *</b>		<b>0.60 (0.38-0.93) *</b>
最終学歴	高等学校以下	専門学校	<b>0.70 (0.54-0.90) **</b>		<b>0.55 (0.39-0.79) **</b>		1.10 (0.76-1.59)		<b>0.71 (0.55-0.91) **</b>		<b>0.57 (0.40-0.82) **</b>		1.02 (0.71-1.48)
飲酒習慣	なし	週1～2日	1.22 (0.94-1.58)		0.81 (0.55-1.19)		0.99 (0.65-1.52)		1.27 (0.98-1.65)		0.82 (0.56-1.21)		0.92 (0.60-1.43)
喫煙習慣	なし	あり	<b>1.51 (1.08-2.13) *</b>		0.99 (0.61-1.61)		<b>1.74 (1.09-2.80) *</b>		<b>1.64 (1.15-2.34) *</b>		0.91 (0.55-1.53)		<b>1.80 (1.11-2.93) *</b>
身体活動	単位オッズ比 (1～9) [ ]		<b>1.84 (1.37-2.48) ***</b>		1.22 (0.72-2.09)		<b>1.76 (1.04-2.99) *</b>		<b>1.29 (0.88-1.89) ***</b>		1.11 (0.63-1.93)		<b>1.95 (1.13-3.37) *</b>
睡眠習慣	睡眠障害なし	睡眠障害あり	<b>1.58 (1.20-2.09) **</b>		1.32 (0.90-1.94)		1.17 (0.79-1.73)		<b>1.49 (1.12-1.97) **</b>		1.19 (0.80-1.76)		1.16 (0.78-1.71)
朝食頻度	週1～2回以下	週1～2回	0.94 (0.87-1.00)		0.96 (0.87-1.06)		1.01 (0.91-1.12)		0.92 (0.86-0.99)		0.97 (0.87-1.08)		1.03 (0.93-1.15)
	週3～4回		1.10 (0.65-1.86)		0.49 (0.22-1.10)		0.86 (0.35-2.10)		1.32 (0.77-2.27)		0.65 (0.29-1.43)		0.98 (0.38-2.53)
	週5～6日		1.39 (0.80-2.41)		1.08 (0.53-2.18)		1.05 (0.41-2.69)		1.53 (0.87-2.69)		1.16 (0.57-2.39)		1.46 (0.57-3.71)
	毎日		1.26 (0.79-2.00)		1.11 (0.61-2.03)		0.95 (0.43-2.10)		1.39 (0.87-2.22)		0.95 (0.50-1.81)		1.03 (0.46-2.35)
			1.09 (0.77-1.55)		0.75 (0.47-1.20)		1.44 (0.80-2.59)		1.18 (0.83-1.69)		0.80 (0.49-1.29)		1.60 (0.86-2.98)
R <sup>2</sup> 値			0.07		0.04		0.14		0.06		0.03		0.15

※0.01 ≤ p < 0.05 : \*, 0.001 ≤ p < 0.01 : \*\*, p < 0.001 : \*\*\* ◀

表 9-2-1 ロジスティック回帰分析による居室温熱空気環境の主観申告と自覚症状、傷病等の罹患しやすさの関係分析

・家庭用エアコンが実現する室内温熱空気環境を、健康の観点から評価する指標を開発し、空間内の温度均質性の実現を含む、従来機の課題を抽出した。指標による点数と被験者15名による主観による快適感申告の相関を比較し、指標の信頼性を検証した。これらの課題抽出を受け、空間的溫度均質性を高めるプロトタイプ機を開発中。

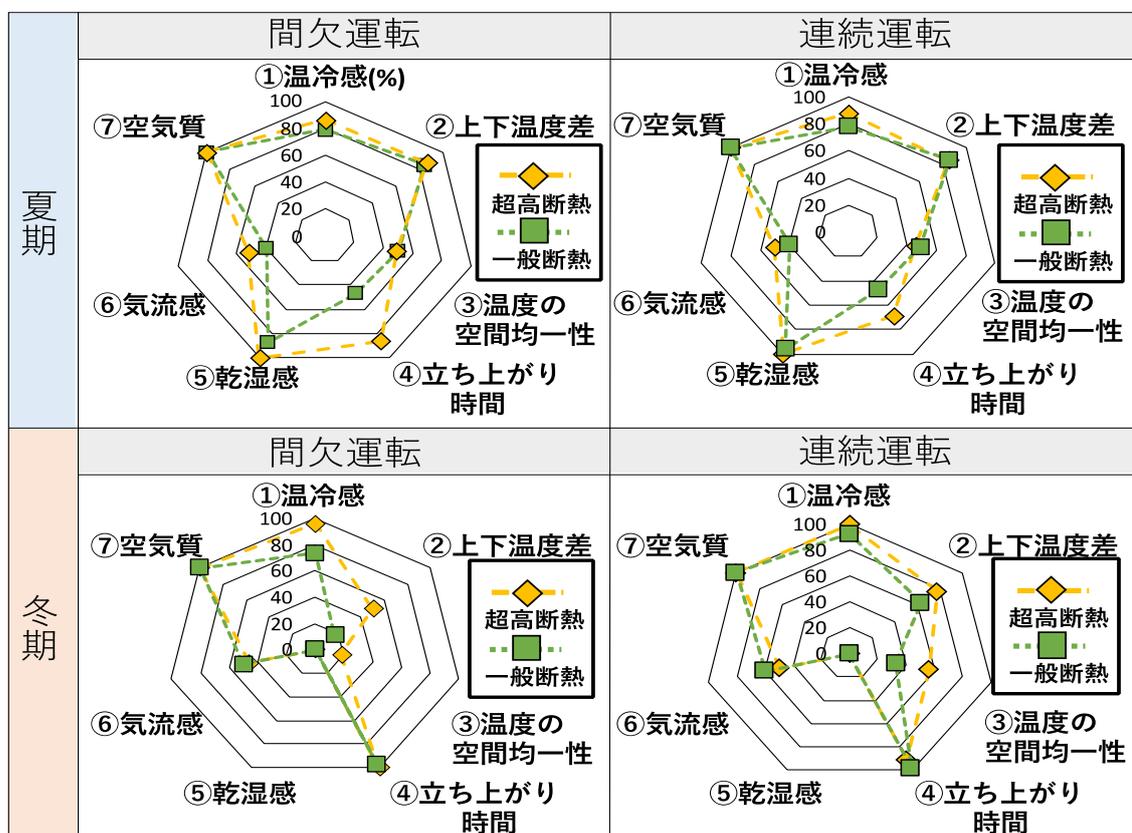


図 9-2-2 開発した評価指標による従来型家庭用エアコンの健康性評価による課題抽出

・15名程度の被験者実験により、夏期を対象とした被験者実験を実施し、心理的温度中性域（心理的に不快を感じない温度帯）と生理的温度中性域（生理的温度調節が怒らない温度帯）のずれを複数の室温変化速度により確認した。その後、夏期、冬期を対象とした実験を継続し、夏期と冬期の傾向の違いを確認し、健康温度制御の基盤となる知見を得た。

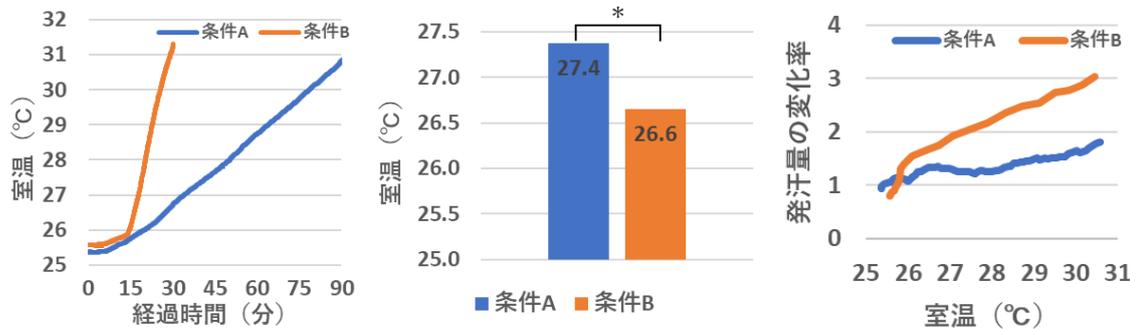


図 9-2-3 温度変化速度条件 図 9-2-4 温度変化条件による申告（左）・生理量（右）の差異

・今後も、プロトタイプ機及び温度制御ロジックについて継続検討を実施し、企業を通じて社会実装を目指す。

#### （課題 9-3）

### 室内空気質分析装置の開発および、光触媒デバイスによる空気浄化性能の実証評価

#### 背景

室内分析装置の開発：従来型の質量分析計は大型であり居室空間への常設には難がある。住宅環境への常設に適した分析装置は他に類を見ない。

⇒そこで、可搬型で同時に多成分が測定できる室内環境分析装置の開発を目指した。

光触媒デバイス空気清浄機能の検証：揮発性の有機化合物の分解能力の把握することは、健康配慮住宅の評価手段として有用である。

⇒そこで、課題 9-1 で建設した実証実験棟を用い、光触媒の分解性能の検証を行った。

#### 成果

室内分析装置の開発：可搬型で室内設置が容易なプロトタイプの設計、国の指針値 5 物質を対象とした IMS (Ion-mobility spectrometry) 装置、イオン輸送システムの開発。5 物質を対象とした IMS (Ion-mobility spectrometry) 装置のプロトタイプおよび、IMS の応答性の確認まで完了した。

光触媒デバイス空気清浄機能の検証：VOC 混合標準液を建材（塗料・木部材片・床材片など混合）に散布し、経過時間変化を確認。実空間において VOC62 物質, アルデヒド類 16 物質, 合計 78 物質の 24 時間内の減少および 2 次生成を確認した。

化学物質データのライブラリの構築および装置の設計



装置関連機器全体図



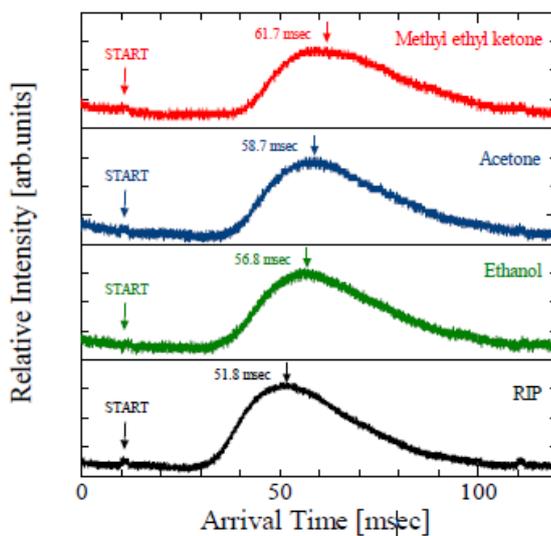
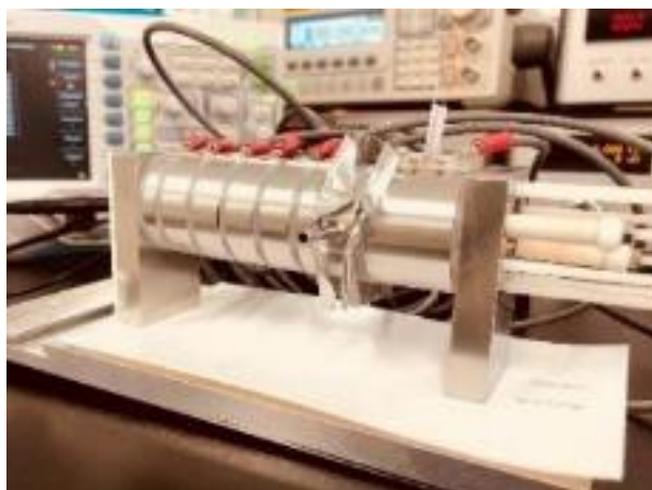
測定系・制御系電源



サンプル導入系機器

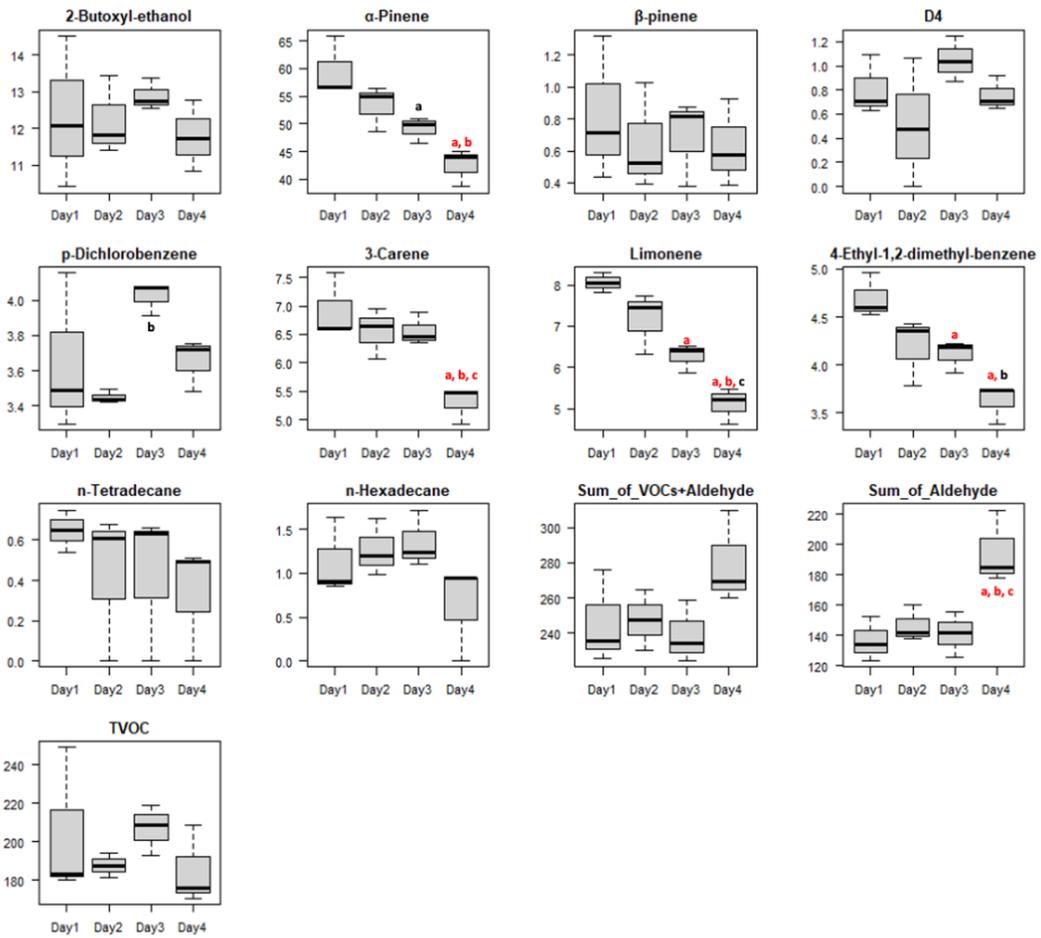


装置本体



メチルエチルケトン, アセトン, エタノールの到着時間スペクトル

## 実空間による光触媒デバイス空気清浄機能の検証



散布装置  
写真左より、ヒーター/ファン/溶液



実験棟 2階部分 平面図

(課題 9-4)

疫学調査を基盤とした住まい・近隣環境と健康に関するエビデンス強化（母子および、住環境調査疫学の参加・実施）

背景

母子疫学調査：ライフコース・アプローチにもとづいた研究のなかで、妊娠期（胎児期）から出産後の幼少期、その後の数年間の母子の住環境の健康影響に関する疫学的調査は不足している。特に、近年の児の出生体重の低下や、発育過程における精神発達障害、アレルギー疾患、母親の産後うつ、児への愛着などの問題は我が次世代育成において重要な意味があり住環境影響を解明する必要がある。

⇒そこで、課題 10 との連携を行い、住環境と健康に関するオプション調査を実施、調査基盤を整えた。

住環境調査：既存の住宅と健康影響の調査は横断研究の物が多く、さらには温度に特化したものが多い。さらには、住宅の詳細を把握するうえで質問紙によるものがほとんどの為、設備や様々な仕様に関して適切に回答を得られていない可能性があった。

⇒そこで、住宅メーカー協力のもと、自宅の建築情報を正確に把握できる住宅購入者を対象に継続した調査基盤を整えた。

成果

母子疫学調査：2023年10月末時点で、妊娠初期からのリクルート数 559 名、その内、環境調査に参加している対象者 298 名の健康に関する質問紙データおよび、住宅の環境データ（VOC, 温度, 湿度, CO2, ホコリ, 照度）を得ている。リクルートは終了し、随時、解析を進める。新規の母子疫学、自宅の環境調査基盤が構築できたといえる。

住環境調査：プレ調査を含め、既に 3 回の調査を実施した。現在までで、延べ 20000 人のデータを取得済み。現在、随時論文を執筆中。

新規の成人を対象とした自宅の環境調査基盤が構築できたといえる。

母子疫学調査、環境調査のセットアップ

子ども調査

ライフコースアプローチ

赤ちゃんが寝ている場所のアレルゲン調査にご協力ください

先着150%限定  
参加者全員に  
ハンディー掃除機  
プレゼント!

赤ちゃんが寝ている場所をハンディー掃除機で掃除してください  
夜間に寝ている場所や日中よくいるお家の中の場所のゴミを吸い取ってください

こんなところを掃除してください

赤ちゃんが寝ている場所  
ベッドやソファ、床、畳の上  
布団や布巾団、クッションの上  
など

赤ちゃんの肌に直接ふれるもの  
シーツやタオルケット、  
おくるみガーゼ  
など

## 住環境と健康に関する調査基盤の構築、およびエビデンス

住環境と健康の関係を調査、延べ4年間の継続調査の実施（OPERA終了後も継続予定）

①積水ハウス購入者向けのNOC 最大10000人を最大4年追跡



この母集団の強み

- ・単一のハウスメーカーのデータ
- ・図面情報が正確に得られる。リビングの広さ、設備、まどり(図面)



②横断調査(NET調査) 各回6000人



(課題 9-5)

### 室内環境測定装置の開発

#### 背景

従来の環境測定の多くは、既存の各種環境センサ（データロガー）装置で個別に測定・記録している。必要なセンサを集約させると、実験空間に馴染まない、かつロガー機能に不足がある。既存のメーカー品も存在するが、とりたいセンサが含まれていない、またアプリケーションの操作性などに課題があった。健康に影響する室内環境データを1台でセンシング、バンキングが行えることで、従来の疫学調査での作業コストが大幅に軽減される。

⇒そこで、疫学調査用の各種環境データ集中的に取得・記録・管理する室内環境測定装置の開発を行った。

#### 成果

健康との関連が示されている室内環境（温度、湿度、照度、気圧、騒音、VOC、PM、色温度）データが1台で取得でき、かつ、中長期的にデータがバンク出来るセンサのエンジニアリング機が完成した。データのトレンドと疾患に対する環境因子の複合的な影響の度合いが考慮されたデータ取得を可能とするセンサシステムとして、特許を出願した。

整理番号:P23-008 特願 2023-134715

## 疫学用環境センサの開発



6センチメートル角のCubicな測定装置。電源 On/Off 操作のみで室内の多様な環境データを取得します



アプリケーション  
 ・ 各種測定数値 (Current)  
 ・ 各種設定  
 ・ サンプリングレート  
 ・ Wi-Fi 設定  
 ・ グラフ表示 (簡易版)

### 主要部品

メイン基板	Wi-Fi / マイコン	ESP32-WROOM-32E
センサ基板	湿湿度	SHT31-D15
	CO2	SCD41
	VOC	SGP30
	気圧	MPL3115A2
	照度	TSL25721
	カラー	S11059-02DT
	サウンド	ICS-40180
RTC	PCF8523	
PM センサ	PM	SPS30
記録媒体	MicroSD Card	16GB
バッテリー	リチウムポリマー電池	EEMB LP653042 820mA

### 5.9.3 プロジェクト終了後の活動方針

#### プロジェクト終了後の社会実装に向けた活動方針

参画している企業の1社とは引き続き2026年まで寄附講座の設置が決まっている。また、参画している企業の1社とはプロジェクト終了後も研究を継続することが決まっている。それらの枠組みを活かし、引き続き研究成果の社会実装を行う。

9-4 で取得した各種データを基に成果が随時得られる。得られた健康に影響を与える住宅の環境について、既存のエビデンスと合わせてゼロ次予防住環境の在り方を取りまとめる。適宜、住宅メーカーと協議の上、開発検討を行い、社会実装をめざす。

例1) 住宅（リビング）の建築面積の広さやリビングの高さと精神的健康（Well-being）の関係が見えてきた。

⇒購入予定の家族に身長の高い人がいる場合や、精神的健康（Well-being）を重要視したい場合、住宅購入時の設計提案に繋がる。

例2) 新築時の化学物質濃度が高いと、シックハウス症候群を経験する。

⇒低化学物質の家を作る事で、シックハウスリスク低減に繋がる。（既に企業連携で実装済み）

母子疫学については、終了後に様々なライフステージにおけるヘルスアウトカムが発生する。それらの成果は、協力体制のある産科と連携し情報発信の中心とし、健康に寄与する環境因子低減に向けた生活スタイル/予防モデルの提案として行う。住宅での改善が可能な場合は、住宅メーカーと協議の上、開発検討を行い、社会実装をめざす。

例3) 離乳食前の児のベッド（日中過ごす場所）から、各種のアレルゲンがある事がわかり、経口暴露の前に、経皮からの暴露の可能性が示された。調理や食事の位置との関連の可能性が示唆された。

⇒児の食物アレルギー発生を予防するためのライフスタイル（児の寝ている個所から食事や調理の場を離す）等の提案。\*現時点は仮説の為、あくまで実装例として

### 5.9.4 その他

記載事項なし

## 5. 10研究開発課題 10「コミュニティに実装可能な食を中心とした健康増進プログラムの開発」

キーテクノロジー	ゼロ次予防データプラットフォーム、指標開発・評価技術
課題代表者	櫻井 健一 千葉大学 予防医学センター 教授
実施期間	令和4年4月～令和6年3月
共同研究機関	千葉大学、山田養蜂場、ニッポン、日本薬品

### 5. 10. 1 マイルストーンと達成状況

課題番号	MS番号	マイルストーン内容	達成状況
課題10-1 (旧課題6-1)	MS10-1-1	母児の糞便回収、腸内細菌叢の分析、食事内容による腸内細菌への影響を解析する。腸内細菌に関する論文(1報)。	妊娠中の母親と出生後3.5年間の児の腸内細菌叢の解析を行った。児の腸内細菌叢が成長に伴い母親(成人)に近づく結果を得た。
	MS10-1-2	小児の採血および血中マイクロRNA(miRNA)による小児疾患バイオマーカー分析。小児疾患のバイオマーカーとなるmiRNA同定(1つ)。	小児における肥満リスクと関連する臍帯血miRNAを5つ同定した。
	MS10-1-3	採取済みの臍帯および臍帯血のテロメア長の変化による小児疾患バイオマーカー分析。バイオマーカーあるいはインディケーター候補探索(1つ)。	臍帯血PCB濃度が男児において臍帯組織テロメア長と正に相関することを見出した。
	MS10-1-4	臍帯のメチレーション変異による小児疾患バイオマーカー分析。バイオマーカーとなるメチル化領域同定(1つ)。	基礎的な検討として、臍帯DNAメチル化と遺伝子多型との関連を検討中。
	MS10-1-5	人工知能(AI)を用いた出生コホートのデータ解析による小児疾患発症予想分析。予測モデル構築(1つ)。	ヒト試料(血清、尿)におけるネオニコチノイド系農薬8種類の分析系を確立した。
	MS10-1-6	高精度精密分析機器の導入による生体試料中微量環境汚染物質の分析および定量。測定可能な化学物質3種類。	ヒト試料(血清、尿)におけるネオニコチノイド系農薬の分析系を確立した。
課題10-2 (旧課題6-2)	MS10-2-1	母児の食事内容、食品、食材のデータ抽出および子供の健康状態との関連を解析。小児疾患に影響する母体因子同定(1つ)。小児疾患あるいは腸内細菌叢に影響を与える因子同定(1つ)。	妊娠中の抗生物質使用が複数の小児アレルギー疾患と関連する結果を得た。 妊娠中の母体体重増加量が児の腸内細菌叢の多様性に影響することを見出した。

課題 10-3 (旧 課題 6-3)	MS10- 3-1	消費者庁により認可された機能性食品、特に未消化性多糖類の腸管免疫系に対する寄与を解析する(2件以上)。	サケ鼻軟骨プロテオグリカン(アグリカン)、褐藻類由来フコイダンの作用メカニズムを明らかにした。
	MS10- 3-2	機能成分の特定(1件以上)と樹状細胞膜表面受容体との相互作用の解析とサイトカインネットワークの解明。(学術論文2報以上、学会発表2件以上、特許出願1件以上)	サケ鼻軟骨プロテオグリカンのL-セレクチンに対する結合を解明し、サイトカインネットワークとの関連性を解明した。(学術論文3報、学会発表4件、特許出願は現在準備中)
	MS10- 3-3	天然物、特に海洋生物由来酸性多糖類を標的として新規の機能性食品候補を探索するとともに、腸管免疫系を介した抗炎症作用経路にかかわる受容体1種以上を特定し、報文等で開示する。(学術論文2報以上、学会発表2件以上、特許出願1件以上)	チョウザメ軟骨由来プロテオグリカンの単離と構造的特徴を明らかにし、その受容体として新たにCD44を推察した。(学術論文2報、学会発表3件、特許出願1件(東京理科大学より出願))

## 5.10.2 最終目標に対する成果の詳細

(課題10-1)

### 胎児期環境因子による小児期健康影響のバイオマーカー及び予防法の探索

胎児期環境因子と子供の健康の関連について、バイオマーカー及びインディケータの探索について行った。

腸内細菌叢が健康に与える影響が注目されていることから、子供腸内細菌叢の確立過程及び母親の影響について検討した。母児の糞便回収、3歳半までの腸内細菌叢の分析を完了し、現在論文執筆中である。

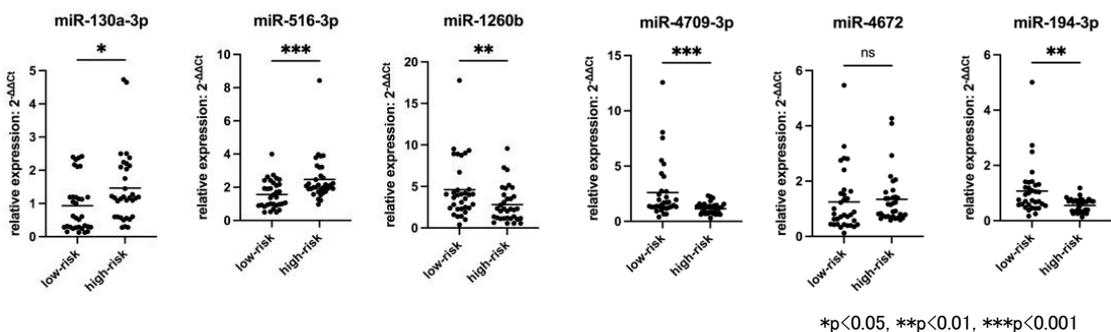


図 小児肥満と関連するマイクロRNA

小児期の健康に関連したバイオマーカーとインディケータとして臍帯血 miRNA と臍帯テロメア長を候補として検討を行った。小児肥満のバイオマーカー候補となる miRNA を5つ同定し、論文として報告した。また、臍帯テロメア長が胎児期 PCB 曝露の指標となる可能性を論文として報告した。もう一つのバイオマーカー候補である臍帯 DNA メチル化については、プロファイルの解析を完了した。DNA メチル化は遺伝子の影響も受けることから、遺伝情報との関連を解析した後に環境因子との関連を解析予定。

環境化学物質曝露(臍帯血 PCB 類の濃度)と出生時体格との関連について、機械学習を用いた解析を行いモデル構築を完了した。

LC-QToF を用いた多物質同時分析の系を確立し、出生コホート検体を用いたネオニコチノイド等の分析を開始した。

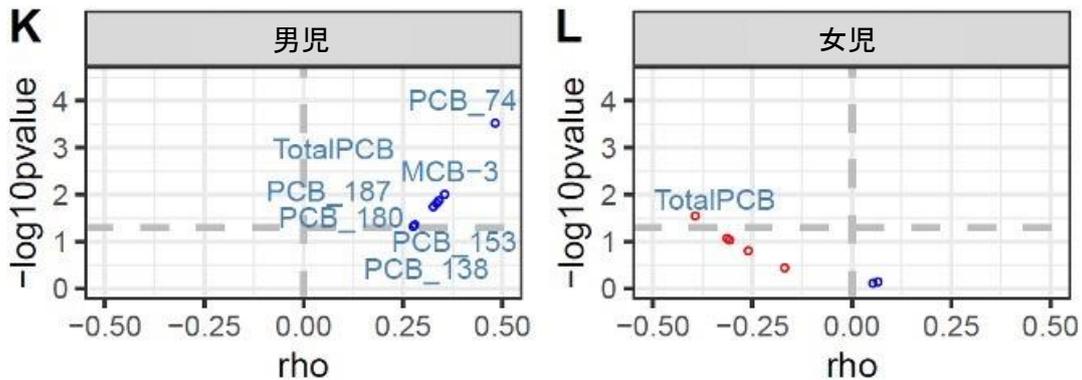


図 胎児期PCB曝露による臍帯テロメア長への影響

(課題 10-2)

小児期の健康に寄与する食事や背景因子の探索による健康な将来世代創出のためのプログラムづくり

妊娠中の母体因子と出生後の疾患との関連を明らかにすることを目的とした。最初に、妊娠中の抗生物質使用が児のアレルギー疾患に与える影響について検討したところ、妊娠中の母体因子として抗生物質使用によりいくつかのアレルギー疾患発症が増えることが明らかとなり論文として報告した。その後、この関連に対する妊娠中の栄養摂取による影響の解析を行っている。

父親の環境因子が生まれてくる子供の健康に影響を与えることが報告されているが、大規模なコホート調査による検討はあまりない、そこで、父親因子として精神的ストレスの児のアレルギー疾患に与える影響を解析した。

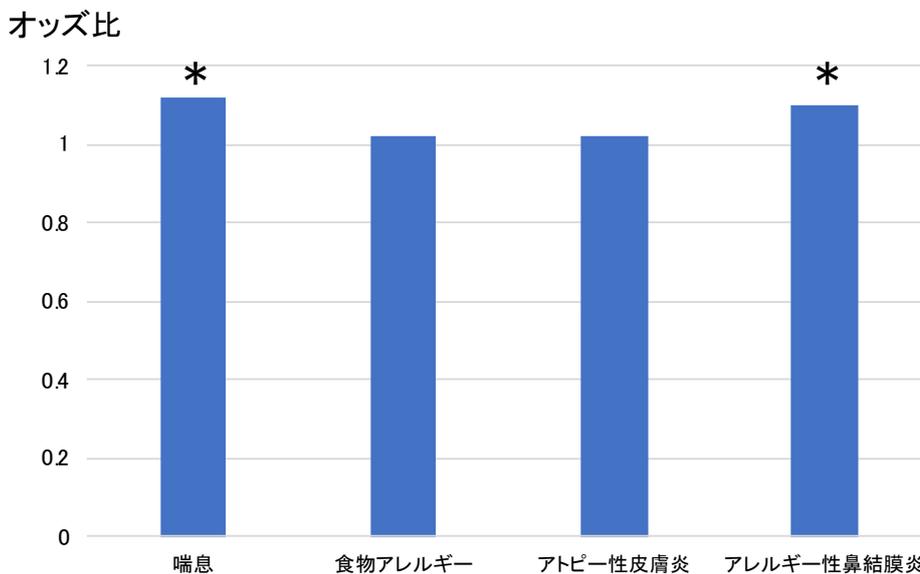


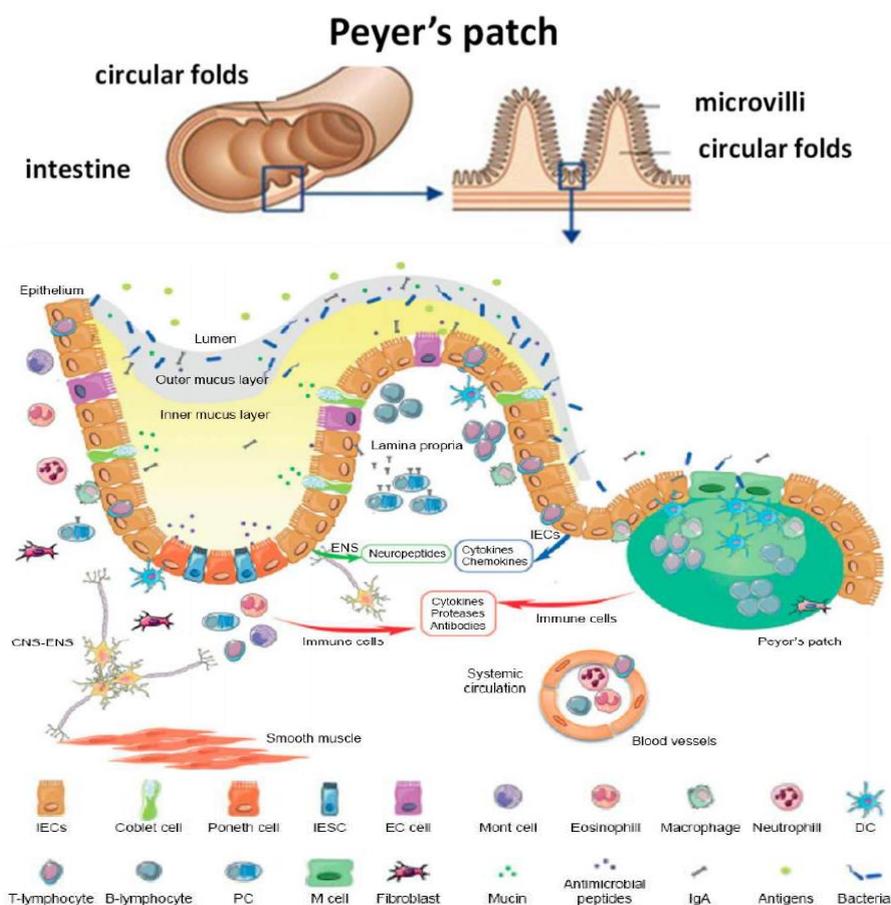
図 妊娠中抗生物質曝露による小児期アレルギー疾患のリスク(オッズ比)

\*: p < 0.05

(課題 10-3)

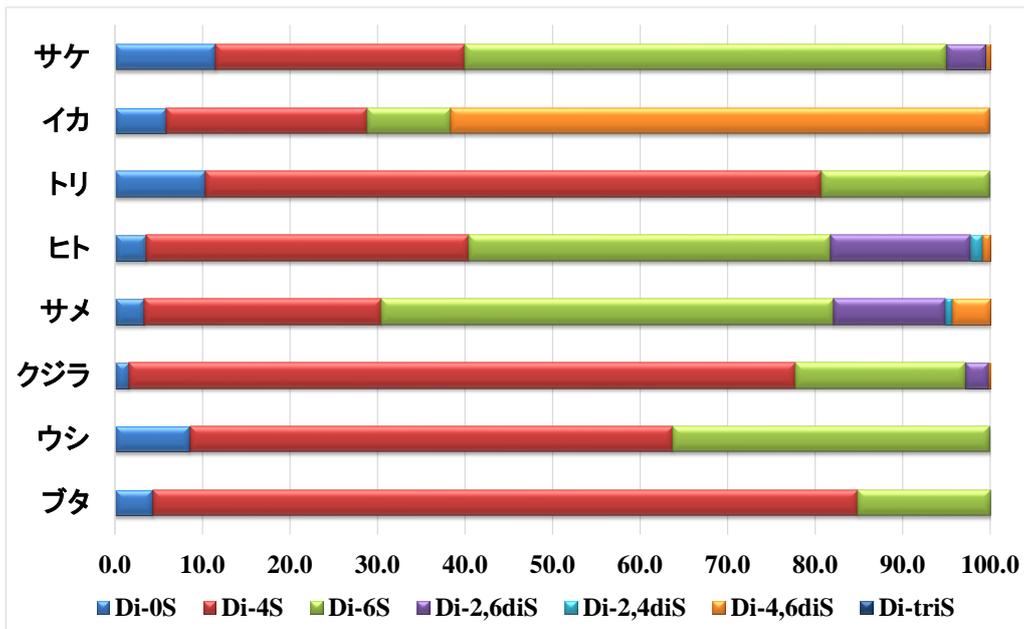
### 機能性食品を活用したセルフメディケーションを基盤とする健康な社会の構築

これまで市場に出ている、いわゆる「健康食品」と称される食品群は、近年、その機能性を目安として、栄養機能食品、特別用途食品、特定保健用食品に分類され、国や自治体による許可、認証、認可を受けて市販され、国民の健康を支えている。しかしながら、食品の機能性の評価法については、摂取前後の使用感に関する主観的なアンケート結果が用いられる場合が多く、客観的な科学的な機能性の評価法の確立が求められている。体内への取り込みを前提とする補給栄養食品の場合は、医薬品と同様血液中への取り込みや、尿中への排泄、代謝物の同定など、これまで得られた客観性の高い評価法が存在するが、消化管での吸収が期待できない難消化性化合物を含む食品の場合、腸管免疫系に対する作用メカニズムが予想される【図1】ものの、具体的な機能性評価法に関しては暗中模索の状態といっても過言ではない。



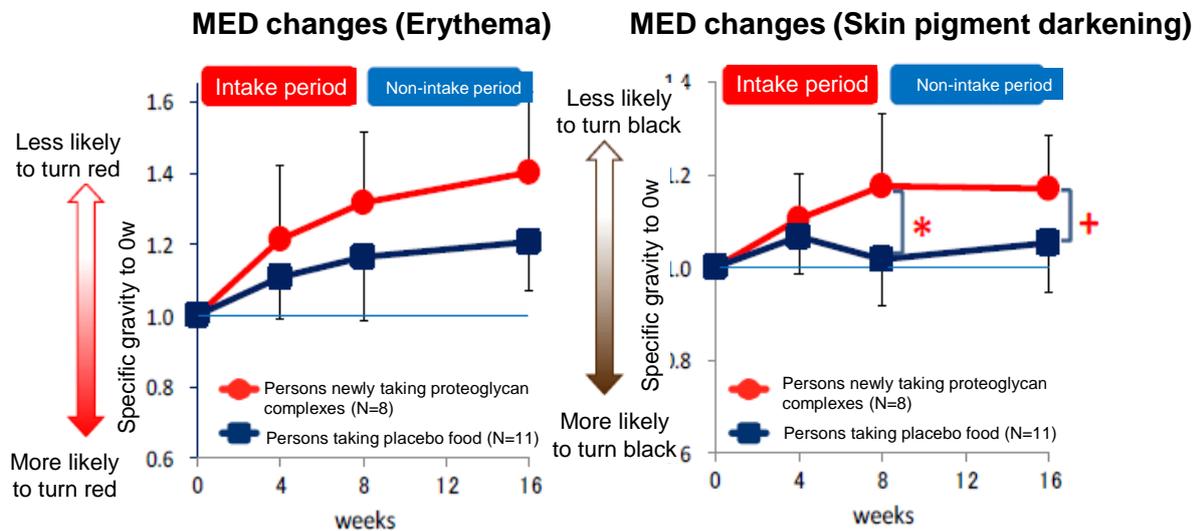
【図1】腸管免疫系における多糖類の作用メカニズム

そこで、本プロジェクトでは、腸管免疫系における最初の関門である樹状細胞、マクロファージの細胞膜表面上に存在する各種受容体のうち、糖鎖に対する受容体に焦点を当て、市販されている機能性表示食品成分との結合性や、相互作用の意味について追及した。その結果、新たに変形性関節症に対する効果が期待されるヒト軟骨成分との類似性を精査し、機能性食品としての可能性を示唆した【図2】。



【図2】動物軟骨コンドロイチン硫酸組成のヒトとの比較

またこれまで消化管における吸収の有無が議論の争点であった難消化性多糖類に対する受容体を3種同定し、その作用メカニズムを解明した。またサケ鼻軟骨プロテオグリカンのヒト皮膚に対する機能性を新たに見出した【図3】。これらの知見を公表することにより、消費者が食品の機能性を正しく理解するための道筋を構築することができた。



【図3】サケ鼻軟骨プロテオグリカンのヒト皮膚に「タイする機能性

### 5.10.3 プロジェクト終了後の活動方針

課題10では「食」をキーワードとしながら、ライフコースの始まりである胎児期から小児期の健康と環境因子との関連について研究を進めている。

疾患リスクバイオマーカーを確立した上で、社会実装し肥満の予防プログラムへ応用する

本プロジェクトの結果は現在の胎児が置かれている化学物質曝露の状況を示しており、研究成果を社会に広めることで胎児期からの化学物質曝露を減らす方策を考える一助にしたい。

疾患リスクを上昇させる胎児期環境因子が明らかとなってきたので、栄養によるリスクの低減を目指して研究を進めるとともに、妊娠中の母親を対象として、生まれてくる子供の健康を標的とした食品を参加企業と共同開発することを目指す。

ライフコースを通し健康に寄与する食品の開発及び普及(手に入りうる環境の整備)を目指し、自然に健康になる環境づくりに貢献したい。

本研究課題で収集した出生コホートのデータを基盤としたデータバンクを学内及び学外(企業を含む)との共同研究に活用できるように整備する。データ基盤をカタログ化することによりオープンにすることで社会へ還元する。

機能性表示が許可されたいわゆる「健康食品」は、消費者庁が公開するデータベースによると約3000を超える品目が市販されている。今回のプロジェクトでは、これらのうちの一部の難消化性多糖類について、腸管免疫系における動態とその作用メカニズムについて明らかにすることができたものの、すべての機能性食品について、機能性評価法を基礎としたセルフメディケーション確立への道程は、まだまだ長いものと予想される。しかしながら、今回得られた成果は、本プロジェクトの開始時に掲げた「健康社会の構築」の一助となることは確認できたので、今後の発展を期待し進めていきたい。

### 5.10.4 その他

千葉県における「健康ちば21」の計画策定に当課題代表者が参画し、「自然に健康になれるまち」というコンセプトを当該計画に組み込むこととなった。令和6年度以降の「健康ちば21」実行計画についても千葉県に協力することとなった。

## 5. 11研究開発課題 11 「健康コミュニティの評価システムの構築」

キーテクノロジー	ゼロ次予防デザイン・実装技術、ゼロ次予防データプラットフォーム
課題代表者	近藤 克則 千葉大学 予防医学センター 教授
実施期間	令和4年11月～令和6年3月
共同研究機関	千葉大学、京都大学、日本福祉大学、国立長寿医療研究センター、三井不動産、野村不動産、積水ハウス、パシフィックコンサルタンツ、ネスレ日本、アマタホールディングス、ヤマハ発動機、トーテックアメニティ、NTT ドコモ、日本電気、岩渕薬品、リアルワールドゲームス、エーテンラボ

### 5. 11. 1 マイルストーンと達成状況

課題番号	MS番号	マイルストーン内容	達成状況
課題 11-1	MS11-1-1	WACo づくりに向けたデザインを行い、ロジックモデルを9つ以上作成していること	ヤマハ発動機、AMITA、三井不動産、野村不動産、docomo、TOTEK、ネスレ、リソルの森、パシフィックコンサルタンツの9社の取り組みに対する評価事例を蓄積できた。課題7.8と共同して、積水ハウスとも、2つのロジックモデルを作成した。R05年度より参画した企業（リアルワールドゲームス、エーテンラボ、岩渕薬品株式会社）のロジックモデルも作成した。 ロジックモデルは9つ以上、構築済。
	MS11-1-2	データ収集・結合、健康への効果検証事例を9つ以上蓄積すること	データ収集・結合、健康への効果検証事例を9つ以上蓄積済。
課題 11-2 (旧課題 5-1)	MS11-2-1	健康寿命の喪失をもたらす環境要因を探索するための分析用大規模データセットが構築されていること。20以上の市町村を対象とし、横断データ(延べ10万人以上)と縦断データ(5万人以上)とする。	新たに収集した約75市町村の約34.9万人の高齢者を対象にした郵送調査(日本老年学的評価研究:JAGES)により得られた約22.6万人(回収率:63.4%)、自治体から得られる要介護認定・賦課データ(要介護認定・死亡・転出などがわかる情報)のデータについて個人を非識別化した上でデータプラットフォームに結合拡張し、新たなゼロ次予防の評価に資するデータプラットフォームを作成した。

	MS11-2-2	分析用大規模データセットを活用して、異種混合学習技術による探索的な解析による要介護認定・認知症発症・死亡などのアウトカムの予測モデルが作成できていること。70,000人以上縦断追跡データの400以上の変数を対象とする。	分析用大規模データセットを活用して、探索的な解析による要介護認定・認知症発症・死亡などのアウトカムの予測モデルを作成した。
	MS11-2-3	安全なデータ活用の実現の妨げと成り得る規制・制度面の課題を整理し、課題解決に必要な要件が整理されていること。データ匿名化ソリューションによるセキュアなデータ活用手法の確立として3以上の視点から評価する。	安全なデータ活用の実現の妨げと成り得る規制・制度面の課題、解決に必要な要件を整理した。データ匿名化ソリューションによるセキュアなデータ活用手法を確立した。
	MS11-2-4	共同研究対象自治体と協定を締結し、60超の市町村において20万人以上の高齢者を対象にした郵送調査を行うこと	75市町村と共同研究協定を締結し、約34.9万人の高齢者を対象にした郵送調査（日本老年学的評価研究：JAGES）を実施した。
	MS11-2-5	共同研究協定を締結した自治体において、協定書に沿ったデータ収集が実施でき、400以上の変数を持つデータプラットフォームを開発していること。	収集したデータには、外部環境（インプット）、健康行動（アウトプット）、要介護認定など（アウトカム）400以上の変数を含んでいる。
課題 11-3 (旧 課題 5-2, 5-3)	MS11-3-1	地域環境や空間デザインが健康に与える影響を評価するツール（以下、評価ツール）の開発に必要なデータの整備を行っていること。また、モデルに投入する地域環境変数の候補を5以上定める。	地域環境や空間デザインが健康に与える影響を評価するツール（以下、評価ツール）の開発に必要なデータの整備を行った。また、モデルに投入する地域環境変数の候補を5以上定めた。
	MS11-3-2	上記で整備したデータをもとに、評価ツールが開発されていること。	上記で整備したデータを元に評価ツール（（要支援・要介護リスク評価尺度）も開発した。
	MS11-3-3	評価ツールを活用し、分析・評価が行われていること。	評価ツール（要支援・要介護リスク評価尺度など）を活用し、分析・評価を実施した。 堺市、岡山市、豊田市のPFSの第三者評価を受託するなどの実績をあげた。
	MS11-3-4	健康寿命の喪失をもたらす環境要因との関連を5つ以上明らかにし、評価事例が複数になっていること	課題11-2の高齢者の健康と暮らしに関するJAGESデータや企業と共に収集した変数を説明変数に、要介護認定や認知症、Well-beingをエンドポイントとし、ゼロ次予防に資する環境要因

			などとの関連を 5 つ以上明らかにした。
	MS11-3-5	評価事例が 9 つ以上になっていること	ロジックモデルに基づき、各企業の WACo づくりにおけるデータ収集・結合、健康への効果検証事例は 9 つ以上になった。

## 5.11.2 最終目標に対する成果の詳細

(課題 11-1)

### Well Active Community (WACo) の共創と評価システム開発

Well Active Community (WACo) に資するサービスなどを各企業と共創し、作成したロジックモデルに基づく効果の評価システムを開発した。各企業との取組の概要を以下にまとめる。

以降、成果の詳細は WACo プロジェクトレポートより転載

※WACo -Well Active Community プロジェクトレポートは、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA) 「ゼロ次予防戦略による Well Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装」2018-2024 の研究成果を元に令和 6 年 3 月 26 日発行され、HP 上で公開されている。

テーマ

# 5

## 健康コミュニティの評価システムの構築

健康コミュニティ (Well Active Community: WACo) づくりには、それを意図した取り組みのwell-being (幸福・健康) 向上効果を評価検証をしPDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを回すことが必要である。効果評価には、1) 介入から成果に至るロジックモデル作成、2) 対照群と介入群とで介入前後の変化を比較できる評価研究デザイン、3) データ収集とデータベース構築、4) 指標の開発、5) 評価分析などのプロセスがあり、それぞれについて、開発・事例蓄積・手順の定式化などを経て、これらのプロセスから成る評価システムの構築が期待される。そこで、以下で紹介する企業が提供するサービス・事業による健康コミュニティづくりのwell-being (幸福・健康) 向上効果検証に取り組み、事例を蓄積し、定式化を図ることを目的とした。

# 30

## 柏の葉キャンパスエリアに暮らしていると健康か？

キーワード

健康なまちづくり／公民学連携／ウォーカブル

関連企業

三井不動産株式会社

三井不動産株式会社と千葉大学予防医学センター（以下、「千葉大学」）は2021年より3年間の共同研究で、「柏の葉キャンパスエリア（以下、柏の葉エリア）の居住者の心身の健康評価」に取り組みました。その目的は、(1) 柏の葉に住んでいる高齢者は心身ともに健康・幸せなのか、(2) 近隣環境のハード面（公園など）とソフト面（人とのつながり）の相互関連を検証し、全世代にわたって暮らしているだけで幸せになるまちづくりの要因を明らかにすることにしました。

柏の葉エリアは、「全世代が健やかに安心して暮らせる

街」をコンセプトに掲げ、官民学が連携する「あ・し・た」健康研究所の運営や「ウォーカブルな街づくり」、「幸福感が高いまち」をめざし、その結果、社会保障費が適正されることが期待されていました。

ロジックモデル（図1）を作成しこれに沿って、2つの環境（ハードとソフト）と健康・幸せとの関連を検証するために7つの調査を行い、13の知見をまとめて6つの学術的な成果発表<sup>\*1</sup>を行いました。

### 主な評価結果

- 1 柏の葉は公園や歩道、魅力的な景色や建物が多く、居心地の良い場所は公園や水辺空間
- 2 柏の葉の高齢者は柏市内の他エリアに居住する高齢者と比較して、身体活動（歩いて買い物など）や幸福感が高く、9年後の社会関係（友人と会う頻度、地域愛着）、学習教養サークルへの参加、地域愛着が多く、メンタルヘルスが良かった
- 3 柏の葉で活動・グループに参加している者では孤立リスクが低く、ソーシャルネットワークシステムで情報提供すると人生満足度は増加する傾向にあった
- 4 柏の葉に住む高齢者の要支援・要介護認定率は全国169エリアの中で第3位、市内の他エリアに住む高齢者と比べて9年間の健康寿命喪失リスクが低かった。

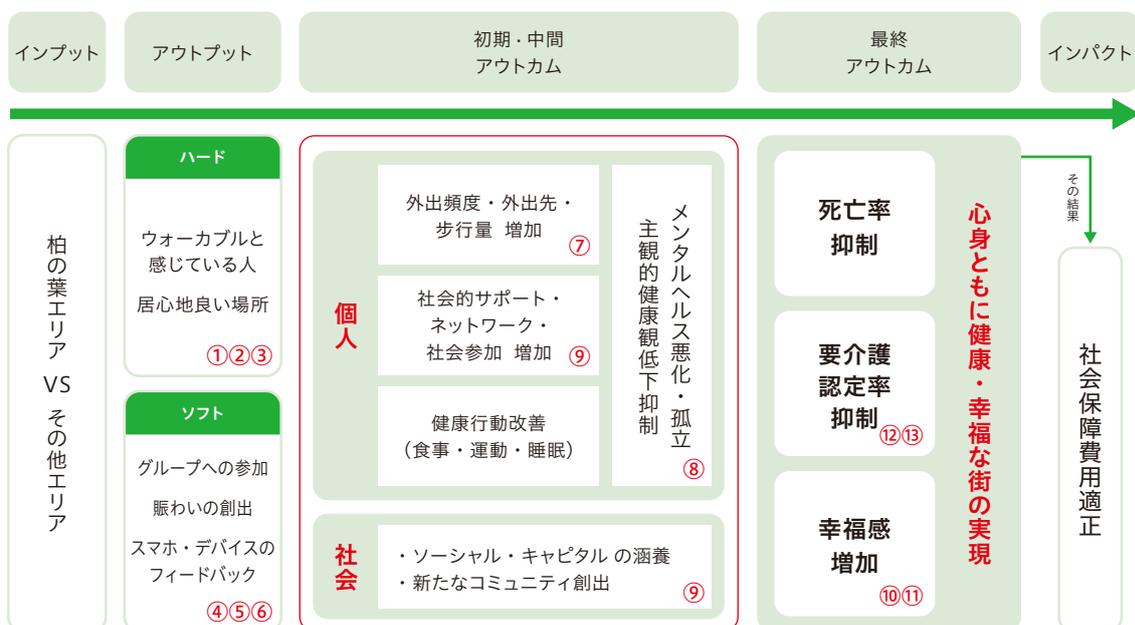


図1 評価ロジックモデル



知見番号	調査番号・方法（青字：縦断研究）	学会発表
①	A. 2013年 横断研究高齢者 4,691人（柏の葉 102人）	Chenら、2024、社会関係学会
②	A. 2013年 横断研究高齢者 4,691人（柏の葉 102人）	Chenら、2024、社会関係学会
③	B. 2022年 横断研究柏の葉成人 306人 990件	Chenら、2023、社会関係学会
④	C. 2022年 横断研究 柏の葉成人 433人	近藤ら、2024、日本疫学会
⑤	C. 2022年 横断研究 柏の葉成人 433人	近藤ら、2024、日本疫学会
⑥	<b>D. 2022年 ランダム化比較試験柏の葉成人 358人</b>	中込ら、2024、日本疫学会
⑦	A. 2013年 横断研究高齢者 4,691人（柏の葉 102人）	Chenら、2024、社会関係学会
⑧	<b>E. 2013-2022年 縦断研究高齢者 1,340人（柏の葉 71人）</b>	Chenら、2024、日本疫学会
⑨	<b>E. 2013-2022年 縦断研究高齢者 1,340人（柏の葉 71人）</b>	Chenら、2024、日本疫学会
⑩	A. 2013年 横断研究高齢者 4,691人（柏の葉 102人）	Chenら、2024、社会関係学会
⑪	B. 2022年 横断研究柏の葉成人 306人 990件	Chenら、2023、社会関係学会
⑫	<b>F. 2013-2019 JAGES 全国コホートデータ 169エリア</b>	Chenら、2024、社会関係学会
⑬	<b>G. 2013-2022年 縦断研究高齢者 4,470人（柏の葉 118人）</b>	井手ら、2024、日本疫学会

※1 共同研究における調査分析と学会発表の一覧表

### 関連した学会発表

- 1) Yu-Ru Chen, 花里真道, 中込敦士, 阿部紀之, 井手一茂, 川崎洋平, 近藤克則. サードプレイスと Well-being との関連—スマートフォンアプリを用いた調査. 日本社会関係学会第3回研究大会（千葉県千葉大学）. 2023年3月19日口頭発表.
- 2) 井手一茂, 陳昱儒, 小林周平, 花里真道, 中込敦士, 近藤克則. 柏の葉エリアの高齢者は健康長寿か? : JAGES 柏市 2013-2022 縦断研究. 第34回日本疫学会学術総会（滋賀）. 2024年2月2日ポスター発表.
- 3) 近藤克則, Yu-Ru Chen, 井手一茂, 中込敦士, 小林周平, 花里真道. 参加型の健康づくり拠点「あ・し・た」の会員は社会参加しているか?. 第34回日本疫学会学術総会（滋賀）. 2024年2月2日ポスター発表.
- 4) 中込敦士, 阿部紀之, Yu-ru Chen, 井手一茂, 小林周平, 花里真道, 近藤克則. SNSによる情報発信によるウェルビーイング向上は可能か? ランダム化比較試験. 第34回日本疫学会学術総会（滋賀）. 2024年2月2日ポスター発表.
- 5) Yu-Ru Chen, 井手一茂, 小林周平, 花里真道, 中込敦士, 近藤克則. 柏市柏の葉に居住する高齢者と健康・ウェルビーイング: 2013-2022 縦断研究. 第34回日本疫学会学術総会（滋賀）. 2024年2月2日ポスター発表.
- 6) Yu-Ru Chen, 小林周平, 中込敦士, 井手一茂, 阿部紀之, 花里真道, 近藤克則. 社会関係が豊かなまちづくり: 柏の葉プロジェクト. 日本社会関係学会第4回研究大会（日本大学経済学部）. 2024年3月19日～21日ポスター発表.

# 31

## サービス付き高齢者向け住宅入居者で 要介護リスク低減

キーワード

サービス付き高齢者住宅／社会参加／傾向スコアマッチング／要支援・要介護リスク評価尺度

関連企業

野村不動産株式会社、野村不動産ウェルネス株式会社

身体活動や社会活動の多い高齢者で、要介護リスクが低下することが知られています。身体活動や社会活動を促すサービスを提供するサービス付き高齢者向け住宅（以下、サ高住）に暮らす高齢者の要介護リスクを明らかにするため、野村不動産ウェルネスが運営するサ高住「オウカス」でアンケート調査を実施しました。サ高住入居者と地域一般高齢者の背景要因を揃えた上で比較検証を行った結果、サ高住入居者は、地域一般高齢者に比べてグループ活動（スポーツ、趣味活動、学習教養）に週1回以上参加する割合が高く、1年間の追跡後、要介護リスクが低下していました。

### ① サ高住入居者と地域一般高齢者の社会参加の比較<sup>1)</sup>

サ高住入居者と日本老年学的評価研究（JAGES）調査<sup>※1</sup>の回答者（地域一般高齢者）の社会参加の割合を、傾向スコアマッチング法という方法で16の背景要因を揃えた上で比較しました。サ高住入居者（143人）は地域一般高齢者（398人）よりも、グループ活動（スポーツ、趣味活動、学習教養）に週1回以上参加する人の割合がそれぞれ2.57倍、1.62倍、4.37倍高いという結果でした。サ高住入居者は積極的に社会活動へ取り組んでいることがわかりました。

### ② サ高住入居者と地域一般高齢者の1年間の要介護リスク変化の比較<sup>2)</sup>

サ高住入居者と地域一般高齢者を追跡し、1年後の要介護リスクの変化を比較しました。傾向スコアマッチング法などで12の背景要因を揃えた上で、1年後の要支援・要介護リスク評価尺度<sup>※2</sup>と基本チェックリストの点数<sup>※3</sup>を比較しました。その結果、サ高住入居者（160人）は地域一般高齢者（2,202人）よりも、要支援・要介護リスク評価尺度は約0.8点、基本チェックリストは約0.3点低下していました。身体活動や社会活動を促すサービスを提供するサ高住に暮らすことは、要介護リスクが低下する可能性が示唆されました。

### 関連して出版された文献

- 1) 河口謙二郎，上野貴之，井手一茂，近藤克則．サービス付き高齢者向け住宅入居者の社会参加：傾向スコア法での JAGES データとの比較，第 81 回日本公衆衛生学会，YCC 県民文化ホール，山梨，2022 年 10 月 7 日発表済
- 2) 河口謙二郎，上野貴之，井手一茂，近藤克則．サービス付き高齢者向け住宅入居者が要介護リスクに及ぼす影響：1 年間の縦断分析，第 64 回日本社会医学学会総会，早稲田大学国際会議場，東京，2023 年 7 月 29 日発表済

### 注釈

- ※1 要支援・要介護認定を受けていない 65 歳以上を対象とした大規模な社会疫学調査
- ※2 基本チェックリストに含まれる 10 項目と性、年齢を加えた合計 12 項目を使って、3 年以内に新しく要支援・要介護認定を受けるリスクを 0-48 点で評価する方法です。この点数が低いほど介護が必要になるリスクが低いことを意味します。  
Tsuji T et al. Development of a risk assessment scale predicting incident functional disability among older people: Japan Gerontological Evaluation Study. *Geriatrics & Gerontology International* 18(10): 1433-1438, 2018.
- ※3 基本チェックリストは、近い将来介護が必要なハイリスク高齢者を同定するために厚生労働省が作成されたリストです。リストは全部で 25 の質問から成り立っており、日常生活関連動作、運動器、低栄養状態、口腔機能、閉じこもり、認知機能、抑うつ気分という 7 領域から構成されます。フレイルの評価指標としてよく用いられ、今回、うつに関する項目を除いた 20 項目を用いて 0-20 点で評価しました。点数が低いほど、介護が必要になるリスクも低いことを意味します。Kamegaya T et al. Evaluation by the Basic Checklist and the risk of 3 years incident long-term care insurance certification. *Journal of General and Family Medicine*, 18(5): 230-236, 2017.

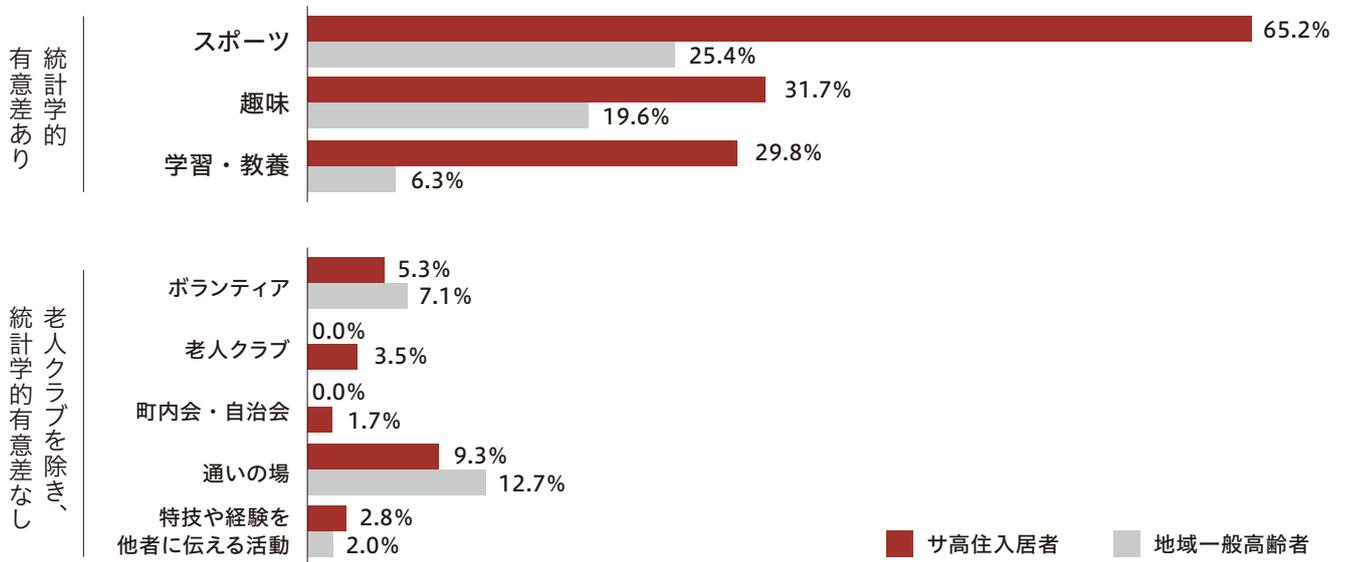


図1 サービス付き高齢者向け住宅入居者と地域一般高齢者のグループ活動参加割合の比較

## 1年間の要介護リスクの変化

サ高住入居者は、地域高齢者に比べて、  
要支援・要介護リスク評価尺度が約0.8点、基本チェックリストが0.3点有意に低下した

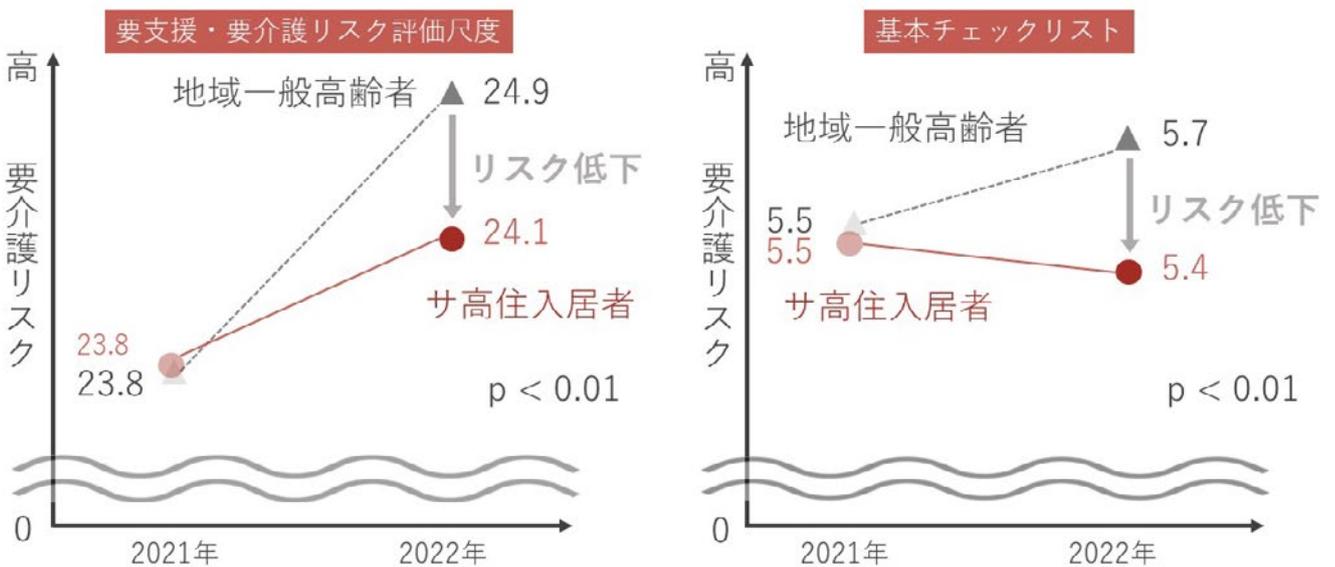


図2 サービス付き高齢者向け住宅入居者と地域一般高齢の1年間の要介護リスク変化の比較

# 32

## サービス付き高齢者向け住宅入居者の well-being

傾向スコアマッチング法での JAGES データとの比較

キーワード

幸福感／身体的健康／共食／社会参加

関連企業

積水ハウスグループ 「グランドマスト」

高齢者の健康と well-being（健康・幸福）の向上を目的とする高齢者に優しい都市・コミュニティ（Age-Friendly Cities and Communities）づくりにおいて、住宅は重要な要素です。本研究では、サービス付き高齢者向け住宅（以下、サ高住）の入居者と地域高齢者との間で well-being を比較し、サ高住入居と well-being の関連及び well-being と関連するサ高住の要因を明らかにすることを目的としました。

2023 年 2～3 月に、東京都など全国 9 都道府県にある積水ハウスグループのサ高住「グランドマスト」の 39 施設の入居者約 1,700 人に対して自記式質問紙法による調査を実施しました。分析対象者は 1,102 人でした。地域高齢者は、日本老年学的評価研究（JAGES：Japan Gerontological Evaluation Study）の 2022 年度の調査データを用いました（ $n = 31,072$ ）。傾向スコアマッチング後、サ高住の入居者（ $n = 830$ ）と地域高齢者（ $n = 5,810$ ）を比較しました<sup>1)</sup>。12 項目の well-being 指標を比較した結果、地域高齢者と比べて、サ高住の入居者では幸福感や生活満足度、人

生満足度、身体的な健康状態、経済の安定、生活の安全という 6 つの指標が良いことがわかりました。この差は、統計学的に誤差とは考えにくいほどのものでした。一方で、生きがいの平均点は低いという結果でした。Well-being 指標と関連する要因の比較では、地域高齢者と比べて、サ高住の入居者において、週に 5 回以上外出する人、週に 4 回以上友人と会う人、月に 1 回以上体操教室・通いの場に参加する人、週に 1 回以上他の人と一緒に食事する人が多いという結果でした。本研究と今までの他の研究の知見から、サ高住において、入居者の外出や友人・知人との交流を促進したり、食堂での共食機会を増やしたりする取組が入居者の well-being を向上させる上で有用である可能性が示されました。

### 関連した学会発表

- 1) 王鶴群, 河口謙二郎, LINGLING, 近藤克則. サービス付き高齢者向け住宅入居者の well-being: 傾向スコアマッチング法での JAGES データとの比較. 日本社会関係学会第 4 回研究大会. 2024, 最優秀報告賞受賞



# 42

## 「健康支援型」道の駅によるゼロ次予防のまちづくり

キーワード

建造環境／道の駅／ゼロ次予防

関連企業

パシフィックコンサルタンツ株式会社

千葉県睦沢町では、健康を意識せずとも「暮らしているだけで健康になる」まちづくりによって主観的健康感の向上を目指す、先進予防型まちづくりに取り組んでいます。

この先進予防型まちづくりの中核拠点として、既存の道の駅を移転拡張し、「健康支援型」の道の駅、「むつざわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷」が2019年度にオープンしました。この道の駅は、「外出の機会」や「人と会うこと」が主観的健康感向上や認知症リスク低下などに寄与するといった健康増進や介護予防など、心身の健康に関するさまざまなエビデンスを参考にしてパシフィックコンサルタンツ株式会社が設計・運営しています(図1)。

道の駅の拡張移転(2019年度)前後に千葉県睦沢町で要介護認定を受けていない高齢者全員を対象として実施した調査データを分析し、道の駅設置と住民の健康行動・健康の変化について検証しました。

その結果、道の駅移転約1年後に町の高齢者の59.8%が道の駅を月に1回以上利用していました。道の駅利用者は、移転約2年後(2021年度)の外出頻度が非利用者の約2倍増加していました<sup>2)</sup>。また、道の駅の利用者は参加している組織

数や地域への愛着、友人知人と会う頻度などといったソーシャル・キャピタルが増加していることがわかりました<sup>3)</sup>。さらに、利用者は非利用者よりも主観的健康感の不良者が約33%少なくなっていました。

この研究によって、道の駅のような複合商業施設が、外出や人と出会うきっかけとなり、道の駅が「自然に健康になれる環境」になりうることを示唆されました。今後、より長期間の追跡によって、「健康支援型」道の駅の利用が死亡や要介護認定、認知症の抑制に関連しうるかを分析し、健康との関連を検証していきます。

### 関連して出版された文献

- 1) 熊澤大輔, 田村元樹, 井手一茂, 中込敦士, 近藤克則. 「健康支援型」道の駅の利用と主観的健康感: 3 時点パネルデータを用いた縦断研究. 日本公衆衛生雑誌 70 (10), 699-707, 2023

### 関連した学会発表

- 2) 熊澤大輔, 田村元樹, 井手一茂, 近藤克則. 高齢者における道の駅利用と外出頻度の関連: 道の駅開設前後の縦断研究. 第 33 回日本疫学会学術総会. 2023
- 3) 熊澤大輔, 田村元樹, 井手一茂, 近藤克則. 道の駅利用とソーシャル・キャピタル関連指標の関連: 3 年間の縦断研究. 日本社会関係学会第 3 回研究大会. 2023

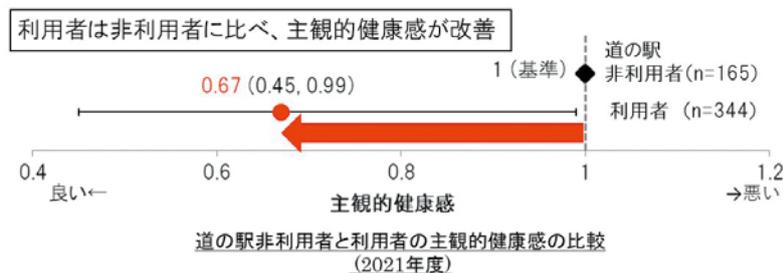


図1

# 40

## 喫茶習慣が社会的健康に寄与するか

キーワード

コーヒー摂取、緑茶摂取、社会参加

関連企業

ネスレ日本株式会社

本邦では介護予防に資する活動として「通いの場づくり」を積極的に展開しています。厚生労働省は「通いの場」とは、地域の住民同士が気軽に集い、一緒に活動内容を企画し、ふれあいを通して「生きがいづくり」「仲間づくり」の輪を広げる場所としています。多種多様な通いの場で実施するプログラムの中でも「お茶やおしゃべり」は実施率が高く人気のある内容であることがわかっています。

そこで、コミュニケーションのきっかけ、円滑な会話などのきっかけとなる緑茶やコーヒーなどの飲み物の利用や喫茶習慣が社会的健康に寄与するのかネスレ日本株式会社との共同研究で検証しました。

本研究は、1自治体における74歳以上の要介護認定を受けていない地域在住高齢者を対象に2019年に実施した「健康とくらしの調査」および「簡易型自記式食事歴法質問票」の回答者1,228人（女性49.2%、年齢79.8歳±4.4歳）を対象としました。目的変数は、社会参加（スポーツの会、趣味の会、ボランティア、学習・教養サークル、特技経験伝達、老

人クラブ、町内会・自治会、通いの場のうち月1回以上の頻度で一つ以上に参加）とし、説明変数は緑茶とコーヒー摂取量を四分位にしました。その結果、社会参加者は697人（56.8%）であり、コーヒー摂取量が少ない者と比較して摂取量が多い者では社会参加者が多いことがわかりました（IRR1.29、 $p=0.046$ ）。一方、緑茶では、社会参加との関連は示されませんでした。

本研究の結果、コーヒーの利用が多い者は社会的健康の一つの指標である社会参加と関連していることがわかりました。しかし、本研究は74歳以上に限定されていること、1自治体だけの結果であることから、多地域の65歳以上の高齢者に対象を広げて緑茶やコーヒーの利用と社会的健康との関連を追加検討しています。

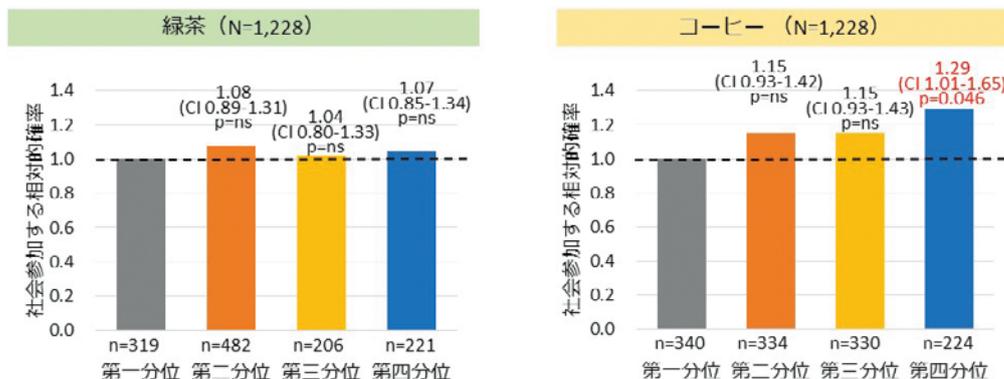
### 関連した学会発表

1) 横山芽衣子, 方恩知, 飯塚玄明, 福島洋一, 原田大輔, 近藤克則. 社会参加はコーヒーや緑茶の摂取量を増やすのか: JAGES 横断研究. 第75回日本栄養・食糧学会大会, 2021

## 社会参加と緑茶・コーヒー摂取との関連

修正ポアソン回帰分析、目的変数：社会参加の有無（月1回以上）

調整変数：性、年齢、等価所得、教育歴、独居状況、婚姻状況、喫煙、飲酒、歩行時間、外出頻度、BMI、主観的健康感、治療中の疾患の有無、うつ、就労



- ・緑茶の摂取量は社会参加とは関連がなかった。
- ・コーヒーの摂取量が第一分位と比較して第四分位（平均 473mL）では、社会参加をする者が約 1.3 倍多い。

## コーヒー利用の多い者は社会参加が約 1.3 倍多い

# 41

## 互助コミュニティ型資源回収ステーションによる 介護予防効果の検証

キーワード

資源回収／社会参加／介護予防

関連企業

アマタホールディングス株式会社

資源の分別、回収による資源循環とともに地域住民同士の交流を図る互助コミュニティ型資源回収ステーション（MEGURU STATION®）の開発にアマタホールディングス株式会社が取り組んでいます。MEGURU STATION®における地域住民同士の交流とは、運営ボランティアとしての参加によって多世代交流が生まれたり、生ゴミからできた液肥を利用した農産物生産の住民同士のお裾分けなどの交流が生まれたりする効果が期待されています。MEGURU STATION®の設置がソーシャルキャピタルを醸成し、健康なまちづくりと社会保障費の抑制につながるというロジックモデル（図1）を設定し、この取り組みを検証しています。奈良県生駒市（2020年11月設置）、福岡県大刀洗町（本郷地区：2022年2月設置、大堰地区：2022年9月設置）におけるMEGURU STATION®の設置前後の調査を実施し、分析しました。

生駒市（2020年11月設置）における追跡調査では、MEGURU STATION®利用群で、設置半年後に地域活動に参加する機会や幸せ・明るい気持ちや将来の楽しみを感じる機会が増えたことが確認できました<sup>1)</sup>。さらに、設置一年半後の追跡により、3年以内の要支援・認定、介護給付費の予測力をもつ要

支援・要介護リスク点数（Tsuji T, 2018）が男性の利用群で低いことがわかりました<sup>2)</sup>。また、大刀洗町本郷地区（2022年2月設置）における半年後の追跡調査では、利用群全体でも要支援・要介護リスク点数が低いことがわかりました<sup>3)</sup>。これらのことから、MEGURU STATION®設置をきっかけとして自然に地域交流が促進され、利用者の要支援・要介護リスクの低下が示唆されました。

今後さらなる分析として、大刀洗町本郷地区での設置1年後、大堰地区の設置半年後・1年後に実施した追跡調査を踏まえ、MEGURU STATION®設置による介護予防効果を検証していきます。

### 関連した学会発表

- 1) 井手一茂，阿部紀之，方恩知，近藤克則. 互助コミュニティ型資源回収ステーションの利用と心理指標の変化：半年間の縦断研究. 第33回日本疫学会学術総会. 2023
- 2) 阿部紀之，井手一茂，方恩知，近藤克則. 互助共助コミュニティ型資源回収ステーションの利用と要支援・要介護リスクの変化：1年間の縦断研究. 日本社会関係学会第3回研究大会. 2023
- 3) 熊澤大輔，井手一茂，河口謙二郎，近藤克則. 互助コミュニティ型資源回収ステーション利用で要支援・要介護リスクは低下するか. 第82回日本公衆衛生学会総会. 2023

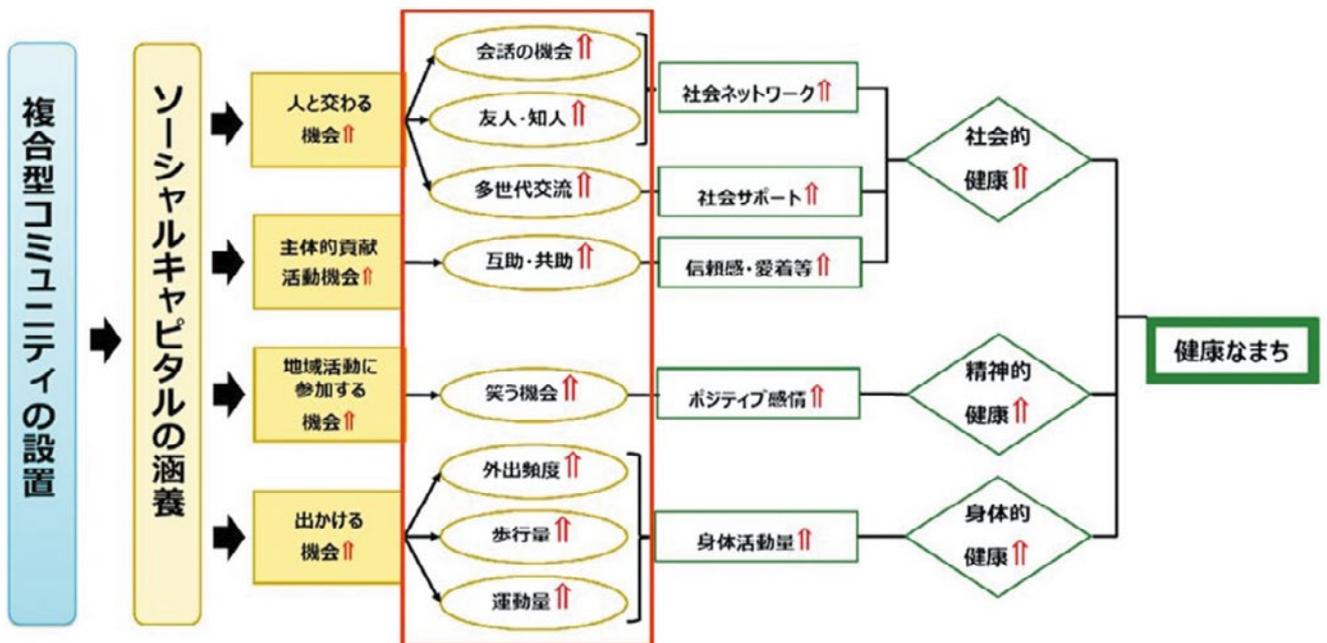


図1

# 29

## 電動カート導入で高齢者の QOL 向上・ 介護予防・社会保障費抑制の可能性

～電動カートは“動く交流の場”～

キーワード

グリーンスローモビリティ／外出支援／動く交流の場

関連企業

ヤマハ発動機株式会社

高齢者の移動手段の確保は超高齢社会における重要な課題です。グリーンスローモビリティは時速 20km 未満で公道を走る電動カートを利用した移動サービスです（図1）。電動カートの導入により、高齢者の移動手段の課題を解決し、高齢者の外出機会を維持・増加させ、移動に留まらない人とのつながりやこころにより変化をもたらす波及効果も期待できます。そこで本研究では電動カート導入前後の自記式アンケート調査や電動カート利用者におけるGPSによる位置情報の計測を行い、電動カート利用者と非利用者で外出、人とのつながり、こころ、将来的な要支援・要介護認定リスクなどを検証しました<sup>1)</sup>。図2は本研究の検証仮説（ロジックモデル）です。

まず、2021年度の2市3地域（大阪府河内長野市南花台地区、千葉県松戸市河原塚地区・小金原地区）における約8週間の事業では研究に参加した高齢者599人中、利用者電動カート利用者（149人、24.9%）では、非利用者と比較して外出、こころ、人とのつながりの良い変化が約1.7～5.2倍みられました<sup>1)</sup>。また、同事業期間中にGPS機器を携帯してもらい行動範囲を測定できた高齢者38人では、女性、後期高齢者、自動車利用なしの者で電動カート非利用日と比べて利用日の行動範囲が広がっていました<sup>2)</sup>。

次に、2022年度の2市3地域（河内長野市大師町・日東町、奈良県王寺町美しヶ丘地区）における約6ヶ月間の事業では、高齢者780人中、電動カート利用者は281人(36.0%)であり、その特徴として女性、後期高齢者、退職者が多いこと、電動カート利用の目的は買い物であることがわかりました<sup>3)</sup>。

さらに、美しヶ丘地区の運転手など、運営ボランティアに参加した高齢者では非参加者と比べて3年以内の要支援・要介護認定の発生を予測できる要支援・要介護リスク点数（48点満点、高得点ほど高リスク）が低くなっていました<sup>4)</sup>。

2021・2022年度の研究に参加された高齢者を合わせた1,393人中426人（30.6%）において電動カート利用者で新たな交流や笑いの機会が多くみられました<sup>5)</sup>。電動カートは地域の移動手段の課題解決のみならず動く交流の場として機能しており、本実証の全地域において、実証終了後、地域主体で継続運行しております。今後、長期追跡による社会保障費抑制効果の検証を継続していきます。

### 関連して出版された文献

- 1) 田村元樹, 井手一茂, 花里真道, 中込敦士, 竹内寛貴, 塩谷竜之介, 阿部紀之, 王鶴群, 近藤克則. 地域在住高齢者におけるグリーンスローモビリティ導入による外出, 社会的行動, ポジティブ感情を感じる機会の主観的变化: 前後データをを用いた研究. 老年社会科学 45(3) 2023, 225-238. 論文賞受賞

### 関連した学会発表

- 2) 花里真道, 田村元樹, 井手一茂, 吉田紘明, 竹内寛貴, 塩谷竜之介, 王鶴群, 小林周平, 近藤克則. グリーンスローモビリティの利用と高齢者の行動範囲の検討. 第82回日本公衆衛生学会総会 2023
- 3) 小林周平, 井手一茂, 松村貴与美, 花里真道, 近藤克則. グリーンスローモビリティが高齢者の買い物支援になる可能性: 実証事業前後の記述研究. 第82回日本公衆衛生学会総会. 2023
- 4) 小林周平, 井手一茂, 松村貴与美, 渡邊良太, 花里真道, 齊藤雅茂, 近藤克則. 高齢者におけるグリーンスローモビリティ運営ボランティア参加と要支援・要介護リスク: 5ヶ月間の縦断研究. 第34回日本疫学会学術総会. 2023
- 5) 井手一茂, 小林周平, 松村貴与美, 田村元樹, 竹内寛貴, 塩谷竜之介, 王鶴群, 花里真道, 近藤克則. グリーンスローモビリティは新たな交流・笑いを創出するか: 導入事業前後の縦断研究. 第82回日本公衆衛生学会総会. 2023



図1 走行中の電動カート



\* 電動カート利用ありとなしで走行前の性、年齢、就労状況など背景要因を揃えた上で検証できたもの

図2 本研究の検証仮説（ロジックモデル）

# 43

## Well-being の向上に資する住まい環境の探索

キーワード

Well-being / 住まい

関連企業

積水ハウス株式会社「住生活研究所」

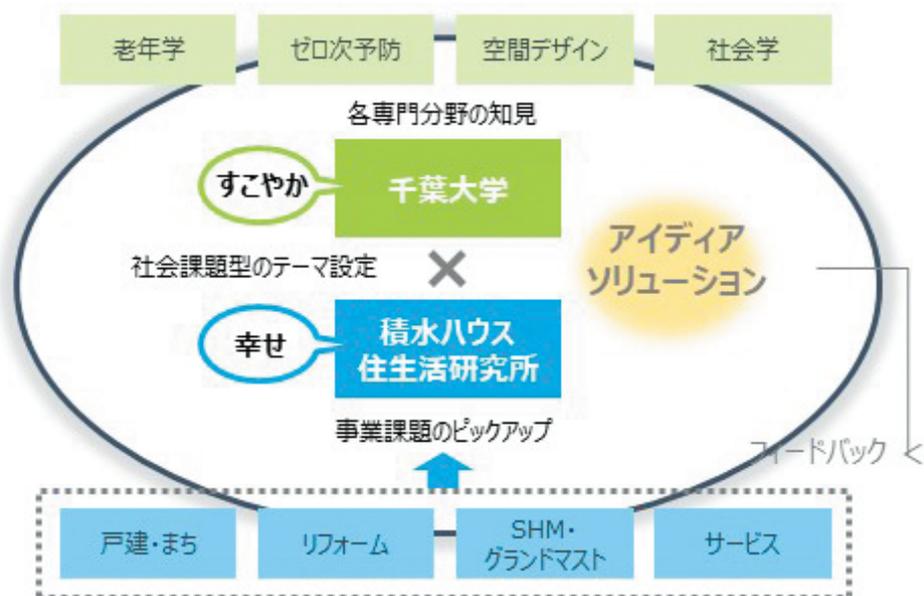
住宅および近隣はWell-beingに関連しています。地域に対する満足度が低いことや、安全でないと感じることも、低い幸福感と関連していました。本研究は、積水ハウス住生活研究所と千葉大学が共同で行われたものです。本研究では、住環境が「健康」や「家族のつながり」だけでなく、「私らしさ」「生きがい」「楽しさ」などのWell-beingにどう影響するかを、解明することを目的としています。

2023年10月に、シニアのWell-beingを考えるワークショップを行いました。千葉大研究者と住生活研究所職員の25人が参加し、Well-beingカード（自己や他者の

Well-beingの要因に気づき、多様な人々との対話を促進するためのカード、日本電信電話株式会社）を活用して、参加者がどのように「Well-being」や「幸せ」なまちの要素を感じ取るかについて意見や考えを、共有しました。

そこで得られた知見や意見を基に、好事例地域を選定し、フィールドワークを実施する予定です。今後は、シニアのWell-being向上に資する住まい環境の条件を抽出する予定です。現場のノウハウや課題を整理し、そしていつまでも快適・安心に暮らせるお住まいづくりの実現に向けたエビデンスの創出を目指します。

### 積水ハウス住生活研究所と千葉大学共同研究のイメージ図



COPYRIGHT©SEKISUI HOUSE, LTD. ALL RIGHTS RESERVED

# 37

## スマホアプリを用いたデジタルピアサポートはフレイルを予防するか？

キーワード

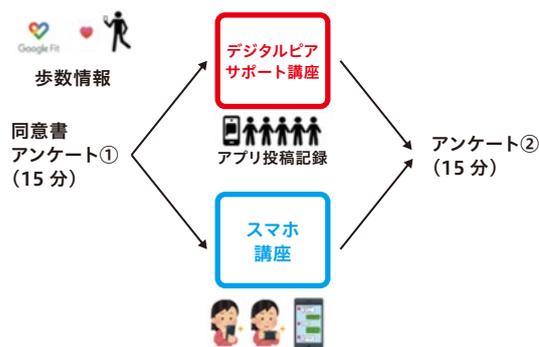
スマートフォンアプリ/ピアサポート/フレイル/ランダム化比較試験

関連企業

エーテンラボ株式会社

ピアサポートとは、同じような経験や状況にある人々が互いに支援し合うことで、精神的、社会的、時には物理的な助けを提供する相互支援のプロセスのことを指し、対面でのそれは健康行動にも良いと報告されています。この研究では、スマートフォンアプリを用いたデジタルピアサポートが地域に暮らす60歳以上の高齢者において、歩行量の維持増加をはじめとする身体活動の維持やフレイル予防にどれほど効果があるかを厳密な方法※で検証します。この研究の意義は、対面でのピアサポートがもたらす健康効果が、デジタルを用いたピアサポートでもみられるのかを確認し、より手軽で大規模な社会実装へのエビデンスを構築することにあります。

※ランダム化比較試験：研究参加者を無作為に異なるグループに分け、一方には新しい介入を、もう一方には通常の介入やプラセボ(偽薬)を施し、その効果を比較する研究方法です。



# 36

## 位置情報ゲームアプリによる ヘルスケアとまちづくりの可視化

キーワード

ゲーミフィケーション/アプリ/ヘルスケア

関連企業

リアルワールドゲームス株式会社

ゲーミフィケーション(ゲームの要素を日常生活などに取り入れること)は、行動変容を促す方法として有効と言われており、そのヘルスケア分野への応用も期待されています。リアルワールドゲームス株式会社は、自社開発の位置情報ゲームアプリを、地域や公共交通機関とのコラボレーション企画を導入することで、数々のまちおこしイベントを開催してきました。本共同研究では、こうしたゲーミフィケーシ

ンが、歩行促進による健康づくりと、まちの資源の「見える化」(まちづくりの可視化)につながる可能性に着目した研究を行っています。現在、アプリ利用者における健康意識・ヘルスリテラシー向上効果を検証する研究計画が進行中です。身体の健康のみならず、心と社会、人々との交わりも視野に、今後もWell-being(健康・幸福)に資する研究を行ってまいります。



# 35

## 産官学連携による健康まちづくりの実践

キーワード

健康まちづくり/ソーシャルインパクトボンド

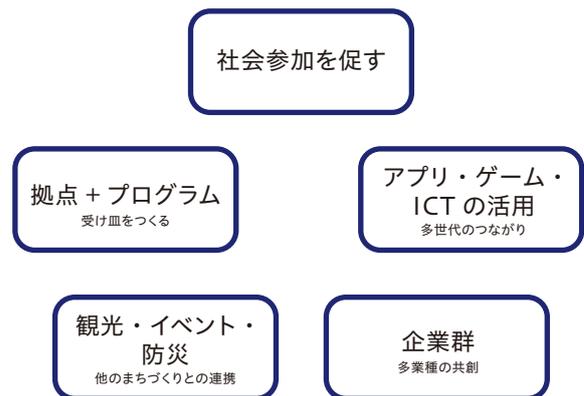
関連企業

岩瀬薬品株式会社

千葉大学と岩瀬薬品株式会社は2023年4月に共同研究部門を設立しました。千葉大学が強みとして持つ複数の市町村や企業・事業者、研究機関との産官学連携によるWell Active Community(WACo)づくりのノウハウと岩瀬薬品株式会社のもつ千葉県下の企業間のネットワークを生かし、健康まちづくりのモデルの形成、促進・阻害関連要因の解明、その社会実装と効果検証などに取り組んでいます。

岩瀬薬品株式会社は経済産業省の「高等教育機関における共同講座創造支援事業費補助金」を獲得し、2023年7月より千葉大学・千葉県下の複数企業とまちづくりに向けた講座とワークショップを行ってきました。また岩瀬薬品株式会社の本社がある四街道市と2023年11月に3者共同研究協定を締結し、健康まちづくりにむけた具体的な取組みが始まりました。今後、その効果検証を進めていきます。

### 健康まちづくり



(課題 11-2)

### 地域のゼロ次予防データプラットフォームの開発

共同研究協定を締結済みの一般社団法人 日本老年学的評価研究機構（課題 11 の近藤克則が代表理事）と協力し、新たに収集した約 75 市町村の約 34.9 万人の高齢者を対象にした郵送調査（日本老年学的評価研究：JAGES）により得られた約 22.6 万人（回収率：63.4%）のデータや自治体から得られる要介護認定・賦課データ（要介護認定・死亡・転出などがわかる情報）について個人を非識別化した上でデータプラットフォームに結合拡張し、新たなゼロ次予防の評価に資するデータプラットフォームを作成している。2022 年調査には Well-being を評価する調査項目が追加されており、既存の指標に加え、Well-being 関連要因の分析も可能になる。

トーテックアメニティ（株）は「通いの場」参加者名簿データ作成システム、NEC、（株）NTT ドコモは行政の持つデータを結合可能なデータプラットフォームを開発した。各企業の詳細について以下にまとめる。

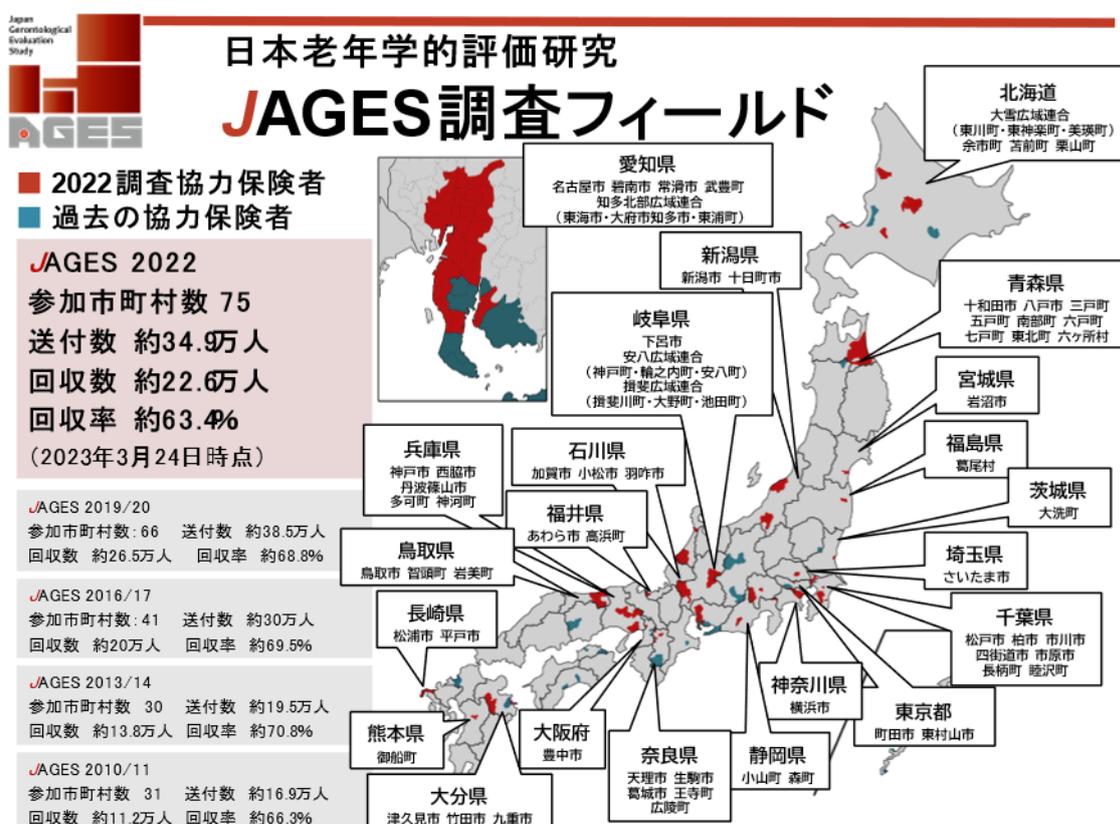


図 11-2-1：日本老年学的評価研究調査フィールド

# 34

## 通いの場の効率的な効果評価を可能とするシステム「通いの森」

キーワード

通いの場／参加者名簿／効果評価／PDCAサイクル

関連企業

トーテックアメニティ株式会社

通いの場をはじめとする一般介護予防事業のPDCAサイクルを回すために効率的な効果評価の仕組みが求められています。効果評価のためのデータ構築には、通いの場参加者名簿を作成し、非参加者のデータや要介護認定など自治体が保有する他のデータとの結合が必要です。しかし、多くの自治体が名簿未作成、名簿が紙ベース、保有するデータとの結合が難しいという課題を抱えています。

トーテックアメニティ株式会社の「通いの森」は、通いの場での名簿作成・電子化や各自治体が保有するデータと結合が簡易にできるシステムです。このデータを活用し、研究機関が通いの場の効果評価を行い、産官学連携による通いの場のPDCAサイクルを回す事例を蓄積しています。

### 効果検証の活用イメージ



# 38

## スマートフォンアプリによる健康維持活動と社会保障費抑制効果との関連検証

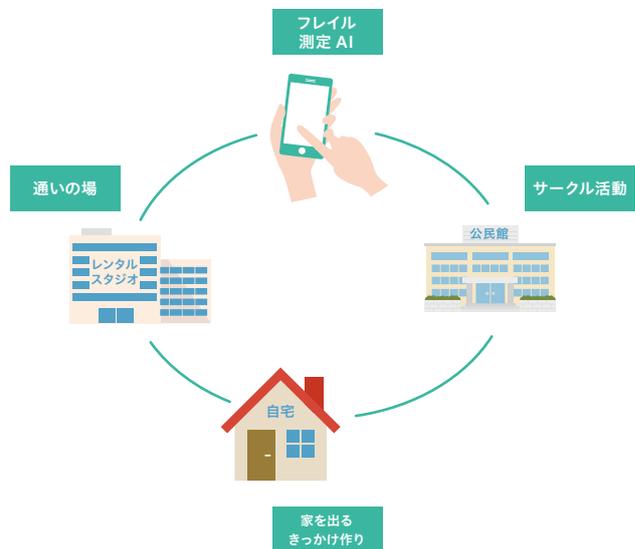
キーワード

健康維持活動／社会保障費抑制／フレイル／スマートフォンアプリ

関連企業

株式会社NTTドコモ

私たちが普段、実施している健康を維持するための運動、食事や周りとの交流は健康や社会保障費にどの程度寄与するでしょうか。株式会社 NTT ドコモは、スマートフォンなどのモバイルアプリケーションを通じ、高齢者（65歳以上）を対象に、日常生活活動である運動、食事、地域活動、たすけあい、健康などに関する介護予防のためのアンケート調査や通いの場やサークル活動の出欠データを取得し、各活動の社会保障費抑制の定量的な評価をめざしています。さらに、フレイル推定 AI（スマートフォンから収集できる生活データをもとに要介護状態に至るリスク度合いを推定）というアプリケーションによる生活習慣やフレイルリスクの改善し、医療費・介護費が削減されるかを検証していきます。



(課題 11-3)

#### 地域のゼロ次予防評価指標の開発

高齢者の健康と暮らしに関する JAGES データを説明変数に、要介護認定や認知症、Well-being をエンドポイントとし、ゼロ次予防に資する環境要因などとの関連を明らかにした。それらを踏まえ、各企業のロジックモデルに基づき、各企業の WACo づくりによる健康への効果検証 11 事例を蓄積している。また共通する評価ツールとして、課題 11-2 で作成した大規模データベースのデータを用い、これまでに 7 つの関連要因・予測モデル（うち、3 つは NEC と共同）を作成した。

##### ① 認知症のリスク評価スコア (Lin HR, 2018)

基本チェックリスト (全 25 項目) 中 13 項目、健診データ (BMI、血糖値)、性・年齢を用い、4 年後の認知症発症リスクを予測可能なスコア。

##### ② 要支援・要介護リスク評価尺度 (Tsuji T, 2018; 齊藤, 2021)

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の必須項目 10 項目と性・年齢を用い、3 年後の要支援・要介護認定の確率、6 年間の累積介護給付費を予測可能なスコア。

##### ③ 要支援・要介護リスク評価尺度改訂版 (Watanabe R, 2022)

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 (厚生労働省) のひな形変更に伴う選択肢変更後の要支援・要介護リスク評価尺度の予測妥当性の再現性の確認。

##### ④ いきいきスコア

JAGES の大規模調査データ (2013 年の回答者を 2019 年まで追跡したデータ) を用い、要介護 2 以上の発症を予測する行動変容可能な 5 項目と性、年齢を用いたスコア。

##### ⑤ 要支援・要介護リスク評価尺度点数別の社会保障費用の推移

②、③で開発したスコアを用い、点数別の 6 年間および 9 年間の累積介護給付費の推移を確認した。点数が高いほど、9 年間の累積介護費用が高く、追跡期間が長くなるほど介護費用は高くなった。

# 39

## 機械学習を用いた認知症予測モデルの構築

キーワード

認知症／予測モデル／機械学習

関連企業

NEC (日本電気株式会社)

世界中で高齢化が進む中で認知症予防は急務の課題と なっています。2020年にLancet紙は、12の修正可能な認知 症リスク因子を報告しました。この中で、高齢期における因子 として「喫煙」「うつ」「社会的孤立」「身体活動不足」「大気汚 染」「糖尿病」の6つが挙げられています(Livingston et al., 2020<sup>1)</sup>)。日本電気株式会社との共同研究として、地域在住高 齢者の認知症発症リスクを予測する機械学習によるアルゴリ ズムの構築に取り組みました。その結果、異なるデータセット を用いても高い再現性が得られ、高齢者自身が改善しうる項 目に予測因子を限定した場合でも、全変数を用いた場合と同等 の予測精度を持つアルゴリズムを約2ヶ月という短期間で 構築することができました。

### 1.人工知能とJAGESデータを用いた認知症発症リスク予測アルゴリズム開発

(近藤克則ら、第78回日本公衆衛生学会総会 2019年<sup>2)</sup>)

日本老年学的評価的研究(JAGES)が2010年に行ったアン ケート調査<sup>3)</sup>から、要介護認定と認知症の発生を6年間追跡し たデータを、機械学習を用いて検証しました。その結果、わず か10因子によりAUC<sup>4)</sup>0.81と予測精度の高いアルゴリズム の開発をすることができました。

### 2.人工知能を用いた認知症発症リスク予測アルゴリズムの改良:JAGES縦断研究

(近藤克則ら、第33回日本疫学会学術総会 2023年<sup>5)</sup>)

再現性を確認するために1.とは異なるデータセット<sup>6)</sup>を用い て、再現性を検証しました。また、機械学習に使用するデー タセットの変数のうち、医師や看護師などの専門家によって「パ ソコンが趣味」「外出頻度」などの高齢者自身により改善しう る変数に限定したアルゴリズム開発も開発してみました。その 結果、異なる年度、自治体のデータセットを用いても、1.のアル ゴリズムの10因子のうち8因子が共通で、AUC0.81と同等 の予測精度をもつアルゴリズムを抽出することができました。 さらに、高齢者自身により改善しうる変数に限定して検証した 結果、行動変容が可能な因子によってAUC0.80と予測精度 の高いアルゴリズムを2ヶ月という短期間で開発することがで きました。

### 参考文献

- 1) Livingston, G., Huntley, J., Sommerlad, A., Ames, D., Ballard, C., Banerjee, S., Brayne, C., Burns, A., Cohen-Mansfield, J., Cooper, C., Costafreda, S. G., Dias, A., Fox, N., Gitlin, L. N., Howard, R., Kales, H. C., Kivimäki, M., Larson, E. B., Ogunniyi, A., ... Mukadam, N. (2020). Dementia prevention, intervention, and care: 2020 report of the Lancet Commission. *The Lancet*, 396(10248), 413-446.
- 3) 要支援・要介護認定を受けていない65歳以上高齢者を対象として2010年に行っ た大規模社会疫学調査。追跡期間は約6年間、分析対象者は16市町村37,113人。
- 4) AUC(Area Under the Curve)は、予測精度を表す指標。0から1までの値を取り、1に近いほど、予測精度が高い。
- 6) 要支援・要介護認定を受けていない65歳以上高齢者を対象として2013年に行っ た大規模社会疫学調査。追跡期間は約6年間、分析対象者は14市町村46,519人。

### 関連した学会発表

- 2) 近藤克則, 上野貴之, 阿部紀之, 原新. 人工知能を用いた認知症発症リスク予測アルゴリズムの改良:JAGES縦断研究. 第33回日本疫学会学術総会 2023年(ポスター発表)
- 5) 近藤克則, 辻大士, 長嶺由衣子, 武藤剛, 横山芽衣子, 草斐, 浜田哲, 川瀬真紗子, 原新. 人工知能とJAGESデータを用いた認知症発症リスク予測アルゴリズム開発. 第78回日本公衆衛生学会総会 2019年(ポスター発表)

### 5.11.3 プロジェクト終了後の活動方針

<最終目標の達成見込み> 課題 11-1、11-2、11-3 とともに、OPERA 期間中の最終目標は、以下のように達成できる見込みである。

課題 11-1 では、各企業の提供するサービスや外部環境の効果検証（三井不動産（株）：柏の葉キャンパスエリアにおけるハードとソフトを組み合わせたまちづくり、積水ハウス・野村不動産（株）：アクティブシニア向けのサービス付き高齢者賃貸住宅、パンフィックコンサルタンツ（株）：健康支援型道の駅を軸としたまちづくり、ネスレ日本（株）：コーヒーを介したコミュニティづくり、アマタホールディングス（株）：ごみ出しを軸とした地域交流拠点への参画による介護予防、ヤマハ発動機（株）：グリーンスローモビリティを介したコミュニティづくりによるゼロ次予防、エーテンラボ株式会社・リアルワールドゲームス（株）：アプリを活用した行動変容）のロジックモデル作成、データ収集・結合、評価システムの開発が概ね、順調に進み、企業ごとに作成したロジックモデルに準じ、データ収集・結合、健康への効果検証事例が蓄積されつつある。今回の効果検証の成果を元に各企業が既存の展開における WACo づくりの深化や他地域への展開を検討し、SIB、PFS による競争領域における社会実装に向けた動きも進みつつある。また、2023 年度参画企業のうち、積水ハウス住生活研究所、岩瀬薬品株式会社は OPERA 終了期間後も見据え、ロジックモデル生成、WACo づくりの実証に取り組む。

課題 11-2 では、地域のゼロ次予防データプラットフォーム構築に資する技術を持つトーテックアメニティ（株）や NTT ドコモ（株）の事業への参加者からデータを取得するアプリやシステムからのデータ収集が始まり、JAGES データベースに 2022 年調査に参加した 75 市町村の約 22.6 万人の高齢者のデータと要介護認定などのデータを追加するなどデータプラットフォームを拡張している。トーテックアメニティ（株）では複数自治体で実際に収集したデータによる介護予防事業の効果評価も実施し、自治体の高齢福祉計画策定資料への活用事例も出てきた。更に、WACo づくりに必要なデータ整備・活用の周知を目指し、自治体向けのセミナーを開催し、延べ 500 以上の市町村に参加いただいた。NTT ドコモのデータプラットフォームにおいても千葉市幕張地区でのデータ収集を開始し、千葉市の保有のデータとの結合可能性も確認できた。

課題 11-3 のゼロ次予防評価指標の開発においても、これまでに多数の環境要因と健康との関連を明らかにして論文として発表すると共に、9 企業の評価事例を蓄積し、加えて共通して使える 7 つの要介護認定や認知症をエンドポイントとする健康寿命喪失リスク予測式を作成した。さらに構築した予測式のうち、要支援・要介護リスク尺度と 6/9 年間の介護給付費の関連も検証し、企業サービスなどの効果評価実施時には、追跡期間が短期間であると過小評価につながる可能性を明らかにした。

<プロジェクト終了後の活動方針>

社会実装に向けた活動方針として、1) 研究開発の継続、2) 産官学連携した社会実装の両面で展開を進めたい。

1) 研究開発については、類似の手法を活用・応用する研究構想案が、JST-RISTEX 科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム「スポーツ参加の促進要因の探索と支援政策の評価研究 - 国・自治体・個人レベルの重層的アプローチ」、令和 5 年度老健事業「LIFE を用いた自治体向け介護サービスの質評価に関する調査研究」に採択されており、岩瀬薬品との健康まちづくり共同研究部門も設立されたので、これらを通じて取り組みを進める。

2) について、開発した予測式が複数の自治体に取り組む成果連動型民間委託契約方式（PFS：Pay For Success）における成果指標に用いられることが決まっており、成果の社会実装を進める方針である。

競争領域での共同研究への展開については、すでにいくつかの企業とは、2024年度以降の共同研究の継続について協議を始めている。非競争領域における研究開発継続については、岩渕薬品は健康まちづくり共同研究部門への他企業の参加を歓迎するとしているので、参加を希望する企業を募る計画である。

#### 5.11.4 その他

大学院生・若手研究者（ポスドク）を雇用し、企業との産学連携の担当とし、育成した。現在、大学院出身の2名が技術補佐員から特任研究員を経て、特任助教として着任している。また、WACoづくりの知見を含んだ公衆衛生学の授業を千葉県立保健医療大学で展開し、教室内の若手研究者で分担して講義を担当している。

健康まちづくり EXPO の実行委員長(<https://www.citydesignweek.jp/committee.html>)を依頼され受諾した。内閣府の PFS（成果連動型民間委託契約方式）推進アクションプランや国土交通省のまちづくり PFS の有識者として関わったことは、成果の社会実装に資する活動になると思われる。

## 6 非競争領域からの展開（活動実績）

### ・ WACo コンソーシアム検討推進ワーキンググループの立ち上げ

事業化に向け、WACo コンソーシアム検討推進ワーキンググループを課題代表者を中心に、企業有志を募り立ち上げた。検討内容としてデータプラットフォームの構築、「社会への提言」の形としての認証制度、資金獲得について等コンソーシアムの自走化を行う 2024 年度以降に向けて議論を重ねていく。

### ・ WACo 共創会議・共創研究会の充実

検討推進ワーキングの立ち上げに先立って、共創会議・研究会内でも今後のコンソーシアムの在り方について議論の場を設けた。また、議論や連携を促進するために外部有識者を講師として招き「外部識者による健康まちづくり講演会」を実施し、様々な角度から健康まちづくりについて意見交換や検討を行った。

### ・ 複数企業が参画する横連携テーマ

WACo コンソーシアムおよび千葉大学がハブとなり、参画企業である三井不動産・NTT ドコモとの交流が生まれ三者で共同研究を開始した。三井不動産が開発する柏の葉キャンパスをフィールドとして、NTT ドコモの持つ通信システムを利用し情報発信による幸福感向上について検証を行っている。

### ・ 課題間の連携テーマ

積水ハウス住生活研究所との共同研究「すこやかで幸せな住まい・まちに関する研究」には、には、課題 7、課題 9、課題 11 の研究者が参加し、課題間の連携で研究を進めている。

### ・ 企業間連携の取り組み

WACo コンソーシアムの参画企業であるニッポンと野村不動産が連携し、賃貸シニアレジデンスでロコモ予防の取り組みを行った。取り組みは、下記プレスリリースにて発信された。

「賃貸シニアレジデンス「OUKAS(オウカス)」でロコモ予防の取り組み「ニッポン 貯筋チャレンジ！」を実施」  
株式会社ニッポン， 2024 年 3 月 14 日

[https://www.nippon.co.jp/news/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2024/03/14/no64\\_challenge.pdf](https://www.nippon.co.jp/news/detail/_icsFiles/afieldfile/2024/03/14/no64_challenge.pdf)

### ・ OPERA での成果を基にした新たな研究費の獲得

OPERA で蓄積した医学的エビデンスを基に、スポーツ参加に焦点を当てた発展形の研究として RISTEX「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」に「【共進化枠】スポーツ参加の促進要因の探索と支援政策の評価研究 ― 国・自治体・個人レベルの重層的アプローチ」として令和 4 年度採択を受けた。（研究実施期間 R4. 10～R8. 3）

### ・ 展示会等への出展

イノベーション・ジャパン 2019、2022（オンライン）、2023 および、健康まちづくり EXPO（2023）において「自然に健康になれるまちづくり」を進めている WACo の取り組みを紹介した。

2023 年度から参加した岩瀬薬品との健康まちづくり共同研究部門設立記念シンポジウムの会場で、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)における多数の企業による Well Active Community (WACo) の事例紹介を行った。

- ・研究成果の知財化についての検討

研究成果の知財化に関しても検討を進めている。

WACo アプリについて、コンソーシアム外にライセンスし事業化ができるように検討を行った。また、プロトタイプの見直しも各研究開発課題にて行っている。

## (平成30年度～令和5年度) OPERA 活動実績一覧【幹事機関:千葉大学】

領域名 ゼロ次予防戦略によるWell Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装

項目			実績		備考	
① プロトタイプ			2	件		
② 実用化			2	件		
③ 事業化(製品・サービス等の提供)			5	件		
④ 起業(ベンチャー企業等の設立)			1	件		
⑤ 知的財産権の状況	出願	領域全体	国内	2	件	
			外国	0	件	
		うちパイトール適用	国内	2	件	
			外国	0	件	
	登録	領域全体	国内	0	件	
			外国	0	件	
		うちパイトール適用	国内	0	件	
			外国	0	件	
	ライセンス			0	件	
	ライセンス収入		件数	0	件	
金額			0	千円		
⑥ 成果の発信	プレス発表(イベント告知は除く)		129	件		
	成果発信イベントの開催		12	件		
	展示会への出展	国内	8	件		
		外国	0	件		
⑦ 掲載・放映	雑誌掲載(WEB含む)		53	件		
	新聞掲載(WEB含む)		49	件		
	テレビ放映		1	件	ラジオ1件	
⑧ 外部資金の獲得	成果の展開に関連して	採択	1	件		
		金額	300	千円		
	研究開発費として	採択	3	件		
		金額	32,000	千円		
⑨ 論文	論文		205	件		
	うち査読論文		195	件		
	その他著作物(総説、書籍など)		10	件		
⑩ 発表	口頭発表		188	件		
	ポスター発表		81	件		
	招待講演		10	件		
	その他		6	件		
⑪ 受賞			34	件		
⑫ 参加者(年度末時点)	領域全体		195	人		

(平成30年度～令和5年度) OPERA 活動実績一覧【幹事機関:千葉大学】

領域名:ゼロ次予防戦略によるWell Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装

① プロトタイプ

No	成果名称	発表等時期	担当機関 (企業・大学等)	概要	備考 (関連する研究開発課題番号等)
1	オフグリッド可搬空間『EcoCabin』 (写真1)	2022/9/1	千葉大学、リソルの森、ミライノラボ	電力インフラのない未利用地でコミュニティや地域活動の拠点として活用できる、自家発電の移動空間を開発しプロトタイプとして発表。	研究開発課題7
2	環境センサシステム	2023/8/22	千葉大学	データのトレンドと疾患に対する環境因子の複合的な影響の度合いが考慮されたデータ取得を可能とするセンサシステムを提供する	研究開発課題9
					
				写真1 オフグリッド可搬空間『EcoCabin』	

② 実用化

No	成果名称	発表等時期	担当企業等	概要	備考 (課題番号等)
1	健康コンセプトニングツール まちづくり版	2022/9/30	竹中工務店	健康まちづくりでデザインツールを実用化し、担当企業社員が活用できるようにした。	研究開発課題7
2	WACoタウンアプリ	2022/4/4	三井不動産	WACoタウンアプリを柏の葉地域住民の調査に活用した。	研究開発課題7・11

③ 事業化(製品・サービス等の提供)

No	製品・サービス等の名称	発売等時期	担当企業等	概要	備考 (課題番号等)
1	『滞在型ウェルネスプラン ハーブガーデンセラピー』	2022/10/1	千葉大学、リソルの森	身体の悩みをタイプ分けして診断し、体調に合わせて選んだハーブの力で心身を整える1泊2日プランを開発し、商品として販売開始。	研究開発課題7 <a href="https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000045.000055952.html">https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000045.000055952.html</a>
2	健康まちづくりコード	2022/4/1	竹中工務店	Panasonicが開発する大阪府吹田市のSuitaSSTIにおける健康都市デザインを健康まちづくりコードとして監修した。	研究開発課題7
3	ウェルネストラック(イオンモール土岐)	2022/10/7	イオンモール	イオンモールが開発したイオンモール土岐内に健康への気づきを得る空間プログラムとしてウェルネストラックを実装、来場者にサービス提供した。	研究開発課題8
4	ウェルネストラック(イオンモール豊川)	2023/1/10	イオンモール	イオンモールが開発したイオンモール豊川内に健康への気づきを得る空間プログラムとしてウェルネストラックを実装、来場者にサービス提供した。	研究開発課題8
5	ウェルネストラック(TOKIWALK:千葉県松戸市常盤平団地)	2023/3/10	千葉大学、都市再生機構、松戸市	高齢化が著しい高経年団地で、地域に開かれた健康プログラムとして、歩幅計測とウォーキングプログラムを提供するウェルネストラックを実装した。	研究開発課題7

④ 起業(ベンチャー企業等の設立)

No	法人名称	設立時期	シーズ	概要	備考 (課題番号等)
1	健康な空間	2023/12/1	千葉大学花里准教授の成果	暮らしているだけで健康になれるような空間デザイン、空間活用プログラム開発を目指す。	研究開発課題7、研究開発課題8

## (平成30年度～令和5年度) OPERA 活動実績一覧【幹事機関:千葉大学】

領域名: ゼロ次予防戦略によるWell Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装

## ⑤-1 知的財産権(出願) A特許 | Bその他の知的財産権

## A 特許

No	知財の名称	出願番号	ハイ・ドール適用	出願人	国内/外国	備考 (関連する研究開発課題番号、外国出願の場合は国名等)
1	センサシステム	特願2023-134715	○	国立大学法人千葉大学	国内	課題9

## B その他の知的財産権 (実用新案権、意匠権、回路配置利用権、育成者権など)

No	知財の名称	出願番号	ハイ・ドール適用	出願人	国内/外国	備考
1	ウェルネストラック・ポータブルタイプ	K23-001 (学内整理番号)	○	花里真道、吉田紘明	国内	千葉大学学内に発明等の届出書を提出した。

## (平成30年度～令和5年度) OPERA 活動実績一覧【幹事機関:千葉大学】

領域名: ゼロ次予防戦略によるWell Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装

## ⑤-2 知的財産権(登録) A特許 | Bその他の知的財産権

## A 特許

No	知財の名称	特許番号	ハイ・ドール 適用	出願人	国内/外 国	備考 (関連する研究開発課題番号、外国 特許の場合は国名等)
1						

## B その他の知的財産権 (実用新案権、意匠権、回路配置利用権、育成者権など)

No	知財の名称	登録番号	ハイ・ドール 適用	出願人	国内/外 国	備考
1						

## (平成30年度～令和5年度) OPERA 活動実績一覧【幹事機関:千葉大学】

領域名: ゼロ次予防戦略によるWell Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装

## ⑥ 成果の発信

No	発表年月日	発表タイトル、イベント名など	発表機関	主な対応者	発信形式	備考
1	2019/5/29	イオン株主総会連動イベント	千葉大学/竹中工務店/積水ハウス/富士通ゼネラル研究所/イオン/リソル生命の森/NEC	花里真道	展示会への出展(国内)	
2	2019/8/29	イノベーション・ジャパン2019	千葉大学/竹中工務店/積水ハウス/富士通ゼネラル研究所/イオン/リソル生命の森/NEC	森千里	展示会への出展(国内)	
3	2019/11/8	JAGESの研究知見とAI活用による地域マネジメントの取組 ～健康長寿社会へのAI適用の期待～. C&C ユーザーフォーラム&EXPO2019 Digital Inclusion	千葉大学/NEC	近藤克則	展示会への出展(国内)	
4	2019/11/20	記念講演「ゼロ次予防による健康なまちづくりー「人生100年時代」に向けてー」竹中技術研究所公開	千葉大学/竹中工務店	近藤克則	展示会への出展(国内)	
5	2020/4/15	『Sport & Do Resort リソルの森』内、グランピングエリア「グランヴォー スパ ヴィレッジ」新装オープンしたグランピング施設で、中学生以下のお子さまを対象に無料宿泊サービスを開始	リソルの森株式会社		プレス発表	<a href="https://prtimes.jp/main/html/rd/p/00000001.000055952.html">https://prtimes.jp/main/html/rd/p/00000001.000055952.html</a>
6	2020/4/15	子どもの時の貧困は、高齢期のスポーツ参加にも関連する～子どもの時に貧しかったと感じている男性で18%、女性で12%少ない～	JAGES	山北満哉	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
7	2020/4/15	就労、スポーツ・趣味グループへの参加は都市でも農村でも要介護リスクを10-24%抑制	JAGES	井手一茂	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
8	2020/4/15	新型コロナウイルス感染症流行下での高齢者の生活への示唆: JAGES研究レビュー	JAGES	木村美也子	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
9	2020/4/15	CCRC計画発表	リソルの森株式会社		プレス発表	<a href="https://www.resortliving.jp/retirement/">https://www.resortliving.jp/retirement/</a>
10	2020/7/1	グランヴォー オープニング	リソル		成果発信イベントの開催	
11	2020/7/17	調理技術が低いと調理しないリスク3倍、やせリスク1.4倍～食事を作ってくれる人がいない男性では調理しないリスク8倍、やせリスク3倍～	JAGES	谷友香子	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
12	2020/7/17	笑わない人は要介護リスクが1.4倍高い～笑う門には健康来る～	JAGES	竹内研時	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
13	2020/9/1	化学物質濃度が高い空間に入ると「約6.89倍」アレルギー等の既往歴があると「約5.73倍」シックハウス症状(粘膜の刺激や頭痛等)を経験する可能性	JAGES	鈴木規道	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>

14	2020/9/2	高齢者の自記式の身長・体重データによる体格指標(BMI)の妥当性は高いただし後期高齢者で過大・過小報告の可能性1.3~1.8倍	JAGES	矢澤亜季	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
15	2020/9/2	緑茶を1日4杯以上飲んでいる人で約1.6本の歯が多かった~特に1か月に会う友人の数が少ない人に効果大~	JAGES	星真奈実	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
16	2020/9/29	認知症予防に効果的な趣味は?~グランド・ゴルフと旅行で約20~25%リスク減~	JAGES	LING LING	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
17	2020/9/29	後期高齢者が最期を迎えたい場所を話し合う要因は?▶男性は地域のお世話役をすると1.32倍、妻との会話を笑いがあると1.6倍▶女性は新聞を読む習慣があると1.43倍 話し合いをしている	JAGES	森木友紀	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
18	2020/9/29	70歳以上で自己負担額軽減後に歯科受診が増える治療目的で1.36倍、予防目的で1.49倍(オッズ比)	JAGES	Upul Cooray	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
19	2020/10/1	シンポジウム B8-2産官学研究による健康都市・空間デザインのキーテクノロジー開発と社会実装	公衆衛生学会大会	近藤・花里	成果発信イベントの開催	
20	2020/10/27	子どもの頃に逆境体験があった高齢者は、野菜・果物不足になりやすい可能性~女性では逆境体験が2つ以上あると64%増~	JAGES	柳奈津代	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
21	2020/10/27	これまでの研究に基づく認知症リスクを高める要因は?~34編の日本語・英語論文を検証~	JAGES	高杉友	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
22	2020/11/9	震災被害で関節炎発症のリスク最大で16%増加 ~整形外科へのアクセスが関節炎の発症を抑制する可能性~	JAGES	池田登顕	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
23	2020/11/9	高齢者の社会的孤立、英国より日本で悪化 ~2010年から6年間で親戚付き合いが10~15%減少~	JAGES	辻大士	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
24	2020/11/9	高齢者の文化的活動で認知症リスク20~29%減 ~読書、手工芸、絵画制作で効果が期待~	JAGES	杉田明	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
25	2020/12/14	社会的フレイルをどう評価する?~26編の英語論文から導き出された5分類・11要素~	JAGES	阿部紀之	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
26	2020/12/14	目、耳、歯の健康維持は人との交流減少をそれぞれ8.3%、5.0%、6.4%防ぐ	JAGES	相田潤 五十嵐彩夏	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
27	2021/1/13	虐待を受けた高齢者は3年後のうつ2.3倍 うつの高齢者は3年後の虐待経験が2.2倍 ▶高齢者のうつは虐待の原因で、結果でもある	JAGES	古賀千絵	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
28	2021/2/10	新型コロナ対策への示唆オンラインでの交流をしている人はうつ発症リスクが3割少ない(オッズ比)	JAGES	中込敦士	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>

29	2021/2/19	光センサー技術「LiDAR」を活用したゴルフコースのラフ用無人芝刈り機 実用化に向けた研究機を開発	リソルの森株式会社		プレス発表	<a href="https://prtimes.jp/main/html/rd/p/00000013.000055952.html">https://prtimes.jp/main/html/rd/p/00000013.000055952.html</a>
30	2021/3/10	週1回以上笑う高齢者は歯が残っている傾向 ～歯が0本のリスク約20%減～	JAGES	広崎真弓	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
31	2021/3/10	スポーツグループが盛んな地域では非参加者でも健康意識や行動が良好 ～運動・スポーツへの“無関心”が少なく、閉じこもりの可能性が6%低い～	JAGES	辻大士	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
32	2021/3/10	歩道の多いウォーカブルな地域では認知症リスク半減	JAGES	谷友香子	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
33	2021/3/10	地域とのつながりがある人は最期を自宅で迎えることを希望する病気で寝込んだときに看病してくれる人がいると1.7倍	JAGES	石川孝子	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/">https://www.jages.net/library/pressrelease/</a>
34	2021/4/16	口腔機能低下、歯の喪失がみられた高齢者で 主観的認知機能低下のリスクが約3%～9%高い —6年間の縦断調査より—	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=11995">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=11995</a>
35	2021/4/16	なぜ歯を失うと抑うつになりやすいのか? メカニズムを解明 ▶うまく話せない・笑えない・咀嚼できないから 抑うつになりやすい	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=11996">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=11996</a>
36	2021/4/16	社会的孤立は抑うつ発生のリスク 日本では子どもとの交流が乏しいと1.09倍、社会参加がないと1.28倍 ～日本と英国の高齢者の大規模データから検証～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=11997">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=11997</a>
37	2021/4/16	緑地が多い地域に暮らす高齢者はうつが10%少ない	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=11998">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=11998</a>
38	2021/4/16	女性高齢者のうつリスクに関わる新たな環境要因が明らかに —小学校から離れた距離に住む高齢女性者は1.07倍うつが多い—	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=11999">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=11999</a>
39	2021/6/16	フレイル高齢者は2倍肺炎にかかりやすく重症化しやすい	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12244">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12244</a>
40	2021/6/16	高齢者の市町レベルのインターネット利用割合都市でも農村でも3年間で約1割増加 ～都市と農村の地域差は約22%残存～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12243">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12243</a>
41	2021/6/16	社会参加で介護費用が減少週1回以上の趣味やスポーツの参加者は6年間で1人約11万円、就労している人では6万円程度介護費が低い傾向あり ～12自治体4.6万人の追跡調査より～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12242">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12242</a>

42	2021/6/16	活動性の低い高齢者の介護費用は高くなる～活動性の高い高齢者に比べて約5年間で7～11万円～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12241">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12241</a>
43	2021/7/10	高齢者 スポーツを「観戦」するだけでうつリスク3割低い～友人関係の豊かさや、地域への愛着や信頼がその経路か！？～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12575">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12575</a>
44	2021/7/10	歯を失った人でも入れ歯・ブリッジを使っていると体重減少のリスクが約37%低下(歯が0～19本の場合)	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12577">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12577</a>
45	2021/8/23	社会参加をしている、地域の人々を信用信頼している、心配事やぐちを言う相手がいる高齢者 肺炎球菌ワクチン接種がそれぞれ 13%、5%、34%多い	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12577">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12577</a>
46	2021/8/23	地域組織の参加種類数が多いほどうつになりにくい1種類で10%、3種類で20%、5種類以上で25%のリスク減	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12578">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=12578</a>
47	2021/9/13	ソーシャル・キャピタルが豊かな地域に住む人ほどフレイルになりにくい～社会参加が10%高い地域ではフレイル発生が6%低い～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4030&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=253&amp;file_id=9528&amp;upload_id=12613">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4030&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=253&amp;file_id=9528&amp;upload_id=12613</a>
48	2021/9/13	要支援・要介護リスク評価尺度得点によってその後6年間の介護費が算出可能～尺度1点につき3.2万円程度累積介護費が低い傾向～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4030&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=253&amp;file_id=9529&amp;upload_id=12614">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4030&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=253&amp;file_id=9529&amp;upload_id=12614</a>
49	2021/9/13	人とのつながり多い地域では自殺リスク低い～例えばスポーツ参加割合が10%多い地域では自殺死亡率が平均で25%少ない～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4030&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=253&amp;file_id=9530&amp;upload_id=12615">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4030&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=253&amp;file_id=9530&amp;upload_id=12615</a>
50	2021/10/11	高齢者の死亡率は、多疾患併存で上昇～同時に複数疾患に罹患していると、そうでない場合に比べて死亡率が1.07倍高い～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4030&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=253&amp;file_id=9649&amp;upload_id=12773">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4030&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=253&amp;file_id=9649&amp;upload_id=12773</a>

51	2021/10/11	千葉大学予防医学センターとヤマハ発動機株式会社の共同研究について 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム 研究領域名称:ゼロ次予防戦略による Well Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装 ヤマハ発動機株式会社・千葉大学共同研究 [電動カート導入による高齢者の QOL 向上の見える化]	千葉大学	近藤克則(千葉大学)	プレス発表	
52	2021/12/13	歯を失うと認知症になるメカニズムを明らかに男性では人との交流、女性では果物・野菜の摂取が大きく影響	日本老年学的評価研究機構、千葉大学	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13237">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13237</a>
53	2021/12/13	高齢者 歯20本未満だと6年後の閉じこもりが1.4倍多い ~年齢が70歳から75歳になると同程度の関連~	日本老年学的評価研究機構、千葉大学	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13236">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13236</a>
54	2021/12/13	歯の数が10本未満で入れ歯を使っていない高齢者では孤食に1.81倍なりやすい	日本老年学的評価研究機構、千葉大学	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13235">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13235</a>
55	2022/1/7	都市部に比べて農村部では1.2倍うつが多いただしまちの中心部まで時間のかかるところに住む人は1割うつが少ない~ソーシャル・キャピタルが都市?農村格差を縮める可能性~	日本老年学的評価研究機構、千葉大学	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13234">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13234</a>
56	2022/1/7	ボランティアが盛んな地域では、うつ発症が少ない~参加割合が地域に1割高いと、10%リスクが低い~	日本老年学的評価研究機構、千葉大学	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13233">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13233</a>
57	2022/1/7	高齢者のボランティア参加は、月1回以上でうつ発症リスクが低い~3年後のうつ発症リスクは、18%低い~	日本老年学的評価研究機構、千葉大学	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13232">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13232</a>
58	2022/1/7	地域活動が盛んなまちに住むと野菜・果物の摂取が増加 特に独居男性では自分自身が地域活動に参加することで、野菜・果物を摂取する人が13.5%増加	日本老年学的評価研究機構、千葉大学	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13231">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13231</a>
59	2022/1/7	高齢者が複数疾患に同時罹患することは、新規要介護認定の増加に関連 ~循環器・内分泌など複数の身体システムにまたがる場合はより強い関連~	日本老年学的評価研究機構、千葉大学	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13230">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13230</a>
60	2022/1/7	高齢者の音楽活動への参加に認知症発症リスクの軽減効果(女性で25%低下)	日本老年学的評価研究機構、千葉大学	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13229">https://www.jages.net/project/opera/?action=common_download_main&amp;upload_id=13229</a>

61	2022/4/1	他者と一緒に笑う人は要介護リスクが低い ～友人との会話の中で笑う人は要介護リスクが約3割減少～	日本老年学的 評価研究機構	近藤克則(千 葉大学、日本 老年学的評 価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10067&amp;upload_id=13635">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10067&amp;upload_id=13635</a>
62	2022/4/1	趣味の数が多いほど、介護が必要となるリスク男性は34%、女性は30%減少	日本老年学的 評価研究機構	近藤克則(千 葉大学、日本 老年学的評 価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10068&amp;upload_id=13636">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10068&amp;upload_id=13636</a>
63	2022/4/1	高齢者の芸術文化活動 抑うつ発生を20%減 ～特に音楽活動と写真撮影が効果的～	日本老年学的 評価研究機構	近藤克則(千 葉大学、日本 老年学的評 価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10069&amp;upload_id=13637">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10069&amp;upload_id=13637</a>
64	2022/5/1	生きがいを持つと認知症リスクが0.69倍、幸福感が0.4ポイント増加する～高齢者の生きがい作りで、高齢者の健康とウェルビーイングを向上の可能性～	日本老年学的 評価研究機構	近藤克則(千 葉大学、日本 老年学的評 価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10117&amp;upload_id=13745">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10117&amp;upload_id=13745</a>
65	2022/5/1	幼少期の逆境体験と高齢期の抑うつを結ぶ経路の7割が成人期の学歴や収入とは無関係～しかし、学歴や収入に対する介入でその悪影響が軽減される可能性あり～	日本老年学的 評価研究機構	近藤克則(千 葉大学、日本 老年学的評 価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10119&amp;upload_id=13747">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10119&amp;upload_id=13747</a>
66	2022/5/1	運動・スポーツのボランティアに参加する高齢者の特徴は？～個人と地域の特徴、計23要因を解明～	日本老年学的 評価研究機構	近藤克則(千 葉大学、日本 老年学的評 価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10120&amp;upload_id=13748">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10120&amp;upload_id=13748</a>
67	2022/5/1	市町村の地域づくりの取り組み支援で高齢男性の3年間の死亡リスク0.92倍に低減 —データを活用した地域包括ケア推進の効果—	日本老年学的 評価研究機構	近藤克則(千 葉大学、日本 老年学的評 価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10121&amp;upload_id=13749">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10121&amp;upload_id=13749</a>

68	2022/5/16	野村不動産株式会社・野村不動産ウェルネス株式会社と千葉大学予防医学センターの2021年度研究成果の報告「健康増進型・賃貸シニアレジデンス「オウカス」に暮らす人は、外出・グループ活動に積極的に介護費用を抑制できる可能性を示唆する結果」	日本老年学的評価研究(JAGES)プレス発表会	上野貴之(千葉大学), 河口謙二郎(千葉大学), 井手一茂(千葉大学), 近藤克則(千葉大学)	プレス発表	オンライン
69	2022/6/1	修正可能な死亡のリスク要因として口腔の健康を初めて考慮。歯の本数が死亡に与えるリスクは男性で最も高い18.2%	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10162&amp;upload_id=13893">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10162&amp;upload_id=13893</a>
70	2022/6/1	70歳及び75歳の医療費自己負担割合軽減は入れ歯使用の所得格差を縮小させている可能性～絶対的格差の指標: 3割負担で13%、2割負担で8%、1割負担で5%～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10173&amp;upload_id=13911">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10173&amp;upload_id=13911</a>
71	2022/6/1	スポーツクラブのグループプログラムに参加する高齢者は、スポーツクラブでの運動を継続する可能性が3.6倍高い	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10164&amp;upload_id=13895">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10164&amp;upload_id=13895</a>
72	2022/6/1	「外出」の定義を示さずに調査すると外出している高齢者も「閉じこもり」として把握される～外出の定義がない場合の「閉じこもり」の85%は週1回以上外出している～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10165&amp;upload_id=13896">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10165&amp;upload_id=13896</a>
73	2022/6/1	子どもの時の貧困は高齢期の社会関係にも影響～幼少期の社会経済状況低い場合に高齢期での社会とのつながりが希薄か。閉じこもり1.2倍～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10244&amp;upload_id=14127">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10244&amp;upload_id=14127</a>
74	2022/6/10	アマタHDと千葉大学予防医学センター、「MEGURU STATION®」で健康増進効果を確認—6年間の累積介護費用約920万円の抑制に相当—	アマタホールディングス(株)	根来宏行(アマタホールディングス株式会社) 榎田豊久(アマタホールディングス株式会社)	プレス発表	<a href="https://www.amita-hd.co.jp/news/220610_megurustation.html">https://www.amita-hd.co.jp/news/220610_megurustation.html</a>

75	2022/6/10	アマタHDと千葉大学予防医学センター、「MEGURU STATION®」で健康増進効果を確認 —6年間の累積介護費用約920万円の抑制に相当—	千葉大学, 日本老年学的評価研究機構	阿部紀之(千葉大学), 井手一茂(千葉大学), 近藤克則(千葉大学, 日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	オンライン
76	2022/7/1	スポーツの会参加、助け合いが10ポイント増の市区町では喫煙率1.7~4.5ポイント低下 ~ソーシャル・キャピタルを活用した喫煙対策・モニタリングの可能性~	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学, 日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10245&amp;upload_id=14128">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10245&amp;upload_id=14128</a>
77	2022/7/1	インターネットでつながりを保つ高齢者は健康感が1.6倍、幸福感が1.4倍 ~性・年齢・学歴等や友人と会う頻度の影響を考慮した分析結果~	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学, 日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10246&amp;upload_id=14129">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10246&amp;upload_id=14129</a>
78	2022/8/1	高齢者の「できるけど、していない」はどう評価するべきか? ~機能低下と捉えると、リスク該当者は要介護認定発生2.3~3.8倍増加~	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学, 日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10822&amp;upload_id=14344">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10822&amp;upload_id=14344</a>
79	2022/9/1	6年間の追跡調査により、複数疾患に同時罹患すると、高齢者の就労継続率が低下することを明らかにしました	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学, 日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10866&amp;upload_id=14498">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10866&amp;upload_id=14498</a>
80	2022/9/1	望ましい環境で12~22%ものフレイルを抑制坂や段差が多い地域に暮らすだけでフレイルが3%抑制	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学, 日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10869&amp;upload_id=14501">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10869&amp;upload_id=14501</a>
81	2022/9/1	こころの健康増進にすすめの運動・スポーツ~男性はゴルフ、女性は散歩・筋トレ・ハイキング等~	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学, 日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10870&amp;upload_id=14502">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=10870&amp;upload_id=14502</a>
82	2022/9/17	第20回なのはなコンペ2022 最終審査ピッチイベントを開催	千葉大学IMO	田島翔太(千葉大学)	成果発信イベントの開催	<a href="https://imo.chiba-u.jp/news/news/2022_1.html">https://imo.chiba-u.jp/news/news/2022_1.html</a>

83	2022/10/1	運動に関心が低くても1日30分以上歩いている高齢者の特徴は？～「看病や世話」「友人と会う」など人とのつながりなどを中心とした11項目が明らかに～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11922&amp;upload_id=15284">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11922&amp;upload_id=15284</a>
84	2022/10/1	入れ歯やブリッジやインプラントを利用していると、幸福と感じている可能性が11～16%高い	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11923&amp;upload_id=15285">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11923&amp;upload_id=15285</a>
85	2022/10/1	歯の喪失が死亡リスク上昇につながるメカニズムが明らかに～大幅な体重減少が関連の約13%を説明～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11924&amp;upload_id=15286">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11924&amp;upload_id=15286</a>
86	2022/10/1	2種類以上の社会参加のある人では血圧コントロールの良好な人が8%多い～社会的処方新たな可能性～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11925&amp;upload_id=15287">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11925&amp;upload_id=15287</a>
87	2022/10/4-2022/10/31	イノベーション・ジャパン2022—大学見本市 & ビジネスマッチング— Online	千葉大学	森千里, 花里真道, 近藤克則, 櫻井健一, 鈴木規道(千葉大学)	展示会への出展(国内)	オンライン
88	2022/10/29	ソーシャルネットワークサービスを用いた情報発信による幸福感向上の検証～千葉大学と三井不動産, NTTドコモが共同研究契約を締結	千葉大学, 日本老年学的評価研究機構	阿部紀之(千葉大学), 井手一茂(千葉大学), 近藤克則(千葉大学, 日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	オンライン
89	2022/11/2	千葉大学予防医学センターと野村不動産株式会社・野村不動産ウェルネス株式会社の共同研究について 健康増進型・賃貸シニアレジデンス「オウカス」の第三者評価の取得 健康維持・増進の取組みに関する効果検証にむけ、千葉大学と共同研究契約を締結 ～ゼロ次予防の概念を盛り込んだプログラム検証、2021年11月アンケート調査実施～	千葉大学	近藤克則(千葉大学)	プレス発表	

90	2022/12/1	近隣の交差点や道路はうつに影響するか？—交差点や道路のつながりが多い地域に居住する高齢者は3年後のうつリスクが14～17%低い—	日本老年学的 評価研究機構	近藤克則(千 葉大学、日本 老年学的評 価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11979&amp;upload_id=15464">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11979&amp;upload_id=15464</a>
91	2022/12/1	歯が0～9本で入れ歯やブリッジを使用していない人は、6年後に社会的に孤立する可能性が79%高かった	日本老年学的 評価研究機構	近藤克則(千 葉大学、日本 老年学的評 価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11980&amp;upload_id=15465">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11980&amp;upload_id=15465</a>
92	2022/12/1	千葉大学OPERAシンポジウム 鷗外が目指した健康まちづくりと千葉大学OPERAの「ゼロ次予防」	主催:千葉大学	森千里, 花里 真道, 近藤克 則, 櫻井健一, 鈴木規道(千 葉大学)	成果発信イ ベントの開催	千葉大学+オン ライン(ハイブリッド開 催)
93	2023/1/1	新聞を読まない、誰かの相談に乗っていない高齢者は予防接種を受けていない可能性が約10-12%高い～新聞を読める能力、誰かの相談に乗る能力が高齢者の予防接種に重要である可能性～	日本老年学的 評価研究機構	近藤克則(千 葉大学、日本 老年学的評 価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11991&amp;upload_id=15572">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11991&amp;upload_id=15572</a>
94	2023/1/1	コロナ禍で行動減少の数が増えるほど高齢者虐待のリスクも増加 最大2.78倍～特に日用品の買い出しと近隣との交流を減らした人でリスクが増加～	日本老年学的 評価研究機構	近藤克則(千 葉大学、日本 老年学的評 価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11992&amp;upload_id=15573">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11992&amp;upload_id=15573</a>
95	2023/1/1	高齢者の視力の低下・慢性腰痛は重度だと、完全な健康状態での約80日喪失に相当	日本老年学的 評価研究機構	近藤克則(千 葉大学、日本 老年学的評 価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11993&amp;upload_id=15574">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=11993&amp;upload_id=15574</a>
96	2023/2/20	高齢者の社会参加する割合が5%多い都道府県は、自殺率(SMR)が約10%少ない	日本老年学的 評価研究機構	近藤克則(千 葉大学、日本 老年学的評 価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=12033&amp;upload_id=15701">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=12033&amp;upload_id=15701</a>

97	2023/2/20	医療費の自己負担割合が低いほど、歯周病と歯科受診の社会経済的な格差は小さい ～自己負担割合1割では、所得による歯肉出血の絶対的格差が見られない～	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=12034&amp;upload_id=15702">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=12034&amp;upload_id=15702</a>
98	2023/3/24	平時の社会参加が有事の感染対策に！? コロナ流行前の社会参加と流行下の感染予防/健康行動	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=12145&amp;upload_id=15879">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=4358&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=268&amp;file_id=12145&amp;upload_id=15879</a>
99	2023/3/24	近隣に生鮮食料品店が増えると歩行時間も増える！ 毎日の歩行時間が増える可能性が12%高い	日本老年学的評価研究機構	近藤克則(千葉大学、日本老年学的評価研究機構)	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/?action=common_download_main&amp;upload_id=16401">https://www.jages.net/?action=common_download_main&amp;upload_id=16401</a>
100	2023/5/30	重い介護負担で高齢者のインフルエンザ予防接種が4～6割減少する可能性 ほぼ毎日介護、ほぼ1日中介護等の重い介護負担を抱えている高齢者は インフルエンザワクチン接種割合が低い	JAGES、新潟大学	齋藤孔良	プレス発表	<a href="chrome-extension://efaidnbmnribpcajpcglclefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=13392&amp;upload_id=17248">chrome-extension://efaidnbmnribpcajpcglclefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=13392&amp;upload_id=17248</a>
101	2023/5/30	自立高齢者の39%に慢性運動器疼痛10～14%は身体の広範囲に疼痛、地域差が大きい ～58市町村に居住する地域高齢者を対象に実施した調査～	JAGES、順天堂大学	山田恵子	プレス発表	<a href="chrome-extension://efaidnbmnribpcajpcglclefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=13393&amp;upload_id=17249">chrome-extension://efaidnbmnribpcajpcglclefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=13393&amp;upload_id=17249</a>
102	2023/5/30	社会的孤立 健康・Well-beingへの広範な影響 ～死亡リスク1.9倍、認知症1.6倍、介護リスク1.5倍、抑うつ、幸福感、希望、歩行、健診受診にも～	JAGES、千葉大学	中込敦士	プレス発表	<a href="chrome-extension://efaidnbmnribpcajpcglclefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=13394&amp;upload_id=17250">chrome-extension://efaidnbmnribpcajpcglclefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=13394&amp;upload_id=17250</a>

103	2023/5/30	インターネットで広がる友人との交流・社会参加 ～健診受診や日常生活動作との関連も～	JAGES、千葉大学	中込敦士	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcgiclfikndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13395&upload_id=17251
104	2023/5/30	コロナ禍でビデオ通話利用者は抑うつリスク11%低い ～ビデオ通話の可能性と再認識される対面交流の意義～	JAGES、千葉大学	中込敦士	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcgiclfikndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13396&upload_id=17252
105	2023/5/31	千葉大学と岩瀬薬品株式会社「健康まちづくり共同研究部門」を設立しました。千葉大学予防医学センター（教授 近藤克則、特任准教授 中込敦士）（以下、予防医学センター）は、岩瀬薬品株式会社（代表取締役 社長 岩瀬琢磨）（以下、岩瀬薬品）と連携し、新たな共同研究部門として「健康まちづくり共同研究部門（Department of Community Building for Well being）」を2023年4月1日に設立しました。	主催：千葉大学	近藤克則（千葉大学）、中込敦士（千葉大学）、岩瀬琢磨（岩瀬薬品株式会社代表取締役社長）	成果発信イベントの開催	千葉大学 IMO棟
106	2023/6/23	フレイル高齢者はインフルエンザに1.4倍かかりやすく、3.2倍重症化しやすい 高齢男性は高齢女性に比べ1.7倍インフルエンザが重症化しやすい	JAGES、新潟大学	齋藤孔良	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcgiclfikndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13551&upload_id=17533
107	2023/6/23	介護予防事業の効果評価を実施するには？ ～JAGES通いの場ワーキンググループで整理したロジックモデルの一例～	JAGES、千葉大学	井手一茂	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcgiclfikndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13552&upload_id=17534

108	2023/6/23	種類別の社会参加頻度の介護予防効果は!? ～スポーツ・趣味の会は参加頻度が高いと14～24%要介護リスク減少 町内会は参加頻度低めでも10%要介護リスク減少～	JAGES、千葉大学	井手一茂	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcgiclfefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13553&upload_id=17535
109	2023/6/23	幸せなまちづくりには社会参加が重要 ～スポーツ・趣味の会などの社会参加割合が10%ポイント高いと幸せ割合が3～5%ポイント高い～	JAGES、千葉大学	井手一茂	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcgiclfefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13554&upload_id=17536
110	2023/6/23	「健康支援型」道の駅利用で健康に！ ～道の駅利用者で主観的健康感不良者が約33%減少～	JAGES、千葉大学	熊澤大輔	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcgiclfefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13570&upload_id=17615
111	2023/7/6-2023/7/7	健康まちづくりEXPO 2023	主催：株式会社JTBCコミュニケーションデザイン、株式会社朝日新聞社	WACoコンソーシアム	展示会への出展(国内)	グランフロント大阪コングレコンベンションセンター
112	2023/6/23	社会参加により社会的サポートが育まれる ～参加するグループの数が1,2,3種類と増えると、社会的サポートは1.3, 1.5, 1.7倍育まれる～	JAGES、千葉大学	飯塚玄明	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcgiclfefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13555&upload_id=17537
113	2023/7/12	調理技術が高いと社会的つながり2倍～近所づきあい、社会参加、サポート授受など様々な社会的つながりアップ～	JAGES、東京医科歯科大学	谷友香子	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcgiclfefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13602&upload_id=17700

114	2023/7/12	子どもの時の社会経済状況も、高齢期の歯数や咀嚼の健康格差に寄与 ～高齢期の社会経済状況や健康行動が一部のメカニズム～	JAGES、東北大学	倉本絹美	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnribpcjpcglclefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13603&upload_id=17701
115	2023/7/12	歯数・口腔機能の維持は将来の要介護認定リスクを下げる ～歯の本数が要介護発生に与えるリスクは12.0%～	JAGES、東北大学	倉本絹美	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnribpcjpcglclefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13604&upload_id=17702
116	2023/7/14	千葉大学予防医学センター 共同研究部門設立記念シンポジウム「健康まちづくり～産学連携による SIB の可能性を探る～」	主催:千葉大学、岩淵薬品株式会社	近藤克則(千葉大学)、中込敦士(千葉大学)、岩淵琢磨(岩淵薬品株式会社代表取締役社長)	成果発信イベントの開催	千葉大学 けやき会館
117	2023/8/1	千葉大学 OPERA シンポジウム「WACoコンソーシアムが目指すゼロ次予防に基づく自然に健康になれる環境・まちづくり」	主催:千葉大学	森千里, 花里真道, 近藤克則, 櫻井健一, 鈴木規道(千葉大学)	成果発信イベントの開催	千葉大学+オンライン(ハイブリッド開催)
118	2023/8/24-25	イノベーション・ジャパン2023大学見本市	千葉大学	田島翔太	展示会への出展(国内)	
119	2023/8/24-25	イノベーション・ジャパン2023大学見本市	千葉大学	鈴木規道	展示会への出展(国内)	
120	2023/8/30	毎日お風呂に入っている人でうつ発症が少ない ～毎日入浴している人ではうつ発症は0.76倍、高齢者約3200人の6年間の追跡調査～	JAGES、東京都市大学	早坂信哉	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnribpcjpcglclefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13702&upload_id=17857
121	2023/8/30	歯が少ない人でも、入れ歯を使っていれば、タンパク質の摂取低下は小さい ～入れ歯の使用でタンパク質摂取量が 8 割改善～	JAGES、東北大学	草間太郎	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnribpcjpcglclefndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13844&upload_id=18065

122	2023/8/30	高齢者の“通いの場”への参加により健康・暮らし・幸せに期待される効果は？～34 指標による総合的な評価～	JAGES、千葉大学	井手一茂	プレス発表	chrome-extension://efaidnbmnnpbpcajpcgicleftndmkaj/https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13845&upload_id=18066
123	2023/09/03	コーヒーと高齢者の社会参加と健康増進(ランチョンセミナー)	ネスレ日本、千葉大学	近藤克則	成果発信イベントの開催	https://www.congre.co.jp/kaizen70/index.html
124	2023/10/04	健康増進型・サービス付き高齢者向け住宅における暮らしと健康維持・増進の関係性の評価 第2弾 サービス付き高齢者向け住宅初、入居することで自然と社会参加が促され、要介護リスクの低減につながる可能性があることを数値で評価※1	野村不動産株式会社・野村不動産ウェルネス株式会社	近藤克則(千葉大学)	プレス発表	https://www.nomura-re.co.jp/cfiles/news/n2023100402299.pdf
125	2024/01/31	スマートフォンアプリを活用したショッピングモールでのウォーキングプログラムに参加で歩数増を確認[国立大学法人千葉大学]	千葉大学、イオンモール株式会社	松岡洋子、吉田紘明、花里真道	プレス発表	https://prtimes.jp/main/html/rd/p/00000802.000015177.html
126	2024/02/19	仮設住宅への転居でうつリスク3.8倍 ただし転居に際してグループ活動への関わり方が変化した人はそのうつリスクが4割減	JAGES、京都大学	松岡洋子	プレス発表	https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=14155&upload_id=18870
127	2023/10	望ましい地域環境に暮らすと、なぜフレイルになりにくい？～歩行時間・うつ・助け合いによって約40%説明～	JAGES、千葉大学	森優太	プレス発表	https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=13916&upload_id=18262
128	2023/10	独居高齢者の健康は、男女別婚姻状況別 項目別に差がある。男性「未婚独居」の健康関連QOLスコアは「夫婦2人以上世帯」に比べて0.044点(1点満点)低い	JAGES、名古屋市立大学	小牧靖典	プレス発表	https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=14020&upload_id=18421
129	2023/11/30	聴覚障害があっても社会活動に参加すると認知症を予防できる～聴覚の問題がある人では認知症を2倍発症しやすい～	JAGES、浜松医科大学	小島香	プレス発表	https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&block_id=5028&room_id=549&cabinet_id=304&file_id=14048&upload_id=18500

130	2023/11/30	聴こえの程度は社会参加の種類に関係する～聴こえの程度にかかわらず、参加しやすい活動も明らかに～	JAGES、浜松医科大学	小島香	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14049&amp;upload_id=18501">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14049&amp;upload_id=18501</a>
131	2023/11/30	3つ以上の子ども期の逆境体験により死別のリスク1.3倍、未婚のリスク2.2倍、離婚は女性で3.4倍、男性は2.1倍～日本の高齢者を対象にした追跡研究～	JAGES、東京医科歯科大学	松倉華代	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14050&amp;upload_id=18502">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14050&amp;upload_id=18502</a>
132	2023/11/30	ストレス対応能力が高いと認知症発生リスクが約2割減?ストレスに対処する能力が高齢者の認知症予防に重要である可能性～約3万1千人の9年間の追跡調査の結果	JAGES、大阪大学	李嘉琦	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14051&amp;upload_id=18503">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14051&amp;upload_id=18503</a>
133	2023/11/30	社会参加でフレイル発症リスク2割低い～フレイルリスクはスポーツ・趣味の会で約20%低く、参加している数が多いほど低い～	JAGES、千葉大学	竹内寛貴	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14052&amp;upload_id=18504">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14052&amp;upload_id=18504</a>
134	2023/11/30	趣味は一人ですするのに比べてグループですると認知症になる確率が19%低い	JAGES、千葉大学	LINGLING	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14053&amp;upload_id=18505">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14053&amp;upload_id=18505</a>
135	2023/11/30	電動カート(グリスロ)は“動く交流の場”!?～利用者では外出約1.9倍、さらにはこころ、人とのつながりまで2.1～5.2倍～	JAGES、浜松医科大学	田村元樹	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14054&amp;upload_id=18506">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14054&amp;upload_id=18506</a>
136	2023/12/31	地価が高いと高齢者の外出頻度が低い可能性「最寄り駅までの遠さ」の1.03倍、「地価が高い」ほど高齢者の外出頻度は低い傾向があった	JAGES、東京大学	坂本慧介	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14085&amp;upload_id=18587">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14085&amp;upload_id=18587</a>

137	2023/12/31	主観的幸福感が高いと高血圧の罹りやすさが0.91倍低かった	JAGES、福島県立医科大学	林史和	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14086&amp;upload_id=18588">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14086&amp;upload_id=18588</a>
138	2023/12/31	地域のジェンダー規範が保守的と感じる人は、うつ症状・自殺念慮・自殺未遂歴が約2倍多い「男のくせに、●●してはいけない」「女なんだから、●●しなさい」	JAGES、京都大学	金森万里子	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14087&amp;upload_id=18589">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14087&amp;upload_id=18589</a>
139	2023/12/31	子どもの頃の逆境経験が多い高齢者は孤立のリスクが大きくなるのか～逆境経験が2つ以上あると閉じこもりは1.5倍～	JAGES、慶應義塾大学	芦田登代	プレス発表	<a href="https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14088&amp;upload_id=18590">https://www.jages.net/library/pressrelease/?action=cabinet_action_main_download&amp;block_id=5028&amp;room_id=549&amp;cabinet_id=304&amp;file_id=14088&amp;upload_id=18590</a>
140	2024/3/30	先進予防型まちづくりと道の駅むつざわ	パシフィックコンサルタンツ株式会社	熊澤大輔	成果発信イベントの開催	※イベントではなく、施設への広報媒体設置
141	2024/2/8	グリスロを導入する契機「松戸プロジェクト」の地域診断 ぎのわん健康プロジェクト(健康行動プログラム構築実証事業)	ヤマハ発動機株式会社	井手一茂	成果発信イベントの開催	
142	2024/2/8	グリスロ実証調査2019・2021ぎのわん健康プロジェクト(健康行動プログラム構築実証事業)	ヤマハ発動機株式会社	小林周平	成果発信イベントの開催	
143	2024/1/22	【千葉大学×三井不動産インタビュー：柏の葉キャンパスエリアの居住者の心身の健康評価 共同研究】「暮らしているだけで自然に健康になれる街」はあり得るのではありませんか、それをデータで裏付けてみたい。」	三井不動産株式会社、千葉大学	近藤克則、中込敦士(千葉大学)、増田大樹(三井不動産株式会社)	プレス発表	<a href="https://www.kashiwanoha-smartcity.com/info/topics/72/">https://www.kashiwanoha-smartcity.com/info/topics/72/</a>
144	2024/3/2	千葉大学予防医学センター第43回市民講座(共催:山田養蜂場寄附研究部門)「環境と子どもの健康」	千葉大学予防医学センター	坂部貢、森千里、櫻井健一、山本緑、江口哲史、戸高恵美子	成果発信イベントの開催	<a href="https://cpms.chiba-u.jp/news/">https://cpms.chiba-u.jp/news/</a>
145	2018/8/2	『健康への気づき』を促す空間デザイン・プログラムの実現と効果検証の実施	千葉大学、イオンモール株式会社、株式会社竹中工務店	吉田 紘明	プレス発表	<a href="https://www.chiba-u.jp/about/files/pdf/20180802_miyazaki.pdf">https://www.chiba-u.jp/about/files/pdf/20180802_miyazaki.pdf</a>
146	2018/12/14	商業施設にゼロ次予防に基づく空間プログラムを設置し、来館者に『健康への気づき』を促すことを確認	千葉大学、株式会社竹中工務店	吉田 紘明	プレス発表	<a href="https://www.chiba-u.jp/about/files/pdf/20181214kenkou.pdf">https://www.chiba-u.jp/about/files/pdf/20181214kenkou.pdf</a>
147	2021/9/1	イオンモールウォーキングと健康に関する共同研究を開始	千葉大学、イオンモール株式会社	花里 真道	プレス発表	<a href="https://www.chiba-u.jp/about/files/pdf/20210901_1.pdf">https://www.chiba-u.jp/about/files/pdf/20210901_1.pdf</a>
148	2022/8/4	千葉大学とイオンモールによるイオンモールウォーキングと健康に関する共同研究結果のお知らせ	千葉大学・イオンモール株式会社	花里 真道	プレス発表	<a href="https://www.chiba-u.ac.jp/about/files/pdf/20220804_1.pdf">https://www.chiba-u.ac.jp/about/files/pdf/20220804_1.pdf</a>
149	2024/1/31	スマートフォンアプリを活用したショッピングモールでのウォーキングプログラムに参加で歩数増を確認	千葉大学・イオンモール株式会社	花里 真道	プレス発表	<a href="https://www.chiba-u.jp/news/files/pdf/20240131_aeonmall01.pdf">https://www.chiba-u.jp/news/files/pdf/20240131_aeonmall01.pdf</a>

(平成30年度～令和5年度) OPERA 活動実績一覧【幹事機関:千葉大学】

領域名: ゼロ次予防戦略によるWell Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装

⑦掲載・放映

No	発表年月日	メディア名 掲載・放映内容の概要	発表機関	主な対応者	形式	備考
1	2019/2/8	創樹社 ハウジングトリビューン 概要:新・住まい学 シックハウスと住まい 前編,創樹社	千葉大学	鈴木規道	雑誌掲載 (WEB含む)	
2	2019/2/22	創樹社 ハウジングトリビューン 概要:新・住まい学 シックハウスと住まい 後編,創樹社	千葉大学	鈴木規道	雑誌掲載 (WEB含む)	
3	2019/4/19	日経BP 概要:“暮らすと健康になるまち”を ソーシャル・インパクト・ボンドで	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	※WEB掲載のみ <a href="https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/report/040400175/?P=2">https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/report/040400175/?P=2</a>
4	2019/12/25	月刊シニアビジネスマーケット 概要:松戸市のグリーンスローモビリティ実証調査 特集:「交通弱者」を救う!生活圏でのモビリティの可能性 ケーススタディ 松戸市 グリーンスローモビリティ実証調査単なる移動手段ではなくコミュニケーションツール住民主体で地域課題に向き合う契機に	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	
5	2020/1/1	月刊シニアビジネスマーケット 概要:特集[シリーズ③]胎動する“フレイル”予防マーケット「社会参加」の新しいカタチ スポーツ、趣味活動など「社会参加」は健康寿命の延伸につながるか	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	
6	2020/12/23	Landscape Design No.136, マルモ出版	千葉大学	三谷、近藤、岩崎、花里、田島	雑誌掲載 (WEB含む)	
7	2021/2/16	年鑑日本の空間デザイン2021 ディスプレイ・サイン・商空間	千葉大学	田島	雑誌掲載 (WEB含む)	
8	2020/12/1	第54回日本サインデザイン賞作品集	千葉大学	田島	雑誌掲載 (WEB含む)	
9	2020/2/11	毎日新聞朝刊18面 概要:コロナ禍で児童の心身にどのような影響が出ているか調べるために心身の健康の定期検査を行う	千葉大学	森千里・戸高恵美子	新聞掲載 (WEB含む)	
10	2020/2/17	日経BP(Webメディア) 概要:東浦町が政令都市に混じるワケ、データに見る健康まちづくり 暮らしているだけで健康になれるまちづくりの在り方とは	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00003/021000074/">https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00003/021000074/</a>
11	2020/3/25	毎日新聞朝刊24面 概要:子どもの健康調査 コロナ後生活習慣や環境影響 千葉大学教育学部附属小学校の協力で追跡調査実施	千葉大学	森千里・戸高恵美子	新聞掲載 (WEB含む)	
12	2020/3/25	株式会社クラブビジネスジャパン 経営情報誌 Fitness Business 概要:特集 コミュニティをつくる	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	
13	2020/4/10	Buzz Feed News 概要:新型コロナウイルスの拡大を抑えるための過ごし方 D27 外出自粛していても高齢者は運動や交流を日本の高齢者30万人を調査している大規模研究が示すこと	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	

14	2020/4/22	朝日新聞デジタル 概要:新型コロナウイルスの拡大を抑えるための過ごし方 外出減、高齢者もネットで交流を	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	
15	2020/5/13	聖教新聞 概要:長期化するコロナ禍に立ち向かう 身体的距離は保ちながらも、人とのつながりを切らさない	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	
16	2020/6/8	週刊保健衛生ニュース 概要:JAGES-通いの場が健康格差改善の可能性	JAGES	井手一茂	雑誌掲載 (WEB含む)	
17	2020/7/22	KBS京都ラジオ 情報ワイド番組に電話出演 概要:外出や人との交流が減り閉じこもりがちになると高齢者にどのような影響を与えるのか	千葉大学	近藤克則	ラジオ放送	
18	2020/9/1	「グリーン情報」vol487、2020年11月号 連載「ヒーリング時代の緑の使い方」第22回「ワーケーションー自然豊かな緑の中で仕事をしながらリフレッシュー」	千葉大学	岩崎寛	雑誌掲載 (WEB含む)	
19	2020/10/1	「家庭画報」2020年11月号 特集「人生100年時代の新しい“自然療法”。健康寿命を延ばす『ガーデンセラピー』」世界文化社発行	千葉大学	岩崎寛	雑誌掲載 (WEB含む)	WEB版 <a href="https://www.kateigaho.com/migaku/biyou/90566/">https://www.kateigaho.com/migaku/biyou/90566/</a>
20	2020/10/1	食べ物通信596号	千葉大学	森千里	雑誌掲載 (WEB含む)	
21	2020/10/16	東京新聞横浜地方版 概要:横浜市のウォーキング事業参加で高齢者、1日の歩行3.6分増加	千葉大学	藤原聡子	新聞掲載 (WEB含む)	
22	2020/11/10	地域人63号 概要:健康で幸福なまちをつくる特集にて、千葉大学OPERAを紹介、大正大学出版会	千葉大学	花里真道	雑誌掲載 (WEB含む)	
23	2020/11/17	静岡新聞夕刊 概要:横浜市ウォーキング事業(YWP) ウォーキング健康効果を実証 高齢者のデータ分析	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	
24	2020/11/19	日本海新聞 概要:横浜市ウォーキング事業(YWP) 高齢者の健康づくりに効果 ウォーキング事業を検証	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	
25	2020/11/19	神戸新聞 概要:横浜市ウォーキング事業(YWP) 楽しく歩いて高齢者いきいき歩数で	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	
26	2020/11/22	千葉日報 概要:横浜市ウォーキング事業(YWP) 高齢者のうつ改善に効果	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	
27	2020/11/23	京都新聞 概要:横浜市ウォーキング事業(YWP) ウォーキングやはり高齢者に効果大	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	
28	2020/11/24	宮崎日日新聞 概要:横浜市ウォーキング事業(YWP) ウォーキングで高齢者が健康に	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	
29	2020/11/25	東京新聞夕刊 概要:横浜市ウォーキング事業(YWP) 横浜・ウォーキング事業検証 高齢者の健康に効果	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	

30	2020/11/25	埼玉新聞 概要:横浜市ウオーキング事業 (YWP) 高齢者の健康づくりに効果	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含 む)	
31	2020/11/30	長崎新聞 概要:横浜市ウオーキング事業 (YWP) 高齢者の「健康」に効果 ウオーキング事業を検証	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含 む)	
32	2020/11/30	秋田さきがけ 概要:横浜市ウオーキング事業 (YWP) 横浜ウオーキング事業 高齢者の健康に効果	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含 む)	
33	2020/12/1	山陽新聞 概要:横浜市ウオーキング事業 (YWP) ウオーキング高齢者に効果	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含 む)	
34	2020/12/4	徳島新聞 概要:横浜市ウオーキング事業 (YWP) ウオーキングで健康増進	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含 む)	
35	2020/12/6	毎日新聞WEB 概要:毎日新聞企業人大学 12月定期講座「ウイズコロナ」健康 なまちづくり	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含 む)	
36	2021/1/15	公明新聞	千葉大学	鈴木規道	新聞掲載 (WEB含 む)	
37	2021/3/1	雑誌「都市緑化技術」114号 特集「バイオフィリックデザインと職場 の環境～with コロナ、after コロナ時 代の緑～」『バイオフィリア理論に基 づく緑の健康効果を取り入れた新し い働き方』公益財団法人都市緑化機 構発行	千葉大学	岩崎寛	雑誌掲載 (WEB含 む)	
38	2021/3/1	雑誌「世界」2021年3月号「化学物質 に満たされたコップの中の子もた ち」	千葉大学	戸高恵美子・ 森千里	雑誌掲載 (WEB含 む)	
39	2021/3/25	毎日新聞朝刊「千葉大学予防医学セ ンター 子どもの健康調査 クラスだ けで健康になる街を」	千葉大学	森・戸高	新聞掲載 (WEB含 む)	
40	2021/8/26	産経新聞 概要:千葉・松戸で電動カートのデモ 走行 ヤマハ発製、「高齢者の足」期 待	千葉大学 予防医学セン ター	近藤克則	新聞掲載 (WEB含 む)	
41	2021/8/26	産経新聞WEB 千葉・松戸で電動カートのデモ走行 ヤマハ発製、「高齢者の足」期待	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含 む)	<a href="https://www.sankei.com/article/20210826-4ZBNLEYHG5M2TO3UQUAUZE5P2VM/">https://www.sankei.com/article/20210826-4ZBNLEYHG5M2TO3UQUAUZE5P2VM/</a>
42	2021/9/14	松戸経済新聞 概要:松戸市のグリーンスローモビリ ティ実証調査	千葉大学 予防医学セン ター	近藤克則	新聞掲載 (WEB含 む)	
43	2021/10/11	YAHOO! JAPANニュース 概要:ヤマハ発動機株式会社が、低 速モビリティによる移動が健康に寄 与する目的で、予防医学センターと 共同研究契約を締結したことを発 表。	千葉大学予防 医学センター	近藤克則	新聞掲載 (WEB含 む)	
44	2021/10/11	日本経済新聞WEB ヤマハ発動機、高齢者の移動と健康 を研究	ヤマハ発動機	ヤマハ発動 機	雑誌掲載 (WEB含 む)	<a href="https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC117WR0R11C21A0000000/">https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC117WR0R11C21A0000000/</a>

45	2021/10/11	ヤマハ発動機株式会社 企業サイト 千葉大学と「移動と健康の検証」に関する共同研究契約を締結 ～高齢化社会に低速運転車両を活用した“健康促進”ソリューションを提供～	千葉大学、ヤマハ発動機	千葉大学、ヤマハ発動機	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://global.yamaha-motor.com/jp/news/2021/1011/corporate.html">https://global.yamaha-motor.com/jp/news/2021/1011/corporate.html</a>
46	2021/10/22	日本農業新聞 概要：農村の医療などの向上に努めた研究・活動を評価し、日本農業新聞賞を近藤克則教授に授与した。	千葉大学予防医学センター	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	
47	2022/1/15	日本住宅新聞	千葉大学	中山誠健	新聞掲載 (WEB含む)	
48	2022/2/14	町村週報	千葉大学	田島翔太	雑誌掲載 (WEB含む)	全国の自治体に配布
49	2022/4/15	メディア媒体(ホームページ)(17社) ヤマハ発動機・千葉大学「移動と健康の検証」共同研究、2021年度研究結果のお知らせ	千葉大学、ヤマハ発動機	千葉大学、ヤマハ発動機	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://news.yamaha-motor.co.jp/2022/022581.html">https://news.yamaha-motor.co.jp/2022/022581.html</a>
50	2022/4/15	ヤマハ発動機株式会社 企業サイト ヤマハ発動機・千葉大学「移動と健康の検証」共同研究、2021年度研究結果のお知らせ 公道用“電動カート”を使った移動により、健康促進に関連する各種指標が向上	ヤマハ発動機	千葉大学、ヤマハ発動機	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://news.yamaha-motor.co.jp/2022/022581.html">https://news.yamaha-motor.co.jp/2022/022581.html</a>
51	2022/5/7	中日新聞朝刊 高齢者の電動カート利用で「家族以外との会話増」ヤマハ発×千葉大、研究結果公表	千葉大学、ヤマハ発動機	千葉大学、ヤマハ発動機	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://biz.chunichi.co.jp/news/article/10/40553/81/">https://biz.chunichi.co.jp/news/article/10/40553/81/</a>
52	2022/5/20	不動産流通研究所 WEB 健康増進型住宅での暮らしと健康維持の関係を検証	千葉大学	上野貴之	雑誌掲載 (WEB含む)	
53	2022/5/23	建設通信新聞 WEB 健康増進型・賃貸シニアレジデンス「オウカス」/積極的に外出、介護費を抑制/野村不ら 健康寿命延伸 調査結果を発表	千葉大学	上野貴之	雑誌掲載 (WEB含む)	
54	2022/5/24	住宅新報 WEB 賃貸シニアレジ入居者介護費用低減の可能性 野村不、千葉大など調査	千葉大学	上野貴之	雑誌掲載 (WEB含む)	
55	2022/6/20	高齢社会白書 ヤマハ発動機と千葉大学予防医学センターは、2021年10～12月に千葉県松戸市で「移動と健康」の共同研究	千葉大学		雑誌掲載 (WEB含む)	

56	2022/7/29	メディア掲載 21社 ヤマハ発動機と千葉大学予防医学センターが、「移動と健康」に関する2年目の実証実験活動を開始 ヤマハ発動機株式会社 企業サイト、BtoBプラットフォーム 業界チャンネル、Ampmedia、とれまがニュース、AFPBB News、AGARA紀伊民報、@niftyビジネス、SankeiBiz、Biglobe ニュース、財經新聞、CNET Japan、北海道新聞、Infoseekニュース、朝日新聞、ZDNet Japan、Digital PR Platform、河北新報、Excite エキサイト、newsrelea.se、沖縄タイムス、新潟日報	千葉大学、ヤマハ発動機	千葉大学、ヤマハ発動機	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://news.yamaha-motor.co.jp/2022/023141.html">https://news.yamaha-motor.co.jp/2022/023141.html</a>
57	2022/8/1	奈良テレビ放送のホームページ ヤマハ発動機と千葉大学予防医学センターが取り組んでいる実証実験が紹介 王寺町美しヶ丘地区で実証調査・シニア世代の移動支援などに「電動カート」	千葉大学、ヤマハ発動機	千葉大学、ヤマハ発動機	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://nordot.app/926786008646172672">https://nordot.app/926786008646172672</a>
58	2022/8/1	NHK NEWS WEB(奈良 NEWS WEB) ヤマハ発動機と千葉大学予防医学センターが取り組んでいる実証実験が紹介 高齢者に新たな移動手段を 王寺町で低速電動バスの実証実験	千葉大学、ヤマハ発動機	千葉大学、ヤマハ発動機	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://www3.nhk.or.jp/lnews/nara/20220801/2050011222.html">https://www3.nhk.or.jp/lnews/nara/20220801/2050011222.html</a>
59	2022/8/3	奈良新聞デジタル ヤマハ発動機と千葉大学予防医学センターが取り組んでいる実証実験が紹介 地域の大事な「足」として期待 - 王寺町、電動車で移動支援の実証調査	千葉大学、ヤマハ発動機	千葉大学、ヤマハ発動機	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://www.nara-np.co.jp/news/20220803215643.html">https://www.nara-np.co.jp/news/20220803215643.html</a>
60	2022/8/16	毎日新聞Yahoo!ニュース ヤマハ発動機と千葉大学予防医学センターが取り組んでいる実証実験が紹介 高齢者の外出支援が認知症予防に？ 電動カート、奈良で実証実験	千葉大学、ヤマハ発動機	千葉大学、ヤマハ発動機	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/08e211ebde15bab1e6f355aff0294be068a52001">https://news.yahoo.co.jp/articles/08e211ebde15bab1e6f355aff0294be068a52001</a>
61	2022/8/23	テレビ大阪ホームページ ヤマハ発動機と千葉大学予防医学センターが取り組んでいる実証実験が紹介 【京都・舞鶴】無料がネックに!? 送迎サービス /【奈良・王寺】公道を走るカート…地域交通をどう守る	千葉大学、ヤマハ発動機	千葉大学、ヤマハ発動機	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://cdn.tv-osaka.co.jp/yasashi/news/?p=43997">https://cdn.tv-osaka.co.jp/yasashi/news/?p=43997</a>
62	2023/1/19	日刊工業新聞 千葉大、予防医療など社会実装「健康まちづくり」連携拠点を整備	千葉大学	中山俊憲(千葉大学)	新聞掲載 (WEB含む)	
63	2023/2/15	ヤマハ発動機株式会社HP 大阪府河内長野市にて、公道用電動カート「グリーンスローモビリティ」実証実験第2弾	千葉大学、ヤマハ発動機	千葉大学、ヤマハ発動機	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://news.yamaha-motor.co.jp/2023/024092.html">https://news.yamaha-motor.co.jp/2023/024092.html</a>
64	2023/3/16	NHK 首都圏NEWS WEB. 高齢化進む団地でアプリ使い住民と大学生が交流 千葉 松戸	NHK 首都圏NEWS	千葉大学、松戸市、都市再生機構	テレビ放映	<a href="https://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/20230316/1000090707.html">https://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/20230316/1000090707.html</a>
65	2023/3/31	東洋経済WEB 予防医学の新しいフェーズ「ゼロ次予防」とは 千葉大学が産学で進める健康まちづくり「WACo」	千葉大学	森千里、花里真道(千葉大学)	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://toyokeizai.net/articles/-/659246">https://toyokeizai.net/articles/-/659246</a>
66	2023/4/1	公益財団法人健康・体力づくり事業財団 月刊健康づくり、自然に健康になれる環境とは	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://www.health-net.or.jp/syuppan/kenkozukuri/index.html">https://www.health-net.or.jp/syuppan/kenkozukuri/index.html</a>

67	2023/4/25	日経BP、データから見る「健康になれるまち」事例編「通いの場」をデータに基づき評価してポイント付与で参加者復活も後押し、京都府精華町	千葉大学	千葉大学 予防医学センター 社会予防医学研究部門	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/434167/031600241/?P=1">https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/434167/031600241/?P=1</a>
68	2023/5/4	毎日新聞東京朝刊、私の社会保障論 健康長寿の10年	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://mainichi.jp/articles/20230504/ddm/013/070/012000c">https://mainichi.jp/articles/20230504/ddm/013/070/012000c</a>
69	2023/5/28	東京新聞、長寿の鍵 交流にあり?	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	
70	2023/5/30	時事通信社 iJAMP、産官学共同研究を実施しているヤマハ発動機株式会社の取組が時事通信社のiJAMPで紹介	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	
71	2023/6/1	千葉日報 千葉大学予防医学センターと岩瀧薬品株式会社 健康なまちづくりへ連携 千葉大、岩瀧薬品と共同研究部門 地域課題解決も目指す	千葉大学	近藤克則(千葉大学)、中込敦士(千葉大学)、岩瀧琢磨(岩瀧薬品株式会社代表取締役社長)	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://www.chibanippo.co.jp/news/national/1065622">https://www.chibanippo.co.jp/news/national/1065622</a>
72	2023/6/1	日刊薬業 千葉大学予防医学センターと岩瀧薬品株式会社 千葉大と「健康まちづくり共同研究部門」設立 岩瀧薬品、官民連携の成果連動報酬も検討	千葉大学、岩瀧薬品株式会社	近藤克則(千葉大学)、中込敦士(千葉大学)、岩瀧琢磨(岩瀧薬品株式会社代表取締役社長)	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://nkjiho.jp/article/181340">https://nkjiho.jp/article/181340</a>
73	2023/6/1	週刊新潮 32頁、男女とも平均寿命日本一!「川崎市麻生区」は何がすごいのか	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	
74	2023/6/1	千葉日報、健康なまちづくりへ連携 千葉大、岩瀧薬品と共同研究部門 地域課題解決も目指す	千葉大学予防医学センター、岩瀧薬品株式会社	近藤克則(千葉大学)、中込敦士(千葉大学)、岩瀧琢磨(岩瀧薬品株式会社代表取締役社長)	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://www.chibanippo.co.jp/news/national/1065622">https://www.chibanippo.co.jp/news/national/1065622</a>
75	2023/6/1	日刊薬業、千葉大と「健康まちづくり共同研究部門」設立 岩瀧薬品、官民連携の成果連動報酬も検討	千葉大学予防医学センター、岩瀧薬品株式会社	近藤克則(千葉大学)、中込敦士(千葉大学)、岩瀧琢磨(岩瀧薬品株式会社代表取締役社長)	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://nkjiho.jp/article/181340">https://nkjiho.jp/article/181340</a>
76	2023/6/2	時事通信社のiJAMP 千葉大学 予防医学センター 社会予防医学研究部門の産官学共同研究を実施しているヤマハ発動機株式会社の取組が時事通信社のiJAMPで紹介	千葉大学、ヤマハ発動機	千葉大学、ヤマハ発動機	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://www.jampji.com/apps/c/kiji/view?kijiId=20230523969069">https://www.jampji.com/apps/c/kiji/view?kijiId=20230523969069</a>
77	2023/6/2	週刊ポスト 36-37頁、なぜ、「川崎市麻生区」は平均寿命全国1位になったのか	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	
78	2023/6/23	ヤフーニュース、加齢によって心身が弱った「フレイル」の高齢者 インフルエンザに1.36倍感染しやすく重症化も3.18倍に	千葉大学	齋藤孔良	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://news.yahoo.co.jp/articles/9d20ba12fb53a584b71c619340acad843cf8ea8e">https://news.yahoo.co.jp/articles/9d20ba12fb53a584b71c619340acad843cf8ea8e</a>

79	2023/6/24	讀賣新聞夕刊. 3面.平均寿命 なぜ市区町村で差？	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	
80	2023/6/29	プレスリリース配信 (PRワイヤー)、「健康支援型」道の駅利用で主観的健康感が改善！～千葉県「健康支援型」道の駅で産学官共同研究～	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://kyodonews.prwire.jp/release/202306236575">https://kyodonews.prwire.jp/release/202306236575</a>
81	2023/6/29	パシフィックコンサルタンツ株式会社ホームページ、健康支援型道の駅「道の駅むつざわ」の効果検証を千葉大学と共同で実施	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://www.pacific.co.jp/news/2023/20230629-001114.html">https://www.pacific.co.jp/news/2023/20230629-001114.html</a>
82	2023/6/29	毎日新聞東京朝刊、私の社会保障論 健康なまち「共創元年」	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://mainichi.jp/articles/20230629/ddm/013/070/013000c">https://mainichi.jp/articles/20230629/ddm/013/070/013000c</a>
83	2023/6/29	パシフィックコンサルタンツ株式会社、「健康支援型」道の駅利用で主観的健康感が改善！～千葉県「健康支援型」道の駅で産学官共同研究～ 上毛新聞、紀伊民放、河北新報、朝日新聞、福井新聞、毎日新聞、AFPBB News、徳島新聞、四国新聞 (9社)	千葉大学	近藤克則	新聞掲載 (WEB含む)	
84	2023/7/21	毎日新聞 (千葉版18面) 岩淵薬品株式会社と千葉大学との共同研究 千葉大学 予防医学センター 健康まちづくり共同研究部門設立記念シンポジウム 健康まちづくり 産学連携シンポ	千葉大学	近藤克則 (千葉大学)、中込敦士 (千葉大学)、岩淵琢磨 (岩淵薬品株式会社 代表取締役社長)	新聞掲載 (WEB含む)	
85	2023/7/21	朝日新聞朝刊 (千葉)、千葉大学 予防医学センター 健康まちづくり共同研究部門設立記念シンポジウム 健康まちづくり 産学連携シンポ	千葉大学、岩淵薬品株式会社	千葉大学、岩淵薬品株式会社	新聞掲載 (WEB含む)	
86	2023/7/28	電動カートの地域運用で高齢者の介護予防、ヤマハの実証実験 千葉大学との「移動と健康の検証」共同研究、2021年度、2022年度研究結果のお知らせ ヤマハ発動機HP	千葉大学、ヤマハ発動機	千葉大学、ヤマハ発動機	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://news.yamaha-motor.co.jp/2023/025135.html#.ga=2.79228764.978059903.1690423515-614522524.1688120603">https://news.yamaha-motor.co.jp/2023/025135.html#.ga=2.79228764.978059903.1690423515-614522524.1688120603</a>
87	2023/7/28	ヤマハ発動機株式会社HP千葉大学との「移動と健康の検証」共同研究、2021年度、2022年度研究結果のお知らせ “公道用電動カート”を使った移動により、健康促進に関連する各種指標が向上 ヤマハ発動機株式会社HP (Mapion, とれまがニュース, AGARA紀伊民報, 北海道新聞, @niftyビジネス, Biglobe ニュース, 沖縄タイムス, Digital PR Platform, 毎日新聞, Infoseek ニュース, ZDNet Japan, Excite エキサイト, 朝日新聞, AFPBB News, 河北新報, NEWSRELEASE, 新潟日報, CNET Japan (18社))	ヤマハ発動機株式会社、千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://news.yamahamotor.co.jp/2023/025135.html#.ga=2.79228764.978059903.1690423515614522524.1688120603">https://news.yamahamotor.co.jp/2023/025135.html#.ga=2.79228764.978059903.1690423515614522524.1688120603</a>
88	2023/7/30	Head Topics, Yahoo!ニュース Japan, Forbes JAPAN、電動カートの地域運用で高齢者の介護予防、ヤマハの実証実験	ヤマハ発動機株式会社、千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	

89	2023/7/31	Biglobe ニュース,Mapion,マイナビ ニュース,Excite エキサイト,ニコニコ ニュース,Infoseekニュース,LINE NEWS、電動カートが健康促進などに与える好影響を確認	ヤマハ発動機株式会社、千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	
90	2023/8/11	ウェブメディア「Clicccar」、ヤマハの電動カートは乗る人を笑顔にして要介護リスクを軽減!? 千葉大学との共同研究が面白い!	ヤマハ発動機株式会社、千葉大学	近藤克則(千葉大学)、森田浩之、増井惇也(ヤマハ発動機株式会社)	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://clicccar.com/2023/08/11/1299656/">https://clicccar.com/2023/08/11/1299656/</a>
91	2023/8/24	毎日新聞東京朝刊、私の社会保障論道の駅で健康づくり?	千葉大学	近藤克則	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://mainichi.jp/articles/20230824/ddm/013/070/015000c">https://mainichi.jp/articles/20230824/ddm/013/070/015000c</a>
92	2023/9/8	地域新聞社 千葉中央版、若葉版、稲毛版、美浜版 産官学連携で健康なまちづくり「健康まちづくり共同研究部門」設立	千葉大学	近藤克則(千葉大学)、中込敦士(千葉大学)、岩淵琢磨(岩淵薬品株式会社代表取締役社長)	新聞掲載 (WEB含む)	
93	2023/9/15	地域新聞社 四街道版(一部千葉市内) 産官学連携で健康なまちづくり「健康まちづくり共同研究部門」設立	千葉大学	近藤克則(千葉大学)、中込敦士(千葉大学)、岩淵琢磨(岩淵薬品株式会社代表取締役社長)	新聞掲載 (WEB含む)	
94	2023/12/15	御船町をテーマにした研究 日本公衆衛生学会総会で口演賞を受賞、広報みふね	千葉大学	松岡洋子(千葉大学) 近藤尚己(京都大学)	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://www.town.mifune.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c_id=3&amp;id=7963&amp;sub_id=3&amp;flid=10151">https://www.town.mifune.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c_id=3&amp;id=7963&amp;sub_id=3&amp;flid=10151</a>
95	2024/1/31	スマートフォンアプリを活用したショッピングモールでのウォーキングプログラムに参加で歩数増を確認—都市部・郊外・大型モール・女性・高齢者で特に多い歩数増加— NIKKEI COMPASS、ニコニコニュース、BtoBプラットフォーム 業界チャンネル、Sports 55、BEST TIMES、ジオルダンニュース、exciteニュース、読売新聞オンライン、@niftyニュース、ORICON NEWS、Beauty Post、BIGLOBEニュース、時事ドットコム、Rakuten Infoseek News、産経ニュース、Mapionニュース、千葉日報オンライン(17社)	千葉大学、イオンモール株式会社	松岡洋子、吉田紘明、花里真道	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://www.sankei.com/pressrelease/prtimes/I5T3QG4TUBJLXDY3ZWJ62G6C64/">https://www.sankei.com/pressrelease/prtimes/I5T3QG4TUBJLXDY3ZWJ62G6C64/</a>
96	2024/1/31	Shopping Mall Walking Program Boosts Daily Steps via Smartphone, Mirage News	千葉大学、イオンモール株式会社	松岡洋子、吉田紘明、花里真道	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://www.miragenews.com/shopping-mall-walking-program-boosts-daily-1163984/">https://www.miragenews.com/shopping-mall-walking-program-boosts-daily-1163984/</a>

97	2024/2/1	Harnessing the Power of Smartphone-Based Programs for Physical Activity: A Study on Mall Walking, Medriva	千葉大学、イオンモール株式会社	松岡洋子、吉田紘明、花里真道	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://medriva.com/fitness/exercise-and-fitness/harnessing-the-power-of-smartphone-based-programs-for-physical-activity-a-study-on-mall-walking/">https://medriva.com/fitness/exercise-and-fitness/harnessing-the-power-of-smartphone-based-programs-for-physical-activity-a-study-on-mall-walking/</a>
98	2024/2/1	Smartphone-Based Walking Programs Foster Healthier Activity Levels, ISP Today	千葉大学、イオンモール株式会社	松岡洋子、吉田紘明、花里真道	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://isp.today/smartphone-based-walking-programs-foster-healthier-activity-levels/">https://isp.today/smartphone-based-walking-programs-foster-healthier-activity-levels/</a>
99	2024/2/1	Smartphone-based mall walking program could boost daily step count, study suggests, News-Medicalほか5社	千葉大学、イオンモール株式会社	松岡洋子、吉田紘明、花里真道	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://www.news-medical.net/news/20240201/Smartphone-based-mall-walking-program-could-boost-daily-step-count-study-suggests.aspx">https://www.news-medical.net/news/20240201/Smartphone-based-mall-walking-program-could-boost-daily-step-count-study-suggests.aspx</a>
100	2024/2/11	Smartphone-based shopping mall walking programs increased daily step counts of users during the pandemic, "2 Minute Medicine, Nouvelles Du Monde, Physician's Weekly"	千葉大学、イオンモール株式会社	松岡洋子、吉田紘明、花里真道	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://www.2minutemedicine.com/smartphone-based-shopping-mall-walking-programs-increased-daily-step-counts-of-users-during-the-pandemic/">https://www.2minutemedicine.com/smartphone-based-shopping-mall-walking-programs-increased-daily-step-counts-of-users-during-the-pandemic/</a>
101	2023/10/13	日経BP事例編、道の駅で町民の「主観的健康感」が向上、睦沢町	睦沢町、パシフィックコンサルタンツ株式会社、千葉大学	睦沢町、パシフィックコンサルタンツ株式会社、千葉大学	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/434167/092900258/">https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/434167/092900258/</a>
102	2024/1/23	メディア掲載 52社 積水ハウスグループ「グランドマスト」×研究チーム 高齢者のWell-beingを高める住まいとは？ "積水ハウス株式会社企業サイト、PRTIMES STORY、アットプレス、ニューズウィーク日本版、AFPBB News、News Picks、北海道新聞デジタル、Mapion、秋田魁新報電子版、新潟日報デジタル、Real net.jp、X 共同通信、BRIDGE テクノロジー&スタートアップ、StartHome、BIBLOBE ニュース、ZAKZAK、徳島新聞デジタル、Infoseek、Nordot、Ullet、Facebook、、紀伊民報、ホームズ、岩手日報、朝日新聞デジタル、河北新報オンライン、47news.jp、沖縄タイムス社、サンスポ、J-CASTニュース、産経ニュース、信濃毎日新聞デジタル、ジャパニーズインベスターオンライン、JOMOニュース、岐阜新聞Web、下野新聞社、愛媛新聞、千葉日報、福島民友新聞社、福井新聞社、京都新聞、高知新聞、FM FUKUOKA、毎日新聞、Excite、いえらぶニュース、NET24ニュース、ZYAO22、レスポンス、宮崎日日新聞社、ジョルダン、Nordot"	積水ハウス株式会社、千葉大学	宮本俊介(積水ハウス株式会社)、近藤克則(千葉大学)	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://www.sekisuhouse.co.jp/company/stories/20240123/">https://www.sekisuhouse.co.jp/company/stories/20240123/</a>

103	2024/1/22	【千葉大学×三井不動産インタビュー】柏の葉キャンパスエリアの居住者の心身の健康評価 共同研究】 柏の葉スマートシティHP	千葉大学、三井不動産株式会社	近藤克則、中込敦士(千葉大学)、増田大樹(三井不動産株式会社)	雑誌掲載 (WEB含む)	<a href="https://www.kashiwanoha-smartcity.com/info/topics/72/">https://www.kashiwanoha-smartcity.com/info/topics/72/</a>
104	2024/2/19	ショッピングモールとスマホを活用し歩数を増やす ウォーキングプログラムの成果 どんな人に効果があったか？ 保健指導リソースガイド	千葉大学、イオンモール株式会社	松岡洋子、吉田紘明、花里真道	新聞掲載 (WEB含む)	<a href="https://tokuteikenshin-hokensidou.jp/news/2024/012885.php">https://tokuteikenshin-hokensidou.jp/news/2024/012885.php</a>

## (平成30年度～令和5年度) OPERA 活動実績一覧【幹事機関:千葉大学】

領域名: ゼロ次予防戦略によるWell Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装

## ⑧ 外部資金の獲得

No	配分機関	事業・制度名称	実施期間	新規/ 継続	OPERA期間 の配分額 [千円]	配分総額 [千円]	採択機関	資金の用途	備考 (関連する研究開 発課題番号等)
1	スポーツ庁	「Sport in Life」令和2年度 Sport in Life推進プロジェクト(ターゲット横断的なス ポーツ実施者の増加方策事 業)	令和2年	新規	300	300	リソル生命の森 株式会社	成果の展開に 関連して	研究開発課題3
2	RISTEX	スポーツ参加の促進要因の 探索と支援政策の評価研究 — 国・自治体・個人レベル の重層的アプローチ	令和4-6年	新規	16,000	30,000	千葉大学	研究開発費とし て	研究開発課題11
3	厚生労働省	LIFEを用いた自治体向け介 護サービスの質評価に関する 調査研究	令和5年	新規	16,000	30,000	千葉大学	研究開発費とし て	研究開発課題11
4	千葉市	各種統計データの連結によ る地域課題可視化に向けた データ連携基盤のモデル構 築	令和6年	新規		800	千葉大学	研究開発費とし て	研究開発課題11

(平成30年度～令和5年度) OPERA 活動実績一覧【幹事機関:千葉大学】

領域名: ゼロ次予防戦略によるWell Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装

⑨ 論文

No	書誌情報 (書式: 著者名、タイトル、掲載誌名(書籍名)、 巻、号、ページ、発行年)	発表機関 (参画機関の み)	形式(査読の有無) ※プルダウン選択	掲載 状況	備考 (関連する研究開 発課題番号等)
1	Kiuchi S, Aida J, Kusama T, Yamamoto T, Hoshi M, Yamamoto T, Kondo K, Osaka K. Does public transportation reduce inequalities in access to dental care among older adults? Japan Gerontological Evaluation Study. Community Dent Oral Epidemiol. 2019 Nov 15. doi: 10.1111/cdoe.12508.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載 済	研究開発課題5
2	Momomaki R, Wakabayashi H, Maeda K, Shamoto H, Nishioka S, Kojima K, Tani Y, Suzuki N, Hanazato M, Kondo K. Association between Food Store Availability and the Incidence of Functional Disability among Community-Dwelling Older Adults: Results from the Japanese Gerontological Evaluation Cohort Study. Nutrients. 2019 Oct 4;11(10). pii: E2369. doi: 10.3390/nu11102369	千葉大学	論文(査読有り)	掲載 済	研究開発課題1.5
3	Okabe D, Tsuji T, Hanazato M, Miyaguni Y, Asada N, Kondo K. Neighborhood Walkability in Relation to Knee and Low Back Pain in Older People: A Multilevel Cross-Sectional Study from the JAGES. Int J Environ Res Public Health. 2019 Nov 20;16(23). pii: E4598. doi: 10.3390/ijerph16234598.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載 済	研究開発課題1.5
4	Koga C, Hanazato M, Tsuji T, Suzuki N, Kondo K. Elder Abuse and Social Capital in Older Adults: The Japan Gerontological Evaluation Study. Gerontology. 2019 Sep 12:1-11. doi: 10.1159/000502544.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載 済	研究開発課題1.5
5	Ide K, Tsuji T, Kanamori S, Jeong S, Nagamine Y, Kondo K. Social Participation and Functional Decline: A Comparative Study of Rural and Urban Older People, Using Japan Gerontological Evaluation Study Longitudinal Data. Int J Environ Res Public Health. 2020 Jan 18;17(2). pii: E617. doi: 10.3390/ijerph17020617.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載 済	研究開発課題5
6	Yamakita M, Kanamori S, Kondo N, Ashida T, Fujiwara T, Tsuji T, Kondo K. Association between childhood socioeconomic position and sports group participation among Japanese older adults: A cross-sectional study from the JAGES 2010 survey. Prev Med Rep. 2020 Feb 17;18:101065. doi: 10.1016/j.pmedr.2020.101065. eCollection 2020 Jun.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載 済	研究開発課題5
7	近藤克則. 「ゼロ次予防」のための設計科学—暮らしている人が健康になる社会づくりに向けて—. 横幹. in press;14(1).	千葉大学	論文(査読無し)	掲載 済	校閲あり 研究開発課題5
8	Suzuki, N., Nakaoka, H., Hanazato, M., Nakayama, Y., Tsumura, K., Takaya, K., ... & Mori, C. (2019). Indoor Air Quality Analysis of Newly Built Houses. International journal of environmental research and public health, 16(21), 4142.	千葉大学、積水ハウス	論文(査読有り)	掲載 済	研究開発課題2
9	Suzuki, N., Nakaoka, H., Nakayama, Y., Takaya, K., Tsumura, K., Hanazato, M., ... & Mori, C. (2019). Changes in the concentration of volatile organic compounds and aldehydes in newly constructed houses over time. International Journal of Environmental Science and Technology, 1-10.	千葉大学、積水ハウス	論文(査読有り)	掲載 済	研究開発課題2

10	Nakayama,Y., Nakaoka,H., Suzuki,N., Tsumura,K., Hanazato,M., Todaka,E., Mori,C., Prevalence and risk factors of pre-sick building syndrome: Characteristics of Indoor environmental and individual factors. Environmental Health and Preventive Medicine,in press.	千葉大学、積水ハウス	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題2
11	Kusama T, Aida J, Yamamoto T, Kondo K, Osaka K:Infrequent Denture Cleaning Increased the Risk of Pneumonia among Community-dwelling Older Adults: A Population-based Cross-sectional Study.Sci Rep. 2019 Sep 24;9(1):13734. doi: 10.1038/s41598-019-50129-9.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
12	田島翔太、花里真道、西垣美穂。「歩きくなる街」の実現を目指したウォーキングトラックのデザイン, 千葉大学国際教養学, 2021.03	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題3
13	Noguchi T, Saito M, Aida J, Cable N, Tsuji T, Koyama S, Ikeda T, Osaka K, Kondo K:Association between social isolation and depression onset among older adults: a cross-national longitudinal study in England and Japan. BMJ Open.11(3):e045834. 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
14	Kusama T, Kiuchi S, Umehara N, Kondo K, Osaka K, Aida J: The deterioration of oral function and orofacial appearance mediated the relationship between tooth loss and depression among community-dwelling older adults: A JAGES cohort study using causal mediation analysis. J Affect Disord. 286:174-179. 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
15	Tani Y, Hanazato M, Fujiwara T, Suzuki N, Kondo K: Neighborhood sidewalk environment and incidence of dementia in older Japanese adults: the Japan Gerontological Evaluation Study cohort. Am J Epidemiol. Epub ahead of print. 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題1・5
16	Ishikawa T, Haseda M, Kondo N, Kondo K, Fukui S: Predictors of home being the preferred place of death among Japanese older people: JAGES cross-sectional study. Geriatr Gerontol Int. 21(4):345-352. 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
17	Kiuchi S, Kusama T, Sugiyama K, Yamamoto T, Cooray U, Yamamoto T, Kondo K, Osaka K, Aida J: Longitudinal association between oral status and cognitive decline by fixed-effects analysis. J Epidemiol. Epub ahead of print. 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
18	Hirosaki M, Ohira T, Shirai K, Kondo N, Aida J, Yamamoto T, Takeuchi K, Kondo K: Association between frequency of laughter and oral health among community-dwelling older adults: a population-based cross-sectional study in Japan. Qual Life Res. Epub ahead of print. 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
19	Nishida M, Hanazato M, Koga C, Kondo K: Association between Proximity of the Elementary School and Depression in Japanese Older Adults: A Cross-Sectional Study from the JAGES 2016 Survey. Int J Environ Res Public Health. 18(2):500. 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題1・5
20	Tsuji T, Kanamori S, Miyaguni Y, Kondo K: Community-Level Sports Group Participation and Health Behaviors Among Older Non-Participants in a Sports Group: A Multilevel Cross-Sectional Study. Int J Environ Res Public Health. 18(2):E531. 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5

21	Nakagomi A, Shiba K, Kondo K, Kawachi I: Can Online Communication Prevent Depression Among Older People? A Longitudinal Analysis. J Appl Gerontol. Epub ahead of print. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
22	Nishigaki M, Hanazato M, Koga C, Kondo K: What Types of Greenspaces Are Associated with Depression in Urban and Rural Older Adults? A Multilevel Cross-Sectional Study from JAGES. Int J Environ Res Public Health. 17(24):9276. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題1・5
23	Koga C, Tsuji T, Hanazato M, Suzuki N, Kondo K. Elder Abuse and Depressive Symptoms: Which is Cause and Effect? Bidirectional Longitudinal Studies From the JAGES. J Interpers Violence. Epub ahead of print. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題1・5
24	Gero K, Aida J, Kondo K, Kawachi I: Evaluation of Trust Within a Community After Survivor Relocation Following the Great East Japan Earthquake and Tsunami. JAMA Netw Open. 3(11):e2021166. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
25	Igarashi A, Aida J, Yamamoto T, Hiratsuka Y, Kondo K, Osaka K: Associations between vision, hearing and tooth loss and social interactions: the JAGES cross-sectional study. J Epidemiol Community Health. Epub ahead of print. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
26	Nakagomi A, Shiba K, Kondo K, Kawachi I: Can social capital moderate the impact of widowhood on depressive symptoms? A fixed-effects longitudinal analysis. Aging Ment Health. 20:1-10. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
27	Moriki Y, Haseda M, Kondo N, Ojima T, Kondo K, Fukui S: Factors Associated With Discussions Regarding Place of Death Preferences Among Older Japanese: A JAGES Cross-Sectional Study. Am J Hosp Palliat Care. 38(1):54-61 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
28	Ikeda T, Aida J, Kawachi I, Kondo K, Osaka K: Causal effect of deteriorating socioeconomic circumstances on new-onset arthritis and the moderating role of access to orthopedics: A natural experiment from the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami. Soc Sci Med. 264:113385. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
29	Sugita A, Ling L, Tsuji T, Kondo K, Kawachi I. Cultural engagement and incidence of cognitive impairment: A six-year longitudinal follow-up of the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES). J Epidemiol. Epub ahead of print. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
30	Cooray U, Aida J, Watt RG, Tsakos G, Heilmann A, Kato H, Kiuchi S, Kondo K, Osaka K: Effect of Copayment on Dental Visits: A Regression Discontinuity Analysis. J Dent Res. 99(12):1356-1362. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
31	Suzuki N, Nakaoka H, Nakayama Y, Tsumura K, Takaguchi K, Takaya K, Eguchi A, Hanazato M, Todaka E, Mori C: Association between sum of volatile organic compounds and occurrence of building-related symptoms in humans: A study in real full-scale laboratory houses. Sci Total Environ. 750: 141635. 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題2・5

32	Tsuji T, Saito M, Ikeda T, Aida J, Cable N, Koyama S, Noguchi T, Osaka K, Kondo K: Change in the prevalence of social isolation among the older population from 2010 to 2016: A repeated cross-sectional comparative study of Japan and England. Arch Gerontol Geriatr. 91:104237. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
33	Yazawa A, Inoue Y, Kondo N, Miyaguni Y, Ojima T, Kondo K, Kawachi I: Accuracy of self-reported weight, height and body mass index among older people in Japan. Geriatr Gerontol Int. 20(9):803-810. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
34	Tamada Y, Takeuchi K, Yamaguchi C, Saito M, Ohira T, Shirai K, Kondo K: Does laughter predict onset of functional disability and mortality among older Japanese adults? the JAGES prospective cohort study. J Epidemiol. Epub ahead of print. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
35	Hoshi M, Aida J, Kusama T, Yamamoto T, Kiuchi S, Yamamoto T, Ojima T, Kondo K, Osaka K: Is the Association between Green Tea Consumption and the Number of Remaining Teeth Affected by Social Networks?: A Cross-Sectional Study from the Japan Gerontological Evaluation Study Project. Int J Environ Res Public Health. 17(6):2052. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
36	Yanagi N, Inoue Y, Fujiwara T, Stickley A, Ojima T, Hata A, Kondo K: Adverse childhood experiences and fruit and vegetable intake among older adults in Japan. Eat Behav. 38:101404. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
37	Nakagomi A, Koichiro S, Hanazato M, Kondo K, Kawachi I: Does community-level social capital mitigate the impact of widowhood & living alone on depressive symptoms?: A prospective, multi-level study. Soc Sci Med. 259:113140. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
38	Tani Y, Fujiwara T, Kondo K: Cooking skills related to potential benefits for dietary behaviors and weight status among older Japanese men and women: a cross-sectional study from the JAGES. Int J Behav Nutr Phys Act. 17(1):82. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
39	Ito K, Cable N, Yamamoto T, Suzuki K, Kondo K, Osaka K, Tsakos G, Watt RG, Aida J: Wider Dental Care Coverage Associated with Lower Oral Health Inequalities: A Comparison Study between Japan and England. Int J Environ Res Public Health. 17(15):E5539. 2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
40	阿部紀之, 井手一茂, 渡邊良太, 辻大士, 齊藤雅茂, 近藤克則: 社会的フレイルの指標に関する文献レビューと内容的妥当性の検証. 日本老年医学会雑誌. 58(1):24-35, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
41	安福祐一, 長嶺由衣子, 近藤克則: 先進予防型まちづくり -JAGES「睦沢町プロジェクト」-. 公衆衛生情報. 50(11):22-23. 2021	千葉大学	論文(査読無し)	掲載済	研究開発課題5
42	井手一茂, 近藤克則: ウィズコロナ時代における地域間健康格差. 老年内科. 3(1):66-73. 2021	千葉大学	論文(査読無し)	掲載済	研究開発課題5
43	藤原聡子, 辻大士, 近藤克則: ウォーキングによる健康ポイント事業が高齢者の歩行時間, 運動機能, うつに及ぼす効果: 傾向スコアを用いた逆確率重み付け法による検証. 日本公衆衛生雑誌. 67(10):734-744&67(11):828.2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
44	LINGLING, 辻大士, 長嶺由衣子, 宮國康弘, 近藤克則: 高齢者の趣味の種類および数と認知症発症: JAGES 6年縦断研究. 日本公衆衛生雑誌. 67(11):800-810.2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5

45	高杉友, 近藤克則: 日本の高齢者における生物・心理・社会的な認知症関連リスク要因に関するシステマティックレビュー. 老年社会科学. 42(3):173-187.2020	千葉大学	論文(査読無し)	掲載済	研究開発課題5
46	細川陸也, 近藤克則, 岡田栄作, 山口知香枝, 尾島俊之: 健康寿命および平均寿命に関連する高齢者の生活要因の特徴. 厚生の指標. 67(7).2020	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
47	飯塚玄明, 岡部大地, 近藤克則: まちづくり ~フレイル予防のエビデンスから実戦まで~. Gノート 羊土社. 7(6):128-37.2020	千葉大学	論文(査読無し)	掲載済	研究開発課題5
48	渡邊良太, 井手一茂, 近藤克則: ソーシャルキャピタルと介護予防・生活支援: 2040年に向けて. 老年内科. 1(3):351-358.2020	千葉大学	論文(査読無し)	掲載済	研究開発課題5
49	木村美也子, 尾島俊之, 近藤克則: 新型コロナウイルス感染症流行下での高齢者の生活への示唆: JAGES研究の知見から. 日本健康開発雑誌. 41:3-13.2020	千葉大学	その他著作物(総説、書籍など)	掲載済	研究開発課題5
50	Ko K, Suzuki T, Ishikawa R, Hattori N, Ito R, Umehara K, Furihata T, Ohmae N, Linhardt RJ, Igarashi K, Toida T, Higashi K. "Ischemic stroke disrupts the endothelial glycocalyx through activation of proHPSE via acrolein exposure." J Biol Chem. 2020 Dec 25;295(52):18614-18624.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題6
51	Uemura T, Suzuki T, Ko K, Nakamura M, Dohmae N, Sakamoto A, Terui Y, Toida T, Kashiwagi K, Igarashi K. "Structural change and degradation of cytoskeleton due to the acrolein conjugation with vimentin and actin during brain infarction." Cytoskeleton (Hoboken). 2020 Oct;77(10):414-421.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題6
52	Ito D, Ge D, Kogure N, Manaka H, Terui Y, Takayama H, Linhardt RJ, Toida T, Higashi K. "Poly-ion complex (PIC) formation of heparin and polyamines: PIC with tetrakis (3-aminopropyl) ammonium allows sustained release of heparin." Heliyon. 2020 Oct;6(10)	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題6
53	Nishimura K, Okamoto M, Shibue R, Mizuta T, Shibayama T, Yoshino T, Murakami T, Yamaguchi M, Tanaka S, Toida T, Igarashi K. "KLF4 is required for suppression of histamine synthesis by polyamines during bone marrow-derived mast cell differentiation." PLoS One. 2020 Feb 26;15(2)	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題6
54	花里真道, 予防医学・公衆衛生の視点から捉える健康都市・空間デザインとデータの活用可能性. 新都市 Vol.75 No.8(895) 61-67	千葉大学	論文(査読無し)	掲載済	研究開発課題1
55	Suzuki, N., Nakayama, Y., Nakaoka, H., Takaguchi, K., Tsumura, K., Hanazato, M., ... & Mori, C. (2021). Risk factors for the onset of sick building syndrome: A cross-sectional survey of housing and health in Japan. Building and Environment, 202, 107976.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題2
56	Nakayama, Y., Suzuki, N., Nakaoka, H., Tsumura, K., Takaguchi, K., Takaya, K., ... & Mori, C. (2021). Assessment of Personal Relaxation in Indoor-Air Environments: Study in Real Full-Scale Laboratory Houses. International Journal of Environmental Research and Public Health, 18(19), 10246.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題2
57	河口謙二郎, 横山芽衣子, 井手一茂, 近藤克則: スポーツクラブを利用する地域在住高齢者におけるグループ運動と運動継続との関連: リソルの森ウェルネスエイジクラブ縦断研究. 日本老年医学会雑誌	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題3

58	Arafa A, Eshak ES, Shirai K, Iso H, Kondo K, "Engaging in musical activities and the risk of dementia in older adults: A longitudinal study from the Japan gerontological evaluation study", Geriatr Gerontol Int, 21(6):451-457, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
59	Iwai-Saito K, Shobugawa Y, Aida J, Kondo K, "Frailty is associated with susceptibility and severity of pneumonia in older adults (A JAGES multilevel cross-sectional study)", Sci Rep, 11(1):7966, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
60	Ishikawa T, Haseda M, Kondo N, Kondo K, Fukui S, "Predictors of home being the preferred place of death among Japanese older people: JAGES cross-sectional study", Geriatr Gerontol Int, 21(4):345-352, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
61	Iwai-Saito K, Shobugawa Y, Kondo K, "Social capital and pneumococcal vaccination (PPSV23) in community-dwelling older Japanese: a JAGES multilevel cross-sectional study", BMJ Open, 11(6):e043723, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
62	Tsubokawa T, Shobugawa Y, Iguchi S, Suzuki T, Watanabe M, Saito R, Kondo K, "Do Community Social Capital and Built Environment Associate With Homebound in Older Adults? The JAGES Niigata Study", J Epidemiol, Epub ahead of print, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
63	Kusama T, Nakazawa N, Kiuchi S, Kondo K, Osaka K, Aida J, "Dental prosthetic treatment reduced the risk of weight loss among older adults with tooth loss", J Am Geriatr Soc, 69(9):2498-2506, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
64	Saito M, Kondo N, Aida J, Saito J, Anezaki H, Ojima T, Kondo K, "Differences in Cumulative Long-Term Care Costs by Community Activities and Employment: A Prospective Follow-Up Study of Older Japanese Adults", Int J Environ Res Public Health, 18(10):5414, . 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
65	Tsuji T, Kanamori S, Watanabe R, Yokoyama M, Miyaguni Y, Saito M, Kondo K, "Watching sports and depressive symptoms among older adults: a cross-sectional study from the JAGES 2019 survey", Sci Rep, 11(1):10612, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
66	Tani Y, Fujiwara T, Kondo K, "Adverse Childhood Experiences and Dementia: Interactions With Social Capital in the Japan Gerontological Evaluation Study Cohort", Am J Prev Med, 61(2):225-234, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
67	Hirai H, Saito M, Kondo N, Kondo K, Ojima T, "Physical Activity and Cumulative Long-Term Care Cost among Older Japanese Adults: A Prospective Study in JAGES", Int J Environ Res Public Health, 18(9):5004,2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
68	Nagai M, Ohira T, Shirai K, Kondo K, "Does variety of social interactions associate with frequency of laughter among older people? The JAGES cross-sectional study", BMJ Open, 11(1):e039363, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
69	高橋聡, 近藤克則, 中村恒穂, 鄭丞媛, 井手一茂, 香田将英, 尾島俊之, "自殺対策のための実用的な地域診断指標の開発: ソーシャル・キャピタルと自殺死亡率の関連における再現性検証. 自殺総合政策研究", 3(2):11-20, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5

70	齊藤雅茂, 辻大士, 藤田欽也, 近藤尚己, 相田潤, 尾島俊之, 近藤克則, “要支援・要介護リスク評価尺度点数別の累積介護サービス給付費: 介護保険給付実績の6年間の追跡調査より”, 日本公衆衛生雑誌, J-STAGE早期公開, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
71	宮澤拓人, 井手一茂, 渡邊良太, 飯塚玄明, 横山芽衣子, 辻大士, 近藤克則, “高齢者が参加する地域組織の種類・頻度・数とうつ発症の関連—JAGES2013–2016縦断研究”, 総合リハビリテーション, 49(8):789–798, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
72	Noguchi T, Murata C, Hayashi T, Watanabe R, Saito M, Kojima M, Kondo K, Saito T, “Association between community-level social capital and frailty onset among older adults: a multilevel longitudinal study from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES)”, J Epidemiol Community Health, Epub ahead of print, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
73	Kato D, Kawachi I, Saito J, Kondo N, “Complex multimorbidity and mortality in Japan: a prospective propensity-matched cohort study”, BMJ Open, 11(8):e046749, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
74	Tamura M, Hattori S, Tsuji T, Kondo K, Hanazato M, Tsuno K, Sakamaki H, “Community-Level Participation in Volunteer Groups and Individual Depressive Symptoms in Japanese Older People: A Three-Year Longitudinal Multilevel Analysis Using JAGES Data”, Int J Environ Res Public Health, 18(14):7502, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
75	Kanamori M, Hanazato M, Takagi D, Kondo K, Ojima T, Amemiya A, Kondo N, “Differences in depressive symptoms by rurality in Japan: a cross-sectional multilevel study using different aggregation units of municipalities and neighborhoods (JAGES)”, Int J Health Geogr, 20(1):42, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
76	Abbas H, Aida J, Kiuchi S, Kondo K, Osaka K, “Oral status and homebound status: A 6-year bidirectional exploratory prospective cohort study. Oral Dis”, Epub ahead of print, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
77	東馬場要, 井手一茂, 渡邊良太, 飯塚玄明, 近藤克則, “高齢者の社会参加の種類・数と要介護認定発生の関連—JAGES2013 2016 縦断研究”, 総合リハビリテーション, 49(9):897–904, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
78	田村元樹, 服部真治, 辻大士, 近藤克則, 花里真道, 坂巻弘之, “高齢者のボランティアグループ参加と個人のうつ傾向との関連: 傾向スコアマッチング法を用いた3年間のJAGES縦断研究”, 日本公衆衛生雑誌, J-STAGE早期公開, 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
79	田近敦子, 井手一茂, 飯塚玄明, 辻大士, 横山芽衣子, 尾島俊之, 近藤克則, “通いの場」への参加は要支援・要介護リスクの悪化を抑制するか: JAGES2013–2016縦断研究”, 日本公衆衛生雑誌	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
80	Kinugawa A, Kusama T, Yamamoto T, Kiuchi S, Nakazawa N, Kondo K, Osaka K, Aida J, “Association of poor dental status with eating alone: A cross-sectional Japan gerontological evaluation study among independent older adults”. Appetite.168:105732. 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5

81	Psychiatry Psychiatr Epidemiol.2022 Feb 1.doi:https://doi.org/10.1007/s00127-022-02241-x. Tamada Y, Yamaguchi C, Saito M, Ohira T, Shirai K, Kondo K, Takeuchi K, "Does laughing with others lower the risk of functional disability among older Japanese adults? The JAGES prospective cohort study". Prev Med. 155:106945. 2021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
82	Yazawa A, Shiba K, Inoue Y, Okuzono S, Inoue K, Kondo N, Kondo K, Kawachi I, "Early childhood adversity and late-life depressive symptoms: unpacking mediation and interaction by adult socioeconomic status".Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
83	Okuzono S, Shiba K, Kim E, Shirai K, Kondo N, Fujiwara T, Kondo K, Lomas T, Trudel-Fitzgerald C, Kawachi I, Tyler J.VanderWeele, "Ikigai and subsequent health and wellbeing among Japanese older adults. Longitudinal outcome-wide analysis". Lancet Reg Health West Pac. 21:100391.2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
84	井手一茂, 辻大士, 渡邊良太, 横山芽衣子, 飯塚玄明, 近藤克則, "高齢者における通いの場参加と社会経済階層: JAGES横断研究".老年社会科学 43(3)239-251.2021.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
85	井手一茂, 渡邊良太, 近藤克則, "通いの場づくり——日本老年学的評価研究機構(JAGES)の知見から".総合リハビリテーション. 49(12): 1163-1168. 2021.	千葉大学	論文(査読無し)	掲載済	研究開発課題5
86	阿部紀之, 井手一茂, 辻大士, 宮國康弘, 櫻庭唱子, 近藤克則, "狭義の通いの場への1年間の参加による介護予防効果: JAGES松戸プロジェクト縦断研究". 総合リハビリテーション. 50(1):61-67. 2022.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
87	近藤克則(編集).住民主体の楽しい「通いの場」づくり〜「地域づくりによる介護予防」進め方ガイド, 日本看護協会出版会. 2019	千葉大学	その他著作物(総説、書籍など)	掲載済	研究開発課題5
88	Nakagomi A, Shiba K, Kawachi I, Ide K, Nagamine Y, Kondo N, Hanazato M, Kondo K: Internet use and subsequent health and well-being in older adults: An outcome-wide analysis. Computers in Human Behavior,Volume 130, May 2022, 107156. https://doi.org/10.1016/j.chb.2021.107156.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題5
89	Eguchi A, Sakurai K, Yamamoto M, Watanabe M, Hisada A, Takahashi T, Todaka E, Mori C. "Association between Total and Individual PCB Congener Levels in Maternal Serum and Birth Weight of Newborns: Results from the Chiba Study of Mother and Child Health Using Weighted Quantile Sum Regression." Int J Environ Res Public Health 19(2):694, 2022 doi: 10.3390/ijerph19020694.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題6
90	Shoichi Onishi, Toshihiko Toida, Kyohei Higashi, Structure and Immunomodulatory Activity of Glycogen Derived from Honeybee Larvae (Apis mellifera). Biol Pharm Bull1;44(8):1156-1159 2,021.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題6
91	Aphinan Hongprasit, Toshihiko Toida, Yasumitsu Ogra, Comparison of quantification of selenocyanate and thiocyanate in cultured mammalian cells between HPLC-fluorescence detector and HPLC-inductively coupled plasma mass spectrometer. J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci 1181:122924. 2,021	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題6

92	Tsumura, K., Nakaoka, H., Suzuki, N., Takaguchi, K., Nakayama, Y., Shimatani, K., & Mori, C. (2023). Is indoor environment a risk factor of building-related symptoms?. Plos one, 18(1), e0279757.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題9
93	Association between total volatile organic compound concentrations and building-related symptoms-Is odor a risk factor of building-related symptoms? - (総揮発性有機化合物濃度と建物関連症状の関連 においては危険因子か?)	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題9
94	Takahashi T, Eguchi A, Watanabe M, Todaka E, Sakurai K, Mori C. Association between telomere length in human umbilical cord tissues and polychlorinated biphenyls in maternal and cord serum. Chemosphere 2022 doi: 10.1016/j.chemosphere.2022.134560	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
95	Takatani R, Yoshioka Y, Takahashi T, Watanabe M, Hisada A, Yamamoto M, Sakurai K, Takatani T, Shimojo N, Hamada H, Ochiya T, Mori C. Investigation of umbilical cord serum miRNAs associated with childhood obesity: A pilot study from a birth cohort study. J Diabetes Investig. 13(10):1740-1744, 2022 doi: 10.1111/jdi.13863.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
96	Wan, X., Eguchi, A., Fujita, Y., Ma, L., Wang, X., Yang, Y., Qu, Y., Chang, L., Zhang, J., Mori, C. and Hashimoto, K., 2022. Effects of (R)-ketamine on reduced bone mineral density in ovariectomized mice: A role of gut microbiota. Neuropharmacology, p.109139	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
97	Wan, X., Eguchi, A., Qu, Y., Yang, Y., Chang, L., Shan, J., Mori, C. and Hashimoto, K., 2022. Gut-microbiota-brain axis in the vulnerability to psychosis in adulthood after repeated cannabis exposure during adolescence. European Archives of Psychiatry and Clinical Neuroscience, pp.1-13.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
98	Hashimoto, Y., Eguchi, A., Wei, Y., Shinno-Hashimoto, H., Fujita, Y., Ishima, T., Chang, L., Mori, C., Suzuki, T. and Hashimoto, K., 2022. Antibiotic-induced microbiome depletion improves LPS-induced acute lung injury via gut-lung axis. Life Sciences, 307, p.120885	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
99	Wang, X., Eguchi, A., Yang, Y., Chang, L., Wan, X., Shan, J., Qu, Y., Ma, L., Mori, C., Yang, J. and Hashimoto, K., 2022. Key role of the gut-microbiota-brain axis via the subdiaphragmatic vagus nerve in demyelination of the cuprizone-treated mouse brain. Neurobiology of Disease, p.105951	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
100	Wan, X., Eguchi, A., Sakamoto, A., Fujita, Y., Yang, Y., Qu, Y., Hatano, M., Mori, C. and Hashimoto, K., 2022. Impact of broad-spectrum antibiotics on the gut-microbiota-spleen-brain axis. Brain, Behavior, & Immunity-Health, p.100573	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
101	Shinno-Hashimoto, H., Eguchi, A., Sakamoto, A., Wan, X., Hashimoto, Y., Fujita, Y., Mori, C., Hatano, M., Matsue, H. and Hashimoto, K., 2022. Effects of splenectomy on skin inflammation and psoriasis-like phenotype of imiquimod-treated mice. Scientific Reports, 12(1), 14738.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10

102	Yang, Y., Eguchi, A., Wan, X., Chang, L., Wang, X., Qu, Y., Mori, C. and Hashimoto, K., 2023. A role of gut-microbiota-brain axis via subdiaphragmatic vagus nerve in depression-like phenotypes in Chrna7 knock-out mice. <i>Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry</i> , 120, p.110652.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
103	戸高恵美子“COVID-19のパンデミックが終わらない中でのジュネーブ・ベルリン国際研修を終えて”, 千葉医学雑誌 vol 99, 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
104	川波亜紀子、戸高恵美子、頓名幸、佐久間里子、森千里、“ジュネーブ国連・国際機関、シャリテ・ベルリン医科大学における研修報告-新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行による中断後の再開-”, 千葉医学雑誌 Vol 99, 21-28, 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
105	Keiko Nakanishi, Kyohei Higashi, Toshihiko Toida Masato Asai, “Characterization of chondroitin sulfate in stem cells derived from umbilical cord blood in rats. <i>PLoS One</i> . 2022 Jan 25;17(1):e0262854	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
106	Kento Shionoya, Toshihiko Toida, Kyohei Higashi, “Comprehensive analysis of chondroitin sulfate and aggrecan in the head cartilage of bony fishes: Identification of proteoglycans in the head cartilage of sturgeon.” <i>Int J Biol Macromol</i> . 2022 31;208:333-342.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
107	Daiki Hashimoto, Yusuke Okamoto, Shoichi Onishi, Kyohei Higashi, Tatsuya Wada, Toshihiko Toida, “Quality control of proteoglycan obtained from salmon nasal cartilage in dietary supplements. <i>Jap J. Food Chem &amp; safety</i> , 2022, 29, 104-113.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
108	Takeuchi H, Ide K, Watanabe R, Miyaguni Y, Kondo K, “Association between increasing social capital and decreasing prevalence of smoking at the municipality level: Repeated cross-sectional study from the JAGES”, <i>Int J Environ Res Public Health</i> , 19(8):4472, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
109	Ide K, Jeong S, Tsuji T, Watanabe R, Miyaguni Y, Nakamura H, Kimura M, Kondo K, “Suggesting Indicators of Age-Friendly City: Social Participation and Happiness, an Ecological Study from the JAGES”, <i>J Environ Res Public Health</i> , 19(9):5096, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
110	Ashida T, Fujiwara T, Kondo K, “Childhood socioeconomic status and social integration in later life: Results of the Japan Gerontological Evaluation Study”, <i>SSM Popul Health</i> , 18:101090, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
111	Hoshi-Harada M, Aida J, Cooray U, Nakazawa N, Kondo K, Osaka K, “Difference of income inequalities of denture use by co-payment rates: A JAGES cross-sectional study”. <i>Community Dent Oral Epidemiol</i> , Epub ahead of print, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
112	Ueno T, Nakagomi A, Tsuji T, Kondo K, “Association between social participation and hypertension control among older people with self-reported hypertension in Japanese communities”, <i>Hypertens Res</i> , 45(8):1263-1268, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
113	Nogimura A, Noguchi T, Otani T, Kamiji K, Yasuoka M, Watanabe R, Ojima T, Kondo K, Kojima M, “Chronic obstructive pulmonary disease and the mortality risk in male older adults: Role of socioeconomic factors”, <i>Arch Gerontol Geriatr</i> , 102:104741, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11

114	Abbas H, Aida J, Kondo K, Osaka K, "Association among the number of teeth, dental prosthesis use, and subjective happiness: A cross-sectional study from the Japan Gerontological Evaluation study (JAGES)", J Prosthet Dent, Epub ahead of print, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
115	Watanabe R, Tsuji T, Ide K, Noguchi T, Yasuoka M, Kamiji K, Satake S, Kondo K, Kojima M, "Predictive validity of the modified Kihon Checklist for the incidence of functional disability among older people: A 3-year cohort study from the JAGES", Geriatr Gerontol Int, Epub ahead of print, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
116	Mori Y, Tsuji T, Watanabe R, Hanazato M, Miyazawa T, Kondo K, "Built environments and frailty in older adults: A three-year longitudinal JAGES study". Arch Gerontol Geriatr, Epub ahead of print, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題7・8・11
117	Tsuji T, Kanamori S, Watanabe R, Yokoyama M, Miyaguni Y, Saito M, Kondo K, "Types of Sports and Exercise Group Participation and Sociopsychological Health in Older Adults: A 3-year Longitudinal Study", Med Sci Sports Exerc, Epub ahead of print, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
118	Chen YR, Hanazato M, Koga C, Ide K, Kondo K, "The association between street connectivity and depression among older Japanese adults: the JAGES longitudinal study", Sci Rep, 12(1):13533, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題7・8・11
119	Yamada K, Fujii T, Kubota Y, Ikeda T, Hanazato M, Kondo N, Matsudaira K, Kondo K, "Prevalence and municipal variation in chronic musculoskeletal pain among independent older people: data from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES)", BMC Musculoskelet Disord, 23(1):755, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題7・8・11
120	Abbas H, Aida J, Cooray U, Ikeda T, Koyama S, Kondo K, Osaka K, "Does remaining teeth and dental prosthesis associate with social isolation? A six-year longitudinal study from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES)", Community Dent Oral Epidemiol, Epub ahead of print, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
121	Kusama T, Takeuchi K, Kiuchi S, Aida J, Kondo K, Osaka K, "Weight Loss Mediated the Relationship between Tooth Loss and Mortality Risk", J Dent Res, Epub ahead of print, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
122	Kojima K, Okada E, Ojima T, Aida J, Hiratsuka Y, Kondo K, "Association between Social Activity and Development of Dementia in Hearing Impairment: A Cohort Study in Japan from Japan Gerontological Evaluation Study", Gerontol Geriatr Med, 8:23337214221100621, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
123	Koga C, Tsuji T, Hanazato M, Sato K, Kondo K, "The association between elder abuse and refrainment from daily activities during the COVID-19 pandemic among older adults in Japan: A cross-sectional study from the Japan Gerontological Evaluation Study", SSM Popul Health, 19:101229, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題7・8・11
124	Kawaguchi K, Ide K, Kondo K, "Family social support and stability of preferences regarding place of death among older people: a 3-year longitudinal study from the Japan Gerontological Evaluation Study", Age Ageing, 51(9):afac210, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11

125	Khairan P, Shirai K, Shobugawa Y, Cadar D, Saito T, Kondo K, Sobue T, Iso H, "Pneumonia and subsequent risk of dementia: Evidence from the Japan Gerontological evaluation study", Int J Geriatr Psychiatry, 37(11), 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
126	Kimura M, Ide K, Sato K, Bang E, Ojima T, Kondo K, "The relationships between social participation before the COVID-19 pandemic and preventive and health-promoting behaviors during the pandemic: the JAGES 2019-2020 longitudinal study", Environ Health Prev Med, 27:45, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
127	Saito J, Murayama H, Ueno T, Saito M, Haseda M, Saito T, Kondo K, Kondo N, "Functional disability trajectories at the end of life among Japanese older adults: findings from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES)", Age Ageing, 51(11):afac260, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
128	Ikeda T, Hiratsuka Y, Yanagi N, Komaki Y, Murakami M, Aida J, Kondo K, Osaka K, "Health-related quality of life in various health conditions: two consecutive surveys of older Japanese adults", Qual Life Res, Epub ahead of print, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
129	Iwai-Saito K, Sato K, Kondo K, "Associations of influenza and pneumococcal vaccinations with burdens of older family caregivers: The Japan Gerontological Evaluation study (JAGES) cross-sectional study", Vaccine, Epub ahead of print, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
130	Iwai-Saito K, Sato K, Kondo K, "Association of functional competencies with vaccination among older adults: a JAGES cross-sectional study", Sci Rep, 12(1):17247, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
131	Nakazawa N, Kusama T, Takeuchi K, Kiuchi S, Yamamoto T, Kondo K, Osaka K, Aida J, "Co-Payments and Inequality in Gingival Bleeding and Dental Visits", Int Dent J, Epub ahead of print, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
132	Abe N, Ide K, Watanabe R, Hayashi T, Iizuka G, Kondo K, "Social participation and incident disability and mortality among frail older adults: A JAGES longitudinal study", J Am Geriatr Soc, Epub ahead of print, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
133	大田康博, 斉藤雅茂, 中込敦士, 近藤克則, "高齢者のインターネット利用と健康・幸福感の関連 - JAGES2016 横断断研究 -", 老年社会科学, 44(1):9-18, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
134	平井寛, 近藤克則, "外出頻度を尋ねる際の外出の定義の有無により生じる「閉じこもり」群の要介護リスクの違い", 日本公衆衛生雑誌, 69(7):505-516, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
135	塩谷竜之介, 井手一茂, 前田梨沙, 木之村里香, 近藤克則, "コロナ禍におけるオンライン「通いの場」導入支援のプログラム評価", 月刊地域医学, 36(5): 396-405, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
136	金森悟, 甲斐裕子, 山口大輔, 辻大士, 渡邊良太, 近藤克則, "高齢者における運動行動の変容ステージ別の歩行時間の関連要因: JAGES2019横断研究", 日本公衆衛生雑誌, 69(11):861-873, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
137	小林秀輔, 辻大士, 上野貴之, 近藤克則, "郵送調査の管理強度・高回収率・督促で地域相関分析の相関係数は高くなるか", 介護予防・健康づくり研究, 第10号: 1-10, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11

138	小林周平, 陳昱儒, 井手一茂, 花里真道, 辻大士, 近藤克則, “高齢者における近隣の生鮮食品店の有無の変化と歩行時間の変化: JAGES2016-2019縦断研究”, 日本公衆衛生雑誌, J-STAGE早期公開, 2022	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
139	大塚理加, 永松伸吾, 尾島俊之, 宮國康弘, 高杉友, 松川杏寧, 島崎敢, 池田真幸, 李泰榮, 近藤克則, “地域高齢者の災害準備の現状と課題 JAGES2019による検討”, 地域安全学会論文集.No.41.2022	千葉大学	その他著作物(総説、書籍など)	掲載済	研究開発課題11
140	中村恒穂, 井手一茂, 鄭丞媛, 高橋聡, 香田将英, 尾島俊之, 近藤克則, “都道府県レベルにおけるソーシャル・キャピタル指標と自殺死亡率との関連—社会生活基本調査を用いた横断研究—”, 厚生の指標, 70(1): 16-23, 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
141	井手一茂, 近藤克則, “地域間健康格差”, 老年科, 6(2):111-118, 2022	千葉大学	論文(査読無し)	掲載済	研究開発課題11
142	井手一茂, 近藤克則, “介護予防の効果—医療経済的な立場から—”, 老年社会科学, 44(4): 392-398, 2023	千葉大学	論文(査読無し)	掲載済	研究開発課題11
143	Shioya R, Nakagomi A, Ide K, Kondo K, “Video call and depression among older adults during the COVID-19 pandemic in Japan: The JAGES one-year longitudinal study”, Social Science&Medicine	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
144	田村元樹, 井手一茂, 花里真道, 中込敦士, 竹内寛貴, 塩谷竜之介, 阿部紀之, 王鶴群, 近藤克則, “地域在住高齢者におけるグリーンスローモビリティ導入による外出、社会的行動、ポジティブ感情を感じる機会の主観的变化: 前後データを用いた研究”, 老年社会科学	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
145	Tani Y, Fujiwara T, Kondo K, “Associations of Cooking Skill with Social Relationships and Social Capital among Older Men and Women in Japan: Results from the JAGES”, Int J Environ Res Public Health. 20(5):4633.2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
146	Nakazawa N, Kusama T, Cooray U, Yamamoto T, Kiuchi S, Abbas H, Yamamoto T, Kondo K, Osaka K, Aida J, “Large Contribution of Oral Status for Death Among Modifiable Risk Factors in Older Adults: The Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES) Prospective Cohort Study”, J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 78(1):167-173. 2023.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
147	Hayashi F, Shirai Y, Ohira T, Shirai K, Kondo N, Kondo K, “Subjective Happiness, Frequency of Laughter, and Hypertension: A Cross-Sectional Study Based on the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES)”, Int J Environ Res Public Health. 20(9):5713.2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
148	Yamamoto-Kuramoto K, Kusama T, Kiuchi S, Kondo K, Osaka K, Takeuchi K, Aida J, “Lower socio-economic status in adolescence is associated with poor oral health at an older age: Mediation by social and behavioural factors”, Gerodontology. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
149	Ide K, Tsuji T, Kanamori S, Watanabe R, Iizuka G, Kondo K, “Frequency of social participation by types and functional decline: A six-year longitudinal study”, Arch Gerontol Geriatr. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
150	Lingling, Tsuji T, Ide K, Kondo K, “Group leisure activities are associated with a lower risk of dementia than individual leisure activities: A 6-year longitudinal study from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES)”, Prev Med. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11

151	Iwai-Saito K, Sato K, Aida J, Kondo K, "Association of frailty with influenza and hospitalization due to influenza among independent older adults: a longitudinal study of Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES)", BMC Geriatr. 23(1):249. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
152	Kusama T, Takeuchi K, Kiuchi S, Aida J, Hikichi H, Sasaki S, Kondo K, Osaka K, "Dental prosthesis use is associated with higher protein intake among older adults with tooth loss", J Oral Rehabil. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
153	Kojima K, Okada E, Ojima T, Kondo K, "Association between hearing status and social participation in Japanese older adults: A cross-sectional study from the Japan gerontological evaluation study", Arch Gerontol Geriatr. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
154	Ashida T, Fujiwara T, Kondo K, "Association between adverse childhood experiences and social integration among older people in Japan: Results from the JAGES study", Arch Gerontol Geriatr. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
155	Yamamoto-Kuramoto K, Kiuchi S, Takeuchi K, Kusama T, Nakazawa N, Tamada Y, Aida J, Kondo K, Osaka K, "Oral status and incident functional disability: A 9-year prospective cohort study from the JAGES", Arch Gerontol Geriatr. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
156	Hosokawa R, Ojima T, Myojin T, Kondo K, Kondo N, "Geriatric symptoms associated with healthy life expectancy in older people in Japan", Environ Health Prev Med. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
157	Inoue Y, Cooray U, Ishimaru M, Saito K, Takeuchi K, Kondo K, Aida J, "Oral self-care, pneumococcal vaccination, and pneumonia among Japanese older people, assessed with machine learning", J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
158	Matsukura H, Yamaoka Y, Matsuyama Y, Kondo K, Fujiwara T, "Association between adverse childhood experiences and marital status among Japanese older adults", Child Abuse Negl. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
159	Mori Y, Tsuji T, Watanabe R, Hanazato M, Chen YR, Kondo K, "Built Environments and Frailty in Older Adults: The JAGES Longitudinal Study Using Mediation Analysis", J Am Med Dir Assoc. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
160	Ide K, Nakagomi A, Tsuji T, Yamamoto T, Watanabe R, Yokoyama M, Shirai K, Kondo K, Shiba K, "Participation in Community Gathering Places and Subsequent Health and Well-being: An Outcome-wide Analysis", Innovation in Aging	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
161	Sakamoto K, Hino K, Hanazato M, Asami Y, Kondo K, "Associations between older adults' going-out frequency and land price of neighbourhoods: Potency of land price as an indicator of homebound tendency", Arch Gerontol Geriatr. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
162	Abbas H, Takeuchi K, Kiuchi S, Kondo K, Osaka K, "Exposure to household dysfunction at childhood and later number of teeth among older Japanese adults: A life course study from the Japan Gerontological Evaluation Study", J Public Health Dent. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
163	井手一茂, 近藤克則, "高齢者の社会的孤立・孤独の疫学研究", 老年精神医学雑誌. 34(2): 117-121.2023.	千葉大学	その他著作物(総説、書籍など)	掲載済	研究開発課題11

164	井手一茂, “高齢者における健康格差と緩和要因—格差縮小策としての社会参加・インターネット利用”, ストレス科学. 37(3):153-163.2023	千葉大学	その他著作物(総説、書籍など)	掲載済	研究開発課題11
165	井手一茂, 宮國康弘, “自然に健康になれるまちづくり 第3回 地域診断から見えてきた運動している人が多いまち”, 月刊健康づくり. 542:10-13, 2023.	千葉大学	その他著作物(総説、書籍など)	掲載済	研究開発課題11
166	井手一茂, 近藤克則, “環境要因と健康格差”, 総合リハビリテーション. 51(6): 603-609.2023	千葉大学	その他著作物(総説、書籍など)	掲載済	研究開発課題11
167	熊澤大輔, 田村元樹, 井手一茂, 中込敦士, 近藤克則, “「健康支援型」道の駅の利用と主観的健康感:3時点パネルデータを用いた縦断研究”, 日本公衆衛生雑誌.2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
168	竹内寛貴, 井手一茂, 林尊弘, 阿部紀之, 中込敦士, 近藤克則, “高齢者の社会参加とフレイルとの関連: JAGES2016-2019縦断研究”, 日本公衆衛生雑誌.2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
169	辻大士, “スポーツを「する」「みる」「ささえる」環境が豊かなまちづくりで健康に. 健康づくり”, 46(9):10-13.2023.	千葉大学	その他著作物(総説、書籍など)	掲載済	研究開発課題11
170	Yamamoto, T., Hanazato, M., Hikichi, H., Kondo, K., Osaka, K., Kawachi, I., & Aida, J. “Change in Geographic Accessibility to Dental Clinics Affects Access to Care. Journal of Dental Research”, 00220345231167771. 2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題7, 11
171	Mori, Y., Tsuji, T., Watanabe, R., Hanazato, M., Chen, Y., & Kondo, K. “Neighborhood Environments and Frailty in Older Adults: The JAGES Longitudinal Study Using Mediation Analysis”. JAMDA . (in press).2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題7, 11
172	Tani, Y., Fujiwara, T., Sugihara, G., Hanazato, M., Suzuki, N., Machida, M., ... & Shobugawa, Y. Neighborhood beauty and the brain in older Japanese adults. International Journal of Environmental Research and Public Health, 20(1), 679.2023	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題7, 11
173	花里真道, “健康都市・空間デザインの3つの環境と国際動向. 健康づくり”, 46(5):10-13.2023.	千葉大学	その他著作物(総説、書籍など)	掲載済	研究開発課題7,8,11
174	花里真道, “ウォーカブル(歩きやすい・歩きたくなる)なまちづくり. 健康づくり”, 46(8):10-13.2023.	千葉大学	その他著作物(総説、書籍など)	掲載済	研究開発課題7,8,11
175	Mochizuki R, Kobayashi A, Takayama H, Toida T, Ogra Y. “Simultaneous determination of intracellular reduced and oxidized glutathiones by the König reaction.” Anal Methods. 2023 Jul 20;15(28):3426-3431.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
176	Onishi S, Shionoya K, Sato K, Mubuchi A, Maruyama S, Nakajima T, Komeno M, Miyata S, Yoshizawa K, Wada T, Linhardt RJ, Toida T, Higashi K. “Fucosylated heparan sulfate from the midgut gland of <i>Patinopecten yessoensis</i> .” Carbohydr Polym. 2023 Aug 1;313:120847.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
177	Shimekake M, Komeno M, Taguchi M, Katsumoto S, Tanda Y, Sato K, Wada T, Toida T, Higashi K. “Analysis of Acetylated Hyaluronic Acid in Moisturizing Lotion and Milk Lotion by HPLC with Fluorescence Detection.” Chem Pharm Bull (Tokyo). 2023;71(7):616-619.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10

178	Miyajima R, Manaka H, Honda T, Hashii N, Suzuki M, Komeno M, Takao K, Ishii-Watabe A, Igarashi K, Toida T, Higashi K.. "Intracellular polyamine depletion induces N-linked galactosylation of the monoclonal antibody produced by CHO DP-12 cells." J Biotechnol. 2023 Nov 3;378:1-10..	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
179	Matsuoka, Y., Haseda, M., Kanamori, M., Sato, K., Amemiya, A., Ojima, T., Takagi, D., Hanazato, M., Kondo, N. (2023). Does disaster-related relocation impact mental health via changes in group participation among older adults? Causal mediation analysis of a pre-post disaster study of the 2016 Kumamoto earthquake. BMC Public Health 23, 1982. <a href="https://doi.org/10.1186/s12889-023-16877-0">https://doi.org/10.1186/s12889-023-16877-0</a>	千葉大学、京都大学、東京大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題7, 11
180	Matsuoka Y, Yoshida H, Hanazato M. A Smartphone-Based Shopping Mall Walking Program and Daily Walking Steps. JAMA Netw Open. 2024 Jan 2;7(1):e2353957. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2023.53957. PMID: 38289599.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題8
181	Takaguchi, K., Nakaoka, H., Tsumura, K., Eguchi, A., Shimatani, K., Nakayama, Y., ... & Suzuki, N. (2024). The association between clustering based on composition of volatile organic compound in indoor air and building-related symptoms. Science of The Total Environment, 170197.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題9
182	Abe, C., Shimatani, K., Tsumura, K., Takaguchi, K., Nakayama, Y., Hayashi, T., ... & Suzuki, N. (2024). Impact of COVID-19 on the mental health of primary schoolchildren during the later phase of the pandemic: A case report of an 18-month longitudinal survey in a Japanese primary school. Public Health in Practice, 100471.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題9
183	Yang Y, Eguchi A, Mori C, Hashimoto K. Depression-like phenotypes in mice following common bile duct ligation: Insights into the gut-liver-brain axis via the vagus nerve. Neurobiology of Disease. 2024 Feb 7:106433.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
184	Yang Y, Eguchi A, Wan X, Mori C, Hashimoto K. Depression-like phenotypes in mice with hepatic ischemia/reperfusion injury: A role of gut-microbiota-liver-brain axis via vagus nerve. Journal of Affective Disorders. 2024 Jan 15;345:157-67.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
185	Takeda K, Saito T, Sasaki S, Eguchi A, Sugiyama M, Eto S, Suzuki K, Kamata R. Toxicity Assessment of Mixed Exposure of Nine Perfluoroalkyl Substances at Concentrations Relevant to Daily Intake. Toxics. 2024 Jan 10;12(1):52.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
186	Qu Y, Eguchi A, Ma L, Wan X, Mori C, Hashimoto K. Role of the gut-brain axis via the subdiaphragmatic vagus nerve in stress resilience of 3, 4-methylenedioxymethamphetamine in mice exposed to chronic restraint stress. Neurobiology of Disease. 2023 Dec 1;189:106348.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
187	Wang X, Eguchi A, Fujita Y, Wan X, Chang L, Yang Y, Shan J, Qu Y, Ma L, Shirayama Y, Mori C. Abnormal compositions of gut microbiota and metabolites are associated with susceptibility versus resilience in rats to inescapable electric stress. Journal of Affective Disorders. 2023 Jun 15;331:369-79.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10

188	Beneficial effects of arketamine on the reduced bone mineral density in susceptible mice after chronic social defeat stress: Role of the gut-microbiota-bone-brain axis	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
189	Wan X, Eguchi A, Chang L, Mori C, Hashimoto K. Beneficial effects of arketamine on the reduced bone mineral density in susceptible mice after chronic social defeat stress: Role of the gut-microbiota-bone-brain axis. <i>Neuropharmacology</i> . 2023 Feb 16;109466.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
190	Wang X, Eguchi A, Yang Y, Chang L, Wan X, Shan J, Qu Y, Ma L, Mori C, Yang J, Hashimoto K. Key role of the gut-microbiota-brain axis via the subdiaphragmatic vagus nerve in demyelination of the cuprizone-treated mouse brain. <i>Neurobiology of Disease</i> . 2023 Jan 1;176:105951.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
191	Qu Y, Eguchi A, Wan X, Ma L, Chang L, Shan J, Yang Y, Mori C, Hashimoto K. Repeated use of 3, 4-methylenedioxymethamphetamine is associated with the resilience in mice after chronic social defeat stress: a role of gut-microbiota-brain axis. <i>Psychiatry Research</i> . 2023 Feb 1;320:115020.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
192	Wada T, Kobuna Y, Toida, T. "Safety Evaluation of Excessive Intake of Proteoglycan Complex 80* from Salmon Nasal Cartilage-A Randomized, Double-blind, Placebo-controlled, Parallel-group Study-, <i>Jap J. Food Chem &amp; Safety</i> ." 2023 30, 165-177	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10
193	Li J, Shirai K, Okuzono SS, Shiba K, Kondo K, Kawachi I, Iso H. "Sense of Coherence and Incident Dementia in Older Japanese Adults: The Japan Gerontological Evaluation Study." <i>J Am Med Dir Assoc</i> . 2023 Aug 28:S1525-8610(23)00666-7.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
194	Shimizu N, Ide K, Kondo K. "Association between diversity levels of member composition in group activities of older adults and the occurrence of need for care: the JAGES 2013-2019 longitudinal study." <i>BMC Geriatr</i> . 2023 Sep 20;23(1):579.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
195	Tani Y, Yamamoto T, Kusama T, Kinugawa A, Aida J, Fujiwara T, Kondo K. "Cooking skills modify the association between oral health and mortality." <i>Age Ageing</i> . 2023 Sep 1;52(9):afad180.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
196	Mak HW, Noguchi T, Bone JK, Wels J, Gao Q, Kondo K, Saito T, Fancourt D. "Hobby engagement and mental wellbeing among people aged 65 years and older in 16 countries." <i>Nat Med</i> . 2023 Sep;29(9):2233-2240.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
197	Noguchi T, Ikeda T, Kanai T, Saito M, Kondo K, Saito T. "Association of social isolation and loneliness with chronic low back pain among older adults: A cross-sectional study from Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES)." <i>J Epidemiol</i> . 2023 Sep 9.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
198	Tamura M, Takasugi T, Nakamura M, Yanagi N, Nakagomi A, Sato K, Kondo K, Ojima T. "Family pharmacy and medication adherence among older adults in Japan: A cross-sectional study of JAGES 2019." <i>J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci</i> . 2023 Oct 14;gbad147.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11

199	Fujihara S, Tsuji T, Nakagomi A, Miyaguni Y, Hanazato M, Muto G, Kondo K. "Association of community-level social capital with dementia: A multilevel nine-year longitudinal study using data from the Japan Gerontological Evaluation Study." <i>Soc Sci Med.</i> 2023 Oct 14;338:116316.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
200	Kinugawa A, Kusama T, Takeuchi K, Aida J, Kiuchi S, Katagiri R, Hikichi H, Sasaki S, Kondo K, Osaka K. "Association between dietary pattern and insomnia symptoms among independent older adults: A cross-sectional study based on JAGES." <i>Sleep Med.</i> 2023 Oct 2;112:70-76.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
201	Tamada Y, Takeuchi K, Kusama T, Saito M, Ohira T, Shirai K, Yamaguchi C, Kondo K, Aida J, Osaka K. "Reduced number of teeth with and without dental prostheses and low frequency of laughter in older adults: Mediation by poor oral function." <i>J Prosthodont Res.</i> 2023 Oct 5.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
202	Kanamori M, Stickley A, Takemura K, Kobayashi Y, Oka M, Ojima T, Kondo K, Kondo N. "Community gender norms, mental health, and suicide ideation and attempts among older Japanese adults: a cross-sectional study." <i>Int Psychogeriatr.</i> 2023 Nov 6:1-11.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
203	Wang H, Tsuji T, Ide K, Nakagomi A, Ling L, Kondo K. "Does eating with others promote happiness among older adults living alone? A 3-year longitudinal study of the Japan gerontological evaluation study." <i>Int J Geriatr Psychiatry.</i> 2023 Dec;38(12):e6033.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
204	Yazawa A, Shiba K, Hikichi H, Okuzono SS, Aida J, Kondo K, Sasaki S, Kawachi I. "Post-Disaster Mental Health and Dietary Patterns among Older Survivors of an Earthquake and Tsunami." <i>J Nutr Health Aging.</i> 2023;27(2):124-133.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
205	Ueno T, Saito J, Murayama H, Saito M, Haseda M, Kondo K, Kondo N. "Social participation and functional disability trajectories in the last three years of life: The Japan Gerontological Evaluation Study." <i>Arch Gerontol Geriatr.</i> 2024 Feb 2;121:105361.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
206	Watanabe R, Tsuji T, Ide K, Saito M, Shinozaki T, Satake S, Kondo K. "Comparison of the Incidence of Functional Disability Correlated With Social Participation Among Older Adults in Japan." <i>J Am Med Dir Assoc.</i> 2024 Feb 6:S1525-8610(24)00045-8.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
207	小牧靖典, 斉藤雅茂, 平塚義宗, 近藤克則, 中山徳良. "高齢者の歩行習慣が健康関連QOLに及ぼす影響—JAGES2019横断研究—." <i>医療経済研究.</i> 35(1):30-44.2023.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
208	渡邊良太, 斉藤雅茂, 井手一茂, 近藤克則. "地域在住高齢者のその後の累積介護費は直線的に増加するのか:フレイル, 要支援・要介護リスク評価尺度を用いたJAGES9年間の追跡調査より." <i>厚生</i> の指標	千葉大学	論文(査読有り)	未掲載(承認後)	研究開発課題11
209	山田彩恵, 小林周平, 井手一茂, 中込敦士, 近藤克則. "高齢者の社会参加と生きがい—JAGES2013-2016-2019縦断研究—." <i>総合リハビリテーション</i>	千葉大学	論文(査読有り)	未掲載(承認後)	研究開発課題11

210	Sato M, Tsuji T, Ueno T, Watanabe R, Ide K, Kondo K. "Socioeconomic status and incident depressive symptoms among older adults: A 3-year longitudinal study from the Japan Gerontological Evaluation Study. "Int J Geriatr Psychiatry. 2024 Feb;39(2):e6069.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題11
211	Chen YR, Hanazato M, Saito M, Koga C, Matsuoka Y, Yoshida H, Kondo K: Does the neighborhood built and social environment reduce long-term care costs for Japanese older people?The JAGES2010-2019 cohort study. Health Place. 2024 Mar 12;86:103223. doi: 10.1016/j.healthplace.2024.103223	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題7,11
212	Koga, C., Saito, T., Hanazato, M., Kondo, N., Saito, M., Ojima, T., & Kondo, K. (2024). Living in public rental housing is healthier than private rental housing a 9-year cohort study from Japan Gerontological Evaluation Study. Scientific Reports, 14(1), 7547.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題7,11
213	Abe, C., Shimatani, K., Tsumura, K., Takaguchi, K., Nakayama, Y., Hayashi, T., ... & Suzuki, N. (2024). Impact of COVID-19 on the mental health of primary schoolchildren during the later phase of the pandemic: A case report of an 18-month longitudinal survey in a Japanese primary school. Public Health in Practice, 7, 100471.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題9
214	Takaguchi, K., Nakaoka, H., Tsumura, K., Eguchi, A., Shimatani, K., Nakayama, Y., ... & Suzuki, N. (2024). The association between clustering based on composition of volatile organic compound in indoor air and building-related symptoms. Science of The Total Environment, 917, 170197.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題9
215	Okoshi K, Sakurai K, Yamamoto M, Mori C. Maternal antibiotic exposure and childhood allergies: The Japan Environment and Children's Study. J Allergy Clin Immunol Glob 2023 Jul 6;2(4):100137. doi: 10.1016/j.jacig.2023.100137.	千葉大学	論文(査読有り)	掲載済	研究開発課題10

## (平成30年度～令和5年度) OPERA 活動実績一覧【幹事機関:千葉大学】

領域名: ゼロ次予防戦略によるWell Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装

## ⑩ 発表

No	発表者	タイトル	学会名等	場所	年月日	発表機関 (参画機関のみ)	発表形式	備考 (関連する研究 開発課題番号)
1	野村祐太	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第5報)冷暖房期における住宅室内環境の健康性に関する温熱環境評価指標の修正と項目追加	日本建築学会学術講演会	オンライン 名工大	2021/9/9	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2
2	宮本健太郎	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第6報)暖房期における住宅断熱性能の違いが及ぼす室内環境の評価	日本建築学会学術講演会	オンライン 名工大	2021/9/9	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2
3	稲川源規	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第7報)WEBアンケート調査の概要及び住宅の温熱環境と居住者の健康との関係に関する分析	日本建築学会学術講演会	オンライン 名工大	2021/9/9	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2
4	佐々木謙	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第8報)WEBアンケートによる住宅の空調設備の仕様及び使用方法に関する調査	日本建築学会学術講演会	オンライン 名工大	2021/9/9	富士通ゼネラル、千葉大学	口頭発表	研究開発課題2
5	爾見涼	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第9報)被験者実験による吹き出し気流の曝露部位の違いの生理・心理指標への影響に関する研究	日本建築学会学術講演会	オンライン 名工大	2021/9/9	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2
6	宮本健太郎	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の開発(第6報)評価指標の修正及び暖房期における断熱性能の違いが及ぼす住宅の温熱環境評価	空気調和衛生工学会大会	オンライン	2021/9/16	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2
7	東海林孝騎	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第7報)断熱性能を変更したケーススタディ結果の要因検討	空気調和衛生工学会大会	オンライン	2021/9/16	富士通ゼネラル、千葉大学	口頭発表	研究開発課題2
8	稲川源規	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第8報)全国WEB調査の集計結果と住宅の温熱環境が居住者の健康に与える影響の分析	空気調和衛生工学会大会	オンライン	2021/9/16	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2
9	爾見涼	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第9報)被験者実験による吹き出し気流の曝露部位の違いの生理・心理指標への影響に関する研究	空気調和衛生工学会大会	オンライン	2021/9/16	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2
10	森千里	環境汚染物質と必須微量元素の暴露によるヒト胎児影響のバイオマーカー検索	第11回山田養蜂場みつばち研究助成基金発表会	岡山県	2020/9/29	千葉大学	招待講演	講演、研究開発課題6
11	高橋朋子, 田邊裕美, 江口哲史, 渡邊応宏, 櫻井健一, 森千里	ヒト臍帯組織のテロメア長と母体血および臍帯血 polychlorinated biphenyl(PCB)濃度の関連	第47回日本毒理学学会学術年会	ウェブ開催	2020/6/29-7/1	千葉大学	ポスター発表	研究発表、研究開発課題6
12	高橋朋子, 江口哲史, 渡邊応宏, 櫻井健一, 森千里	千葉子ども調査における臍帯組織テロメア長と母体血・臍帯血中PCB濃度の関連	日本人類遺伝学会第65回大会	ウェブ開催	2020/11/18	千葉大学	口頭発表	研究発表、研究開発課題6
13	Takahashi T, Eguchi A, Watanabe M, Todaka E, Sakurai K, Mori C.	Association between relative telomere length in umbilical cord tissue and PCB congeners in maternal blood and cord blood in a birth cohort in Chiba, Japan.	American Society of Human Genetics (ASHG) 2021 Annual Meeting.	ウェブ開催	2021/10/18	千葉大学	ポスター発表	研究発表、研究開発課題6

14	高橋朋子, 櫻井健一, 山本緑, 高谷里依子, 鎌谷洋一郎, 森千里.	出生コホートにおける臍帯組織のSNPアレイ解析	日本人類遺伝学会第66回大会・第28回日本遺伝子診療学会大会合同開催	神奈川県横須賀市	2021/10/13	千葉大学	口頭発表	研究発表、研究開発課題6
15	櫻井健一, 森千里	千葉こども調査(C-MACH)について-探索的研究としての役割-	第79回日本公衆衛生学会総会	京都市(web)	2020/10/21	千葉大学	その他	シンポジウム、研究開発課題6
16	Eguchi A, Sakurai K, Yamamoto M, Watanabe M, Hisada A, Takahashi T, Todaka E, Mori C	Association between levels of individual PCB congeners in maternal serum with birth weight of newborn in C-MACH study	2021 SOT Annual Meeting	web	2021/3/12-14	千葉大学	ポスター発表	研究発表、研究開発課題6
17	庄司久美子, 久保佳範, 川端輝江, 福岡秀興, 森千里, 櫻井健一, 西川正純, 大久保剛, 押田恭一, 柳澤尚武, 山城雄一郎	妊娠女性における葉酸代謝関連酵素遺伝子多型とワンカーボン代謝関連物質との関連	第10回日本DOHaD学会学術集会	web	2021/9/3	千葉大学	口頭発表	研究発表、研究開発課題6
18	久保佳範, 福岡秀興, 川端輝江, 庄司久美子, 森千里, 櫻井健一, 西川正純, 大久保剛, 押田恭一, 柳澤尚武, 山城雄一郎	中ワンカーボン代謝関連物質濃度と児の出生時および1ヶ月時の体格との関連	第10回日本DOHaD学会学術集会	web	2021/9/3	千葉大学	口頭発表	研究発表、研究開発課題6
19	鶴岡裕太, 櫻井健一, 渡邊応宏, 加藤完, 大野博司, 森千里	母親の妊娠中体重増加量が児の腸内細菌叢形成に与える影響	第10回日本DOHaD学会学術集会	web	2021/9/3	千葉大学	口頭発表	研究発表、研究開発課題6
20	山本 緑, 櫻井 健一, 中岡 宏子, 江口 哲史, 戸高美子, 森 千里	児の出生体重と母親・父親の特性との関連: 出生コホート調査C-MACH	第23回環境ホルモン学会研究発表会	web	2021/9/12	千葉大学	口頭発表	研究発表、研究開発課題6
21	戸井田敏彦他	メチレンブルーによるグリコサミングリカンの検出	日本糖質学会年会	鹿児島	2021/10/28	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題6
22	戸井田敏彦他	ホタテ中腸腺に含まれる酸性糖鎖の構造解析	日本糖質学会年会	鹿児島	2021/10/29	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題6
23	戸井田敏彦他	ポリアミンによる分子シャペロンの合成制御	日本生化学会	リモート(横浜)	2021/11/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題6
24	野村祐太	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第1報)冷房期における住宅室内環境の健康性に関する温熱環境評価指標の作成	日本建築学会大会	オンライン	2020/9/8	千葉大学	口頭発表	研究開発課題2
25	宮本健太郎	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第2報)冷房期における実大モデル住宅における室内環境評価手法のケーススタディ	日本建築学会大会	オンライン	2020/9/8	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2
26	東海林孝騎	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第3報)ケーススタディの結果の要因検討による温熱環境の課題の考察	日本建築学会大会	オンライン	2020/9/8	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2
27	井上菜那子	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第4報)心理指標と生理指標の関係性等を把握するための被験者実験	日本建築学会大会	オンライン	2020/9/8	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2
28	野村祐太	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第2報)住民の健康性に関する室内温熱環境評価方法	空調調和衛生工学会大会	オンライン	2020/9/16	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2
29	宮本健太郎	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調システムの開発(第3報)冷暖房期における実大モデル住宅での室内環境評価手法のケーススタディ	空調調和衛生工学会大会	オンライン	2020/9/16	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2

30	東海林孝騎	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調システムの開発(第4報)ケーススタディ結果の要因検討による温熱環境の課題の考察	空気調和衛生工学会大会	オンライン	2020/9/16	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2
31	井上菜那子	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調システムの開発(第5報)心理指標と生理指標の関係性等を把握するための被験者実験	空気調和衛生工学会大会	オンライン	2020/9/16	千葉大学、富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題2
32	田島翔太	Proposal for an Off-Grid Mobile Architecture Prototype for Disaster Relief	The 51h Environmental Design Research Association Conference(EDR A51)	オンライン	2020/4/6	千葉大学	口頭発表	研究開発課題3
33	近藤克則	健康の社会的要因	第79回日本公衆衛生学会総会2020	オンライン開催 みやこめっせ「京都市勧業館」	2020/10/20 ～ 2020/10/22	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
34	井手一茂 辻大士 金森悟 渡邊良太 飯塚玄明 近藤克則	高齢者の地域組織参加の種類別頻度と認知症発症の関連	第79回日本公衆衛生学会総会2020	オンライン開催 みやこめっせ「京都市勧業館」	2020/10/20 ～ 2020/10/22	千葉大学	口頭発表	JAGES2010-2016縦断研究.0-6-2-3、研究開発課題5
35	東馬場要 井手一茂 渡邊良太 飯塚玄明 近藤克則	高齢者の地域組織参加の数・種類と要介護認定の関連	第79回日本公衆衛生学会総会2020	オンライン開催 みやこめっせ「京都市勧業館」	2020/10/20 ～ 2020/10/22	千葉大学	口頭発表	JAGES2013-2016縦断研究.0-6-2-4、研究開発課題5
36	飯塚玄明 辻大士 井手一茂 渡邊良太 横山芽衣子 近藤克則	通いの場(サロン)への参加はサロン以外の社会参加を促進するか	第79回日本公衆衛生学会総会2020	オンライン開催 みやこめっせ「京都市勧業館」	2020/10/20 ～ 2020/10/22	千葉大学	口頭発表	JAGES 縦断研究0-6-2-5、研究開発課題5
37	塩谷竜之介 井手一茂 阿部紀之 近藤克則	都市型介護予防モデルでは1年後の IADL 低下が少ない	第79回日本公衆衛生学会総会2020	オンライン開催 みやこめっせ「京都市勧業館」	2020/10/20 ～ 2020/10/22	千葉大学	口頭発表	JAGES 松戸プロジェクト縦断研究.0-6-4-4、研究開発課題5
38	古賀千絵 花里真道 辻大士 近藤克則	高齢者虐待と地域レベルの社会的凝集性との関連マルチレベル横断研究	第79回日本公衆衛生学会総会2020	オンライン開催 みやこめっせ「京都市勧業館」	2020/10/20 ～ 2020/10/22	千葉大学	口頭発表	JAGES2016.0-7-1-1、研究開発課題5
39	西垣美穂 花里真道 近藤克則	高齢者のうつと地域の水辺の関連	第79回日本公衆衛生学会総会2020	オンライン開催 みやこめっせ「京都市勧業館」	2020/10/20 ～ 2020/10/22	千葉大学	口頭発表	JAGES2016横断研究.0-8-1-4、研究開発課題5
40	渡邊良太 辻大士 井手一茂 斉藤雅茂 林尊弘 近藤克則	若年者の社会参加の種類・数とメンタルヘルスの関係ー大都市における横断研究	第79回日本公衆衛生学会総会2020	オンライン開催 みやこめっせ「京都市勧業館」	2020/10/20 ～ 2020/10/22	千葉大学	口頭発表	JAGES2016横断研究.0-8-2-2、研究開発課題5
41	陳ユル 花里真道 古賀千絵 井手一茂 近藤克則	街路の接続性と高齢者うつの関連	第79回日本公衆衛生学会総会2020	オンライン開催 みやこめっせ「京都市勧業館」	2020/10/20 ～ 2020/10/22	千葉大学	口頭発表	JAGES2013-2016縦断研究.0-21-1-2、研究開発課題1・5
42	藤原聡子 宮國康弘 辻大士 近藤克則	高齢者の社会的ネットワークと認知症リスクとの関連	第79回日本公衆衛生学会総会2020	オンライン開催 みやこめっせ「京都市勧業館」	2020/10/20 ～ 2020/10/22	千葉大学	ポスター発表	JAGES6年間縦断研究.P-6-3-5、研究開発課題5
43	西田恵 花里真道 近藤克則	高齢者のうつと居住地域の子ども人口密度の関連	第79回日本公衆衛生学会総会2020	オンライン開催 みやこめっせ「京都市勧業館」	2020/10/20 ～ 2020/10/22	千葉大学	ポスター発表	JAGES2016横断研究. P-8-1-4、研究開発課題1・5
44	飯塚玄明 辻大士 井手一茂 渡邊良太 近藤克則	高齢者の社会参加は社会的サポートを豊かにするか	第30回日本疫学会学術総会	京都大学百周年時計台記念館	2020/2/20 ～ 2020/2/22	千葉大学	ポスター発表	JAGESIによる3年間の縦断研究.ポスター会場②, P-069、研究開発課題5

45	谷友香子 鈴木規道 藤原武男 花里真道 近藤克則	近隣の食環境と認知症発症	第30回日本疫学会学術総会	京都大学百周年時計台記念館	2020/2/20 ～ 2020/2/22	千葉大学	ポスター発表	JAGESコホートデータポスター会場①、P-051、研究開発課題1・5
46	Wang Y 白井こころ 磯博康 大平哲也 山口知香枝 玉田雄大 近藤克則	The associations between patterns of laughter and incidence of dementia among older Japanese adults	第30回日本疫学会学術総会	京都大学百周年時計台記念館	2020/2/20 ～ 2020/2/22	千葉大学	ポスター発表	ポスター会場⑤、P-141、研究開発課題5
47	児玉知子 岡田栄作 尾島俊之 近藤克則	地域高齢者の健康と社会参加活動に関する縦断データ分析	第30回日本疫学会学術総会	京都大学百周年時計台記念館	2020/2/20 ～ 2020/2/22	千葉大学	ポスター発表	JAGES project.ポスター会場①、P-211、研究開発課題5
48	野口泰司 村田千代栄 斎藤雅茂 林尊弘 渡邊良太 小嶋雅代 近藤克則	地域のソーシャル・キャピタルとフレイル発生との関連	第30回日本疫学会学術総会	京都大学百周年時計台記念館	2020/2/20 ～ 2020/2/22	千葉大学	ポスター発表	JAGES縦断研究ポスター会場①、P-214、研究開発課題5
49	上野貴之 中込敦士 辻大士 近藤克則	一人vsグループで行う趣味のどちらで高齢者高血圧罹患者の血圧はより低いか	第30回日本疫学会学術総会	京都大学百周年時計台記念館	2020/2/20 ～ 2020/2/22	千葉大学	ポスター発表	JAGES2016横断研究ポスター会場①、P-213、研究開発課題5
50	井手一茂 辻大士 横山芽衣子 渡邊良太 田近敦子 近藤克則	通いの場合は健康格差対策となるか？～スポーツグループへの参加者の特徴との同時検討～	第30回日本疫学会学術総会	京都大学百周年時計台記念館	2020/2/20 ～ 2020/2/22	千葉大学	ポスター発表	ポスター会場①、P-189、研究開発課題5
51	近藤克則 井手一茂 横山芽衣子 章ぶん 辻大士	健康格差対策としての通いの場：所得・教育階層ごとの通いの場参加割合の市町村間比較	第30回日本疫学会学術総会	京都大学百周年時計台記念館	2020/2/20 ～ 2020/2/22	千葉大学	ポスター発表	ポスター会場①、P-191、研究開発課題5
52	kifumi Eguchi, Kenichi Sakurai, Midori Yamamoto, Masahiro Watanabe, Aya Hisada, Tomoko Takahashi, Emiko Todaka, Chisato Mori	Association between levels of individual PCB congeners in maternal serum with birth weight of newborn in C-MACH study	SOT Annual meeting		2021/3/16	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題6
53	高橋 朋子, 江口 哲史, 渡邊 応宏, 櫻井 健一, 森 千里	千葉子ども調査における臍帯組織テロメア長と母体血・臍帯血中PCB濃度の関連	日本人類遺伝学会第65回大会	web開催	2020/11/18	千葉大学	口頭発表	研究開発課題6
54	高橋 朋子, 田邊 裕美, 江口 哲史, 渡邊 応宏, 櫻井 健一, 森 千里	ヒト臍帯組織のテロメア長と母体血および臍帯血 polychlorinated biphenyl (PCB) 濃度の関連	第47回日本毒理学学会学術年会	web開催	2020/6/29	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題6
55	近藤克則, 辻大士, 長嶺由衣子, 武藤剛, 章ぶん, 浜田哲, 川瀬真紗子, 原新	人工知能と JAGES データを用いた認知症発症リスク予測アルゴリズム開発	第78回日本公衆衛生学会総会	ホテル日航高知旭ロイヤル	2019/10/23	千葉大学	ポスター発表	P-0602-5 研究開発課題5
56	横山芽衣子、辻大士、Gulinu Maimaituxun、佐藤恵子、近藤克則	運動とカルチャープログラムの併用は高齢者の血中コレステロールを是正するか：リソル生命の森ウェルネスエイジプログラム縦断研究	第21回日本健康支援学会年次学術大会	WEB開催	2020/3/8	千葉大学	その他	O-3-4 研究開発課題5
57	C. Koga, M. Hanazato, N. Suzuki, T. Tsuji, K. Kondo	Elder abuse and social capital in older adults: The Japan Gerontological Evaluation Study, 16th International Conference of Urban Health, Ximen China 2019.11	16th International Conference of Urban Health	Ximen China	2019/11/4	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題1,5
58	M. Hanazato, C. Koga, N. Suzuki, K. Kondo	Are walkable sidewalks associated with a homebound status among communitydwelling older people in Japan? Results from JAGES2010 study	16th International Conference of Urban Health	Ximen China	2019/11/4	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題1,5

59	M. Nishigaki, C. Koga, M. Hanazato, K. Kond	The relationship between types of green space and depression in older adults: JAGES cross-sectional study, 16th International Conference of Urban Health, Ximen China 2019.11	16th International Conference of Urban Health	Ximen China	2019/11/4	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題1,5
60	吉田紘明, 花里真道, 鈴木規道, 西垣美穂, 古賀千絵, 西田恵, 石川敦雄	オフィスにおける主観的な自席の天井の高さと1年後のワーク・エンゲイジメントの関連	第78回日本公衆衛生学会	高知市・高知県	2019/10/23	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題1
61	花里真道, 吉田紘明, 鈴木規道, 西垣美穂, 古賀千絵, 西田恵, 石川敦雄	オフィスにおける偶発的な交流とワーク・エンゲイジメントおよび心理的ストレスの関連	第78回日本公衆衛生学会	高知市・高知県	2019/10/23	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題1
62	中山誠健, 中岡宏子, 鈴木規道, 津村佳徐, 高谷一成, 田中眞二, 岩山遼太郎, 戸高恵美子, 森千里	室内空気が作業効率に及ぼす影響 その1 脳波測定による作業効率の定量化	2019年室内環境学会学術大会	沖縄県・那覇市	2019/12/5	千葉大学・積水ハウス	ポスター発表	研究開発課題2
63	津村佳徐, 中岡宏子, 鈴木規道, 中山誠健, 高谷一成, 田中眞二, 岩山遼太郎, 戸高恵美子, 森千里	室内空気が作業効率に及ぼす影響 その2 NASA-TLXを用いた主観的評価からみるリラクセス効果の検証	2019年室内環境学会学術大会	沖縄県・那覇市	2019/12/5	千葉大学・積水ハウス	ポスター発表	研究開発課題2
64	鈴木規道, 中山誠健, 中岡宏子, 津村佳徐, 高谷一成, 田中眞二, 岩山遼太郎, 戸高恵美子, 森千里	新築住宅における室内空気中のギ酸・酢酸の実態調査	2019年室内環境学会学術大会	沖縄県・那覇市	2019/12/5	千葉大学・積水ハウス	ポスター発表	研究開発課題2
65	中岡宏子, 鈴木規道, 中山誠健, 津村佳徐, 高谷一成, 田中眞二, 岩山遼太郎, 戸高恵美子, 森千里	新築住宅における室内空気中のアンモニア濃度の実態調査	2019年室内環境学会学術大会	沖縄県・那覇市	2019/12/5	千葉大学・積水ハウス	ポスター発表	研究開発課題2
66	津村佳徐, 中山誠健, 鈴木規道, 花里真道, 松下和彦, 田中眞二, 岩山遼太郎, 中岡宏子	住環境から次世代の健康を考える その1 住環境および個人属性によるシックハウス症候群症状の発生に関するアンケート調査	2019年度日本建築学会大会[北陸]	石川県・野々市市	2019/9/3	千葉大学・積水ハウス	口頭発表	研究開発課題2
67	中山誠健, 津村佳徐, 鈴木規道, 花里真道, 松下和彦, 田中眞二, 岩山遼太郎, 中岡宏子	住環境から次世代の健康を考える その2 住環境および個人属性によるシックハウス症候群予備軍の発生確率	2019年度日本建築学会大会[北陸]	石川県・野々市市	2019/9/3	千葉大学・積水ハウス	口頭発表	研究開発課題2
68	中岡宏子, 津村佳徐, 中山誠健, 花里真道, 松下和彦, 田中眞二, 岩山遼太郎, 鈴木規道	住環境から次世代の健康を考える その3 シックハウス症候群予防と健康増進に向けた短期滞在型実証実験プロトコル	2019年度日本建築学会大会[北陸]	石川県・野々市市	2019/9/3	千葉大学・積水ハウス	口頭発表	研究開発課題2
69	鈴木規道, 津村佳徐, 中山誠健, 花里真道, 松下和彦, 田中眞二, 岩山遼太郎, 中岡宏子	住環境から次世代の健康を考える その4 空気質配慮型住宅の健康効果とリスク発生確率の分析	2019年度日本建築学会大会[北陸]	石川県・野々市市	2019/9/3	千葉大学・積水ハウス	口頭発表	研究開発課題2
70	井上菜那子・東海林孝騎・高島伸成(富士通ゼネラル研究所・正), 林立也(千葉大学・正), 鈴木規道(千葉大学)	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調システムの開発(第1報)研究概要と快適温度に関する被験者実験	令和元年度空気調和・衛生工学会大会(札幌)	北海道・札幌市	2019/9/18	千葉大学・富士通ゼネラル研究所	口頭発表	研究開発課題2
71	近藤克則	学術研究によるゼロ次予防の可能性—暮らしだけで健康になるまちづくり—	第54回横幹技術フォーラム	東京都・千代田区	2019/5/24	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
72	近藤克則	「ヘルシーエイジング、健康寿命」(共生<コミュニティづくり> & 予防<発症遅延、早期発見、早期対応>)	日経認知症シンポジウム	東京都・千代田区	2019/10/28	千葉大学	その他	研究開発課題5
73	西垣美穂, 花里真道, 古賀千絵, 近藤克則	高齢者のうつと地域の緑地量及び種類の関連: JAGES2016横断研究	第78回日本公衆衛生学会	高知市・高知県	2019/10/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題1,5

74	古賀千絵, 辻大士, 花里真道, 鈴木規道, 近藤克則	高齢者虐待とうつはどちらが原因でどちらが結果か? - JAGES3年間の縦断研究 -	第78回日本公衆衛生学会	高知市・高知県	2019/10/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題1,5
75	西田恵, 花里真道, 近藤克則	高齢者の地域愛着高さと小学校までの近接性の関連: JAGES2016横断研究	第78回日本公衆衛生学会	高知市・高知県	2019/10/23	千葉大学・竹中工務店	ポスター発表	研究開発課題1,5
76	岡部大地, 辻大士, 花里真道, 近藤克則	近隣のウォークアビリティは高齢者の膝痛と腰痛を抑制か: JAGESマルチレベル横断研究	第78回日本公衆衛生学会	高知市・高知県	2019/10/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題1,5
77	西田恵, 原裕介, 古賀千絵, 西垣美穂, 吉田紘明, 石川敦雄, 鈴木規道, 花里真道	オフィス環境はワーク・エンゲイジメント, 健康, 行動にどのように影響を及ぼすか? その12: オフィスビル改修の自席環境, 行動, WE, 健康への影響	2019年度日本建築学会大会[北陸]	石川県・野々市市	2019/9/3	千葉大学・竹中工務店	口頭発表	研究開発課題1
78	花里真道, 石川敦雄, 西田恵, 吉田紘明, 古賀千絵, 西垣美穂, 鈴木規道, 原裕介	オフィス環境はワーク・エンゲイジメント, 健康, 行動にどのように影響を及ぼすか? その13: その13: 自席における自然要素とワーク・エンゲイジメントとの横断分析	2019年度日本建築学会大会[北陸]	石川県・野々市市	2019/9/3	千葉大学・竹中工務店	口頭発表	研究開発課題1
79	原裕介, 古賀千絵, 西垣美穂, 吉田紘明, 石川敦雄, 西田恵, 鈴木規道, 花里真道	オフィス環境はワーク・エンゲイジメント, 健康, 行動にどのように影響を及ぼすか? その14: その14: 自席以外のひとり作業スペースの数とワーク・エンゲイジメントとの関連	2019年度日本建築学会大会[北陸]	石川県・野々市市	2019/9/3	千葉大学・竹中工務店	口頭発表	研究開発課題1
80	吉田紘明, 原裕介, 古賀千絵, 西垣美穂, 石川敦雄, 西田恵, 鈴木規道, 花里真道	オフィス環境はワーク・エンゲイジメント, 健康, 行動にどのように影響を及ぼすか? その15: 自席以外のひとり作業スペースの数と心理的ストレスとの関連	2019年度日本建築学会大会[北陸]	石川県・野々市市	2019/9/3	千葉大学・竹中工務店	口頭発表	研究開発課題1
81	西垣美穂, 吉田紘明, 原裕介, 古賀千絵, 石川敦雄, 西田恵, 鈴木規道, 花里真道	オフィス環境はワーク・エンゲイジメント, 健康, 行動にどのように影響を及ぼすか? その16: 打合せスペースの種類数および打合せ回数とワーク・エンゲイジメン	2019年度日本建築学会大会[北陸]	石川県・野々市市	2019/9/3	千葉大学・竹中工務店	口頭発表	研究開発課題1
82	古賀千絵, 原裕介, 西垣美穂, 吉田紘明, 石川敦雄, 西田恵, 鈴木規道, 花里真道	オフィス環境はワーク・エンゲイジメント, 健康, 行動にどのように影響を及ぼすか? その17: 職場のソーシャル・キャピタルが高い者の自席環境とは?	2019年度日本建築学会大会[北陸]	石川県・野々市市	2019/9/3	千葉大学・竹中工務店	口頭発表	研究開発課題1
83	石川敦雄, 西田恵, 吉田紘明, 古賀千絵, 西垣美穂, 原裕介, 鈴木規道, 花里真道	オフィス環境はワーク・エンゲイジメント, 健康, 行動にどのように影響を及ぼすか? その18: 階段利用の変化と職場のソーシャルキャピタルとの関連	2019年度日本建築学会大会[北陸]	石川県・野々市市	2019/9/3	千葉大学・竹中工務店	口頭発表	研究開発課題1
84	近藤克則	公共健康学「100年後を見据えた健康モデルタウン」	大田区議員研修会	東京都・大田区	2019/9/19	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
85	近藤克則	ビッグデータを活用した健康づくり	健康づくり講演会	岐阜県・大垣市	2019/7/25	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
86	花里真道, 石川敦雄, 西田恵, 古賀千絵, 吉田紘明, 西垣美穂, 鈴木規道	オフィスにおける健康(その3)～自席の開放性とワーク・エンゲイジメント～	第77回日本公衆衛生学会	郡山市・福島県	2018/10/24-26	千葉大学・竹中工務店	口頭発表	研究開発課題1
87	吉田紘明, 石川敦雄, 西田恵, 古賀千絵, 西垣美穂, 鈴木規道, 花里真道	オフィスにおける健康(その4)～自席の開放性と組織への愛着	第77回日本公衆衛生学会	郡山市・福島県	2018/10/24-26	千葉大学・竹中工務店	口頭発表	研究開発課題1
88	西田恵, 石川敦雄, 古賀千絵, 吉田紘明, 西垣美穂, 鈴木規道, 花里真道	オフィスにおける健康(その5)～休憩行動と1年後のワーク・エンゲイジメント～	第77回日本公衆衛生学会	郡山市・福島県	2018/10/24-26	千葉大学・竹中工務店	口頭発表	研究開発課題1
89	西垣美穂, 花里真道, 古賀千絵, 鈴木規道, 近藤克則	高齢者の運動機能の低下・うつと地域の街区公園の関連～JAGES2016横断研究～	第77回日本公衆衛生学会	郡山市・福島県	2018/10/24-26	千葉大学・竹中工務店	口頭発表	研究開発課題1,5

90	石川敦雄, 西田恵, 古賀千絵, 花里真道	社員寮で共同生活する若手社員の食行動と心理的ストレスとの関連	第77回日本公衆衛生学会	郡山市・福島県	2018/10/24-26	千葉大学・竹中工務店	口頭発表	研究開発課題1
91	中岡宏子, 鈴木規道, 中山誠健, 高谷一成, 津村佳余, 田中信二, 松下和彦, 戸高恵美子, 森千里	健康増進を目指した室内空気環境創造の取り組み	平成30年室内環境学会学術大会	東京工業大学	2018/12/6	千葉大学、積水ハウス	口頭発表	研究開発課題2
92	鈴木規道, 中山誠健, 高谷一成, 津村佳余, 中岡宏子	環境改善型予防医学 ケミスタウンプロジェクトの取り組み	第8回 超異分野学会	ベルサール新宿グランドコンファレンスセンター (東京都)	2019/3/1	千葉大学	口頭発表	研究開発課題2
93	Suzuki, N., et al.	"Indoor air quality and health - Chemiless Town Project Phase 3"	Proceedings of the 12th ISAIA	Pyeongchang, Korea	Oct 23-26, 2018	千葉大学、積水ハウス	ポスター発表	研究開発課題2
94	Tajima, S. Ueno, T. Matsuura, K. Mitani, T. Iwasaki, T. Hanazato, M. and Suzuki, M.	Multidisciplinary Collaboration in University-Linked Continuing Care Retirement Community (CCRC) in Nagara	The 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia	Pyeongchang, Korea	2018/10/23-26	千葉大学	口頭発表	研究開発課題3
95	花里真道	千葉大学×イオン 産学共同プロジェクト Well Active Community (WACo)の価値創造	サステナブル・ブランド国際会議 2019東京	ヒルトン東京お台場	2019/3/7	千葉大学、イオン	招待講演	研究開発課題1
96	宮本健太郎	A Study on Residential Air Conditioning Facilities for Preventing and Promoting the Health	Healthy building 2021	オンライン	2022/1/31	千葉大学、富士通ゼネラル	ポスター発表	研究開発課題2
97	高口 倅暉	モップによる一般住居ハウスダスト採取方法およびリン酸エステル系難燃剤、フタル酸エステル系可塑剤、代替可塑剤の分析方法の検討	室内環境学会学術大会	京都リサーチパーク	2021/12/2	千葉大学、ダスキン	口頭発表	研究開発課題2
98	Shota Tajima	Suburban Regional Revitalization in Chiba Prefecture	How does Regional Revitalization Confront Aging and Declining Populations? ~The challenge of the Regional University	高知大学(オンライン)	2021/11/17	千葉大学	口頭発表	研究開発課題3
99	西垣美穂, 吉田紘明, 古賀千絵, 陳ユル, 花里真道	地域活動への参加意欲と4種の活動場所への関心の関連 -埼玉県ふじみ野市一部住民の横断分析-	第32回日本疫学会学術総会 (千葉)	オンライン	2022/1/26	千葉大学	口頭発表	研究開発課題4
100	近藤克則	健康長寿へ向けた多面的取り組み: スポーツ、ビジネスおよび地域の視点から	第43回日本高血圧学会総会	WEB開催	2021/10/17	千葉大学	招待講演	研究開発課題5
101	近藤克則	2040年の地域包括ケア ~社会的処方箋の可能性~	第35回大分県国保地域医療学会	WEB開催	2021/11/13	千葉大学	招待講演	研究開発課題5
102	竹内寛貴, 井手一茂, 渡邊良太, 宮國康弘, 近藤克則	地域レベルのソーシャルキャピタルと喫煙率変化: JAGES6年間の繰り返し横断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
103	坂本和則, 井手一茂, 池田登顕, 近藤克則	膝痛有訴者の社会的サポートと要支援・要介護認定: JAGES 3年間の縦断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
104	王鶴群, 辻大士, 井手一茂, 中込敦士, LINGLING, 近藤克則	高齢者の共食頻度と主観的幸福感との関連: JAGES2016-2019縦断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
105	古賀千絵, 辻大士, 花里真道, 近藤克則	コロナ流行下の高齢者の行動減少と虐待の関連: JAGES2020横断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
106	田村元樹, 高杉友, 中村美詠子, 柳奈津代, 坂巻弘之, 中込敦士, 佐藤豪竜, 近藤克則, 尾島俊之	かかりつけ薬局を持つ高齢者の特徴に関する研究: JAGES2019横断データを用いた分析	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5

107	金森万里子, 岡檀, 竹村幸祐, 小林由美子, 近藤克則, 近藤尚己	ジェンダー規範と精神的健康: 日本老年学的評価研究 2019年調査データを用いた横断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
108	辻大士, 高木大資, 近藤尚己, 丸山佳子, Ling Ling, 王鶴群, 井手一茂, 近藤克則	地域づくりによる介護予防は地域間の健康格差を是正するか?: 8年間の連続横断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
109	西垣美穂, 古賀千絵, 花里真道, 近藤克則	高齢者のうつと水域への近接性の関連: JAGES2016横断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
110	井手一茂, 中込敦士, 辻子優樹, 塩谷竜之介, 古賀千絵, 長嶺由衣子, 辻大士, 近藤尚己, 近藤克則	高齢者の社会経済階層に着目したデジタルデバイドの変化: JAGES マルチレベル分析	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
111	中澤典子, 草間太郎, 木内桜, 山本龍生, 近藤克則, 小坂健, 相田潤	日本の高齢者における歯周病の健康格差の評価: JAGES2019横断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
112	原田真奈実, 相田潤, 中澤典子, 近藤克則, 小坂健	多数歯欠損の高齢者の所得と義歯不使用の関連は医療費自己負担割合により異なるか	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
113	高杉友, 辻大士, 大塚理加, 宮國康弘, 近藤克則, 尾島俊之	個人・地域レベルのソーシャル・キャピタルと避難訓練参加の関連: JAGES 2019横断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
114	小林周平, Chen Yu-ru, 井手一茂, 花里真道, 辻大士, 近藤克則	生鮮食料品店が近くに来た高齢者の歩行時間は増えるのか: JAGES2016-2019縦断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
115	森優太, 辻大士, 渡邊良太, 花里真道, 宮澤拓人, 近藤克則	個人・地域レベルの建造環境とフレイル発症の関連: 3年間のJAGES 縦断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
116	金森悟, 甲斐裕子, 山口大輔, 辻大士, 渡邊良太, 近藤克則	高齢者における運動行動の変容ステージ別の歩行時間の関連要因: JAGES2019横断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題5
117	竹田徳則, 加藤清人, 平井寛, 近藤克則	通いの場に来る日は普段よりも歩く時間は長いのか? - JAGES 参加6市町の分析	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題5
118	加藤清人, 竹田徳則, 林尊弘, 平井寛, 近藤克則	通いの場参加をきっかけにした運動の会等への参加開始状況 - JAGES プロジェクト	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題5
119	平井寛, 近藤克則	武豊町憩いのサロン参加回数と医療・介護費 - JAGES 武豊プロジェクト	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題5
120	西田恵, 花里真道, 古賀千絵, 近藤克則	高齢者のうつと子どもや若い人との交流頻度の関連: JAGES2019横断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題5
121	草間太郎, 相田潤, 木内桜, 谷友香子, 近藤克則, 小坂健	地域在住高齢者における普段の共食相手と体重変化との関連: JAGES による縦断研究	第80回日本公衆衛生学会総会	WEB開催	2021/12/21-12/23	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題5
122	近藤克則	社会と疫学	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	招待講演	研究開発課題5
123	谷友香子, 藤原武男, 近藤克則	ソーシャル キャピタルは子ども期の逆境体験による認知症リスクを緩和するか?: JAGESコホートデータ	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
124	渡邊良太, 辻大士, 井手一茂, 野口泰司, 安岡美佳子, 上地香杜, 佐竹昭介, 近藤克則, 小嶋雅代	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の基本チェックリストは要介護認定発生を予測するか - JAGESコホート研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
125	千嶋巖, 塩谷竜之介, 井手一茂, 中込敦士, 齋藤雅茂, 近藤克則	高齢者のインターネット利用目的と対面交流頻度 JAGES2016-2019縦断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
126	長嶺由衣子, 藤原武男, 近藤尚己, 古賀千絵, 中込敦士, 井手一茂, 近藤克則	傾向スコアマッチング法による地域在住高齢者のICT利用頻度とIADLの変化の関連 ~ JAGES2016-2019パネルデータ分析	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5

127	井手一茂, 中込敦士, 辻大士, 山本貴文, 渡邊良太, 芝孝一郎, 横山芽衣子, 白井こころ, 近藤克則	高齢者における通いの場参加と健康・well-being34指標の変化: JAGES 2013-2016-2019アウトカムワイド分析	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
128	辻大士, 金森悟, 渡邊良太, 横山芽衣子, 宮國康弘, 齊藤雅茂, 近藤克則	高齢者がグループに参加して実践する運動・スポーツ種目とうつ症状の変化: 3年間のJAGES縦断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
129	佐藤豪竜, 近藤尚己, 近藤克則	ソーシャルキャピタルは新型コロナの流行に伴うメンタルヘルスの危機に有効か?	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
130	佐藤正司, 辻大士, 上野貴之, 井手一茂, 渡邊良太, 近藤克則	高齢者における社会経済的状況とうつ発症との関連 - JAGES縦断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
131	方恩知, 井手一茂, 佐藤豪竜, 近藤克則	新型コロナウイルス感染症の流行期における自粛生活と健康二次被害の関連	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
132	松岡角英, 吉田紘明, 井手一茂, 平井寛, 花里真道, 近藤克則	(公共交通)敬老バスを利用する高齢者は、閉じこもりが少ないか: JAGES(日本老年学的評価研究)3年縦断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
133	田村元樹, 高杉友, 中村美詠子, 柳奈津代, 坂巻弘之, 中込敦士, 佐藤豪竜, 近藤克則, 尾島俊之	かかりつけ薬局と移動手段の関連: JAGES2019横断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
134	朱祐珍, 吉田都美, 近藤克則, 川崎洋平, 川上浩司	逆境的小児期体験と成人期における身体的、精神的健康状態との関連	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
135	竹内寛貴, 井手一茂, 塩谷竜之介, 阿部紀之, 中込敦士, 前田梨沙, 近藤克則	要支援・要介護リスク点数は短期の介護予防効果評価指標として有用か: JAGES2016-19縦断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
136	塩谷竜之介, 中込敦士, 井手一茂, 近藤克則	コロナ流行下でビデオ通話による交流がある高齢者では、うつ評価尺度の合計得点が高い JAGES縦断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
137	王鶴群, 辻大士, 井手一茂, 中込敦士, 奥園桜子, 芦田登代, LINGLING, 近藤克則	子ども期の逆境体験と高齢期の主観的幸福感との関連: JAGES2016横断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
138	張競文, 白井こころ, 今野弘規, 田中麻理, 李嘉琦, 川内はるな, 王雨, 岡本華奈, 近藤克則, 北村明彦, 磯博康	Association between ikigai and hypertension in Japanese population: a cross-sectional study	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
139	陳昱儒, 井手一茂, 花里真道, 古賀千絵, 吉田紘明, 近藤克則	高齢者における主観的な近隣環境と要支援・要介護認定の関連: JAGES2010-2019コホート研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
140	古賀千絵, 辻大士, 花里真道, 近藤克則	新型コロナ流行期の緊急事態宣言下における高齢者の虐待、社会的孤立と孤独感の関連: JAGES2020年横断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
141	玉田雄大, 竹内研時, 齊藤雅茂, 山口知香枝, 白井こころ, 大平哲也, 小嶋雅代, 若井建志, 近藤克則	高齢者の日常生活における笑いとフレイル発生リスクとの関連: JAGES縦断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
142	小林周平, 井手一茂, 陳昱儒, 中込敦士, 花里真道, 近藤克則	高齢者における生鮮食品店の認知と幸福感: JAGES2013-2016-2019縦断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
143	野口泰司, 藤原聡子, 鄭丞媛, 井手一茂, 斎藤民, 近藤克則, 尾島俊之	高齢者・認知症にやさしいまち指標と健康・幸福の関連: JAGES横断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5

144	坂本和則, 河口謙二郎, 井手一茂, 池田登顕, 近藤克則	膝痛有訴者の社会的サポートと要支援・要介護認定・死亡との関連: JAGES 6年間のコホート研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
145	LINGLING, 井手一茂, 辻大士, 花里真道, 王鶴群, 陳昱儒, 吉田紘明, 近藤克則	高齢者の図書館または本屋書店の利用頻度と認知症リスク	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
146	阿部紀之, 井手一茂, 渡邊良太, 林尊弘, 飯塚玄明, 近藤克則	フレイル高齢者の社会参加と要介護認定との関連: JAGES2010-2016コホート研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
147	横山芽衣子, 井手一茂, 近藤克則	調査または名簿による通いの場参加者把握の手法の違いがフレイルに異なる影響を及ぼす: JAGES縦断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
148	林尊弘, 野口泰司, 渡邊良太, 阿部紀之, 辻大士, 齊藤雅茂, 近藤克則	フレイルの社会的側面の構成要素と要介護認定発生との関係: JAGES2016コホート研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
149	高杉友, 辻大士, 大塚理加, 宮國康弘, 近藤克則, 尾島俊之	個人・地域レベルのソーシャル・キャピタルと防災備蓄の関連: JAGES 2019横断研究	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
150	山元絹美, 草間太郎, 木内桜, 近藤克則, 小坂健, 相田潤	子どもの頃の経済状況は高齢期の口腔の健康に関連するか: 因果媒介分析による検討	第32回日本疫学会学術総会	WEB開催	2022/1/26-1/28	千葉大学	口頭発表	研究開発課題5
151	鶴岡裕太, 櫻井健一, 渡邊応宏, 加藤完, 大野博司, 森千里	母親の妊娠中体重増加量が児の腸内細菌叢形成に与える影響	第10回日本DOHaD学会学術集会	web	2021/9/3	千葉大学, 理化学研究所	ポスター発表	研究開発課題6
152	山本 緑, 櫻井健一, 中岡宏子, 江口哲史, 戸高恵美子, 森千里	児の出生体重と母親・父親の特性との関連: 出生コホート調査C-MACH	第23回環境ホルモモン学会研究発表会	web	2021/9/12	千葉大学	口頭発表	研究開発課題6
153	Tomoko Takahashi, Akifumi Eguchi, Masahiro Watanabe, Emiko Todaka, Kenichi Sakurai, Chisato Mori	Association between relative telomere length in umbilical cord tissue and PCB congeners in maternal blood and cord blood in a birth cohort in Chiba, Japan.	American Society of Human Genetics 2021 Annual Meeting	web	2021/10/13	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題6
154	Shota Tajima, Satoko Nasu	Off-grid mobile architecture prototype: new applications for regional areas	Grand Renewable Energy 2022	Online	2022/12/1	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題7
155	Satoko Nasu, Shota Tajima	Development of a off-grid solar-powered system for a mobile architecture	Grand Renewable Energy 2022	Online	2022/12/1	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題7
156	平石智美・松岡洋子・西垣美穂・吉田紘明・花里真道	地域住民における健康課題分析のためのBIを活用した「健康リスクの見える化ツール」の開発	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会(宮城)	仙台国際センター+オンライン会場	2022/12/17, 18	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7
157	花里真道	ウォークアブルシティに向けたアーバンストリートの統合デザイン・予防医学の視点から	日本建築学会学術講演会大会	北海道科学大学+オンライン会場	2022/9/8	千葉大学	招待講演	研究開発課題7
158	中原佑太・吉田紘明・古賀千絵・原裕介・花里真道	居住者の健康に資するコミュニティ空間の評価に関する研究 その3: 既存団地に対するコミュニティ空間の健康評価指標を用いた分析調査	日本建築学会学術講演会大会	北海道科学大学+オンライン会場	2022/9/7	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7
159	古賀千絵・西垣美穂・中原佑太・吉田紘明・原裕介・花里真道	居住者の健康に資するコミュニティ空間の評価手法に関する研究 その4: 集合住宅団地居住者は、民間賃貸居住者と比較して健康か?	日本建築学会学術講演会大会	北海道科学大学+オンライン会場	2022/9/7	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7

160	原裕介・吉田紘明・古賀千絵・中原佑太・花里真道	居住者の健康に資するコミュニティ空間の評価に関する研究 その5:集合住宅団地が有する健康に資する空間特性についての考察	日本建築学会学術講演会大会	北海道科学大学+オンライン会場	2022/9/7	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7
161	吉田紘明・西垣美穂・古賀千絵・中原佑太・原裕介・花里真道	全国規模の歩数データと近隣環境や健康・ウェルビーイングとの関連 その1:調査概要および平均歩数の記述統計	日本建築学会学術講演会大会	北海道科学大学+オンライン会場	2022/9/8	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7
162	武藤剛・横山和仁・遠藤源樹・黒沢美智子・大森由紀・花里真道・和田耕治	COVID-19感染予防対策コンサルテーション:クラスター化を阻止する換気評価と改善	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題8
163	西垣美穂・西田恵・吉田紘明・古賀千絵・花里真道	オフィス環境はワーク・エンゲイジメント、健康、行動にどう影響を及ぼすか? その23:就労中の会議形態別コミュニケーション満足感と1年後のワーク・エンゲイジメントの関連	日本建築学会学術講演会大会	北海道科学大学+オンライン会場	2022/9/6	千葉大学	口頭発表	研究開発課題8
164	西田恵・西垣美穂・吉田紘明・古賀千絵・花里真道	オフィス環境はワーク・エンゲイジメント、健康、行動にどのように影響を及ぼすか? その24:ワーク・エンゲイジメントの規定要因としてのオフィス環境とオフィス内行動	日本建築学会学術講演会大会	北海道科学大学+オンライン会場	2022/9/6	千葉大学	口頭発表	研究開発課題8
165	武藤剛・橋本晴男・大森由紀・花里真道・堀口兵剛	COVID-19 クラスターを阻止する3密評価指標と空気動態解析を用いた室内環境管理の実践	第30回日本臨床環境医学会学術集会	工学院大学+オンライン	2022/6/26	千葉大学	口頭発表	研究開発課題8
166	武藤剛・弘田量二・花里真道・中村裕之・橋本晴男	COVID-19 クラスターをめざす3密評価指標と空気動態解析を用いた会食・共食環境整備コンサルテーションの実践	第19回日本予防医学学会学術総会	長野県松本市中公民館	2022/6/25	千葉大学	口頭発表	研究開発課題8
167	鈴木規道	住宅と近隣の環境因子暴露と健康影響評価 ~母子疫学環境調査~ その1 妊娠初期における自宅の化学物質濃度測定結果	室内環境学会学術大会	江戸川区総合文化センター(東京)	2022/12/2	千葉大学	口頭発表	研究開発課題9
168	嶋谷 圭一	シックハウス症候群に関する神経症的性格特性と室内環境曝露の交互作用について	室内環境学会学術大会	江戸川区総合文化センター(東京)	2022/12/2	千葉大学	口頭発表	研究開発課題9
169	Tsumura, Kayo	Association between total volatile organic compounds and building-related symptoms	Indoor Air	Kuopio, Finland (WEB開催)	2022.June 12th to 16th	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題9
170	鈴木規道	“きれい”をつくる化学を知らう! 明日をもっときれいに! 住まいの空気環境を知らう。	第12回 CSJ化学フェスタ2022	タワーホール船堀(東京)	2022/10/20	千葉大学	招待講演	研究開発課題9
171	宮本健太郎	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第10報) -冷房期における住宅断熱性能の違いが及ぼす熱・空気環境の評価-	日本建築学会学術講演会大会	北海道科学大学+オンライン会場	2022/9/6	千葉大学	口頭発表	研究開発課題9
172	稲川源規	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第11報)WEBアンケート調査の概要及び住宅の温熱環境と居住者の健康との関係に関する分析	日本建築学会学術講演会大会	北海道科学大学+オンライン会場	2022/9/6	千葉大学	口頭発表	研究開発課題9
173	佐々木 謙	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第12報)WEBアンケートによる住宅の空調設備の仕様及び使用方法に関する調査	日本建築学会学術講演会大会	北海道科学大学+オンライン会場	2022/9/6	富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題9
174	爾見涼	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第13報) 被験者実験による室温変化速度の違いの生理・心理指標への影響に関する研究	日本建築学会学術講演会大会	北海道科学大学+オンライン会場	2022/9/6	千葉大学	口頭発表	研究開発課題9

175	東海林孝騎	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調システムの開発(第10報)冷暖房期における断熱性能の異なるケーススタディによる住宅温熱環境の課題抽出	空気調和衛生工学会大会	神戸大学	2022/9/15	富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題9
176	稲川源規	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第11報+D25:D26)空調運転と個人属性の関係及び温熱・空気環境主観評価と健康の関係の分析	空気調和衛生工学会大会	神戸大学	2022/9/15	千葉大学	口頭発表	研究開発課題9
177	爾見涼	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第12報)被験者実験による室温変化速度の違いの生理・心理指標への影響に関する研究	空気調和衛生工学会大会	神戸大学	2022/9/15	千葉大学	口頭発表	研究開発課題9
178	江口哲史	ノンターゲット分析手法を用いた乳幼児用玩具中有害成分の組成比較	環境化学物質3学会合同大会	富山国際会議場	2022/6/14	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題10
179	江口哲史	ノンターゲット分析によるヒト血清中環境化学物質の探索と曝露影響解析の試み	環境化学物質4学会合同大会	富山国際会議場	2022/6/15	千葉大学	口頭発表	研究開発課題10
180	江口哲史	高分解能 LC-MS を用いた生体試料の網羅分析に基づく環境化学物質の探索	第6回ケミカルハザードシンポジウム	北海道大学	2023/1/12	千葉大学	口頭発表	研究開発課題10
181	鶴岡裕太	relationship between maternal gestational weight gain and the formation of gut microbiota in children.	DOHAD WORLD CONGRESS 2022	VANCOUVER CONVENTION CENTER	2022/8/29	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題10
182	鶴岡裕太	生後3.5年間の腸内細菌叢の変遷:胎児期に始まる子どもの健康と発達に関する調査(C-MACH)	第26回腸内細菌学会学術集会	タワーホール船堀	2022/7/7	千葉大学	口頭発表	研究開発課題10
183	金野友紀	父親年齢と臍帯DNAのメチル化割合が関連する遺伝子の探索	第9回日本DOHAD学会学術集会	東北大学	2022/10/8	千葉大学	口頭発表	研究開発課題10
184	戸井田敏彦	プロテオグリカンの単離と生理活性	日本糖質学会	大阪大学	2022/9/29	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題10
185	Toshihiko Toida	Anti-inflammatory effects of polysaccharide	CBIC2022	Mae Fah Luang University Chiang Rai(Thailand)	2022/12/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題10
186	戸井田敏彦	食品成分多糖の機能性評価法	日本食品化学学会	東京国際会議場	2022/0519	千葉大学	口頭発表	研究開発課題10
187	草間太郎, 竹内研時, 木内桜, 相田潤, 近藤克則, 小坂健	歯の喪失による死亡リスク上昇における体重減少の媒介効果:高齢者を対象としたJAGES コホート研究	第71回日本口腔衛生学会・総会	Web 開催	2022/5/13-5/27	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
188	岸知子, 岡田恵美子, 鶴川重和, 趙静文, 佐々木幸子, 谷友香子, 佐々木敏, 近藤克則, 玉腰暁子	地域在住高齢者における食料品店へのアクセスとカルシウム摂取不足の関連	第64回日本老年医学会学術集会	大阪国際会議場	2022/6/2-6/4	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
189	近藤克則	暮らすと健康になるまちづくり	第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	沖縄コンベンションセンター第1会場 劇場棟	2022/6/11	千葉大学	招待講演	研究開発課題11
190	竹内寛貴, 方知恩, 井手一茂, 辻大士, 齊藤雅茂, 近藤克則	COVID-19流行前・流行中の推定要介護認定者数・介護給付費の変化:JAGES	日本老年社会科学会第64回大会	美林大学新宿キャンパス	2022/7/2-7/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
191	山口佳小里, 井手一茂, 横山芽衣子, 辻大士, 近藤克則	高齢者における通いの場への参加・プログラム種類数と高次生活機能-JAGES2016-2019縦断パネル研究-	第56回日本作業療法学会	国立京都国際会館	2022/9/16-9/18	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11

192	山田彩恵, 小林周平, 井手一茂, 中込敦士, 近藤克則	高齢者における社会参加と生きがいの関連-JAGES2013-2016-2019縦断パネル研究-	第56回日本作業療法学会	国立京都国際会館	2022/9/16-9/18	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
193	平井寛, 近藤克則	傾向スコアマッチングを用いた高齢者優遇乗車制度の利用と高齢者の活動性の関連の検討	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
194	西垣美穂, 花里真道, 古賀千絵, 吉田紘明, 松岡洋子, 平石智美, Chen Yu-Ru, 近藤克則	水辺訪問と健康行動・うつとの関連: 高齢者における横断研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題7・8・11
195	小林周平, 井手一茂, Chen Yu-Ru, 中込敦士, 花里真道, 近藤克則	近隣の生鮮食料品店と高齢者の健康・well-being: JAGES2013-2016-2019 outcome-wide 分析	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題7・8・11
196	竹田徳則, 平井寛, 加藤清人, 近藤克則	コロナ禍において再開された通いの場への参加者割合-武豊プロジェクト	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
197	加藤清人, 竹田徳則, 林尊弘, 平井寛, 近藤克則	COVID-19流行期間に新たに始めた健康保持活動の有無と活動種目-JAGES プロジェクト-	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
198	川込あゆみ, 齊藤雅茂, 井手一茂, 尾島俊之, 近藤克則	認知症サポーター養成講座等受講による認知症の人への理解度の相違: JAGES 横断研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
199	玉田雄大, 草間太郎, 竹内研時, 木内桜, 小坂健, 近藤克則, 田淵貴大	高齢者の喫煙状況と健康・Well-being との関連: Outcome-wide 縦断研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
200	井手一茂, 山口佳小里, 辻大士, 渡邊良太, 宮國康弘, 横山芽衣子, 尾島俊之, 近藤克則, 近藤尚己	保険者機能強化推進交付金評価指標と高齢者の社会参加: JAGES マルチレベル横断研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
201	谷友香子, 藤原武男, 近藤克則	調理技術は健康の決定要因か? 肥満とやせとの関連: JAGES データ	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
202	中澤典子, 竹内研時, 草間太郎, 木内桜, 近藤克則, 小坂健	高齢者における歯科補綴装置の使用が抑うつ発症リスクへもたらす効果: JAGES 縦断研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
203	渡邊良太, 辻大士, 井手一茂, 齊藤雅茂, 近藤克則, 佐竹昭介	要介護認定発生率減少と社会参加: JAGES2010-13と16-19の2コホート比較研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
204	熊澤大輔, 田村元樹, 井手一茂, 近藤克則	高齢者における道の駅利用と主観的健康感: 準実験的デザイン研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
205	木村美也子, 井手一茂, 尾島俊之, 近藤克則	高齢者の新型コロナ流行前の社会参加と流行期の感染予防/健康行動: JAGES 縦断研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11

206	Chen Yu-Ru, 花里真道, 齊藤雅茂, 古賀千絵, 吉田紘明, 中込敦士, 西垣美穂, 近藤克則	高齢者における近隣環境と介護費用の関連: JAGES2010-2016コホート研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題 7・8・11
207	河口謙二郎, 上野貴之, 井手一茂, 近藤克則	サービス付き高齢者向け住宅入居者の社会参加: 傾向スコア法でのJAGESデータとの比較	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題 11
208	松岡洋子, 花里真道, 西垣美穂, Chen Yu-Ru, 古賀千絵, 平石智美, 吉田紘明, 近藤克則	高齢者における住まいの満足度・居住期間とうつリスクとの関連: 横断研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題 7・8・11
209	森優太, 井手一茂, 渡邊良太, 横山芽衣子, 飯塚玄明, 辻大士, 山口佳小里, 宮澤拓人, 近藤克則	通いの場プログラム種類数と3年後の高齢者総合的機能評価の関連: JAGES縦断研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題 11
210	宮澤拓人, 横山芽衣子, 井手一茂, 辻大士, 近藤克則	通いの場におけるプログラムの種類数と3年後の高齢期うつとの関連-JAGES縦断研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題 11
211	李嘉き, 白井こころ, 磯博康, 近藤克則	ストレス対処能力(SOC)と要介護認知症発症との関連: JAGESプロジェクト	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題 11
212	田村元樹, 井手一茂, 花里真道, 竹内寛貴, 塩谷竜之介, 阿部紀之, 王鶴群, 近藤克則	高齢者におけるグリスロ利用と孤立・孤独感の変化: 傾向スコア法による縦断研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題 7・8・11
213	藤原聡子, 辻大士, 中込敦士, 宮國康弘, 花里真道, 武藤剛, 近藤克則	地域レベルのソーシャルキャピタルと認知症リスクとの関連: JAGES 9年間縦断研究	第81回日本公衆衛生学会総会	YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館	2022/10/7-10/9	千葉大学	口頭発表	研究開発課題 11
214	近藤克則	健康格差社会—ポストコロナ時代の処方せん—	第119回日本保険医学会定時総会	有楽町朝日ホール	2022/10/14	千葉大学	招待講演	研究開発課題 11
215	山田恵子, 藤井朋子, 久保田康彦, 池田登頭, 花里真道, 近藤尚己, 松平浩, 近藤克則	日本の地域自立高齢者における慢性運動器疼痛と慢性広範囲疼痛の有病率及び地域差について: 大規模横断的高齢者コホート研究(日本老年学的評価研究JAGES2019年調査)	第15回日本運動器疼痛学会	足利ニューミヤコホテル本館	2022/11/19	千葉大学	口頭発表	研究開発課題 7・8・11
216	井手一茂	高齢者における健康格差と緩和要因: ~格差縮小策としての社会参加・インターネット利用~	第38回日本ストレス学会学術総会	オンライン	2022/11/26	千葉大学	招待講演	研究開発課題 11
217	野口泰司, 藤原聡子, 鄭丞媛, 井手一茂, 齋藤民, 近藤克則, 尾島俊之	高齢者にやさしいまちは家族介護負担による抑うつを軽減するか: JAGES	第33回日本疫学会学術総会	アクティビティ 浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題 11
218	森優太, 辻大士, 渡邊良太, 花里真道, Yu-Ru Chen, 近藤克則	近隣環境とフレイル発症の関連とその媒介要因の検証: -JAGES縦断研究-	第33回日本疫学会学術総会	アクティビティ 浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題 11
219	辻大士, 岡田栄作, 齊藤雅茂, 金森悟, 宮國康弘, 花里真道, 近藤克則, 尾島俊之	地域のスポーツグループ参加割合と全死因・死因別死亡: 7年間のJAGESマルチレベル縦断研究	第33回日本疫学会学術総会	アクティビティ 浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題 7・8・11
220	上野貴之, 井手一茂, 佐藤豪竜, 近藤克則	高齢者の社会参加割合と高血圧・糖尿病の一人当たり医療費の地域相関分析	第33回日本疫学会学術総会	アクティビティ 浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題 11

221	Wen Hao, Wenjing Zhao, Takashi Kimura, Takumi Hirata, Sachiko Sasaki, Shigekazu Ukawa, Ken Kadoya, Katsunori Kondo, Akiko Tamakoshi	Gait, physical activity, and their longitudinal relationship with cognitive decline in older adults	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
222	児玉知子, 岡田栄作, 尾島俊之, 近藤克則	介護予防教室の参加とスポーツ・趣味の会の参加頻度増加の関連	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
223	井手一茂, 阿部紀之, 方恩知, 近藤克則	互助コミュニティ型資源回収ステーションの利用と心理指標の変化:半年間の縦断研究	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
224	渡邊良太, 齊藤雅茂, 上野貴之, 井手一茂, 辻大士, 斎藤民, 近藤克則	死亡前3年間の介護サービス給付費の利用パターンの抽出:9年間のJAGES 縦断研究	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
225	平井寛, 齊藤雅茂, 近藤克則	自立高齢者の外出頻度とその後の生涯介護費用の関連の検討-JAGESプロジェクト20年間の追跡研究	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
226	水田明子, 尾島俊之, 斎藤民, 近藤克則	外出好き/家好きで介護開始後の主観的健康感悪化リスクは異なるか?	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
227	塩田千尋, 草間太郎, 竹内研時, 木内桜, 近藤克則, 小坂健	自立高齢者における口腔の健康状態と体重減少の関連:JAGESコホート研究	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
228	近藤克則, 上野貴之, 阿部紀之, 原新	人工知能を用いた認知症発症リスク予測アルゴリズムの改良:JAGES縦断研究	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
229	笠原正幸, 井手一茂, 近藤克則	年齢階層別にみた高齢者の多剤服用と要支援・要介護認定との関連:JAGES2013-19 縦断研究	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
230	熊澤大輔, 田村元樹, 井手一茂, 近藤克則	高齢者における道の駅利用と外出頻度の関連:道の駅開設前後の縦断研究	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
231	長谷田真帆, 尾島俊之, 近藤克則, 近藤尚己	高齢者の死因ごとの死亡場所と所得との関連:JAGES縦断研究	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
232	西垣美穂, 松岡洋子, Chen Yu-Ru, 吉田紘明, 平石智美, 近藤克則, 花里真道	緑地訪問頻度や活動種類と幸福感・うつの関連:高齢者における横断研究	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7・8・11
233	田村元樹, 辻大士, 井手一茂, 近藤克則, 花里真道, 高杉友, 尾島俊之	地域ボランティアグループ参加割合と健康・幸福の関連:3年間のJAGES縦断マルチレベル分析	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7・8・11
234	谷友香子, 花里真道, 藤原武男, 鈴木規道, 近藤克則	歩道の多いウォークアブルな地域では認知症リスク減:JAGESコホートデータ	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7・8・11
235	田近敦子, 中込敦士, 宮國康弘, 古賀千絵, 尾島俊之, 近藤克則	低学歴高齢者におけるインターネット利用による機能的な能力低下の抑制効果:JAGES 2016-2019	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
236	孫智超, 白井こころ, 北村明彦, 平井啓, 羽山美奈, 高山佳洋, 近藤克則	共分散構造分析モデリングによるフレイルの関連因子評価の要因分析	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
237	高杉友, 辻大士, 大塚理加, 宮國康弘, 近藤克則, 尾島俊之	個人・地域レベルのソーシャル・キャピタルは避難訓練参加増を説明するか:JAGES 3年縦断研究	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
238	芳我ちより, 鄭丞媛, 井上祐介, 近藤克則	SIBを活用した健康ポイント事業による国保加入者の体重適正化の効果検証	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11

239	山元絹美, 竹内研時, 木内桜, 草間太郎, 中澤典子, 玉田雄大, 近藤克則, 小坂健	高齢者における口腔機能と要介護発生との関連: JAGESコホート研究	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
240	齊藤雅茂, 尾島俊之, 渡邊良太, 近藤克則, 藤田欽也	高齢者の他者とのつながりによる自殺発生の相違: 7年間の前向きコホート・データより	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
241	鄭丞媛, 井上祐介, 芳我ちより, 方恩知, 近藤克則	健康ポイント事業における「ウォーキングポイント」は医療費の抑制につながったのか	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
242	井上祐介, 鄭丞媛, 芳我ちより, 方恩知, 近藤克則	SIBによる健康ポイント事業の参加者の運動, 栄養・食生活, 社会参加, ソーシャル・キャピタルの3年間の変化	第33回日本疫学会学術総会	アクトシティ浜松	2023/2/1-2/3	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
243	熊澤大輔, 田村元樹, 井手一茂, 近藤克則	道の駅利用とソーシャル・キャピタル関連指標の関連: 3年間の縦断研究	日本社会関係学会第3回研究大会	千葉大学 西千葉キャンパス	2023/3/18-3/20	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
244	井手一茂, 上野貴之, 辻大士, 渡邊良太, 齊藤雅茂, 木村美也子, 近藤克則	通いの場への参加とその後のソーシャル・キャピタル: 福岡市におけるふれあいサロン参加者名簿を用いた縦断研究	日本社会関係学会第3回研究大会	千葉大学 西千葉キャンパス	2023/3/18-3/20	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
245	竹内寛貴, 井手一茂, 河口謙二郎, 小林周平, 花里真道, 近藤克則	高齢者における近隣の公園や歩道と社会参加との関連: JAGES2013-2016-2019 縦断研究	日本社会関係学会第3回研究大会	千葉大学 西千葉キャンパス	2023/3/18-3/20	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7・8・11
246	阿部紀之, 井手一茂, 方恩知, 近藤克則	互助共助コミュニティ型資源回収ステーションの利用と要支援・要介護リスクの変化: 1年間の縦断研究	日本社会関係学会第3回研究大会	千葉大学 西千葉キャンパス	2023/3/18-3/20	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
247	Yu-Ru Chen, 花里真道, 中込敦士, 阿部紀之, 井手一茂, 川崎洋平, 近藤克則	サードプレイスと Well-being との関連 — スマートフォンアプリを用いた調査	日本社会関係学会第3回研究大会	千葉大学 西千葉キャンパス	2023/3/18-3/20	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7・8・11
248	Yu-Ru Chen, 花里真道, 齊藤雅茂, 近藤克則	高齢者における近隣環境と介護費用の関連: JAGES2010-2019コホート研究	日本医療経済学会 第19回若手研究者育成のためのセミナー	オンライン	2023/3/3	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7
249	西垣美穂, 松岡洋子, Yu-Ru Chen, 吉田紘明, 平石智美, 近藤克則, 花里真道	地域高齢者における主観的幸福感と緑地や水辺の訪問頻度及び活動種類の関連	日本社会関係学会 第3回研究大会	千葉大学 西千葉キャンパス	2023/3/19	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7
250	高木大資, 泉山壘威, 林匡宏, 花里真道	プレイスメイキングとは何か — 賑わい空間の創造と評価	日本社会関係学会 第3回研究大会	千葉大学 西千葉キャンパス	2023/3/20	千葉大学	その他	研究開発課題7
251	花里真道・吉田紘明・原裕介・三牧浩也・バンバ タカユキ・青木公隆	柏の葉ウォークラブルサインゼロ次予防と行動科学によるストリートデザイン	2023年度日本建築学会大会	京都大学 吉田キャンパス	2023/9/15	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題7
252	Matsuoka Y, Yoshida H, Hanazato M	Does the smartphone-based shopping mall-walking program encourage people to walk more? A multilevel analysis of nationwide big data in Japan.	Society for Epidemiologic Research 2023 Annual Meeting.	Portland, USA	6/14/2023	千葉大学	口頭発表	研究開発課題8
253	松岡洋子, 吉田紘明, 花里真道	テキストメッセージ配信がショッピングモールアプリ利用者の歩行促進に与える効果: 全国規模のランダム化比較試験	第31回日本健康教育学会学術大会	東京都千代田区	2023/7/23	千葉大学	口頭発表	研究開発課題8
254	西田恵・吉田紘明・花里真道	オフィス環境はワーク・エンゲイジメント、健康、行動にどのように影響を及ぼすか? その25: フリーアドレスがオフィス内行動・ワーク・エンゲイジメント・パフォーマンスに与える影響	2023年度日本建築学会大会	京都大学 吉田キャンパス	2023/9/14	千葉大学・竹中工務店	口頭発表	研究開発課題8

255	稲川源規	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の検討(第13報)健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の開発(第13報)空間分布に対する熱供給効率を考慮した省エネルギー性評価方法の開発	空気調和衛生工学会大会	福井大学	2023/9/8	三菱地所設計	口頭発表	研究開発課題9
256	東海林孝騎	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調システムの開発(第14報)CFD解析を用いたケーススタディによる住宅温熱環境および省エネルギー性の課題抽出	空気調和衛生工学会大会	福井大学	2023/9/8	富士通ゼネラル	口頭発表	研究開発課題9
257	筈井悠斗	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の開発(第15報)室温上昇速度の違いが生理反応・心理申告に及ぼす影響に関する被験者実験	空気調和衛生工学会大会	福井大学	2023/9/8	千葉大学	口頭発表	研究開発課題9
258	辻悠希	健康リスクの予防・健康増進を目指した住宅用空調設備の開発(第16報)体組成の違いによる温熱環境に対する心理指標・生理指標の検討	空気調和衛生工学会大会	福井大学	2023/9/8	東洋熱工業	口頭発表	研究開発課題9
259	戸井田敏彦	サケ鼻軟骨由来プロテオグリカンの食機能性	日本糖質学会	鳥取大学	2023/9/29	千葉大学	口頭発表	研究開発課題10
260	Toshihiko Toida	Anti-inflammatory effects of salmon nasal proteoglycan	Glyco26	Academia Sinica Taipei	2023/8/30	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題10
261	戸井田敏彦	食品に含まれるグルタチオンの分析	日本食品化学学会	富山国際会議場	2023/6/8	千葉大学	口頭発表	研究開発課題10
262	河口謙二郎、上野貴之、井手一茂、近藤克則	サービス付き高齢者向け住宅入居が要介護リスクに及ぼす影響:1年間の縦断分析	第64回日本社会医学学会総会	早稲田大学国際会議場	2023/7/29	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
263	阿部紀之	LINEを用いた情報発信によるウェルビーイング向上効果の検証—「しあわせシティ柏の葉(WACo)」	コウリュウノハ	三井リンクラポ柏の葉	2023/3/13	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
264	Yu-Ru Chen	LINEを用いた柏の葉エリアの近隣環境とウェルビーイングの調査—「みんなで作ろう、しあわせのまち」	コウリュウノハ	三井リンクラポ柏の葉	2023/3/13	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
265	花里真道、森田浩之、乾裕之、近藤克則	健康まちづくりの社会実装～産官学民連携の取り組みを通じて～	第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、メインシンポジウム	名古屋市、ポートメッセ名古屋	2023/5/13	千葉大学	口頭発表	課題7, 8, 11
266	小林周平、井手一茂、松村貴与美、花里真道、近藤克則	グリーンスローモビリティが高齢者の買い物支援になる可能性:実証事業前後の記述研究	第82回日本公衆衛生学会総会	つくば国際会議場	2023/10/31-11/2	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題7・8・11
267	井手一茂、小林周平、松村貴与美、田村元樹、竹内寛貴、塩谷竜之介、王鶴群、阿部紀之、花里真道、近藤克則	グリーンスローモビリティは新たな交流・笑いを創出するか:導入事業前後の縦断研究	第82回日本公衆衛生学会総会	つくば国際会議場	2023/10/31-11/2	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題7・8・11
268	花里真道、田村元樹、井手一茂、吉田紘明、竹内寛貴、塩谷竜之介、王鶴群、小林周平、近藤克則	グリーンスローモビリティの利用と高齢者の行動範囲の検討	第82回日本公衆衛生学会総会	つくば国際会議場	2023/10/31-11/2	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題7・8・11
269	小林周平、井手一茂、松村貴与美、渡邊良太、花里真道、斉藤雅茂、近藤克則	高齢者におけるグリーンスローモビリティ運営ボランティア参加と要支援・要介護リスク:5ヶ月間の縦断研究	第34回日本疫学会学術総会	びわ湖大津プリンスホテル	2024/1/31-2/2	千葉大学	その他	研究開発課題7・8・11

270	Matsuoka Y, Yoshida H, Hanazato M.	Does the smartphone-based shopping mall-walking program encourage people to walk more? A multilevel analysis of nationwide big data in Japan.	5TH Japan-German Symposium on Advanced Preventive Medicine	Düsseldorf, Germany	2023/9/19-20	千葉大学	口頭発表	研究開発課題8
271	Chen YR, Hanazato M, Saito M, Koga C, Matsuoka Y, Yoshida H, Kondo K.	Does the neighborhood built and social environment reduce long-term care costs for Japanese older people? The JAGES2010-2019 cohort study.	5TH Japan-German Symposium on Advanced Preventive Medicine	Düsseldorf, Germany	2023/9/19-20	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7・11
272	松岡洋子, 木野志保, 長谷田真帆, 尾島俊之, 花里真道, 近藤克則, 近藤尚己	高齢者における震災直後の転居と精神的健康の推移: 熊本地震前後の中長期追跡調査	第82回日本公衆衛生学会総会	つくば国際会議場	2023/10/31-11/2	千葉大学	口頭発表	研究開発課題7・11
273	熊澤大輔, 井手一茂, 河口謙二郎, 近藤克則	互助コミュニティ型資源回収ステーション利用で要支援・要介護リスクは低下するか	第82回日本公衆衛生学会総会	つくば国際会議場	2023/10/31-11/2	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
274	王鶴群, 河口謙二郎, LINGLING, 井手一茂, 近藤克則	サービス付き高齢者向け住宅入居者のwell-being: 傾向スコアマッチング法でのJAGESデータとの比較	日本社会関係学会第4回研究大会	日本大学経済学部7号館	2024/3/19-3/21	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
275	竹内寛貴, 中込敦士, 井手一茂, 近藤克則	高齢者の性・年齢階級別、就労頻度の変化: JAGES2019-2022繰り返し横断研究	第34回日本疫学会学術総会	びわ湖大津プリンスホテル	2024/1/31-2/2	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
276	近藤克則, Yu-Ru Chen, 井手一茂, 中込敦士, 小林周平, 花里真道	参加型の健康づくり拠点「あした」の会員は社会参加しているか?	第34回日本疫学会学術総会	びわ湖大津プリンスホテル	2024/1/31-2/2	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
277	中込敦士, 阿部紀之, Yu-Ru Chen, 井手一茂, 小林周平, 花里真道, 近藤克則	メッセージングアプリによる情報発信によるウェルビーイング向上は可能か?	第34回日本疫学会学術総会	びわ湖大津プリンスホテル	2024/1/31-2/2	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
278	井手一茂, Yu-Ru Chen, 小林周平, 中込敦士, 花里真道, 近藤克則	柏の葉エリアの高齢者は健康長寿か?: JAGES柏市2013-2022縦断研究	第34回日本疫学会学術総会	びわ湖大津プリンスホテル	2024/1/31-2/2	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
279	田中琴音, 井手一茂, 中込敦士, 河口謙二郎, 竹内寛貴, 遠又靖丈, 田中和美, 近藤克則	子ども時代に貧困だと、高齢期の食事の食品多様性が低いのか?: JAGES 2022横断研究	第34回日本疫学会学術総会	びわ湖大津プリンスホテル	2024/1/31-2/2	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
280	Yu-Ru Chen, 井手一茂, 小林周平, 花里真道, 中込敦士, 近藤克則	柏市柏の葉に居住する高齢者と健康・ウェルビーイング: 2013-2022縦断研究	第34回日本疫学会学術総会	びわ湖大津プリンスホテル	2024/1/31-2/2	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
281	河口謙二郎, 金雪瑩, 野口泰司, 斎藤民, 近藤克則	要介護高齢者の住宅環境と精神的健康及びQOL: JAGES在宅ケアとくらしの調査2022横断研究	第34回日本疫学会学術総会	びわ湖大津プリンスホテル	2024/1/31-2/2	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
282	松村貴与美, 井手一茂, 竹内寛貴, 辻大士, 横山芽衣子, 渡邊良太, 近藤克則	高齢者の都市度・性・年齢階級の地域組織参加・就労者割合: JAGES2022横断研究	第34回日本疫学会学術総会	びわ湖大津プリンスホテル	2024/1/31-2/2	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題11
283	松村貴与美, 井手一茂, 辻大士, 渡邊良太, 中村廣隆, 田中琴音, 近藤克則	高齢者の通いの場参加における社会経済格差と新型コロナウイルス流行前後の変化: JAGES2019・2022地域相関連続横断研究	日本社会関係学会第4回研究大会	日本大学経済学部7号館	2024/3/19-3/21	千葉大学	口頭発表	研究開発課題11
284	Yu-Ru Chen, 小林周平, 中込敦士, 井手一茂, 阿部紀之, 花里真道, 近藤克則	社会関係が豊かなまちづくり: 柏の葉プロジェクト	日本社会関係学会第4回研究大会	日本大学経済学部	2024/3/19-21	千葉大学	ポスター発表	研究開発課題7・8・11

285	松岡洋子, Yu-Ru Chen	Research and activities of Center for Preventive Medical Sciences	Healthy Aging-Learning From The Community-between National Chung Kung University and Chuba University 60-hour international program	千葉大学	2024/2/20	千葉大学、国立成功大学(台湾)	その他	研究開発課題 7・8・11
-----	------------------	---	---	------	-----------	-----------------	-----	------------------

## (平成30年度～令和5年度) OPERA 活動実績一覧【幹事機関:千葉大学】

領域名:ゼロ次予防戦略によるWell Active Community のデザイン・評価技術の創出と社会実装

## ⑪ 受賞

No	受賞名	主催(表彰団体名)	受賞者氏名	受賞者所属機関	受賞年月	備考 (関連する研究 開発課題番号 研究開発課題)
1	トラブルアワード	日本DOHaD学会	鶴岡裕太	千葉大学	2021.9	研究開発課題6
2	最優秀口演賞受賞	第79回日本公衆衛生学会総会	宮國康弘 斉藤雅茂 辻大士 近藤尚己 近藤克則	国立長寿医療研究センター、日本福祉大学、京都大学、千葉大学	2020.10.20～ 2020.10.22	研究開発課題5
3	ポスター賞受賞	第79回日本公衆衛生学会総会	西田恵 花里真道 近藤克則	千葉大学	2020.10.20～ 2020.10.22	研究開発課題5
4	第54回 日本サイネデザイン賞	公益社団法人日本サイネデザイン協会	田島翔太、花里真道、西垣美穂	千葉大学	2020/10/1	研究開発課題3
5	ちばぎん研究開発助成制度2020	株式会社千葉銀行	田島翔太	ミライノラボ	2020/7/28	研究開発課題3
6	ちばぎん・はまぎん学生ビジコン2020	千葉銀行・横浜銀行	阪田和佳子 田島翔太	千葉大学	2021/2/16	研究開発課題3
7	日本農業新聞賞	日本農業新聞	近藤 克則	千葉大学予防医学センター	2021.10	
8	双葉電子記念財団賞受賞	千葉大学学術研究・イノベーション推進機構	田島翔太	千葉大学	2022.7	研究開発課題7
9	日本経済新聞社賞	公益財団法人都市緑化機構	株式会社竹中工務店 /株式会社パーク・コーポレーション/国立大学法人千葉大学 /株式会社朝日興産	株式会社竹中工務店/株式会社パーク・コーポレーション/国立大学法人千葉大学/株式会社朝日興産	2022.10	研究開発課題8
10	島津製作所論文賞	日本食品化学学会	戸井田敏彦	千葉大学	2022/5/1	研究開発課題10
11	Gold Award	The Cosmetic and Beauty International Conference 2022	戸井田敏彦	千葉大学	2022/11/1	研究開発課題10
12	優秀研究報告賞	日本社会関係学会	井手一茂	千葉大学	2023/3/20	研究開発課題11
13	優秀研究報告賞	日本社会関係学会	熊澤大輔	千葉大学	2023/3/20	研究開発課題11
14	優秀研究報告賞	日本社会関係学会	阿部紀之	千葉大学	2023/3/20	研究開発課題11
15	優秀研究報告賞	日本社会関係学会	竹内寛貴	千葉大学	2023/3/20	研究開発課題11
16	功労賞	日本疫学会	近藤克則	千葉大学	2023/2/3	研究開発課題11
17	千葉市大学市長賞	千葉市	河口謙二郎	千葉大学	2023/3/1	研究開発課題11
18	千葉大学大学院医学薬学府長表彰	千葉大学	河口謙二郎	千葉大学	2023/3/24	研究開発課題11
19	千葉大学大学院医学薬学府長表彰	千葉大学	竹内寛貴	千葉大学	2023/3/24	研究開発課題11
20	千葉大学学長表彰	千葉大学	竹内寛貴	千葉大学	2023/3/24	研究開発課題11

21	奨励賞	第64回日本社会医学学会総会	LINGLING	千葉大学	2023/7/29~30	研究開発課題11
22	中山賞 大賞	公益財団法人 中山人間科学振興財団	近藤克則	千葉大学	2023/9月	研究開発課題11
23	中山賞 褒章	公益財団法人 中山人間科学振興財団	中込敦士	千葉大学	2023/9月	研究開発課題7・11
24	SDGs岩佐賞	公益財団法人岩佐教育文化財団	塩谷竜之介	千葉大学	2023/9月	研究開発課題7・11
25	研究奨励賞	月刊地域医学	塩谷竜之介	千葉大学	2023/9月	研究開発課題7・11
26	2023 SER International Travel Scholarship	Society for Epidemiologic Research 2023 Annual Meeting	松岡洋子	千葉大学	2023/6/14	研究開発課題8
27	第31回日本健康教育学会学会賞	第31回日本健康教育学会学術大会	松岡洋子	千葉大学	2023/6/14	研究開発課題8
28	第82回日本公衆衛生学会総会口演賞	第82回日本公衆衛生学会総会	松岡洋子	千葉大学	2023/6/14	研究開発課題7・11
29	最優秀研究報告賞	日本社会関係学会	王鶴群、河口謙二郎、LINGLING、井手一茂、近藤克則	千葉大学	2023/3/20	研究開発課題11
30	優秀研究報告賞	日本社会関係学会	松村貴与美、井手一茂、辻大士、渡邊良太、中村廣隆、田中琴音、近藤克則	千葉大学	2023/3/20	研究開発課題11
31	奨励賞	第82回日本公衆衛生学会総会	辻大士	筑波大学	2023/11/1	研究開発課題11
32	口演賞	第82回日本公衆衛生学会総会	松岡洋子、木野志保、長谷田真帆、尾島俊之、花里真道、近藤克則、近藤尚己	千葉大学	2023/11/1	研究開発課題11
33	口演賞	第82回日本公衆衛生学会総会	濱口雄飛、林史和、江口依里、白井こころ、近藤克則、大平哲也	福島県立医科大学、大阪大学、千葉大学、	2023/11/1	研究開発課題11
34	最優秀ポスター賞	2023年度青森県保健医療福祉研究発表会・日本ヒューマンケア科学学会第16回学術集会	松村貴与美、塩谷竜之介、井手一茂、熊澤大輔、小林周平、反町吉秀、大西基喜、近藤克則	千葉大学	2023/12/16	研究開発課題11

## 7 社会実装に向けたロードマップ

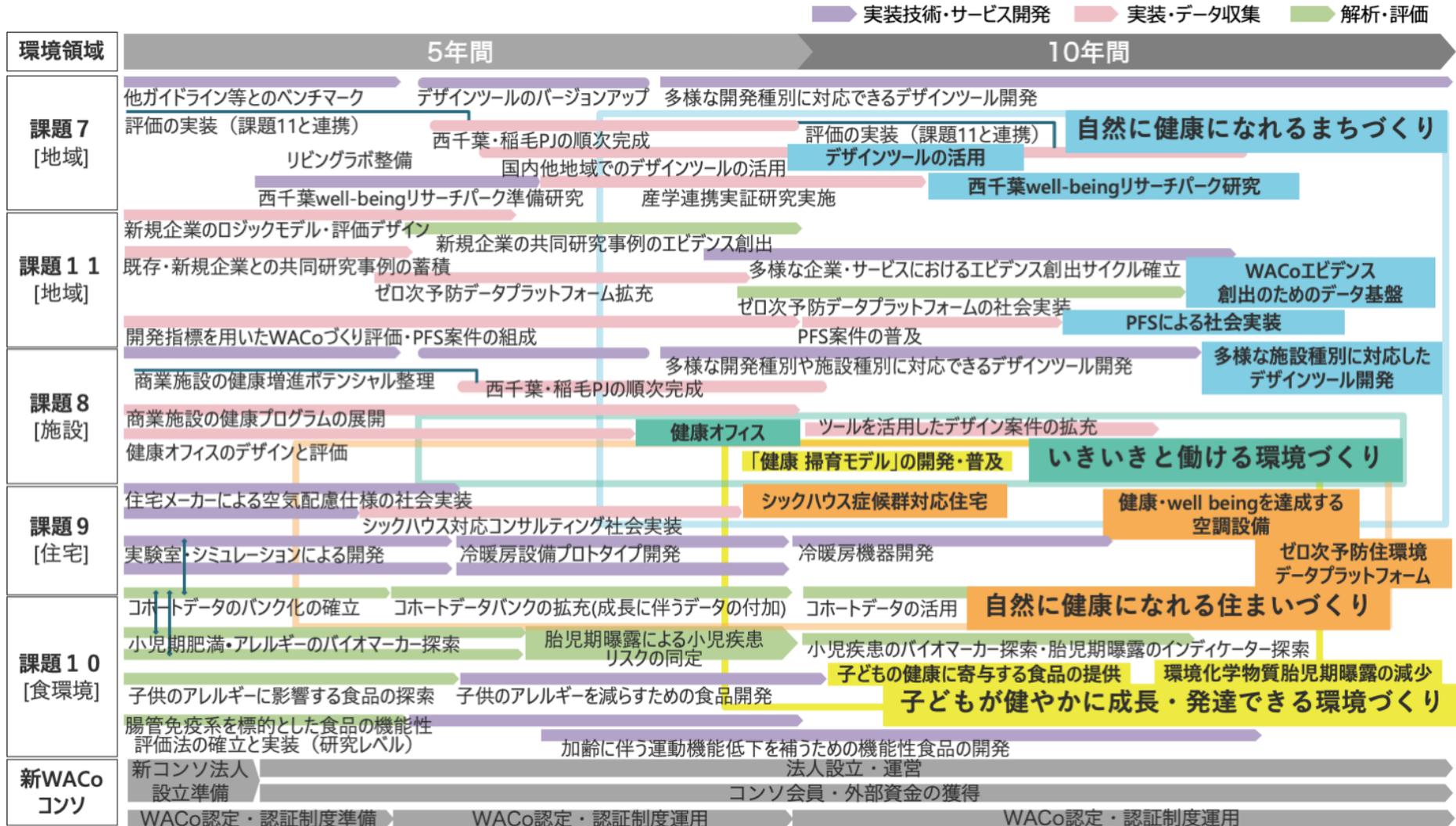


図 7-1 :OPERA 終了後のロードマップ

目指す最終ゴールは、全世代に向けた WACo 社会実装の実現である。ゼロ次予防に立脚し、環境を改善することで、健康で活動的な空間・地域「WACo」の実現を目指す。具体的には、健康増進に寄与する空間や、身体活動や社会参加が増加するプログラムを備え、行動・健康と地域環境の解析や評価に基づき、ハード、ソフト両面の改善や更新を促すしくみを構築する。そのために、図 7-1 に示す通り、各課題が扱う環境領域のテーマが連携しながら、引き続き WACo の実現にむけた研究、開発を推進する。

WACo の要素である「自然に健康になれるまちづくり」のテーマでは、地域、施設、住宅の領域から、WACo 実現を目指す。地域の領域で、課題 7 では、主に開発したデザインツールの改良と活用を進め、課題 11 と連携し、評価を行う。課題 11 では、多様な企業、サービスにおける社会実装の評価、エビデンス創出をすすめ、得られた知見は、デザインツールや社会実装にも反映するなど、連携を目指す。課題 8 では、多様な施設種別に対応したデザインツールの開発、課題 9 で、空気配慮仕様住宅の社会実装の完了を目指す。

「いきいきと働ける環境づくり」のテーマでは、課題 8 を中心に、健康オフィスのデザインと評価を推進し、デザインツールを活用したデザイン案件の拡充を目指す。

「自然に健康になれる住まいづくり」のテーマでは、課題 9 が、課題 10 の疫学調査と連携し、空気環境のみならず様々な家の環境と健康のエビデンスを探る。さらには近隣との繋がり、すなわち街づくりとの連携を意識したゼロ次予防住宅の開発を目指す。

「子どもが健やかに成長・発達できる環境づくり」は、課題 8 では教育施設の「健康掃育モデル」の開発と普及を推進する。また、課題 10 の食環境では、子供たちの健康に良い食品がお店に並んでいる環境や、子供の生育に関する情報を自然に目にすることができる環境づくりなどがあり、化学物質曝露を減らすという点では街全体の環境に配慮するまちづくりとして、地域の改善や開発へも知見を活用することも考えらる。

以上、OPERA 終了後も、それぞれの環境領域での課題が連携しながら、ゼロ次予防に立脚し、環境を改善することで、健康で活動的な空間・地域「WACo」の実現を目指す。

## 8 領域統括によるプロジェクト総括と今後の展望

本コンソーシアムでは、各研究開発課題の研究者・関係者の大変な努力のもと、企業との連携を強め、自然に健康になれる環境・まちづくりの実装に向け検討が進んだ。本プロジェクトのビジョンである暮らしているだけで（生活しているだけ）で健康になるまちづくりが現実的なものになっており、目に見える成果が出た事は非常に意味があると認識している。

特に、KT1「ゼロ次予防デザイン・実装技術」では、エビデンスに基づいたデザイン・設計支援ツールである「健康コミュニティ・健康オフィスの空間デザインツール」を開発し、民間のまちづくりやオフィスビル計画に活用し、社会実装を実現した。現在も、OPERA 参画企業が推進する開発において、本ツールの活用を進めており、WACo づくりを推進する重要な成果といえる。プロジェクト終了後の WACo づくりを引き続き推進するうえでも有効である。

また、KT2「ゼロ次予防データプラットフォーム」では、各課題で扱ってきた多岐にわたる疫学調査の調査項目、各データの概要や特徴を閲覧できる WACo データカタログを開発した。各課題の研究開発ごとに個別の調査項目も多いが、研究デザイン、経時的データの有無、主要な評価項目といった、WACo の実現において重要な項目も存在するため、個々のデータを束ね、参照することは、今後のニーズ・シーズの発掘にも貢献する。

KT3「指標開発・評価技術」では、5~7 万人規模の縦断データベースから評価項目を選定し、3-6 年間の新規要介護認定確率や累積介護費用額を各人の点数毎に推定できる「要支援・要介護リスク評価尺度」を開発した。OPERA 終了後の WACo の社会実装においても、各社のサービスによる社会的インパクトを評価することができる指標として有効である。

人材育成・教育のプログラムについては、RA として延べ 15 名を教育するほか、企業所属の研究者 3 名が博士課程に所属するなど、博士号取得のサポート体制が充実した。RA として雇用された学生の中には、博士号を取得後、特任助教へキャリアアップを果たした例もある。また、WACo を扱った教育科目として、博士課程 7 科目、修士課程 3 科目、学部課程 12 科目を実施するほか、国際連携教育プログラムや特別レクチャーとして分野横断型講演を行い、WACo の理解を広める教育の機会を創出した。

コンソーシアムにおいて、産学連携の WACo 共創研究会では、各企業の取り組みや、外部識者のレクチャーより、回を重ねるごとにコンソーシアム内の企業間連携が促進され、「まちづくりプロジェクト」がより一層大きな形を目指した点を特に高く評価したい。また、OPERA 期間の最終成果の一つとなる社会への提言に向け、事業終了後のコンソーシアムのあり方を検討する推進ワーキンググループも設立した。研究者、企業有志とともに、WACo の目指す社会や、WACo コンソーシアムの今後のあり方を検討し、マネジメント体制の強化と併せプロジェクト関係者が一丸となり、「健康まちづくり」拠点を確立し、OPERA 終了後も活動を継続する体制・計画を検討した。

事業終了後へ向けての新規企業の誘致等へ向けた広報、取り組みの発信に力を入れ、シンポジウムの開催や、健康まちづくり EXPO へのコンソーシアムでの出展をし、千葉大学が目指す、健康まちづくりのビジョンを共有し、各企業との取り組みを発信し、研究者、企業間の情報共有、交流の場ともなった。

今後も、コンソーシアムにおいて、WACo が備える価値の普及と WACo づくりの推進を目指し、研究開発活動を継続する。特に設置を予定している西千葉 Well-being リサーチパーク（仮称）を拠点に、WACo のデザイン・評価技術の創出と社会実装を発展させていく計画である。

## 9 特殊用語等の説明

	用語	説明
1	ゼロ次予防 (primordial prevention)	WHO 総会決議や、厚生労働省の健康日本 21（第 2 次）などで、「健康の社会的決定要因」や「健康格差」「社会的環境」が着目されるようになった背景には、従来の「個人レベルのリスク行動要因を解明して早期発見・早期治療（2 次予防）し、健康教育などを通じて行動変容を目指す（1 次）予防政策」が期待された成果をあげられなかったことがある。タバコを入手しやすい環境を放置したまま禁煙教育をしても、その効果には限界がある。そのため WHO は人の手による建造環境を含む社会的環境の重要性に着目し、そのまちに暮らしているだけで本人が意識的努力をせずとも健康になれる「ゼロ次予防」という概念を提唱した。その実現には、個人の行動と健康の関連の解明だけでは不十分で、行動の背景にある建造・社会環境との相互作用も含め生態学的に捉え、環境から健康に至る影響経路を解明することが重要である。なお、生活習慣の改善・健康教育などの 1 次予防、早期発見・治療、健康診断などの 2 次予防、リハビリテーションなどの 3 次予防がある。
2	シックハウス症候群	住宅やオフィス、学校等、室内の建材や調度品などから発生する化学物質、カビ・ダニなどによる室内空気汚染を起因とした健康影響をいう。代表的な症状は、目がチカチカする、鼻水、のどの乾燥、吐き気、頭痛、湿疹など人によって様々で、医学的に確立した単一の疾患ではなく、居住に由来する様々な健康障害の総称を意味する用語とされている。
3	新ヘルスケアサービスの推進	経済産業省は、次世代ヘルスケア産業協議会にて「誰もが自然と健康になるような社会環境整備、出歩きたくなるようなサービス、まちづくり、コミュニティづくり、就労を継続できる環境整備」などに、産業創出機会の大きさを期待している。
4	未来投資戦略	内閣官房による未来投資戦略 2017 では、我が国の強みとして、「モノづくりの強さ」「社会課題の先進性・大きさ」「リアルデータの取得・活用可能性」を挙げ、政策資源の集中投資が掲げられており、本シナリオは、建築・都市開発、健康寿命の延伸、行動・健康・地域環境データが合致し、投資対象としての可能性を示唆する。
5	WELL 認証 (WELL Building Standard)	米国では、2014 年から WELL 認証という認証制度が運用され、利用者の健康に配慮した空間・建物づくりへの試みが始まっている。生産性が高まるオフィスは高い不動産価値をもつ、という思想のもと、主にオフィスを対象として普及が進んできた。建物の環境性能を認証し、不動産価値を高めた LEED 認証の健康版といえる。評価項目は、「空気」「水」「食」「光」「身体活動」「快適性」「心」の 7 カテゴリーである。基準を満たすことで、シルバー、ゴールド、プラチナのいずれかの認証レベルが付与される。評価項目は、たとえば「施設内屋内禁煙」、「施設内に健康に関する本、雑誌などのライブラリを設ける」などの空間計画に関わる項目から、「フィットネスクラブなどに通う従業員に対して金銭的な補助をする」などのソフト面に関わる項目もある。 2018 年 4 月末の時点で、世界での認証施設は 88 件、認証待ちの登録施設が 727 件である。日本の認証施設は 1 件、登録施設は 7 件である。認証施設は増加しており、社会の健康な建物づくりへの期待は高まっている。
6	SDGs (Sustainable	17 の目標と 169 のターゲットに全世界が取り組む目標として国連

	Development Goals 〔持続可能な開発目標〕	が定めた指標。ゼロ次予防戦略にもとづく「WACo」の推進は「すべての人に健康と福祉を（3 保健）」、「産業と技術革新の基盤をつくろう（9 イノベーション）」、「住み続けられるまちづくりを（11 都市）」に該当し、健康寿命の延伸が達成される。
7	継続的ケア付高齢者 コミュニティ (CCRC: Continuing Care Retirement Community)	都市圏の高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような地域づくりを目指すものである。
8	異種混合学習技術	ビッグデータに混在するデータ同士の関連性から、特定の規則性を自動で発見するとともに、分析するデータに応じて参照する規則を自動で切り替えるものである。これにより、単一の規則性のみを発見し参照する従来の機械学習では分析が困難な、状況に応じて規則性が変化するデータでも、高精度な予測や異常検出が可能になる。
9	Age Friendly Cities (高齢者にやさしい 都市)	2002 年に WHO の Age Friendly Cities プロジェクトにおいて提唱された高齢者に優しい都市の概念。世界 22 カ国 33 都市において高齢者への聞き取り調査を行い、2007 年に 8 領域 84 項目のチェックリストとしてまとめられた。先進国・途上国の両方に当てはまる標準的な内容であり、技術指針や都市の設計仕様ではなく、都市自らが点検することが狙いである。
10	日本老年学的評価研 究 (JAGES: Japan Gerontological Evaluation Study)	2003・06・10・13・16 年に、全国の延べ約 250 市町村との協力で延べ約 120 万人の高齢者データや同じ対象者約 5 万人を 3 時点に渡って調査したパネルデータを構築してきた。これらの大規模データを用い、認知症リスクの市町村間格差は 3 倍などの健康格差の実態と、公園の近くに暮らす者の運動頻度は 2 割多いなど社会環境のリスク要因などを明らかにしてきた。さらにマルチレベル分析や GIS を用いた空間疫学的手法も用いて個人レベルの要因とは独立した地域レベルのソーシャルキャピタルの影響も明らかにしてきた。また市町村との共同研究による地域介入研究も行い、地域づくり型の介護予防の効果や費用を検証し。論文 (英文約 100 編、和文訳 230 編)、約 40 の学術賞も受け、米国 National Institute of Health (国立衛生研究所) や WHO の研究助成を受けるなど国際的にも評価される水準の研究を行ってきた。
11	Walkscore (ウォーク スコア)	地域の歩きやすさをスコアとして表示するウェブサービス。Openstreetmap の目的地 (小売店・飲食店等) のデータを用いて、一定範囲の数を検索しスコアを算出するもの。スコアを用いた医学研究が多数実施され、その指標の有効性が報告されている。 <a href="https://www.walkscore.com/">https://www.walkscore.com/</a>
12	ホームエネルギーマ ネジメントシステム (HEMS: Home Energy Management System)	家庭内で多くのエネルギーを消費するエアコンや給湯器を中心に、照明や情報家電まで含め、エネルギー消費量を可視化 (モニター画面などで「見える化」) しつつ積極的な制御 (自動制御) を行うことで、省エネやピークカットの効果を狙う仕組み。
13	総揮発性有機化合物 (TVOC: Total Volatile Organic Compounds)	有機化合物 (VOC) の総和。Tenax TA 吸着管で捕集した VOC を、無極性のキャピラリーカラムを用いて GC/MS で測定した場合に、n-Hexane から n-Hexadecane の保持時間の範囲に溶出されるピークの面積の総和を Toluene 相当量に換算した値 (Toluene 換算値)
14	SIB (ソーシャル・イ ンパクト・ボンド)	民間資金を活用して革新的な社会課題解決型の事業を実施し、その事業成果 (社会的コストの効率化部分) を支払の原資とすることを目指す考え方。

15	PFS (Pay For Success / ペイ・フォー・サクセス / 成果連動型民間委託契約方式)	内閣府が推進する、社会課題の解決に対応した成果指標を設定し、成果指標値の改善状況に連動して委託費等を支払うことにより、より高い成果の創出に向けたインセンティブを民間事業者に強く働かせることが可能となる、新たな官民連携の手法のこと。
16	自然に健康になれる環境づくり	2023年5月31日の厚生労働大臣告示で公表された「健康日本21（第3次）」にて、「自然に健康になれる環境づくり」という言葉が謳われた。この考えは、意識せずとも健康に暮らしていける環境を整備するゼロ次予防、Well Active Communityが目指すものに親和性が高い。